

令和2年度

防災に関する県民意識調査報告書

三重県

目次

第1章	調査の概要	1
1.1	調査目的	1
1.2	調査方法	1
1.3	調査期間	1
1.4	調査票の配布と回収	1
1.5	集計結果	1
1.6	本報告書における結果数値等の取扱い	2
第2章	調査結果の概要	3
2.1	災害に対する意識	3
2.1.1	東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり	3
2.1.2	紀伊半島大水害発生後の防災意識の移り変わり	5
2.1.3	内陸直下型地震の危険性の認知度	6
2.2	災害時の避難行動	7
2.2.1	夜間の大地震に遭遇した際の避難行動	7
2.2.2	局地的大雨等の避難行動	8
2.3	「自助」の状況	9
2.3.1	家庭での防災対策の状況	9
2.3.2	地域や職場での防災活動への参加状況	11
2.3.3	住まいの耐震診断および地震対策の状況	12
2.3.4	家具固定の進捗および家具固定をしていない危険性の認識	14
2.4	県の施策の認知度	15
2.4.1	「防災みえ.jp」ホームページの認知度	15
2.4.2	学校の防災教育の家庭での認知度	16
第3章	調査結果	17
3.1	地震・津波対策について	17
3.1.1	東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり	17
3.1.2	夜間の大地震に遭遇した際の避難行動	19
3.1.3	すぐに避難する理由	23
3.1.4	避難を遅らせる理由	24
3.1.5	避難しない理由	25
3.1.6	三重県地震被害想定調査結果の認知度	27
3.1.7	内陸直下型地震の危険性の認知度	28
3.1.8	南海トラフ地震臨時情報についての認知度	29
3.2	風水害対策について	30
3.2.1	紀伊半島大水害発生後の防災意識の移り変わり	30
3.2.2	警戒レベル情報の認知度	32
3.2.3	お住まいの地域の風水害による危険性の認知度	33
3.2.4	風水害の危険性の情報入手先	34
3.2.5	局地的大雨等の避難行動	35

3.2.6	台風時等の避難行動	37
3.2.7	台風時等に避難しない理由	38
3.3	防災全般について	40
3.3.1	家庭での防災対策の状況	40
3.3.2	家具固定の不備による危険度	49
3.3.3	家屋からの脱出	52
3.3.4	安全ではないのに家具を固定しない理由	53
3.3.5	防災みえ.jp の認知度	55
3.3.6	防災みえ.jp のどのようなコンテンツを見たことがあるか	57
3.3.7	防災みえ.jp を活用しない理由	58
3.3.8	災害時にインターネットで知りたい情報	59
3.3.9	防災情報メール配信サービスの認知度	60
3.3.10	県が気象や災害の情報を発信している Twitter (ツイッター) や LINE (ライン) の認知度	61
3.3.11	気象や災害の情報の入手先	64
3.3.12	避難場所や避難所の認知度	71
3.3.13	避難場所や避難所までの経路についての認知度	73
3.3.14	避難所に代わる安全な場所	74
3.3.15	地域や職場での防災活動への参加状況	75
3.3.16	地域の防災活動に参加した内容	80
3.3.17	地域や職場の防災活動に参加したことが役立ったか	83
3.3.18	防災活動に参加しなかった理由	84
3.3.19	地域・職場で必要と思う防災活動	86
3.3.20	防災活動や防災対策で企業・事業所に期待すること	88
3.3.21	地域の消防団に期待する活動内容	90
3.3.22	自主防災組織の有無と活動状況	92
3.3.23	就学している児童生徒の有無	94
3.3.24	学校の防災教育の家庭での認知度	95
3.3.25	防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいもの	98
3.3.26	防災に関する啓発活動等の認知度	102
3.3.27	啓発活動は防災意識の向上に役立ったか	104
3.4	あなたのお住まいの耐震化について	105
3.4.1	住まいの状況	105
3.4.2	耐震化に向けた補助制度の認知度	106
3.4.3	耐震診断の受診の有無と診断結果	108
3.4.4	補強工事を行ったか	109
3.4.5	耐震補強工事の補助制度を利用したか	111
3.4.6	どのような補強工事を行ったか	112
3.4.7	耐震補強を行った時の工事費	113
3.4.8	耐震補強をしない理由	114

3.4.9	耐震補強工事費の許容自己負担額（要補強工事）	116
3.4.10	一部分のみの耐震補強工事	117
3.5	アンケート調査回答者の属性	118
3.5.1	住所	118
3.5.2	性別	119
3.5.3	年齢	119
3.5.4	家族人員	120
3.5.5	インターネット接続環境	120
資料		121
○	津波危険地域一覧	122
○	使用した調査票	125

第1章 調査の概要

1.1 調査目的

三重県では、県民の皆さんの自然災害に対する備えの状況や防災に関する意識を把握し、県の防災・減災対策に活用するため、平成 14 年度から「防災に関する県民意識調査」を実施しています。

令和2年度の調査内容は、設問ごとの経年変化を捉える必要があることから、原則として昨年度の設問項目を踏襲しています。

1.2 調査方法

郵送によるアンケート調査

調査対象は、各市町の選挙人名簿から等間隔無作為抽出法により、5,000 人を抽出
なお、各市町の対象者数は市町別推計人口の比率を参考に割り当てています。

1.3 調査期間

令和2年 10月5日から 10月23日まで

1.4 調査票の配布と回収

調査票の配布数と回収数は以下のとおりです。

	配布数	回収数	有効回答率
一般地域	3,383	2,148	63.5%
津波危険地域	1,617	983	60.8%
合計（全県分）	5,000	3,131	62.6%

注 有効回答率は、回収した調査票の中から白紙回答を無効として算出しています。

1.5 集計結果

調査結果の集計は、全県分、一般地域分、津波危険地域分（伊勢市以北）、津波危険地域分（鳥羽市以南）の4区分について行っています。（一部の設問を除く）

なお、過去の調査における同じ設問または同趣旨の設問については、全県（一部設問では地域別）の経年変化を可能な範囲で掲示しています。

また、その他属性等による集計や設問間のクロス集計も行っています。

1.6 本報告書における結果数値等の取扱い

- (1) アンケートの回答には、単数回答（1つだけ選択する回答）と複数回答（該当するものすべてを選択する回答）があり、複数回答の場合は、その質問項目に関して、最初に提示する全体結果を示す図表に「(複数回答)」と表記しています。
- (2) 調査結果の数値は、回答数をもとに、原則、パーセント（%）値で表記しています。（% 値の母数は、その質問項目の該当標本数（有効回答数））
- (3) %値は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。
したがって、合計が必ずしも100%とならない場合（99.9%または100.1%など）があります。
同様に、複数の選択肢をあわせた場合や小計などでは、内訳の%値を単純加算した数値とは異なる場合があります。
また、第2章調査結果の概要及び第3章調査結果での約○割は、1割より小さい端数を四捨五入した値で表しています。
- (4) 図中の「n」は、各設問の有効回答数を表しています。
- (5) 全県と地域別等の表中では、地域別等の無回答者数は地域別等の集計から除外するため、地域別等の合計と全県の数字が合わない場合があります。
全県回答数と地域別等回答数の合計値との差が、地域別等の設問について、回答をいただけなかった方の数となります。

第2章 調査結果の概要

調査結果の詳細は、第3章のとおりですが、この章では特に注目した調査結果を抽出し、その主な概要と特徴を記載しています。

2.1 災害に対する意識

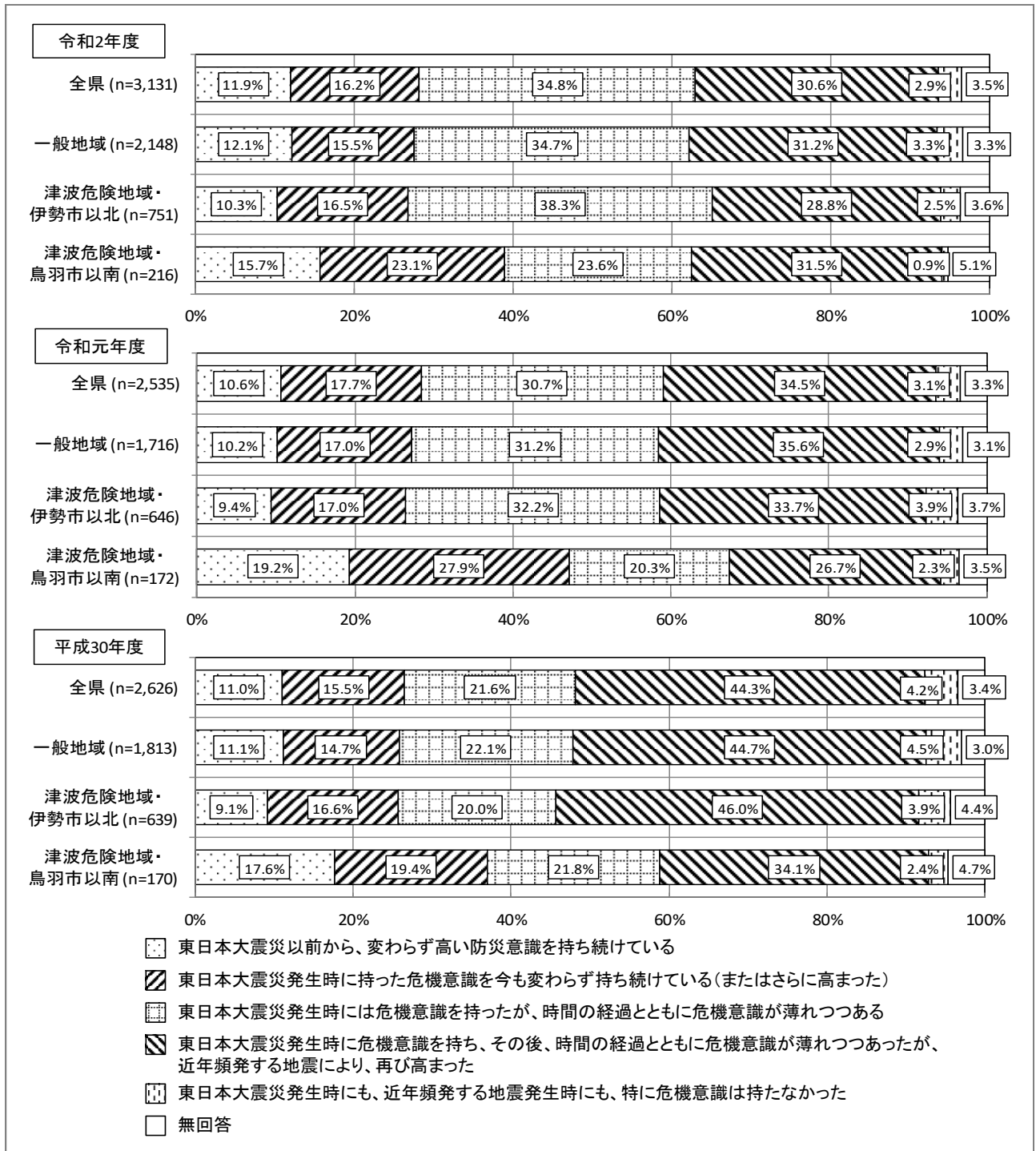
2.1.1 東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり

平成 23 年の東日本大震災の発生から 9 年あまりが経過し、平成 28 年には熊本地震、平成 30 年には大阪府北部を震源とする地震や北海道胆振東部地震が発生しましたが、この一連の地震災害を受け、あなたの防災意識に変化はありますか。

(一つだけ○) ※問 1

1. 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている
2. 東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている（またはさらに高まった）
3. 東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
4. 東日本大震災発生時に危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった
5. 東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に危機意識は持たなかった

図 2.1.1 東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり - 全県及び地域別経年変化 -



- 「東日本大震災発生時に危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった」と答えた方の割合が昨年度は 34.5%と平成 30 年度から減少し、今年度は 30.6%とさらに減少しています。
- 「東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある」と答えた方の割合は、平成 30 年度は 21.6%、令和元年度は 30.7%でしたが、今年度は 34.8%と増加傾向にあります。
- 「東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている」「東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている(またはさらに高まった)」「東日本大震災発生時に危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった」と答えた方の割合の合計が 58.7%となり、昨年度より減少しています。

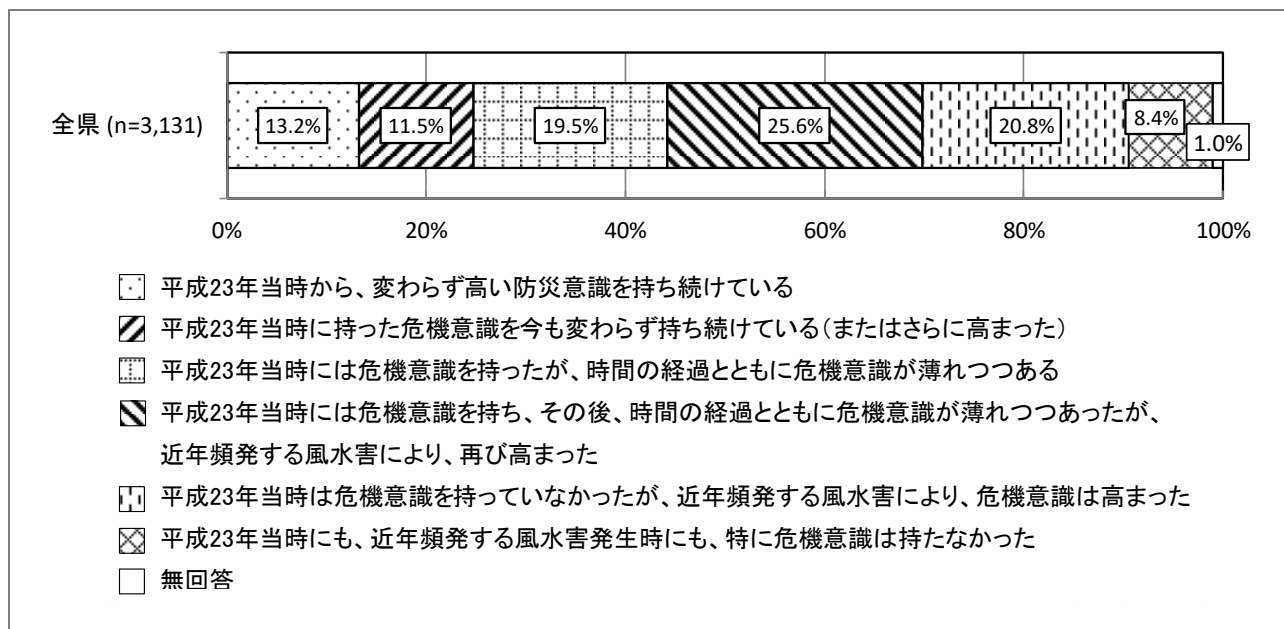
2.1.2 紀伊半島大水害発生後の防災意識の移り変わり

平成 23 年の紀伊半島大水害から 9 年あまりが経過し、近年では平成 30 年 7 月豪雨、令和元年東日本台風（台風第 19 号）、令和 2 年 7 月豪雨といった大規模な風水害が発生しましたが、この一連の風水害を受け、あなたの防災意識に変化はありますか。

（一つだけ〇）※問 6

1. 平成 23 年当時から、変わらず高い防災意識を持ち続けている
2. 平成 23 年当時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている（またはさらに高まった）
3. 平成 23 年当時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
4. 平成 23 年当時には危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
5. 平成 23 年当時は危機意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、危機意識は高まった
6. 平成 23 年当時にも、近年頻発する風水害発生時にも、特に危機意識は持たなかった

図 2.1.2 紀伊半島大水害発生後の防災意識の移り変わり -全県-



- 全県では、「平成 23 年当時から、変わらず高い防災意識を持ち続けている」、「平成 23 年当時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている（またはさらに高まった）」、「平成 23 年当時には危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった」、「平成 23 年当時は危機意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、危機意識は高まった」と答えた方の割合の合計が 71.1% となり、7 割を超える方が高い危機意識を持っています。

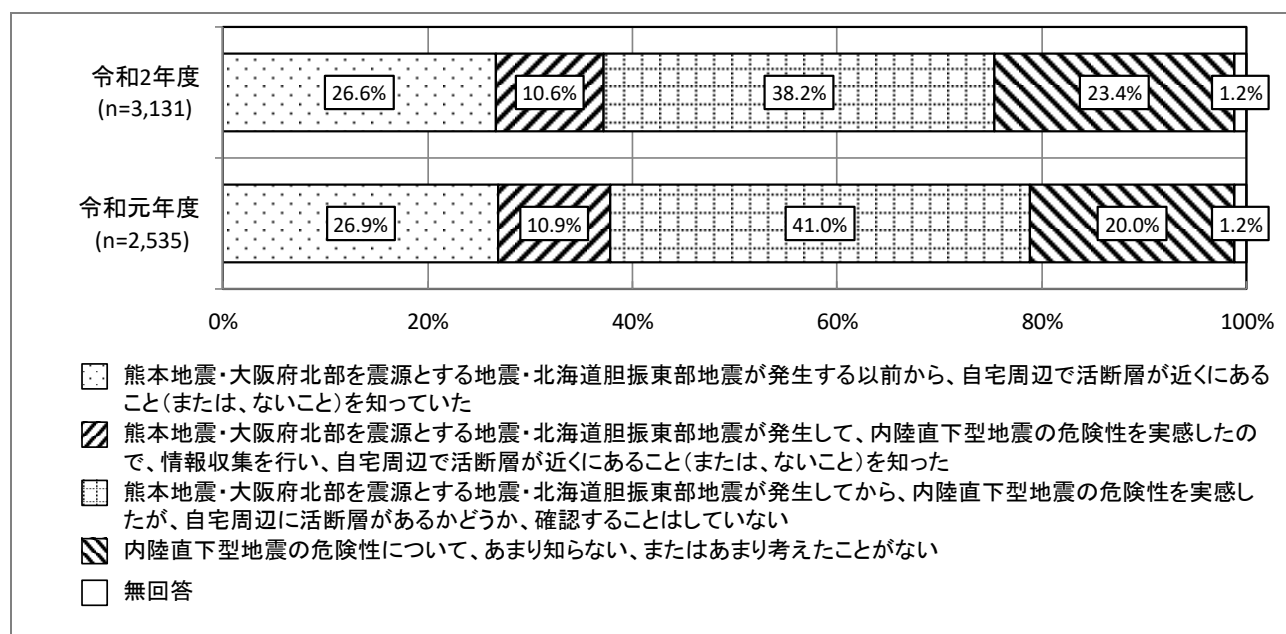
2.1.3 内陸直下型地震の危険性の認知度

平成 28 年には熊本地震、平成 30 年には大阪府北部を震源とする地震や北海道胆振東部地震が発生しましたが、これらの地震を受け、あなたはお住まいの地域での内陸直下型地震の危険性についてどの程度知っていますか。

(一つだけ〇) ※問 4

1. 熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生する以前から、自宅周辺で活断層が近くにあること（または、ないこと）を知っていた
2. 熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生して、内陸直下型地震の危険性を実感したので、情報収集を行い、自宅周辺で活断層が近くにあること（または、ないこと）を知った
3. 熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生してから、内陸直下型地震の危険性を実感したが、自宅周辺に活断層があるかどうか、確認することはしていない
4. 内陸直下型地震の危険性について、あまり知らない、またはあまり考えたことがない

図 2.1.3 内陸直下型地震の危険性の認知度 -全県（前年度との比較）-



- ・ 自宅周辺に活断層があること（または、ないこと）を知っているという方は昨年からはほぼ横ばいで、6割以上の方が認知していないという結果になりました。

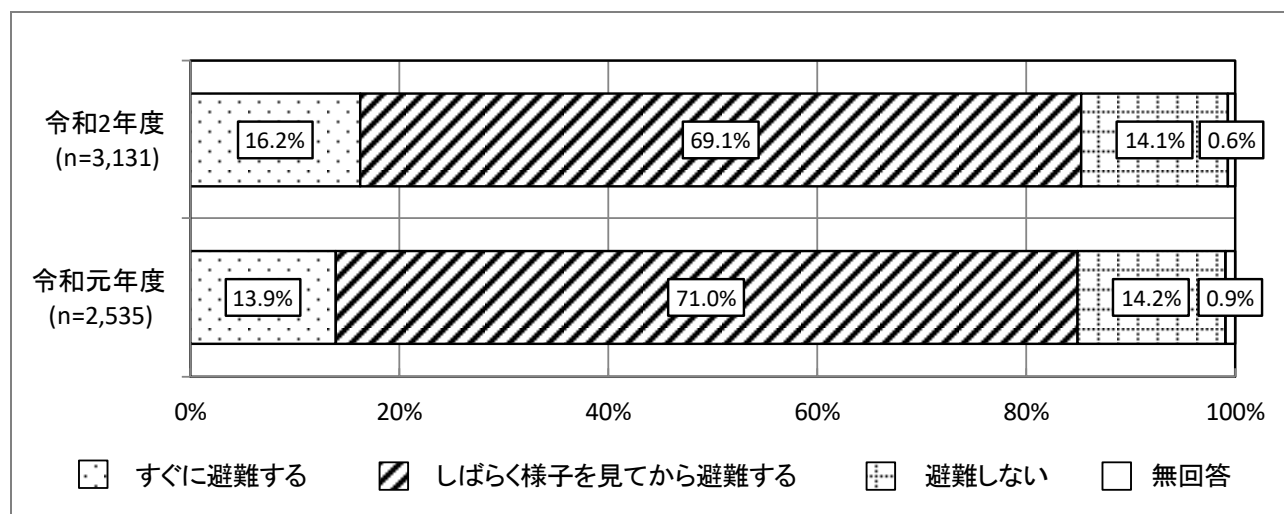
2.2 災害時の避難行動

2.2.1 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動

夜遅くあなたがご自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上続き、停電もしたとします。揺れが収まった後、あなたは避難しますか。(一つだけ〇) ※問2

1. すぐに避難する
2. しばらく様子を見てから避難する
3. 避難しない

図 2.2.1 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動 -全県(前年度との比較)-



- 「しばらく様子を見てから避難する」と答えた方の割合は 1.9 ポイント減少した一方、「すぐに避難する」は 2.3 ポイント増加しました。なお、「避難しない」と答えた方の割合は、横ばいでした。

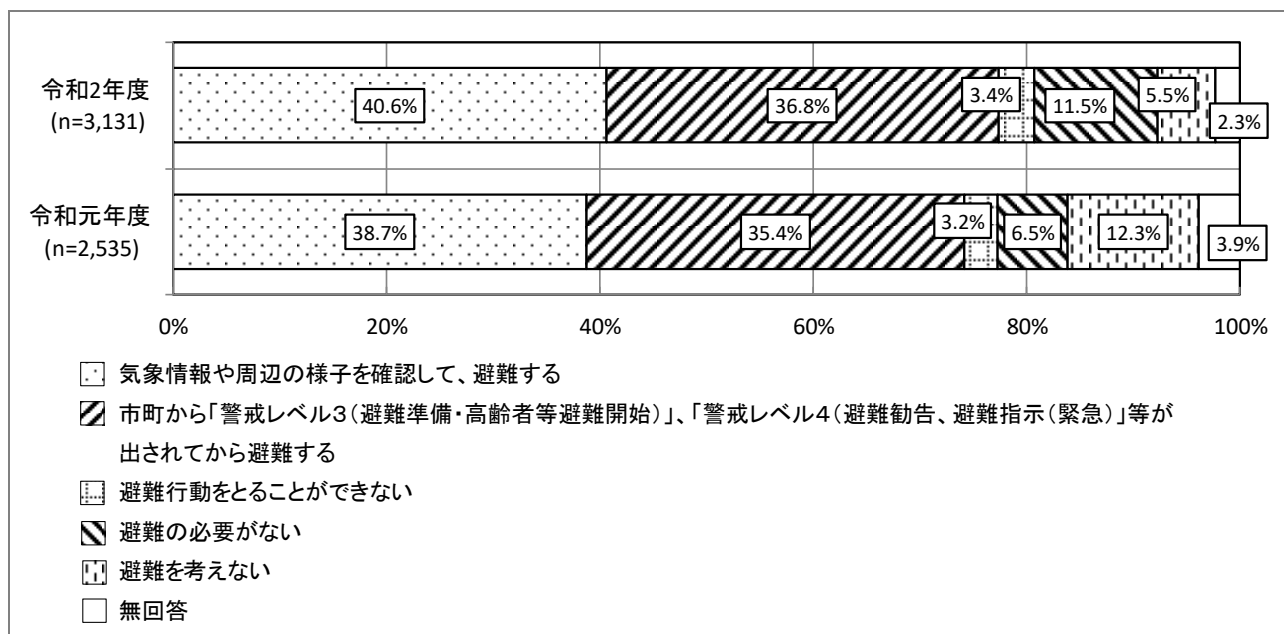
2.2.2 局地的大雨等の避難行動

あなたのお住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降り出し、降り続いたとします。あなたは、このような状況において、どのような避難行動を行いますか。

(一つだけ○) ※問 9

1. 気象情報や周辺の様子を確認して、避難する
2. 市町から「警戒レベル3（避難準備・高齢者等避難開始）」、「警戒レベル4（避難勧告、避難指示（緊急）」等が出されてから避難する
3. 避難行動をとることができない
4. 避難の必要がない
5. 避難を考えない

図 2.2.2 局地的大雨等の避難行動 -全県-



- ・ 局地的大雨等で「避難行動をとることができない」「避難を考えない」を合わせた「避難しない」は、昨年度は1割を超えていましたが、今年度は8.9%と6.6ポイント減少しています。

※昨年から選択肢順を一部変更。

2.3 「自助」の状況

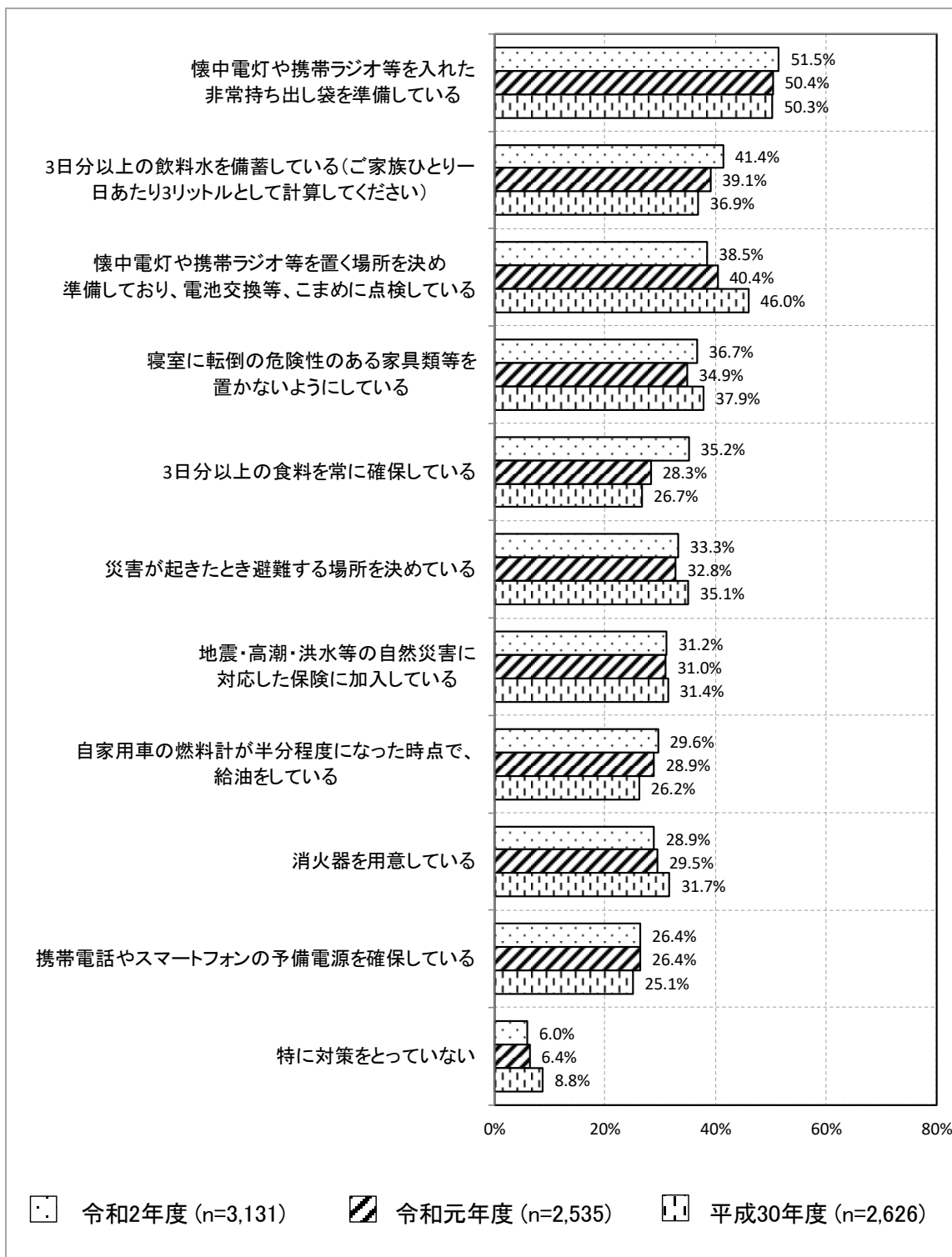
2.3.1 家庭での防災対策の状況

あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。

(いくつでも○) ※問 11

1. 3日分以上の飲料水を備蓄している(ご家族ひとり一日あたり3リットルとして計算してください)
2. 3日分以上の食料を常に確保している
3. マスクや消毒液等、感染症対策に必要な物品を確保している
4. 懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している
5. 災害が起きたとき避難する場所を決めている
6. 災害用伝言ダイヤル(171)や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用等、家族間の連絡方法を決めている
7. 家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている
8. 携帯電話やスマートフォンの予備電源を確保している
9. 自家用車の燃料計が半分程度になった時点で、給油をしている
10. お風呂にいつも水を入れている
11. ガラスが割れて飛び散らないよう対策をしている
12. 消火器を用意している
13. 懐中電灯や携帯ラジオ等を置く場所を決め準備しており、電池交換等、こまめに点検している
14. 枕元にスリッパを置いている
15. いつも笛を身につけている
16. 本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
17. 寝室に転倒の危険性のある家具類等を置かないようにしている
18. 地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している
19. 感震ブレーカーを設置している
20. ペットの餌や水、ケージ等、ペットの防災用品の準備や、避難先の検討等を行っている
21. その他 具体的に：
22. 特に対策をとっていない

図 2.3.1 家庭での防災対策の状況 -全県経年変化- (複数回答)



- 「懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している」が 51.5%と最も多く、「3日以上の飲料水を備蓄している」が 41.4%、「懐中電灯や携帯ラジオ等を置く場所を決め準備しており、電池交換等、こまめに点検している」が 38.5%と続いています。
 - 「特に対策をとっていない」は平成 30 年度以降減少傾向にあり、何らかの防災対策をとっている家庭が増えていることがうかがえます。
- ※ 今年度新たに追加された「マスクや消毒液等、感染症対策に必要な物品を確保している」が 58.0%と最も多い回答となりましたが、経年データがないため、上記グラフからは割愛しております。

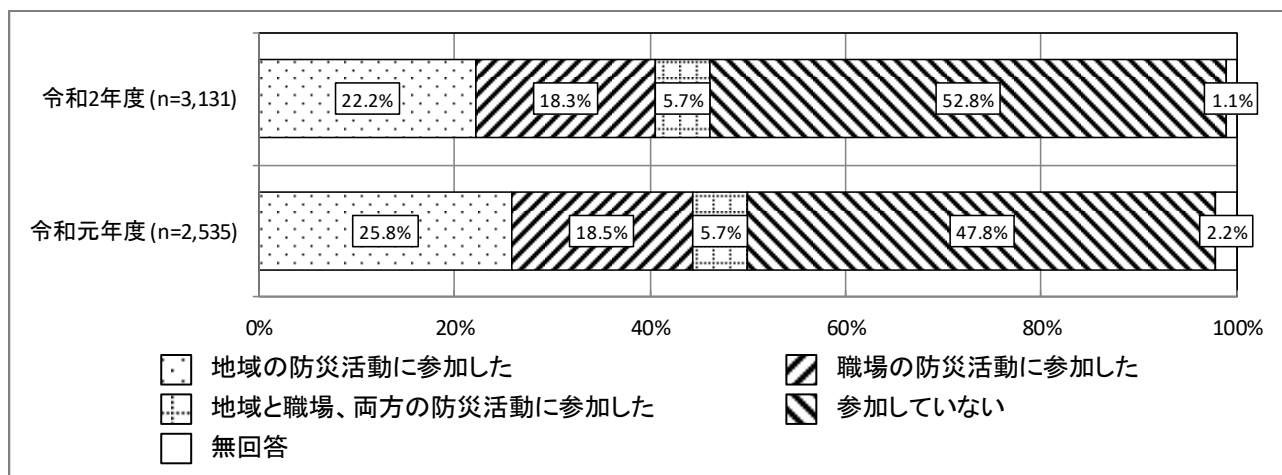
2.3.2 地域や職場での防災活動への参加状況

あなたは、過去1年間に、お住まいの地域や職場での防災活動（問21の選択肢参照）に参加したことがありますか。

（一つだけ○）※問20

1. 地域の防災活動に参加した
2. 職場の防災活動に参加した
3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した
4. 参加していない

図 2.3.2 地域や職場での防災活動への参加状況 -全県（前年度との比較）-



- 地域や職場で何らかの防災活動に参加した方の割合は46.2%（内訳：地域22.2%、職場18.3%、地域・職場5.7%）と、昨年度にくらべ減少しています。

2.3.3 住まいの耐震診断および地震対策の状況

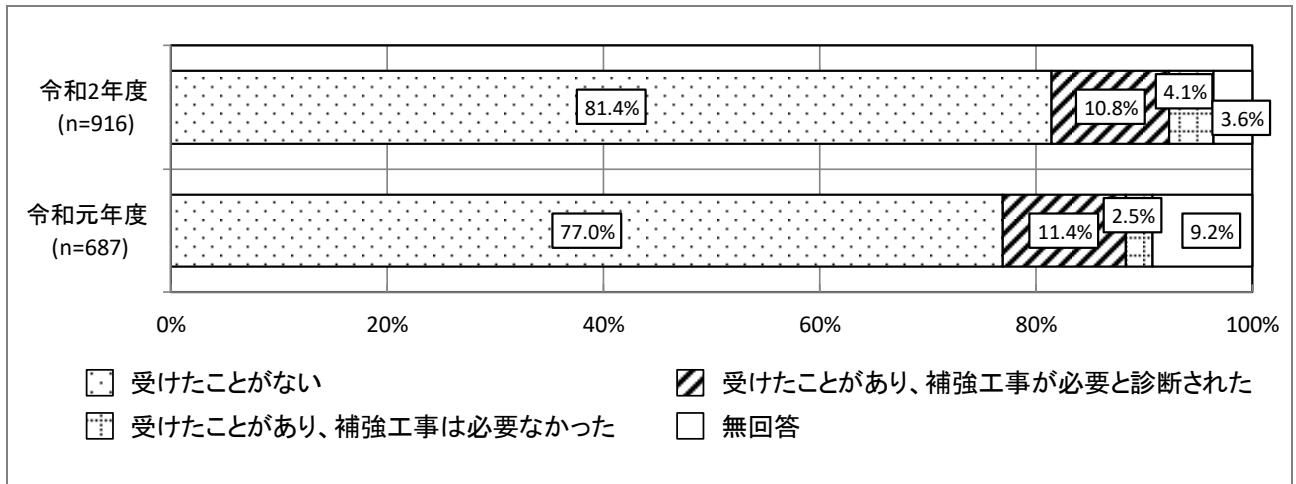
あなたのご自宅（同じ敷地内で建替えを行った場合、建替え前の住宅を含む、借家も含む）は、耐震診断を受けたことがありますか。受けたことがある場合は、診断結果はどうでしたか。

（一つだけ〇）※問31

1. 受けたことがない
2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された
3. 受けたことがあり、補強工事は必要なかった

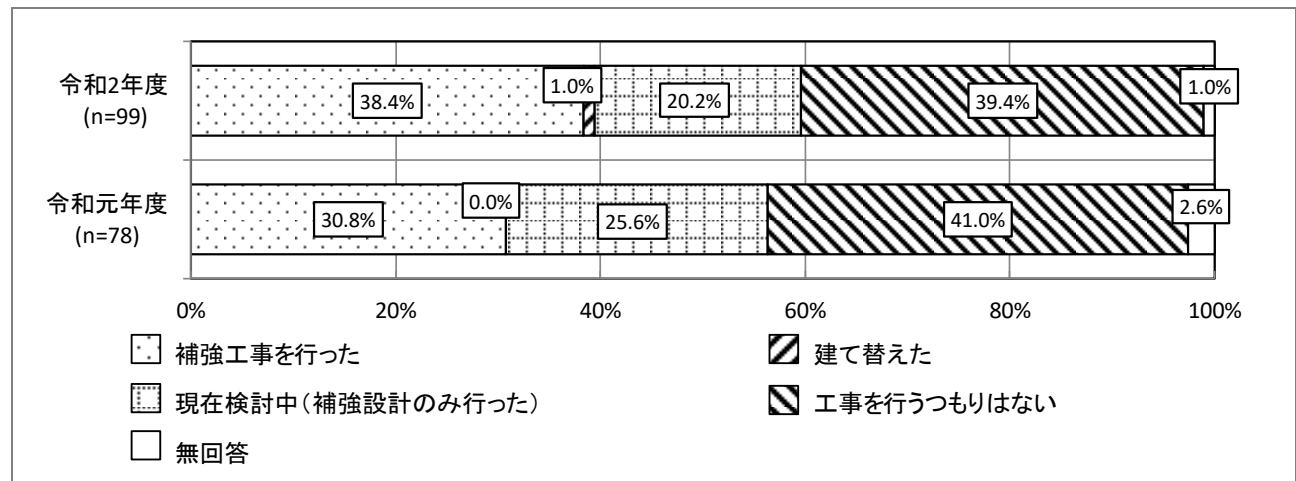
※一戸建ての持ち家・借家で昭和56年5月以前に着工・建築された木造の家と回答された方を対象としています。

図 2.3.3 住まいの耐震診断および地震対策の状況 -全県（前年度との比較）-



「2.受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」と回答された方にお尋ねします。耐震補強が必要と診断された後、補強工事を行いましたか。（一つだけ〇）※問31-1

1. 補強工事を行った
2. 建て替えた
3. 現在検討中（補強設計のみ行った）
4. 工事を行うつもりはない



- 耐震診断や耐震補強工事の補助対象となる「昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の一戸建ての持ち家・借家」について、「耐震診断を受けたことがない」と答えた方の割合は 8 割を超えています。

「耐震診断を受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」方のうち、「補強工事を行った」方の割合が 38.4%と昨年度に比べ増加しました。

※昨年から選択肢を一部変更。

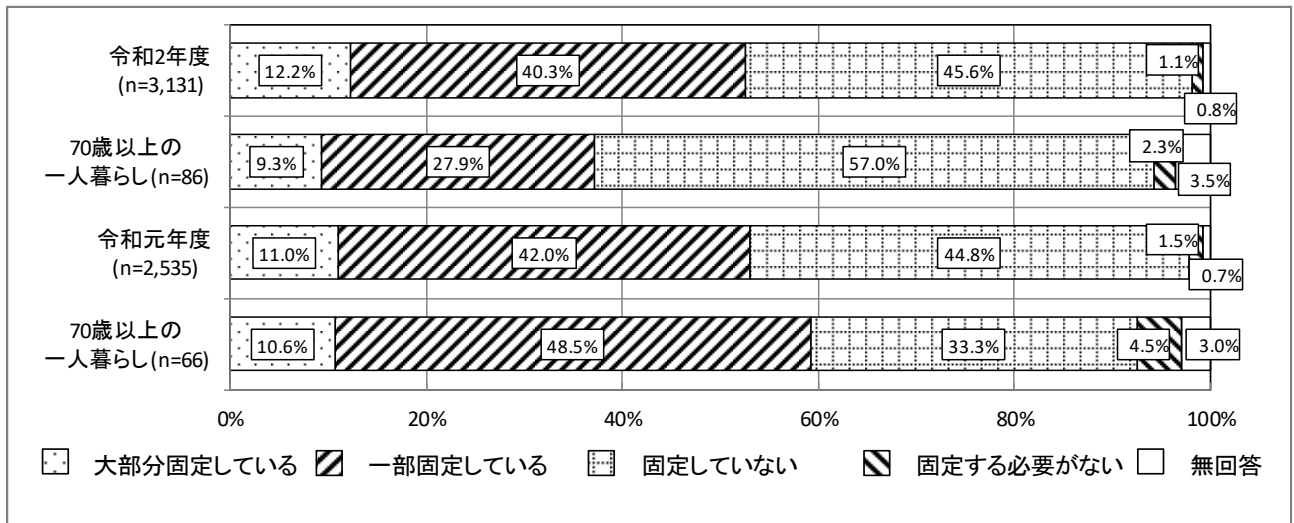
2.3.4 家具固定の進捗および家具固定をしていない危険性の認識

ご自宅では、家具類や冷蔵庫、テレビ等が転倒しないよう固定をしていますか。

(一つだけ○) ※問 12

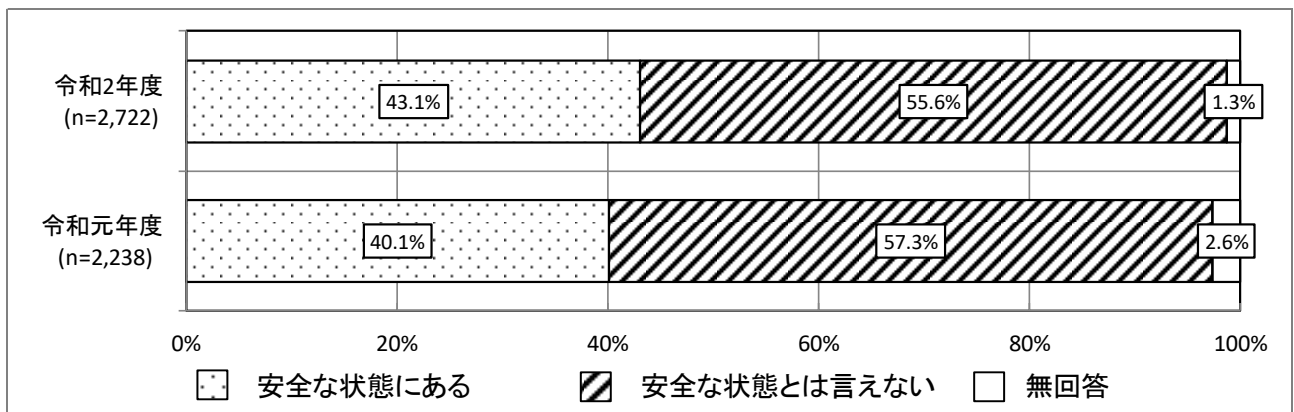
1. 大部分固定している
2. 一部固定している
3. 固定していない
4. 固定する必要がない

図 2.3.4 家具固定の進捗および家具固定をしていない危険性の認識
-全県（前年度との比較）-



「2.一部固定している」、「3.固定していない」、「4.固定する必要がない」と回答された方にお尋ねします。あなたのご自宅は、一部の家具固定や家具固定なしでも、けがをしない、家屋から脱出できなくなることがない等、安全な状態にありますか。(一つだけ○) ※問 12-1

1. 安全な状態にある
2. 安全な状態とは言えない



- 全体の家具固定の実施状況は、昨年度の回答とほぼ横ばいとなっています。
- 「固定していない」と答えた方の割合は45.6%と最も多く、70歳以上の一人暮らしの方においては、昨年度の33.3%から57.0%と大幅に増加しています。関連設問においては、5割強の方が家具の固定について「安全な状態とは言えない」と答えています。

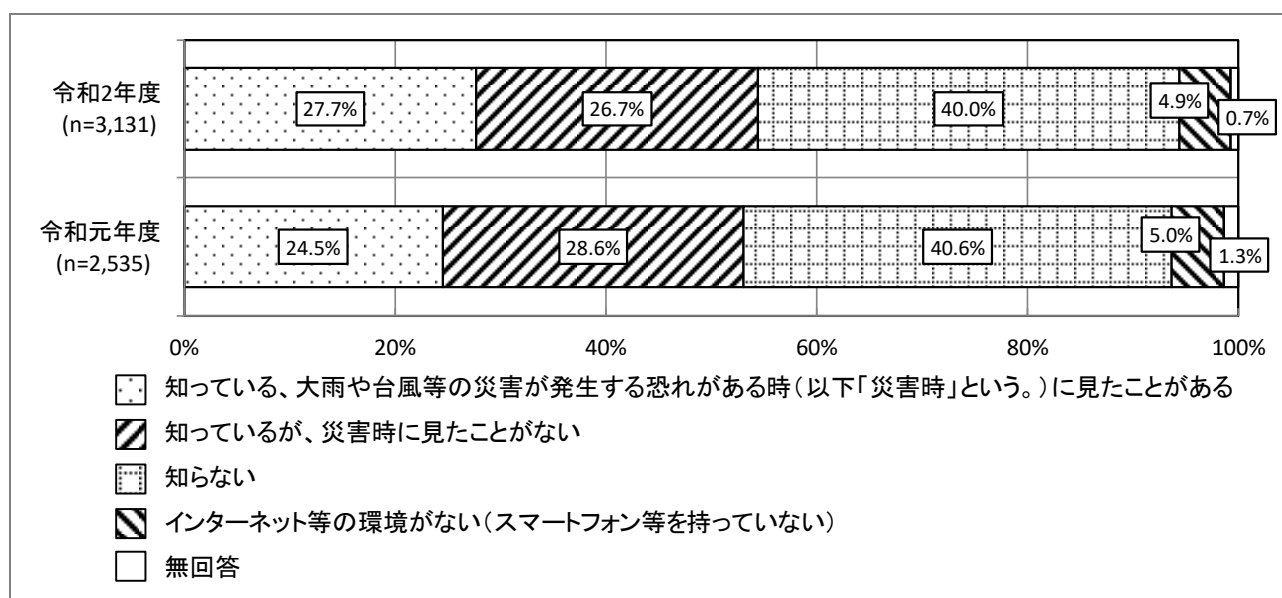
2.4 県の施策の認知度

2.4.1 「防災みえ.jp」ホームページの認知度

県では、気象情報や台風・地震に関する情報、災害時の避難情報等をホームページ「防災みえ.jp」で提供しています。「防災みえ.jp」をご存知ですか。（一つだけ〇）※問 13

1. 知っている、大雨や台風等の災害が発生する恐れがある時（以下「災害時」という。）に見たことがある
2. 知っているが、災害時に見たことがない
3. 知らない
4. インターネット等の環境がない（スマートフォン等を持っていない）

図 2.4.1 「防災みえ.jp」ホームページの認知度 -全県（前年度との比較）-



- ・「知っている、災害時に見たことがある」と答えた方の割合が、昨年度から 3.2 ポイント増加し、27.7%となりました。
- ・「知らない」と答えた方の割合には、大きな変化はありませんでした。

2.4.2 学校の防災教育の家庭での認知度

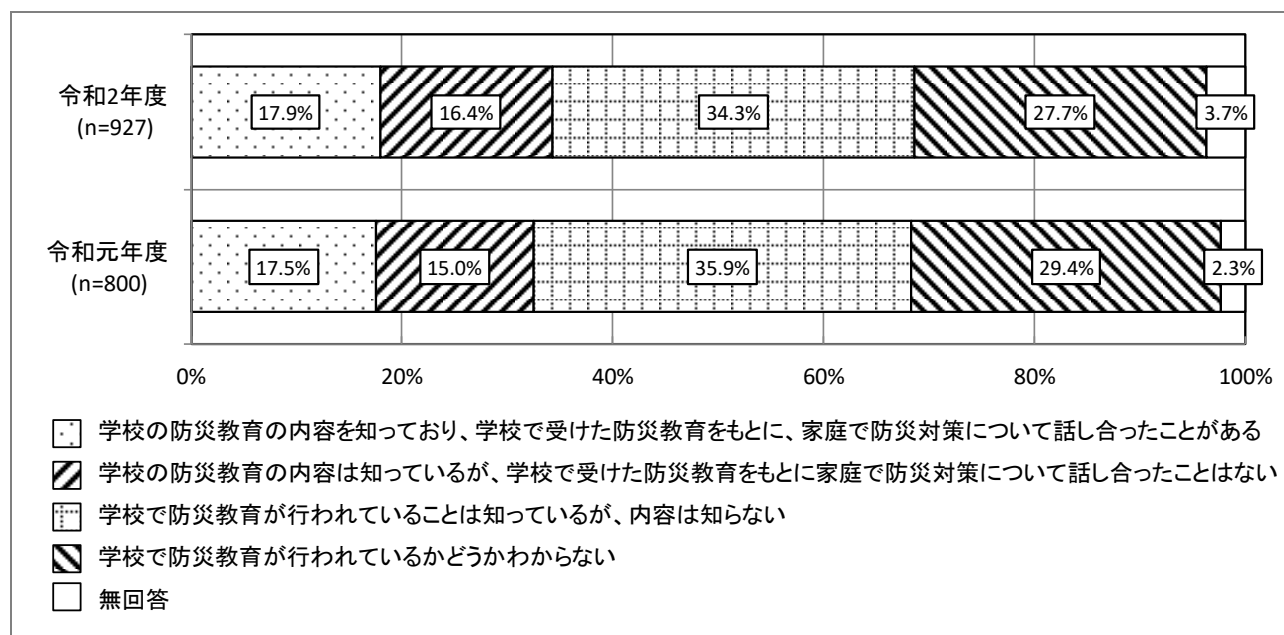
三重県では、「防災ノート」等防災教育用の教材を作成・配布し、これらの教材を学校で活用するよう要請する等、学校での防災教育の充実に取り組んでいます。あなたのお住まいの児童生徒が通っている学校の防災教育について、あなたはどの程度ご存知ですか。

(一つだけ○) ※問 27-1

※ 複数の児童生徒がいる場合は、一番年下の児童生徒が通っている学校についてお答えください。

1. 学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある
2. 学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない
3. 学校で防災教育が行われていることは知っているが、内容は知らない
4. 学校で防災教育が行われているかどうかわからない

図 2.4.2 学校の防災教育の家庭での認知度 -全県（前年度との比較）-



- 小学生から高校生までの児童生徒がいる家庭の約7割の方が、学校で防災教育が行われていることを認知しています。
- そのうち、「学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある」が17.9%、「学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない」が16.4%と、学校の防災教育の内容まで認知している家庭は、あわせて34.3%と昨年度より1.8ポイント増加しました。

第3章 調査結果

3.1 地震・津波対策について

3.1.1 東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり

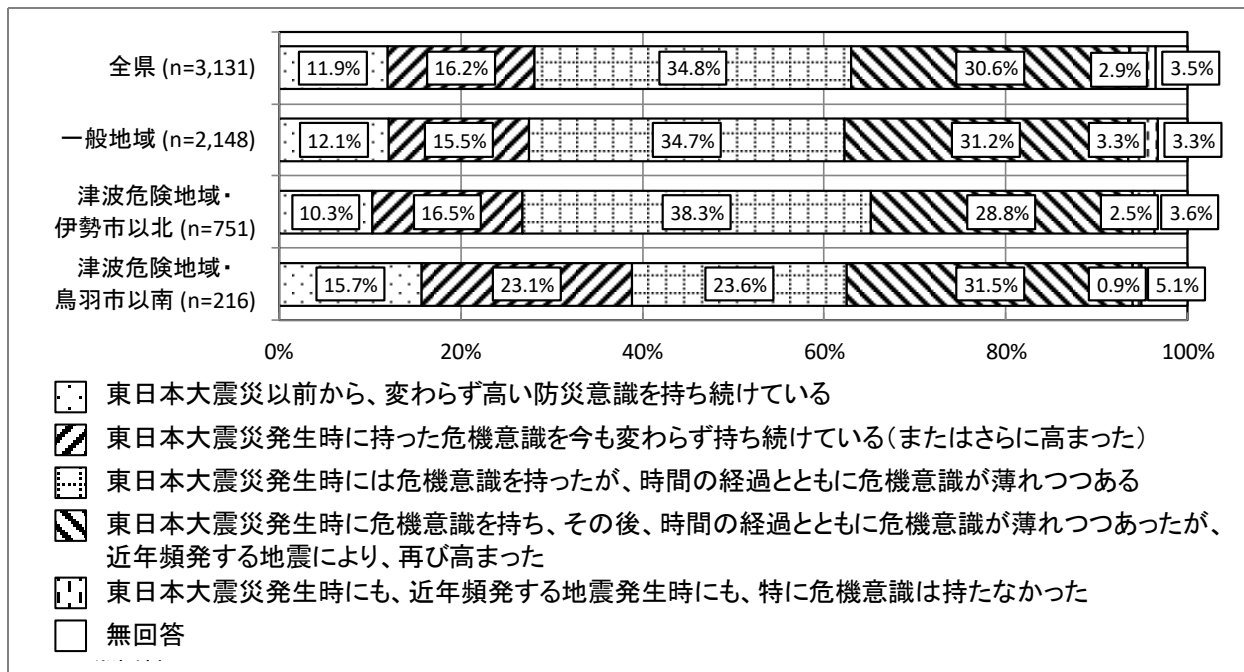
【問 1】 平成 23 年の東日本大震災の発生から 9 年あまりが経過し、平成 28 年には熊本地震、平成 30 年には大阪府北部を震源とする地震や北海道胆振東部地震が発生しましたが、この一連の地震災害を受け、あなたの防災意識に変化はありますか。(一つだけ○)

1. 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を維持している
2. 東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず維持している(またはさらに高まった)
3. 東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
4. 東日本大震災発生時に危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった
5. 東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に危機意識は持たなかった

→問 2へ

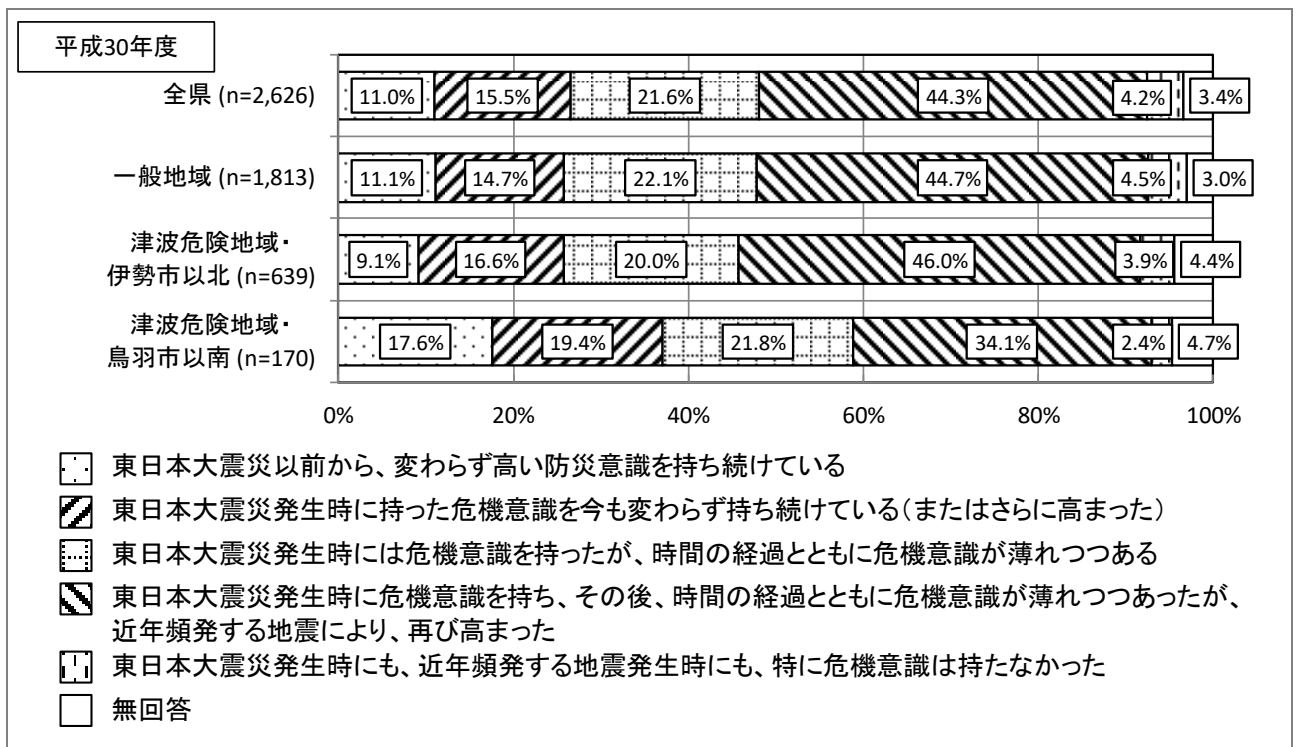
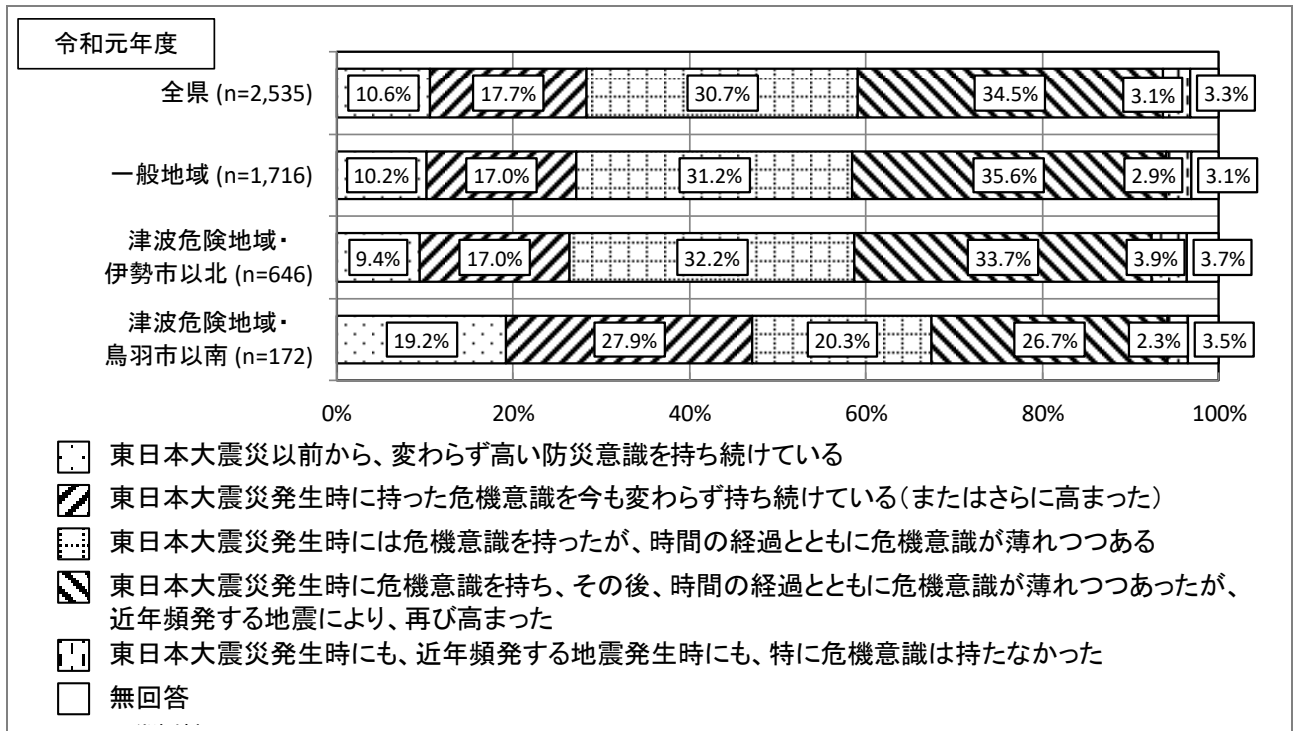
調査結果

図 3.1.1 (1) 東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり - 全県及び地域別 -



- 全県のデータでは、「東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある」と答えた方の割合が、34.8%と最も多く、次いで「東日本大震災発生時に危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった」が30.6%、「東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず維持している(またはさらに高まった)」が16.2%となっています。
- 地域別にみると、津波危険地域(鳥羽市以南)では、「東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず維持している(またはさらに高まった)」が全県の16.2%とくらべて6.9ポイント高く、23.1%となっています。また、地域間の比較をすると、津波危険地域(鳥羽市以南)にくらべ、県の被害想定で内陸直下型地震が想定されている一般地域および津波危険地域(伊勢市以北)で「東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある」と答えた方の割合が一般地域で11.1ポイント、津波危険地域(伊勢市以北)で14.7ポイント高くなっています。

(参考) 図 3.1.1 (2) 令和元年度及び平成 30 年度の防災意識の経年変化



- 全県の経年変化をみると、「東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある」と答えた方の割合が、平成 30 年度の 21.6%から、昨年度は 30.7%と増加しましたが、今年度は 34.8%とさらに増加しました。

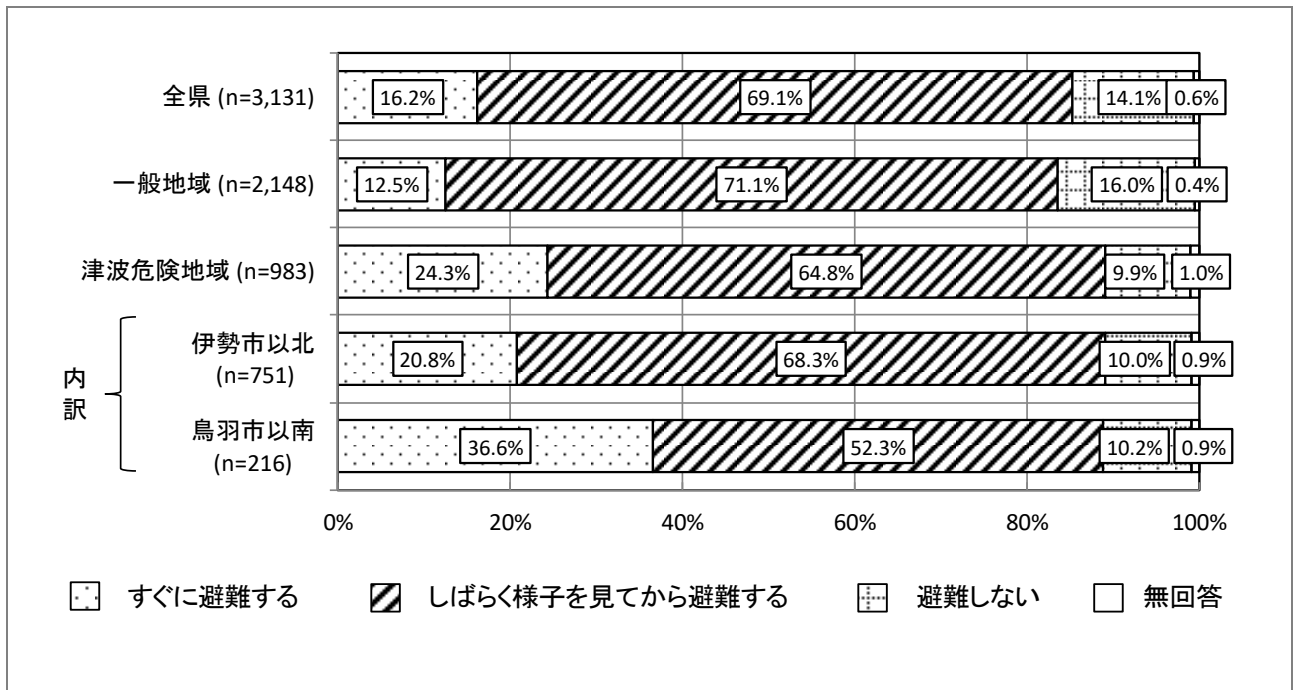
3.1.2 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動

【問2】 夜遅くあなたがご自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上続き、停電もしたとします。揺れが収まった後、あなたは避難しますか。(一つだけ○)

- 1. すぐに避難する →問2-1 へ
- 2. しばらく様子を見てから避難する →問2-2 へ
- 3. 避難しない →問2-3 へ

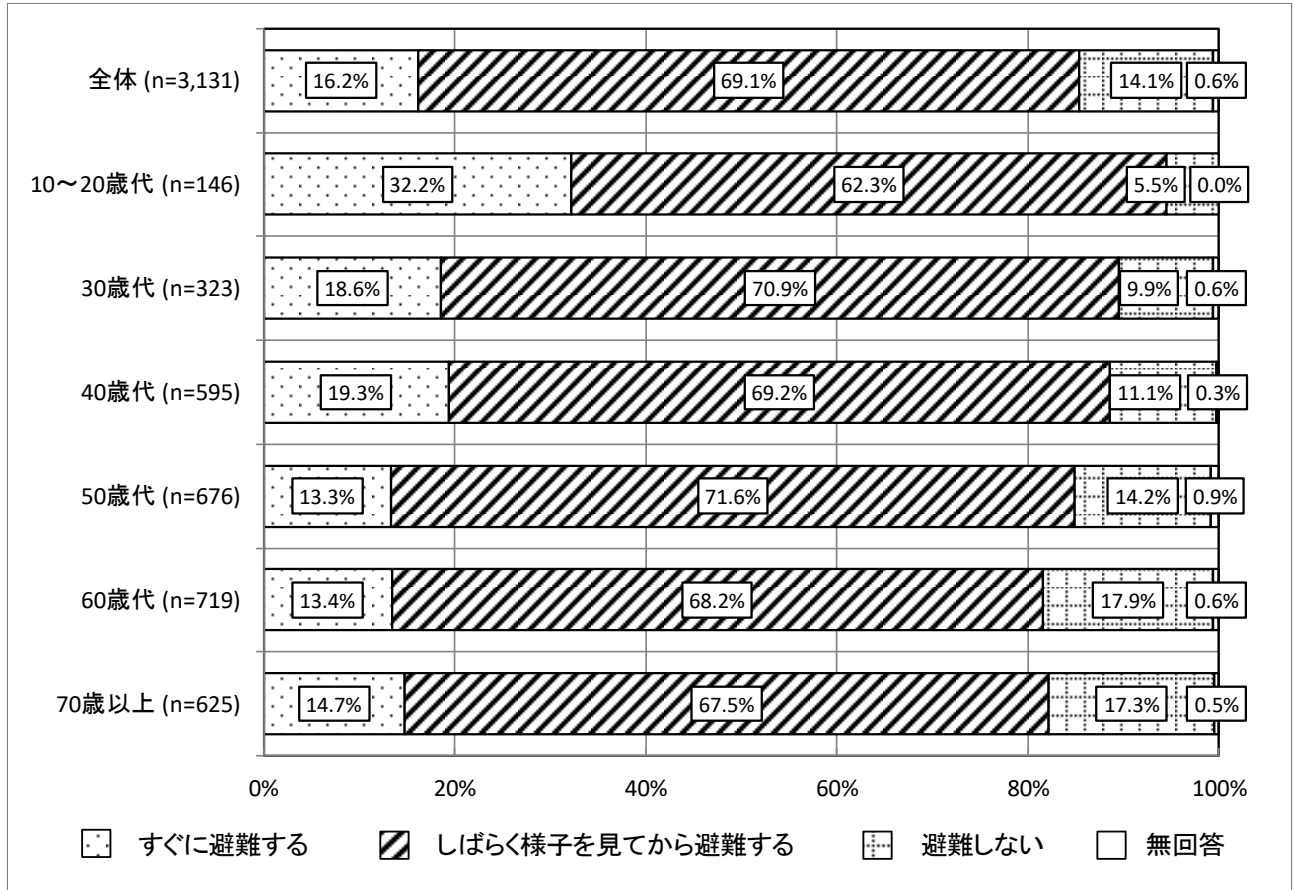
調査結果

図 3.1.2 (1) 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動 -全県及び地域別-



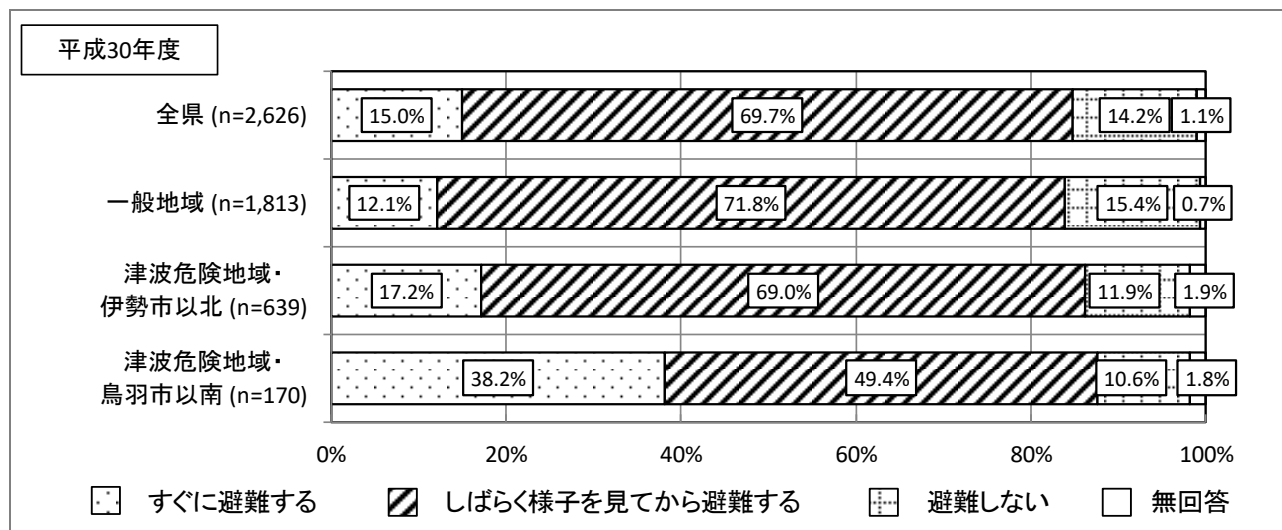
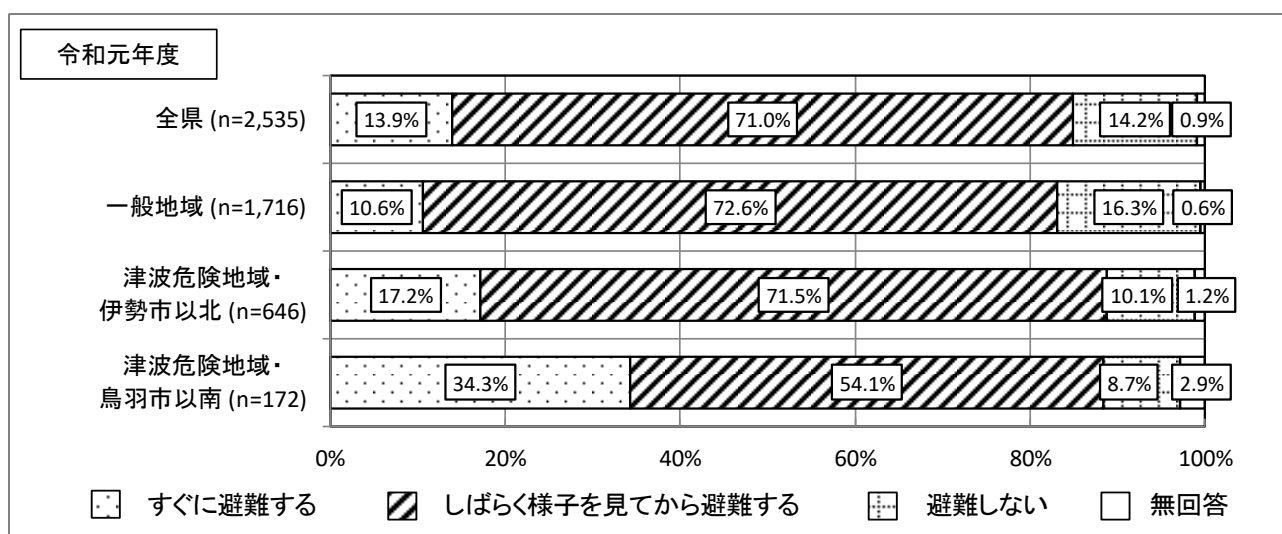
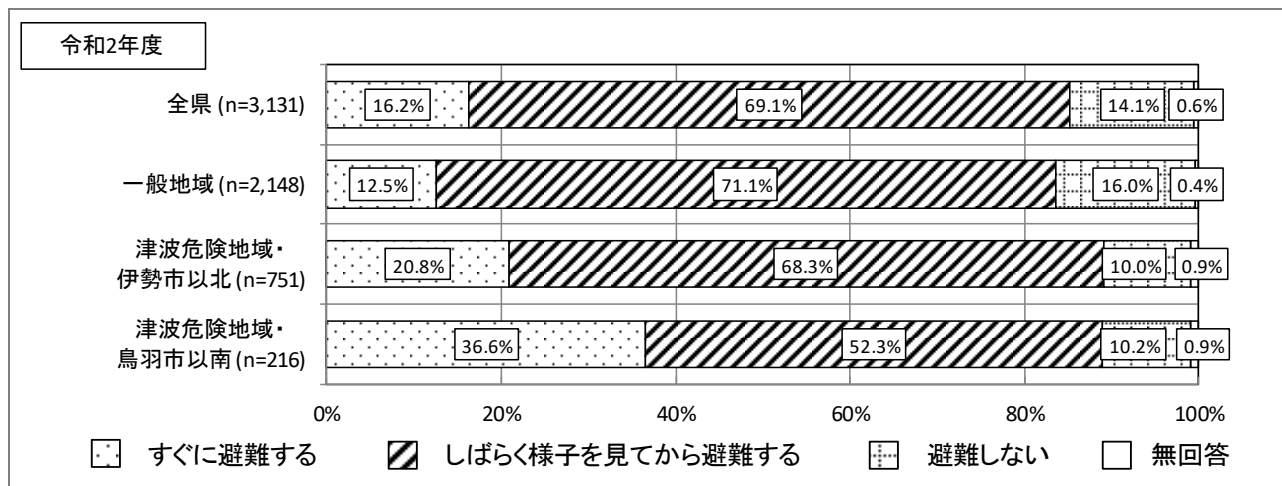
- 全県で見ると、「しばらく様子を見てから避難する」と答えた方の割合が69.1%と最も多く、「すぐに避難する」が16.2%、「避難しない」が14.1%と続き、避難すると答えた方の割合の合計が85.3%となっています。
- 地域別にみると、他の地域にくらべ、津波の危険性がない、または低い一般地域においては、「しばらく様子を見てから避難する」と答えた方の割合が多い傾向にあります。
- 津波危険地域では、「すぐに避難する」と答えた方の割合が多く、危険度の高い鳥羽市以南でその傾向が特に強くなっています。

図 3.1.2 (2) 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動 -全体及び年代別-



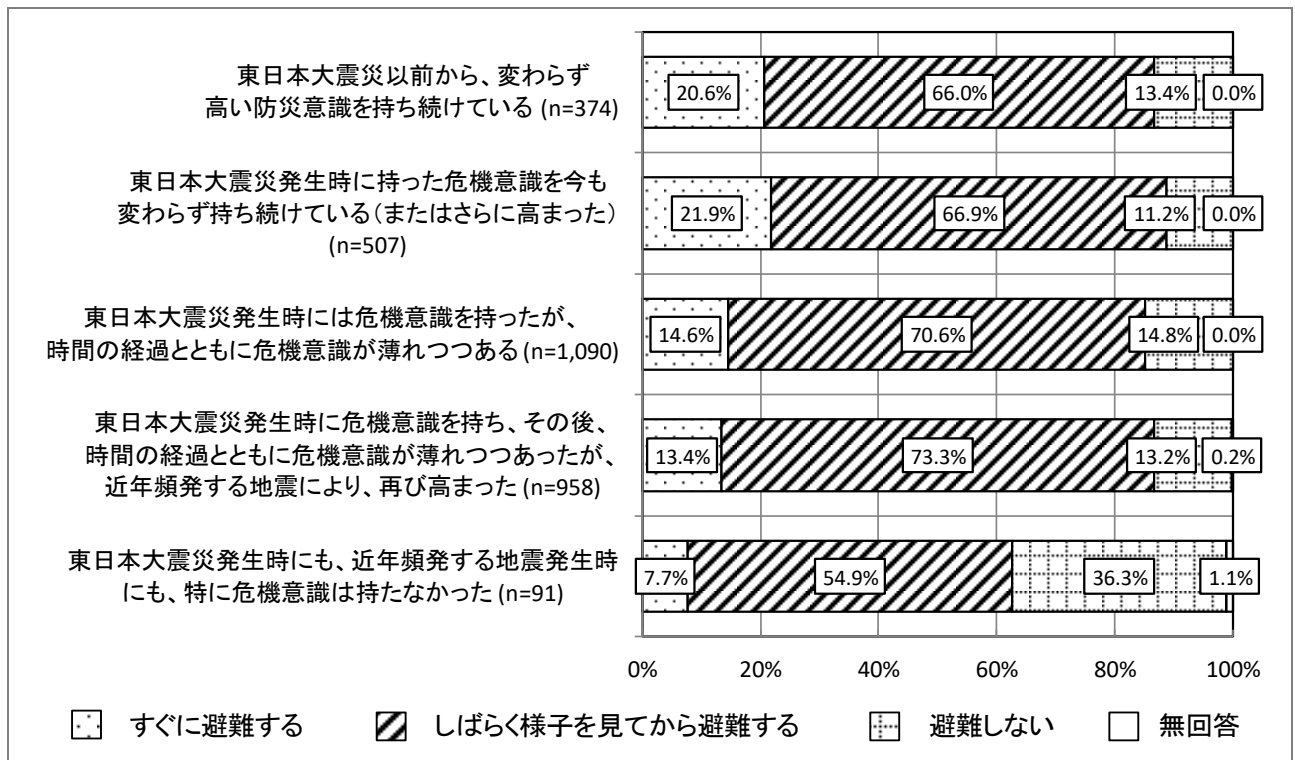
- 年代別で見ると、「しばらく様子を見てから避難する」がすべての年代で多くなっています。
- 「すぐに避難する」は10~20歳代で32.2%と最も多くなっています。一方、「避難しない」は60歳代から70歳以上の年代でやや高い傾向にあります。

図 3.1.2 (3) 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動 -全県及び地域別経年変化-



- 経年変化をみると、平成30年度から令和元年度にかけて「すぐに避難する」はすべての地域で横ばいまたは減少となっていました。令和元年度から令和2年度にかけては増加しています。全県では昨年度から2.3ポイント増加しました。
- 津波危険地域（伊勢市以北）では、「すぐに避難する」が令和元年度の17.2%より3.6ポイント増加しています。

図 3.1.2 (4) 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動
 -問 1 (東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり) とのクロス集計-



- 問 1 (東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり) とのクロス集計をみると、「東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に危機意識は持たなかった」と答えた方で「すぐに避難する」と答えた方は、全体の 16.2% (図 3.1.2 (1) 参照) とくらべ、8.5%と少なくなっています。
- 「東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識をもち続けている」「東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらずもち続けている (またはさらに高まった)」と答えた方のそれぞれ約 2 割が「すぐに避難する」と答えており、全体の 16.2%に比べ高くなっています。

3.1.3 すぐに避難する理由

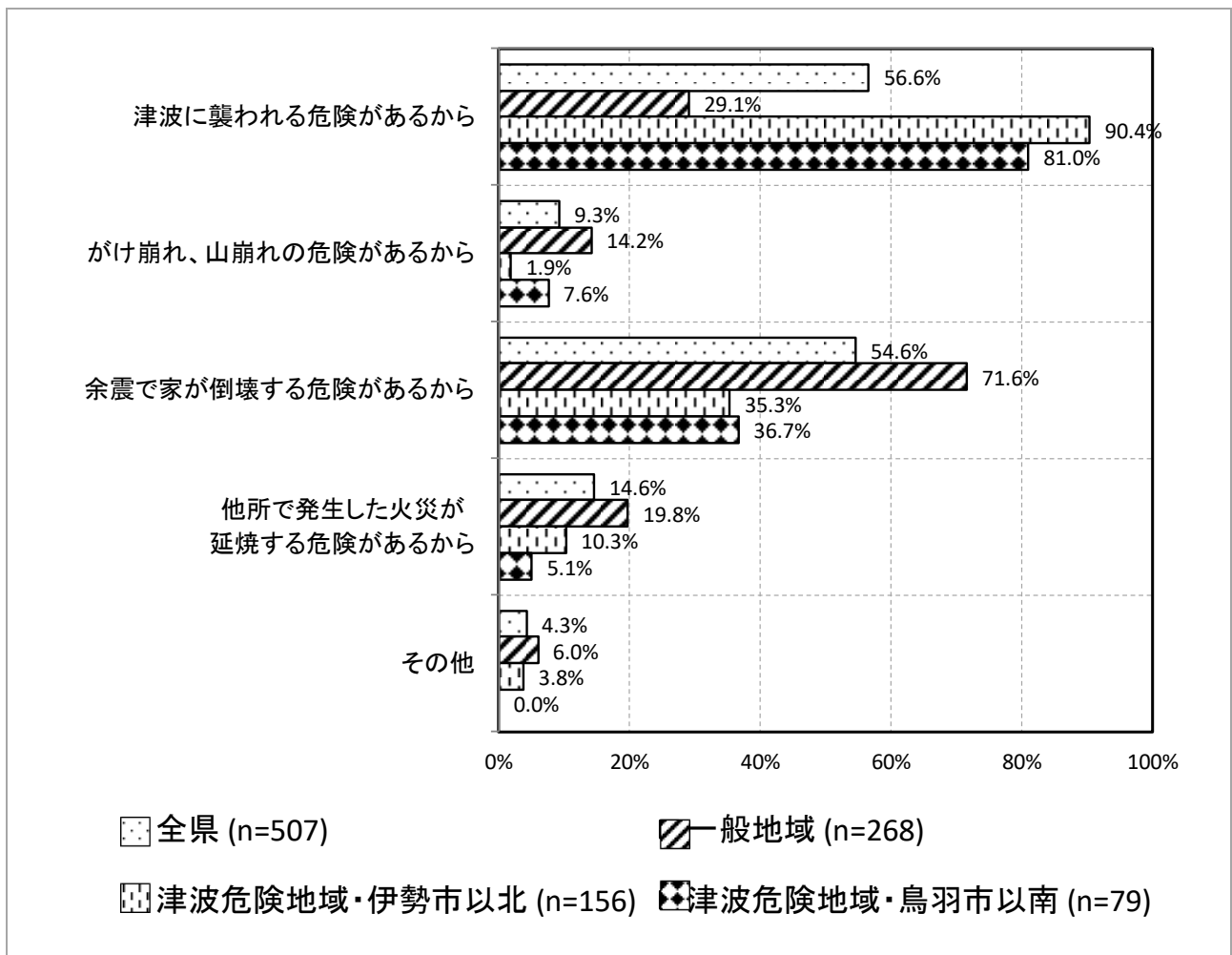
【問2-1】 問2で「1.すぐに避難する」と答えた方にお尋ねします。あなたが避難する主な理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 津波に襲われる危険があるから
2. かけ崩れ、山崩れの危険があるから
3. 余震で家が倒壊する危険があるから
4. 他所で発生した火災が延焼する危険があるから
5. その他 具体的に：

→問3へ

調査結果

図 3.1.3 すぐに避難する理由 -全県及び地域別- (複数回答)



- 全県では「津波に襲われる危険があるから」が最も多く 56.6%、次いで「余震で家が倒壊する危険があるから」が 54.6%となっています。
- 地域別にみると、一般地域では「余震で家が倒壊する危険があるから」が最も多く 71.6%となっている一方、津波危険地域（伊勢市以北、鳥羽市以南）では、「津波に襲われる危険があるから」がそれぞれ、90.4%、81.0%と最も多くなっています。
- 「その他」の理由について、「子供もいるので」「一人家族だから」「時間が経つにつれ、交通網も混乱する危険があるため」などの回答がありました。

3.1.4 避難を遅らせる理由

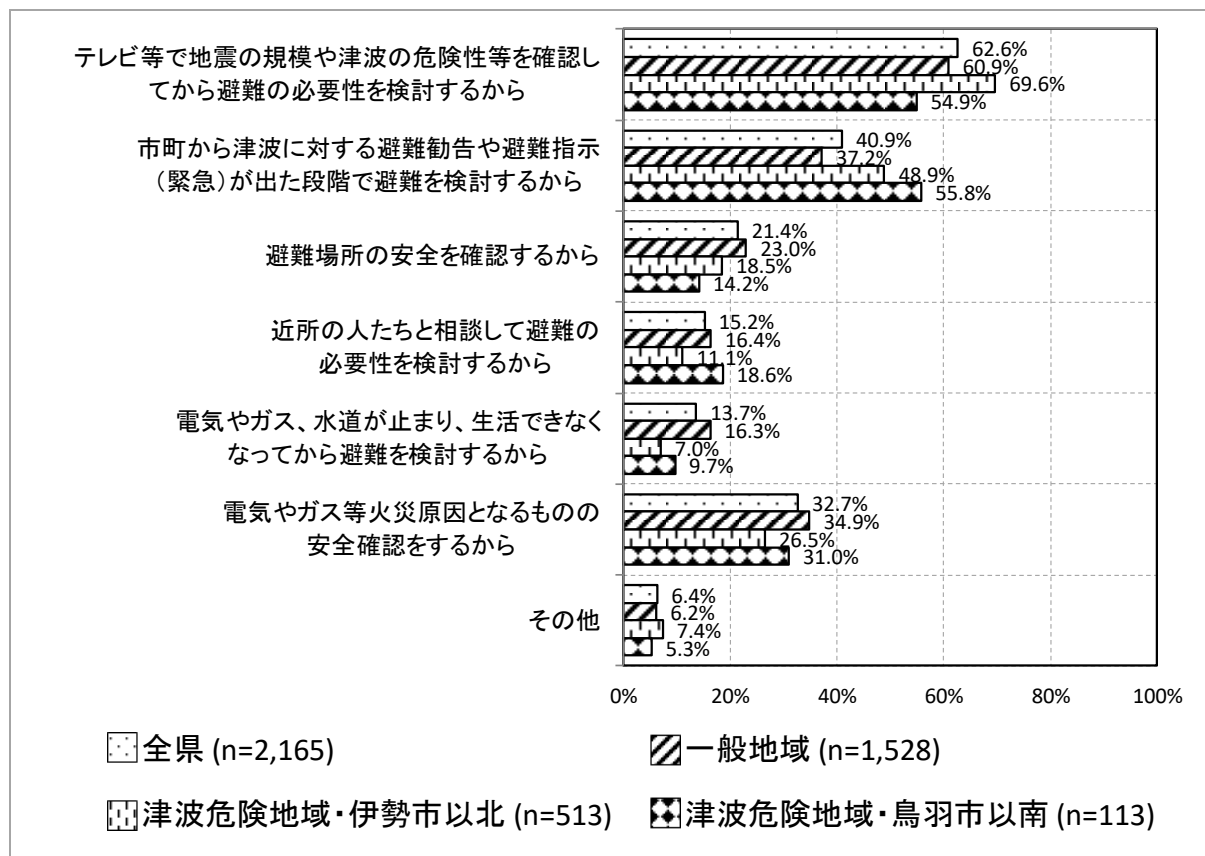
【問 2-2】 問 2 で「2.しばらく様子を見てから避難する」と答えた方にお尋ねします。あなたが避難を遅らせる主な理由は何ですか。（いくつでも〇）

1. テレビ等で地震の規模や津波の危険性等を確認してから避難の必要性を検討するから
2. 市町から津波に対する避難勧告や避難指示（緊急）が出た段階で避難を検討するから
3. 避難場所の安全を確認するから
4. 近所の人たちと相談して避難の必要性を検討するから
5. 電気やガス、水道が止まり、生活できなくなってから避難を検討するから
6. 電気やガス等火災原因となるものの安全確認をするから
7. その他 具体的に：

→問3へ

調査結果

図 3.1.4 避難を遅らせる理由 -全県及び地域別-（複数回答）



- 避難を遅らせる理由について、津波危険地域（鳥羽市以南）以外の地域では「テレビ等で地震の規模や津波の危険性等を確認してから避難の必要性を検討するから」が最も多く、津波危険地域（鳥羽市以南）では「市町から津波に対する避難勧告や避難指示（緊急）が出た段階で避難を検討するから」が最も多くなっています。
- 「その他」の理由については、「コロナ感染症が懸念されるため、すぐには判断できない」「ペットがいるため」「家族の安否確認のため」「家族と話し合ってから決めたいから」「家族に要介護人や障がい者がいるので危険だから」などの回答がありました。

3.1.5 避難しない理由

【問 2-3】 問 2 で、「3.避難しない」と回答された方にお尋ねします。あなたが避難しない理由として最もあてはまるものは次のうちどれですか。(いくつでも○)

1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由とを感じるから
5. 内陸地であるから
6. 自宅が安全だから
7. 介護が必要等、避難が困難な家族がいるから
8. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
9. ペットを残して避難することに抵抗があるから
10. 面倒だから
11. その他 具体的に：

→問3へ

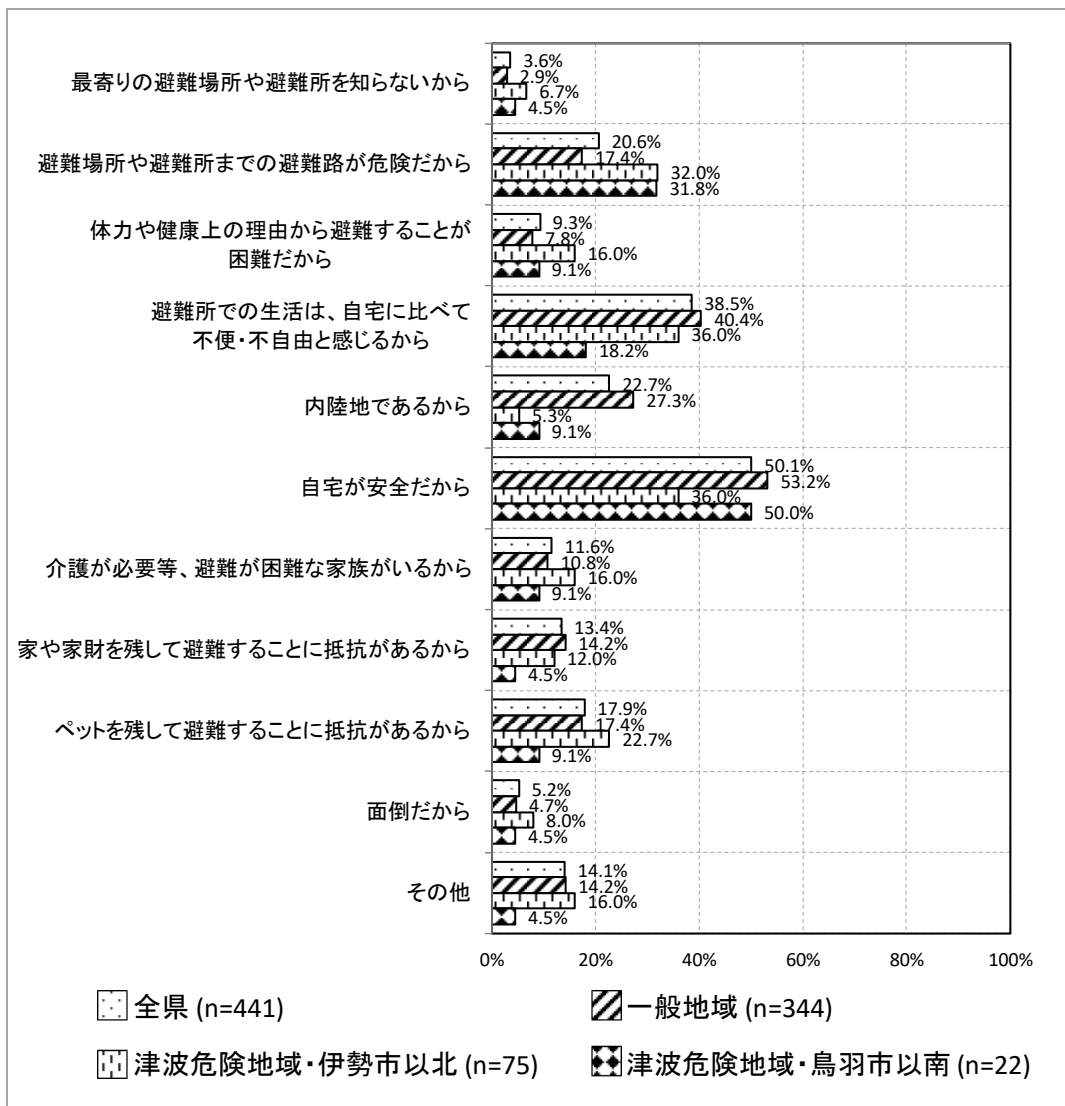
このアンケートでは、避難場所と避難所の用語について、次のとおり使い分けています。

※避難場所：津波や大規模火災等から緊急かつ一時的に避難するための場所

※避難所：災害により短期間の避難生活を余儀なくされた場合に、一定期間の避難生活を行う建物（避難所が避難場所を兼ねている場合もあります。）

調査結果

図 3.1.5 避難しない理由 -全県及び地域別- (複数回答)



- 避難しない理由については、「自宅が安全だから」が全県で 50.1%と多くなっており、津波危険地域（鳥羽市以南）でも 50.0%に上っています。次いで、全県では「避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから」が 38.5%と多くなっています。
- 「その他」の理由について、津波危険地域では「避難所が遠い」、一般地域では「避難所の方が川の近くの低地で危険と感じるから」「避難場所が小さく、大勢が集まらない」などの回答がありました。

3.1.6 三重県地震被害想定調査結果の認知度

【問 3】 三重県では、「三重県地震被害想定調査結果」として、各地の震度予測や津波浸水予測等を公表しています。あなたは、この調査結果をご存知ですか。（一つだけ○）

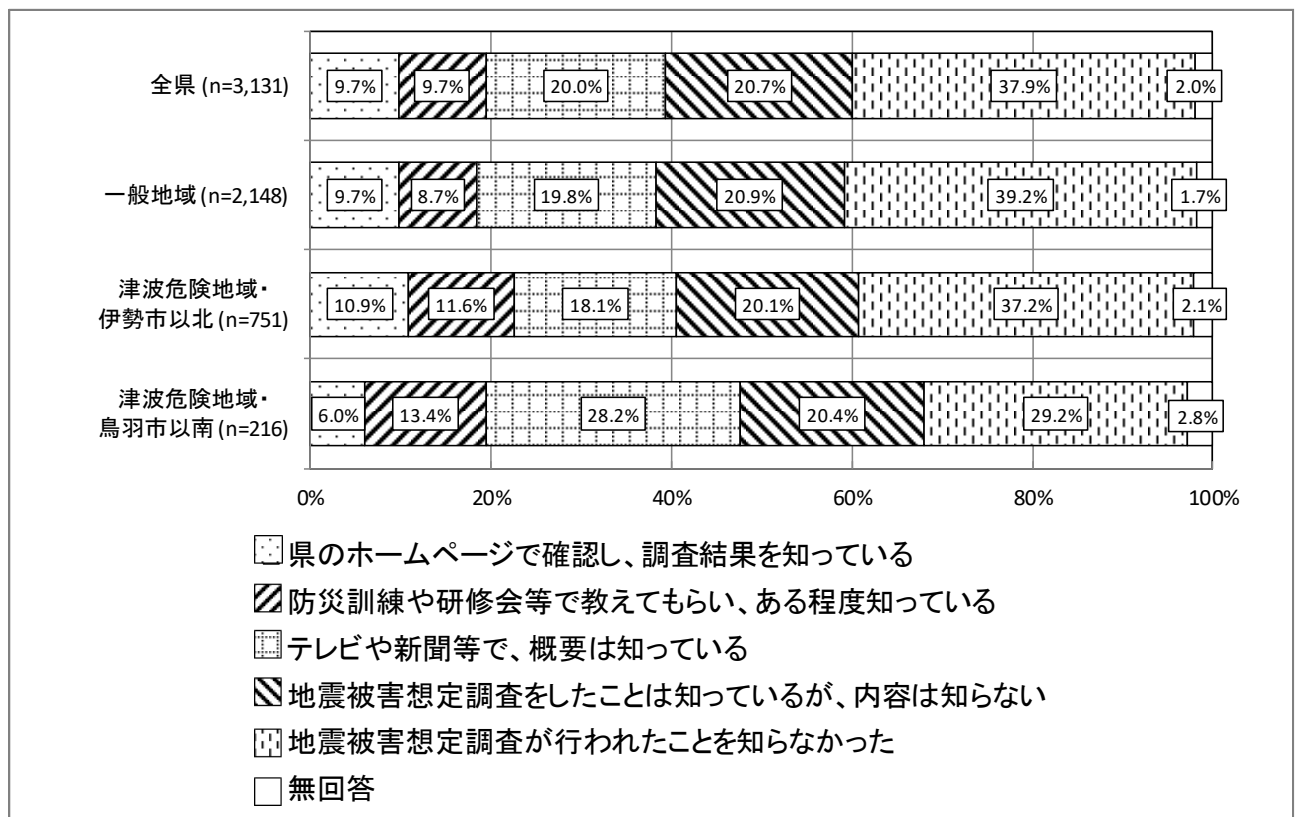
1. 県のホームページで確認し、調査結果を知っている
2. 防災訓練や研修会等で教えてもらい、ある程度知っている
3. テレビや新聞等で、概要は知っている
4. 地震被害想定調査をしたことは知っているが、内容は知らない
5. 地震被害想定調査が行われていたことを知らなかった

→問 4 へ

※「三重県地震被害想定調査結果」では、津波浸水予測図のほか、津波からの避難行動がとれなくなる“津波により浸水深30cmに到達するまでの到達予測時間分布図”を公表しています。

調査結果

図 3.1.6 三重県地震被害想定調査結果の認知度 -全県及び地域別-



- 「調査結果を知っている」「ある程度知っている」「概要は知っている」と答えた方の割合の合計が、全県で 39.4%となっており、地域別では特に津波危険地域（鳥羽市以南）で 47.6%と半数近くに及んでいます。
- 津波危険地域（鳥羽市以南）を除いた地域では、「地震被害想定調査をしたことは知っているが、内容は知らない」と「地震被害想定調査が行われていたことを知らなかった」と答えた方の割合の合計が、一般地域で 60.1%、津波危険地域（伊勢市以北）で 57.3%と半数を超えています。

3.1.7 内陸直下型地震の危険性の認知度

【問4】 平成28年には熊本地震、平成30年には大阪府北部を震源とする地震や北海道胆振東部地震が発生しましたが、これらの地震を受け、あなたはお住まいの地域での内陸直下型地震の危険性についてどの程度知っていますか。(一つだけ)

1. 熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生する以前から、自宅周辺で活断層が近くにあること(または、ないこと)を知っていた
2. 熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生して、内陸直下型地震の危険性を実感したので、情報収集を行い、自宅周辺で活断層が近くにあること(または、ないこと)を知った
3. 熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生してから、内陸直下型地震の危険性を実感したが、自宅周辺に活断層があるかどうか、確認することはしていない
4. 内陸直下型地震の危険性について、あまり知らない、またはあまり考えたことがない

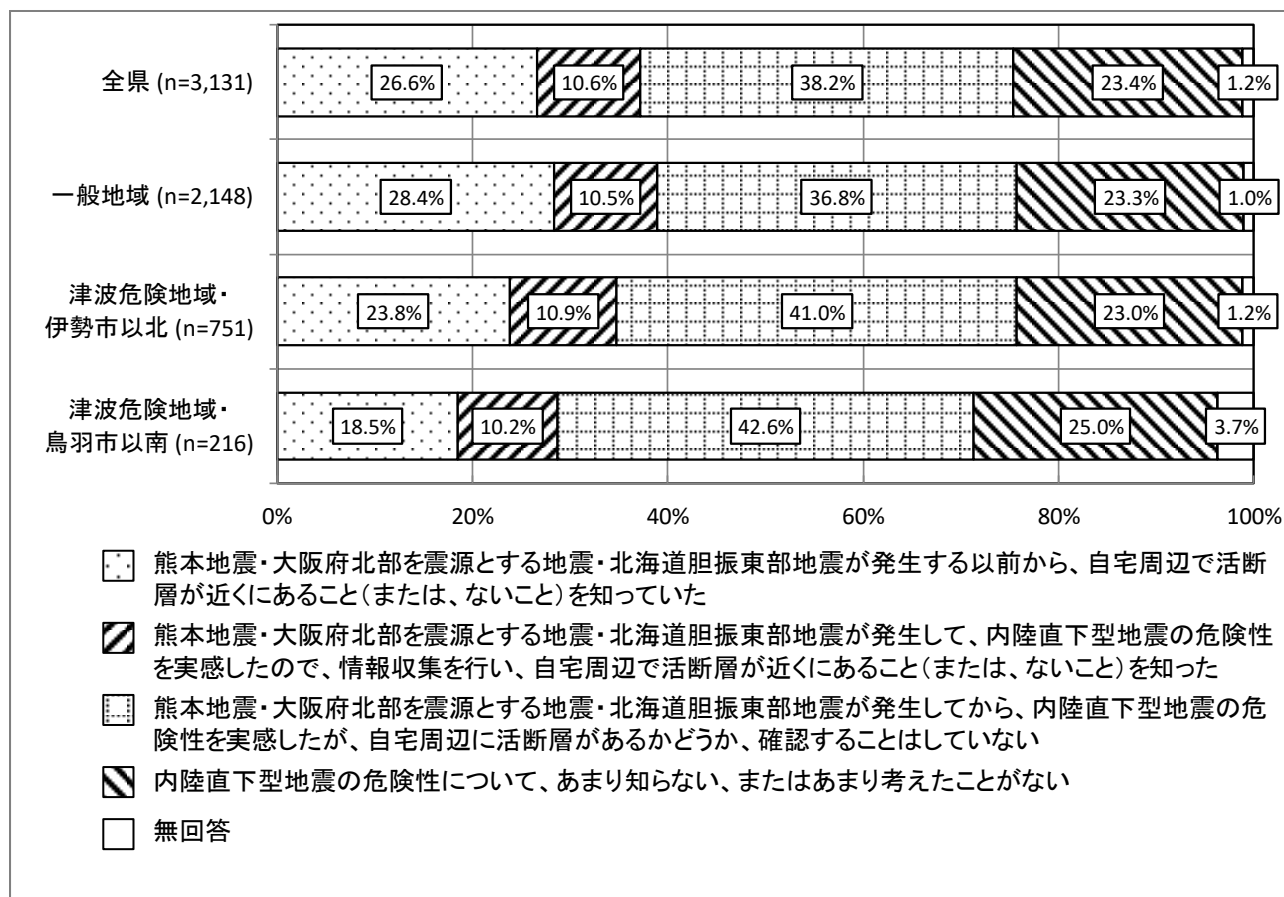
→問5へ

※内陸直下型地震：内陸部にある活断層で発生する、震源の浅い地震

※なお、現在活断層が確認されていない場所であっても、後の調査・研究で新たに活断層が発見されることもあります。

調査結果

図 3.1.7 内陸直下型地震の危険性の認知度 -全県及び地域別-



- すべての地域において、「熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生してから、内陸直下型地震の危険性を実感したが、自宅周辺に活断層があるかどうか、確認することはしていない」と答えた方の割合が38.2%と最も多く、次いで全県では「熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生する以前から、自宅周辺で活断層が近くにあること(または、ないこと)を知っていた」が26.6%、「内陸直下型地震の危険性について、あまり知らない、またはあまり考えたことがない」が23.4%となっています。

3.1.8 南海トラフ地震臨時情報についての認知度

- 【問5】 「南海トラフ地震臨時情報」について、あなたはどの程度ご存知ですか。(一つだけ○)
1. どのような情報かインターネットやパンフレット等で確認し、よく知っている
 2. テレビ番組の解説等で、どのような情報か聞いたことがある
 3. 耳にしたことはあるが、具体的にどのような情報か知らない
 4. 知らない
- 問6へ

※「南海トラフ地震臨時情報」：南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするもので、この情報の発表条件は以下のとおりです。

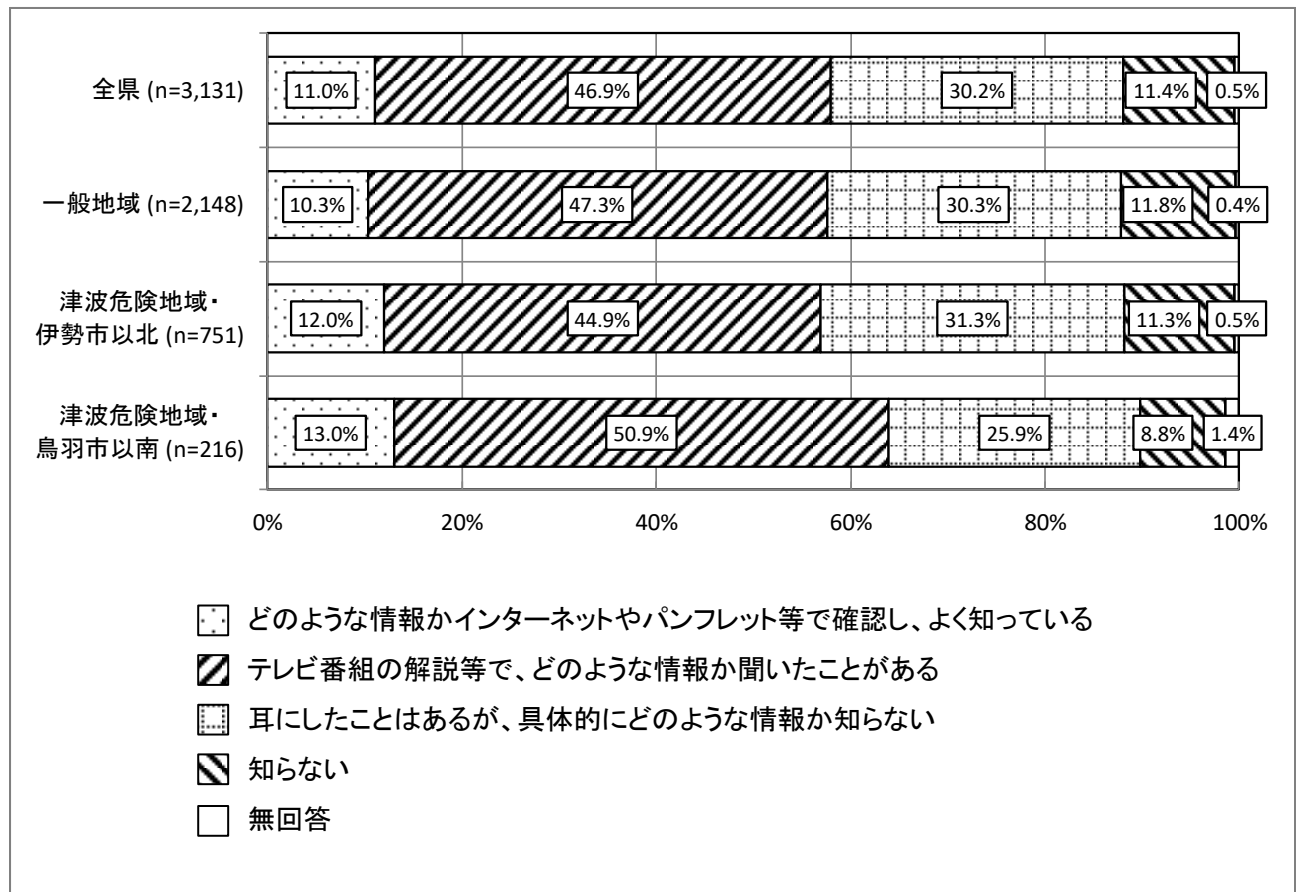
「南海トラフ地震臨時情報」

- ・ 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
- ・ 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合

南海トラフ地震臨時情報について <http://www.pref.mie.lg.jp/STAISAKU/HP/m0099500047.htm>

調査結果

図 3.1.8 南海トラフ地震臨時情報についての認知度 -全県及び地域別-



- ・ 全県では「どのような情報かインターネットやパンフレット等で確認し、よく知っている」「テレビ番組の解説等で、どのような情報か聞いたことがある」と答えた方の合計が57.9%と、半数以上が知っている結果となりました。中でも津波危険地域（鳥羽市以南）では63.9%に上り、他の地域にくらべ認知度が高くなっています。

3.2 風水害対策について

3.2.1 紀伊半島大水害発生後の防災意識の移り変わり

【問 6】 平成 23 年の紀伊半島大水害から 9 年あまりが経過し、近年では平成 30 年 7 月豪雨、令和元年東日本台風（台風第 19 号）、令和 2 年 7 月豪雨といった大規模な風水害が発生しましたが、この一連の風水害を受け、あなたの防災意識に変化はありますか。

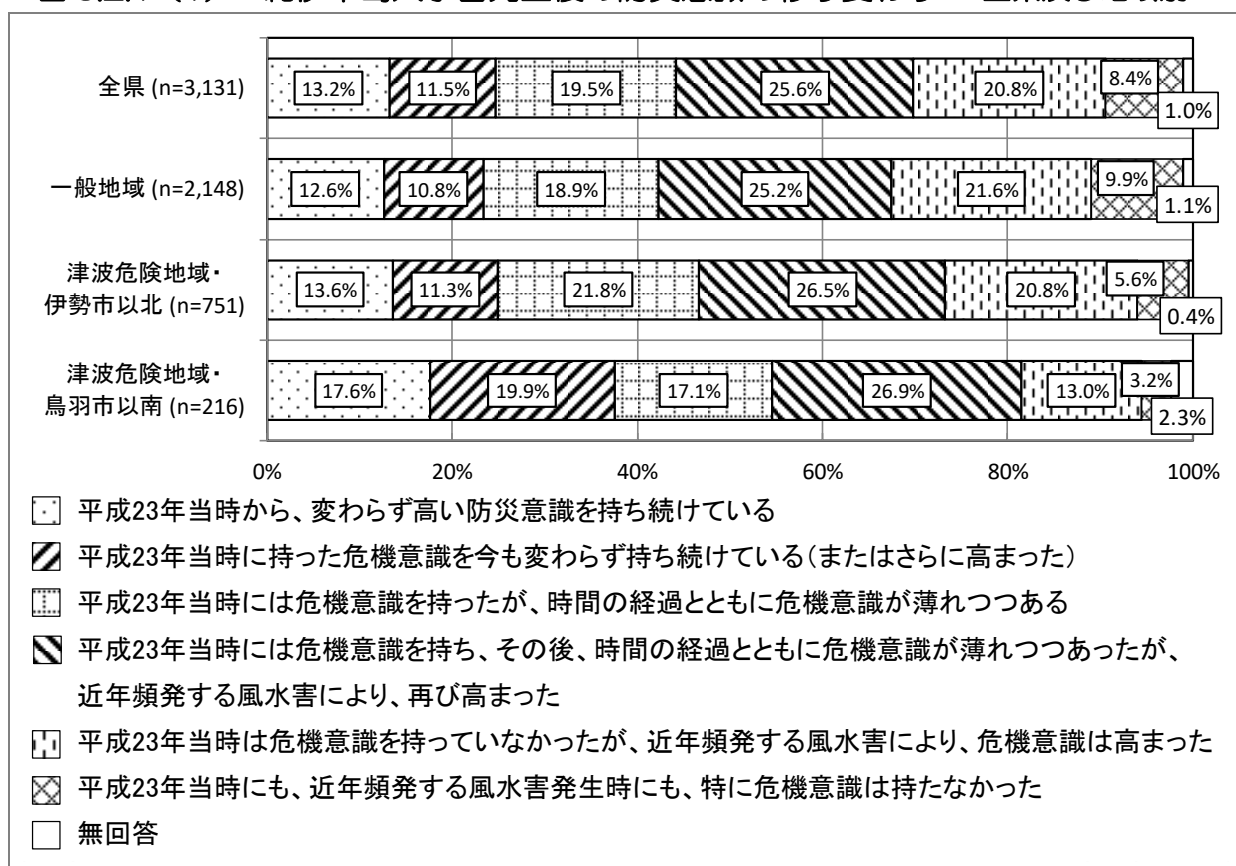
（一つだけ〇）

1. 平成 23 年当時から、変わらず高い防災意識を持ち続けている
2. 平成 23 年当時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている（またはさらに高まった）
3. 平成 23 年当時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
4. 平成 23 年当時には危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
5. 平成 23 年当時は危機意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、危機意識は高まった
6. 平成 23 年当時にも、近年頻発する風水害発生時にも、特に危機意識は持たなかった

→問 7 へ

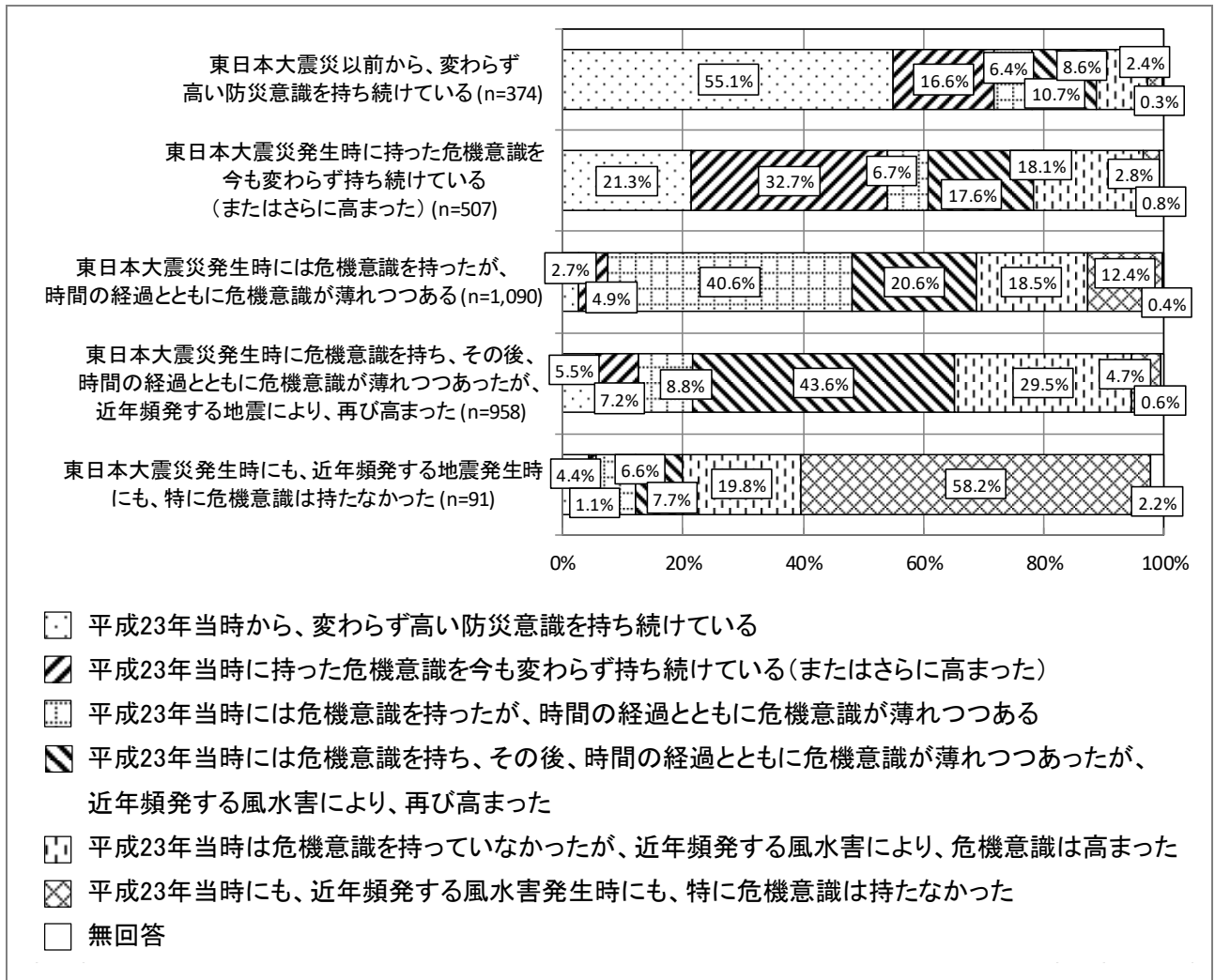
調査結果

図 3.2.1 (1) 紀伊半島大水害発生後の防災意識の移り変わり -全県及び地域別-



- すべての地域で、ほぼ同じ割合で「平成 23 年当時には危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった」が最も多くなっています。
- 津波危険地域（鳥羽市以南）では、「平成 23 年当時から、変わらず高い防災意識を持ち続けている」と「平成 23 年当時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている（またはさらに高まった）」と答えた方の割合の合計が他の地域にくらべ、10 ポイント以上高くなっています。

図 3.2.1 (2) 紀伊半島大水害発生後の防災意識の移り変わり
 -問 1 (東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり) とのクロス集計-



- 問 1 (東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり) とのクロス集計をみると、「東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に危機意識は持たなかった」と答えた方で「平成 23 年当時にも、近年頻発する風水害発生時にも、特に危機意識は持たなかった」と答えた方は 58.2%、「東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を維持している」と答えた方で「平成 23 年当時から、変わらず高い防災意識を維持している」と答えた方は 55.1%とそれぞれ半数を超えています。

3.2.2 警戒レベル情報の認知度

【問 7】 令和元年度から、災害に係る情報には、5段階の「警戒レベル情報」が付与されることになりました。この「警戒レベル情報」について、あなたはどの程度ご存じですか。
(一つだけ〇)

1. どのような情報かインターネットやパンフレット等で確認し、よく知っている
 2. テレビ番組の解説等で、どのような情報か聞いたことがある
 3. 耳にしたことはあるが、具体的にどのような情報か知らない
 4. 知らない
- 問 8へ

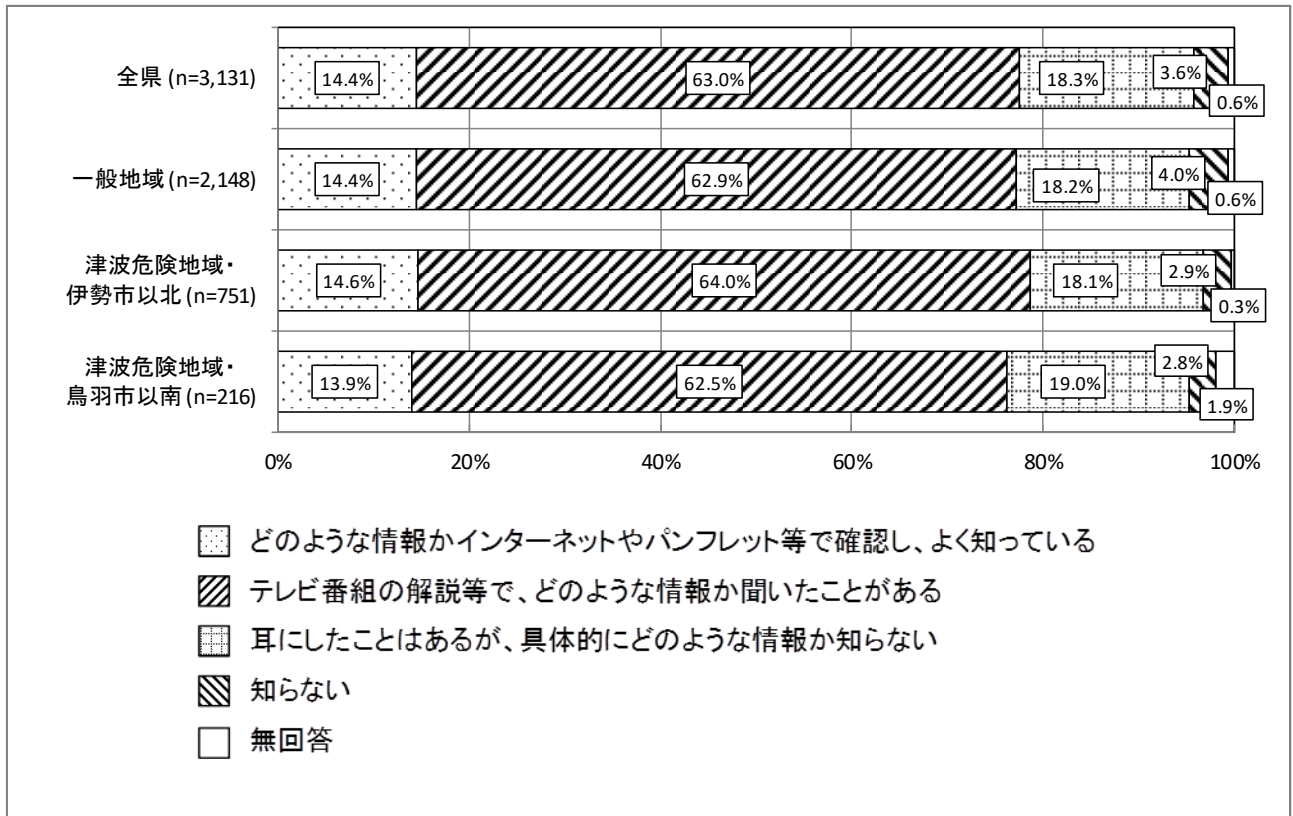
※警戒レベル情報：

災害発生のおそれの高まりに応じて、住民がとるべき行動を5段階に分けたもので、避難準備・高齢者等避難開始を「警戒レベル3」、避難勧告と避難指示（緊急）を「警戒レベル4」とする、などがあります。

警戒レベル情報の運用開始について <http://www.pref.mie.lg.jp/STAISAKU/HP/m0099500046.htm>

調査結果

図 3.2.2 警戒レベル情報の認知度 -全県及び地域別-



- 「どのような情報かインターネットやパンフレット等で確認し、よく知っている」「テレビ番組の解説等で、どのような情報か聞いたことがある」と答えた方の割合の合計が全県では77.4%と「南海トラフ地震臨時情報」の認知度（57.9%）よりかなり高くなっています。

3.2.3 お住まいの地域の風水害による危険性の認知度

【問 8】 あなたがお住まいの地域の風水害（高潮や川のはん濫、土石流、がけ崩れ、地すべり等）の危険性について、どの程度ご存知ですか。（いくつでも○）

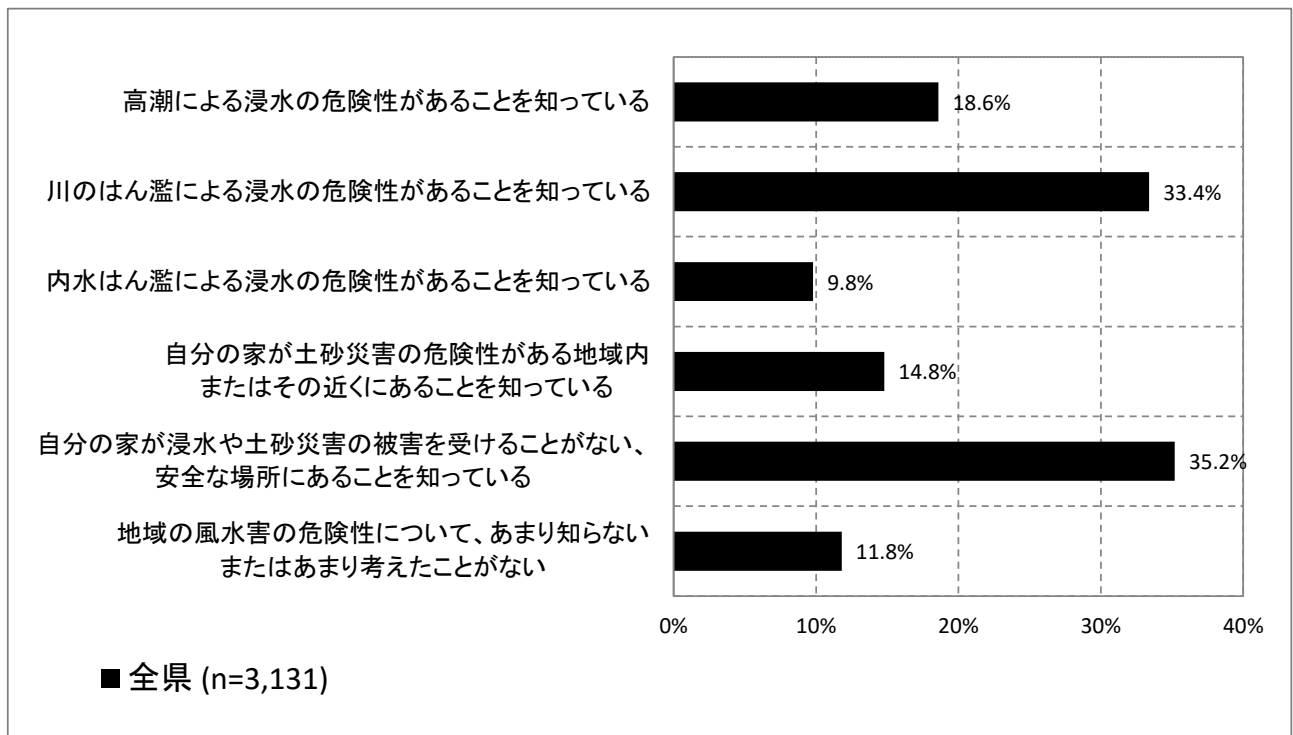
- | | | |
|--|---|----------|
| 1. 高潮による浸水の危険性があることを知っている | } | →問 8-1 へ |
| 2. 川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている | | |
| 3. 内水はん濫による浸水の危険性があることを知っている | | |
| 4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあることを知っている | } | →問 9 へ |
| 5. 自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けることがない、安全な場所にあることを知っている | | |
| 6. 地域の風水害の危険性について、あまり知らないまたはあまり考えたことがない | | |

※内水はん濫：

局地的大雨等で下水道施設や小河川の水位が増加し、堤防から水が溢れなくても河川へ排水する川や下水道の排水能力の不足などが原因で、降った雨を処理できずに建物や土地、道路等が浸水する風水害

調査結果

図 3.2.3 お住まいの地域の風水害による危険性の認知度 -全県-（複数回答）



- 「自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けることがない、安全な場所にあることを知っている」と答えた方の割合が35.2%と最も多く、次いで「川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている」と答えた方の割合が33.4%となっています。

3.2.4 風水害の危険性の情報入手先

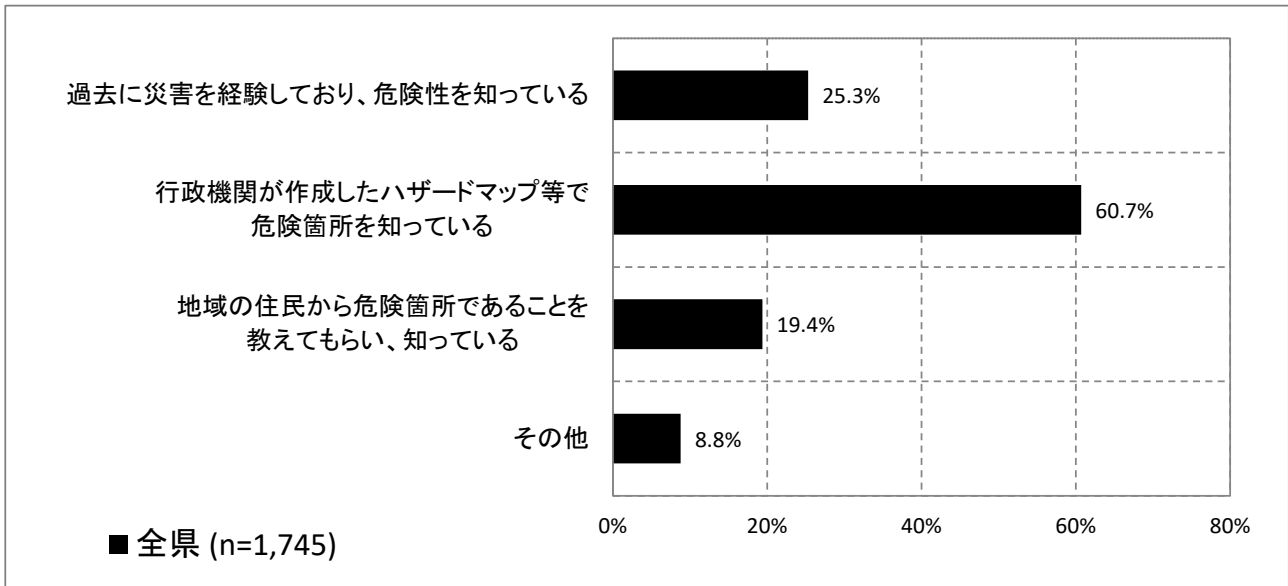
【問 8-1】 問 8 で、「1.高潮による浸水の危険性があることを知っている」、「2.川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている」、「3.内水はん濫による浸水の危険性があることを知っている」、「4.自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあることを知っている」と回答された方にお尋ねします。あなたのお住まいの地域に危険があることを何でお知りになりましたか。(いくつでも〇)

1. 過去に災害を経験しており、危険性を知っている
2. 行政機関が作成したハザードマップ等で危険箇所を知っている
3. 地域の住民から危険箇所であることを教えてもらい、知っている
4. その他 具体的に：

} →問 9 へ

調査結果

図 3.2.4 風水害の危険性の情報入手先 -全県- (複数回答)



- 全県では、「行政機関が作成したハザードマップ等で危険箇所を知っている」が 60.7%と最も多くなっています。次いで「過去に災害を経験しており、危険性を知っている」が 25.3%となっています。
- 「その他」の理由について、「伊勢湾台風の影響を聞いているから」「家の近くにこの辺りは海拔 0mと電信柱に掲示されていたため」「近年の集中短時間豪雨で川の水位が 90%位まで上昇した事があったため」「ハザードマップの危険箇所のそば 圃場整備時造成した道路ののり面が何回もずれのを目撃していた」「以前近くの川がはん濫危険水域に達したので避難するよう防災メールがきたことがあり、はん濫することを知った」などの回答がありました。

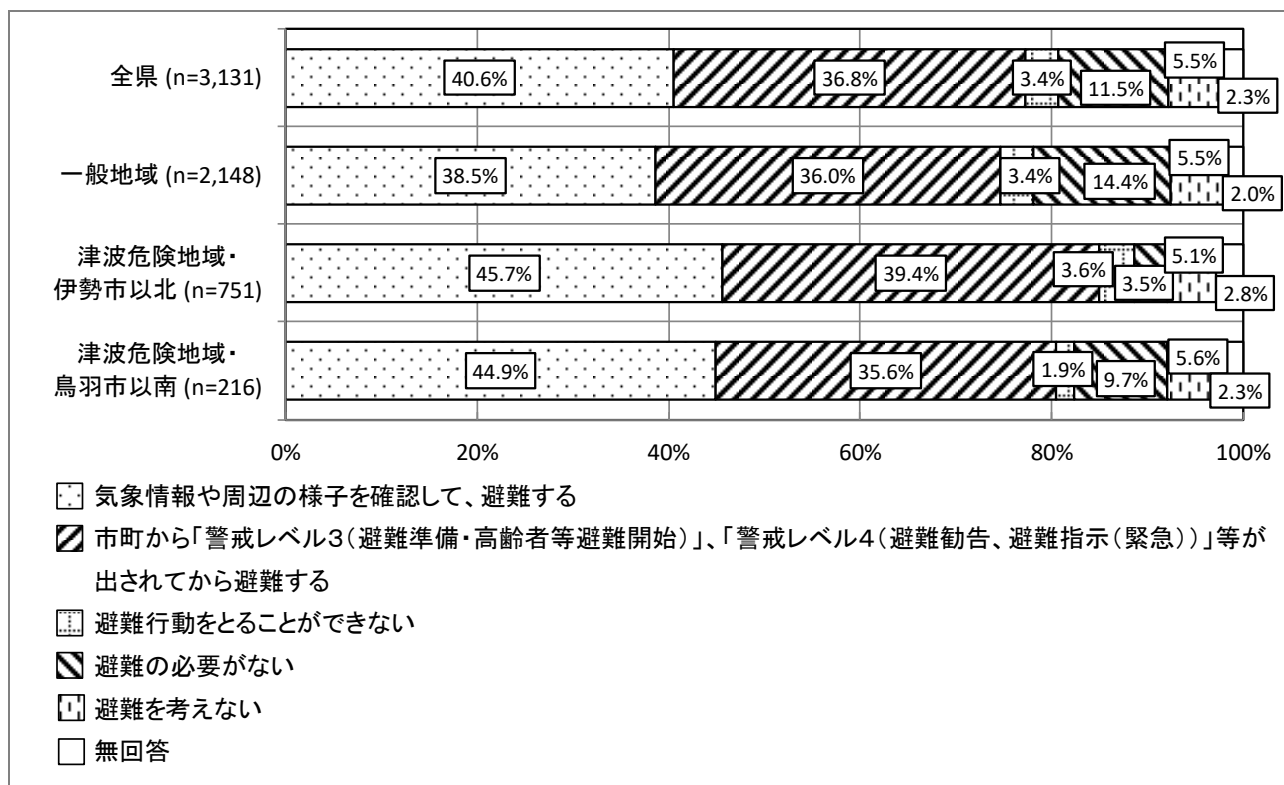
3.2.5 局地的大雨等の避難行動

【問 9】 あなたのお住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降り出し、降り続いたとします。あなたは、このような状況において、どのような避難行動を行いますか。（一つだけ〇）

1. 気象情報や周辺の様子を確認して、避難する
 2. 市町から「警戒レベル3（避難準備・高齢者等避難開始）」、「警戒レベル4（避難勧告、避難指示（緊急）」等が出されてから避難する
 3. 避難行動をとることができない
 4. 避難の必要がない
 5. 避難を考えない
- 問 10 へ

調査結果

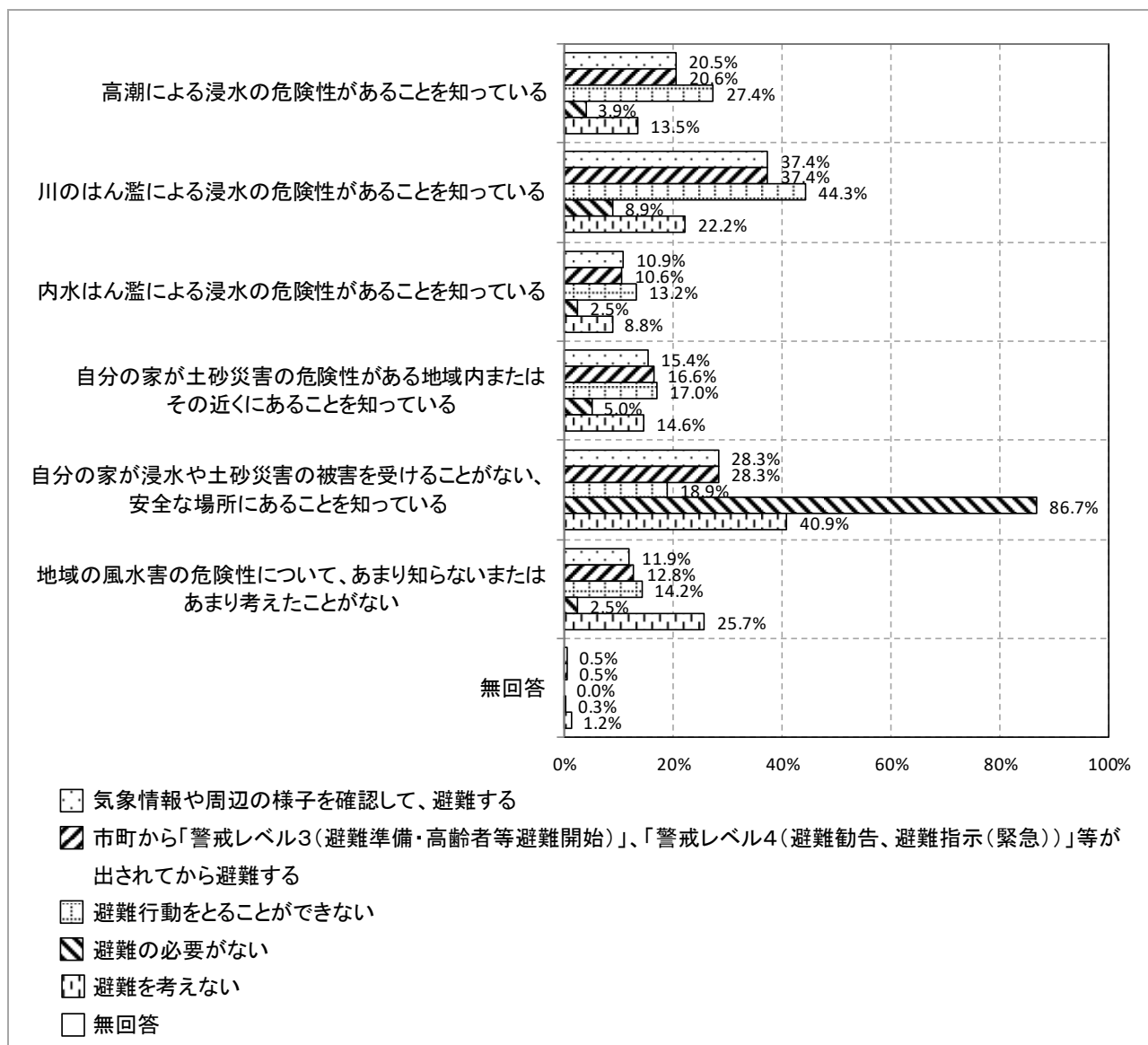
図 3.2.5 (1) 局地的大雨等の避難行動 -全県及び地域別-



- 局地的な大雨等からの避難について、全県では「気象情報や周辺の様子を確認して、避難する」と答えた方の割合が40.6%と最も多くなっています。次いで「市町から『警戒レベル3（避難準備・高齢者等避難開始）』、『警戒レベル4（避難勧告、避難指示（緊急））』等が出されてから避難する」が36.8%となっており、合わせて7割以上の方が避難すると答えています。
- 津波危険地域（伊勢市以北）では、「気象情報や周辺の様子を確認して、避難する」「市町から『警戒レベル3（避難準備・高齢者等避難開始）』、『警戒レベル4（避難勧告、避難指示（緊急））』等が出されてから避難する」と回答された方が合わせて8割半ばとなり、全県とくらべて割合が高くなっています。

図 3.2.5 (2) 局地的大雨等の避難行動

-問 8 (お住まいの地域の風水害による危険性の認知度) とのクロス集計-



- 何らかの地域の風水害の危険性について知っている方の中では「川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている」方が最も多く「避難する」と回答しています。
- 「自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けない、安全な場所にあることを知っている」と回答された方では、「避難の必要がない」が86.7%と突出して多くなっています。

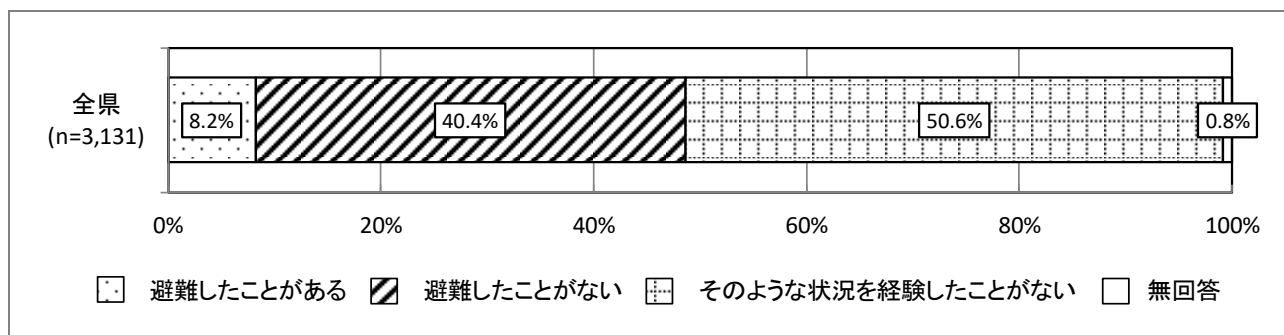
3.2.6 台風時等の避難行動

【問 10】 あなたは、台風や大雨等による避難勧告等がお住まいの地域に発表される等、身の回りに危険が近づいている状況で、自宅から離れた安全な場所に避難した経験がありますか。(一つだけ〇)

- | | |
|----------------------|-----------|
| 1. 避難したことがある | →問 11 へ |
| 2. 避難したことがない | →問 10-1 へ |
| 3. そのような状況を経験したことがない | →問 11 へ |

調査結果

図 3.2.6 台風時等の避難行動 -全県-



- 避難勧告等を経験したことがある人のうち、「避難したことがない」と答えた方の割合は8割強となっています。(※「避難したことがある」「避難したことがない」と答えた方の割合を10とした場合)

3.2.7 台風時等に避難しない理由

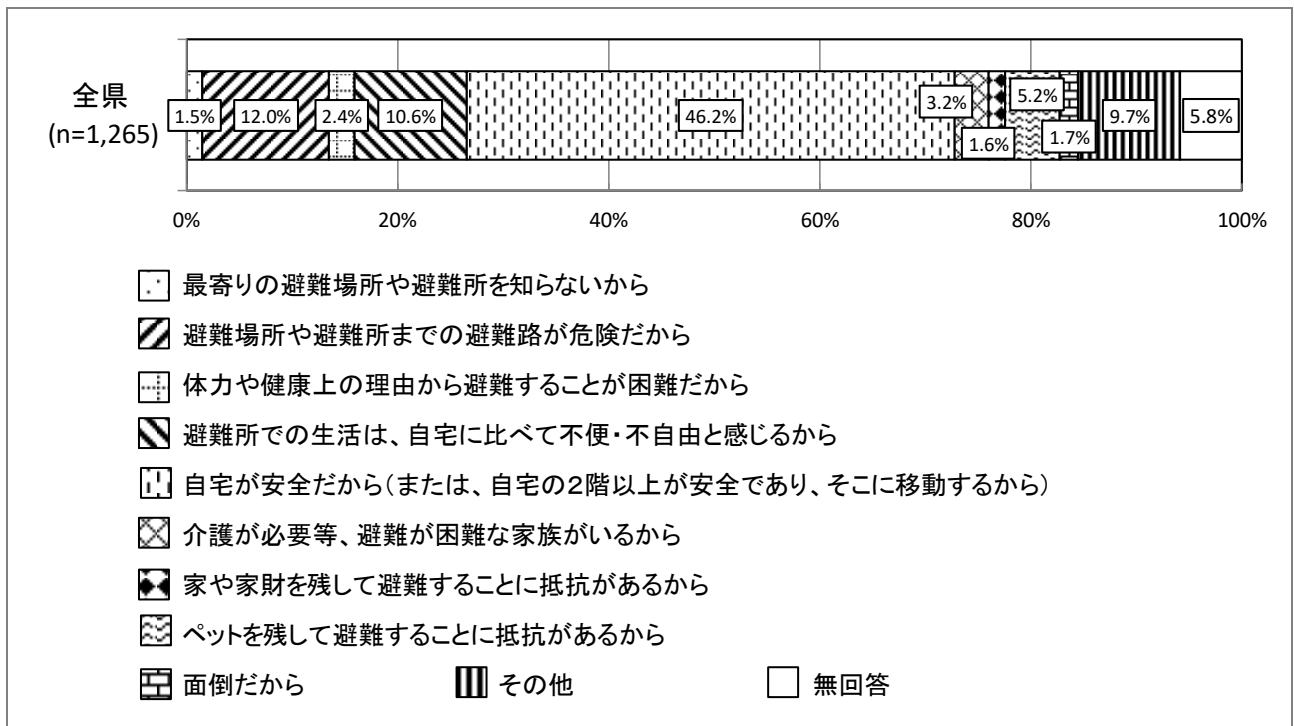
【問 10-1】 問 10 で、「2.避難したことがない」と回答された方にお尋ねします。あなたが台風時等に避難しない理由として最もあてはまるものは次のうちどれですか。

(一つだけ〇)

1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由とを感じるから
5. 自宅が安全だから(または、自宅の2階以上が安全であり、そこに移動するから) → 問 11 へ
6. 介護が必要等、避難が困難な家族がいるから
7. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
8. ペットを残して避難することに抵抗があるから
9. 面倒だから
10. その他 具体的に：

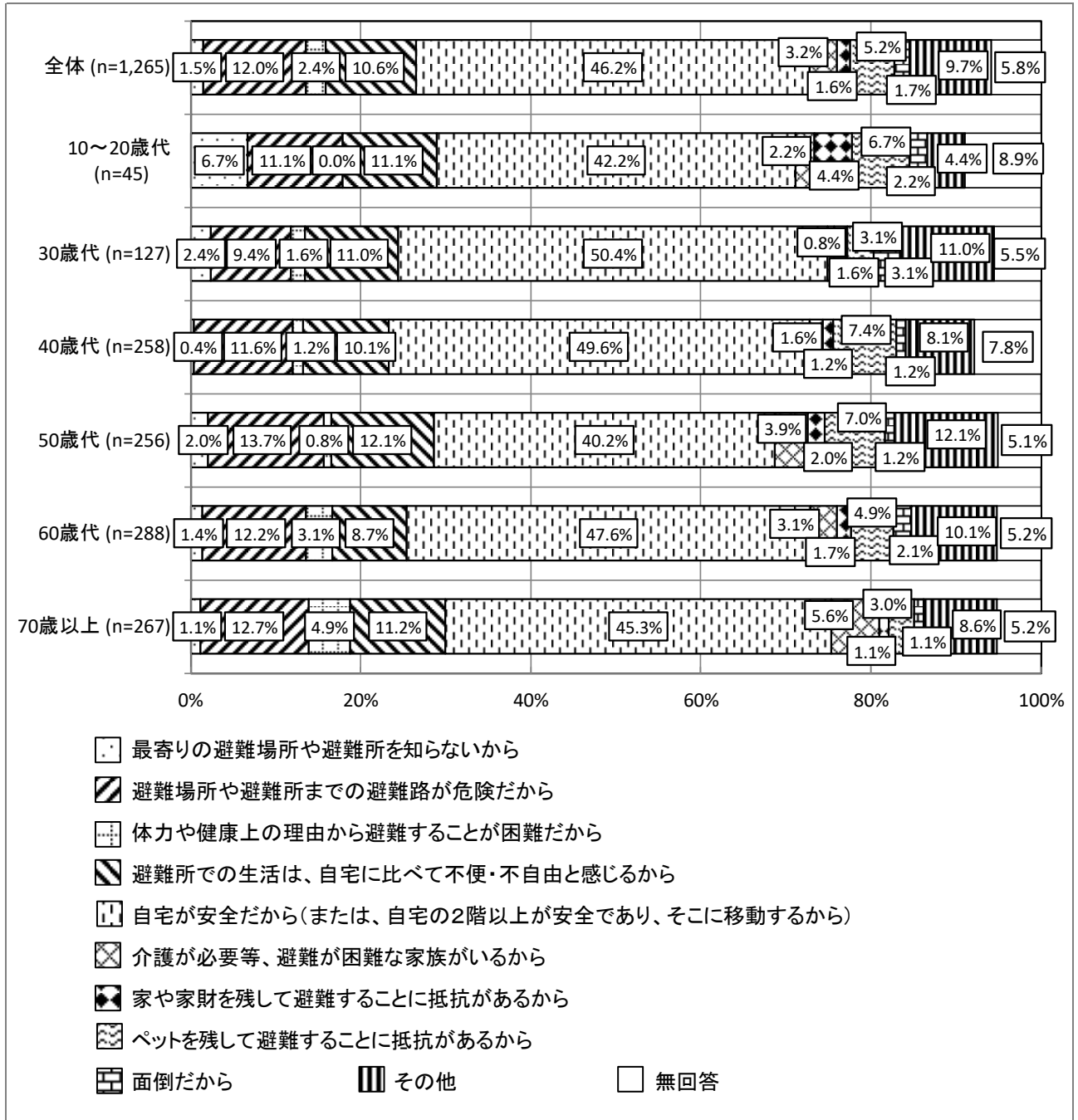
調査結果

図 3.2.7 (1) 台風時等に避難しない理由 -全県-



- 「自宅が安全だから(または、自宅の2階以上が安全であり、そこに移動するから)」が46.2%と最も多くなっています。
- 次いで「避難場所や避難所までの避難路が危険だから」12.0%、「避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由とを感じるから」10.6%がそれぞれ1割を超えています。
- 「その他」の理由として、「避難場所より自宅が高い所にある」「避難勧告等が発表されたことがない」などの回答がありました。

図 3.2.7 (2) 台風時等に避難しない理由 -全体及び年代別-



- 年代別で見ると、「自宅が安全だから(または、自宅の2階以上が安全であり、そこに移動するから)」と答えた方の割合がすべての年代で最も多くなっています。
- なお、70歳以上では、「体力や健康上の理由から避難することが困難だから」が4.9%と他の年代とくらべやや多くなっています。

3.3 防災全般について

3.3.1 家庭での防災対策の状況

【問 11】 あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。

(いくつでも○)

1. 3日以上の飲料水を備蓄している（ご家族ひとり一日あたり3リットルとして計算してください）
2. 3日以上の食料を常に確保している
3. マスクや消毒液等、感染症対策に必要な物品を確保している
4. 懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している
5. 災害が起きたとき避難する場所を決めている
6. 災害用伝言ダイヤル（171）や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用等、家族間の連絡方法を決めている
7. 家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている
8. 携帯電話やスマートフォンの予備電源を確保している
9. 自家用車の燃料計が半分程度になった時点で、給油をしている
10. お風呂にいつも水を入れている
11. ガラスが割れて飛び散らないよう対策をしている
12. 消火器を用意している
13. 懐中電灯や携帯ラジオ等を置く場所を決め準備しており、電池交換等、こまめに点検している
14. 枕元にスリッパを置いている
15. いつも笛を身につけている
16. 本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
17. 寝室に転倒の危険性のある家具類等を置かないようにしている
18. 地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している
19. 感震ブレーカーを設置している
20. ペットの餌や水、ケージ等、ペットの防災用品の準備や、避難先の検討等を行っている
21. その他 具体的に：
22. 特に対策をとっていない

※感震ブレーカー：地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を遮断する器具

→問 12へ

図 3.3.1 (1) ① 家庭での防災対策の状況 - 全県及び地域別- (複数回答)

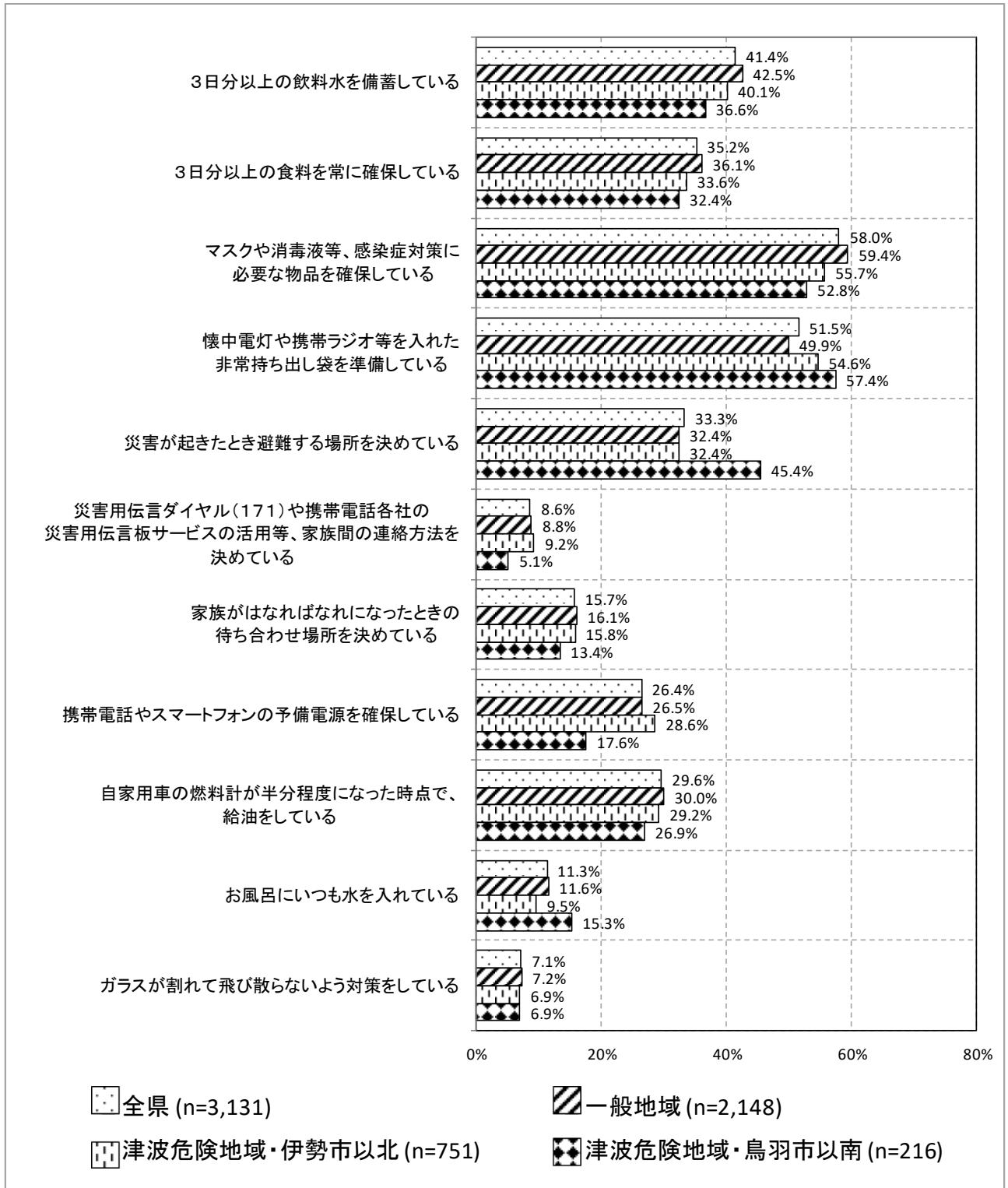
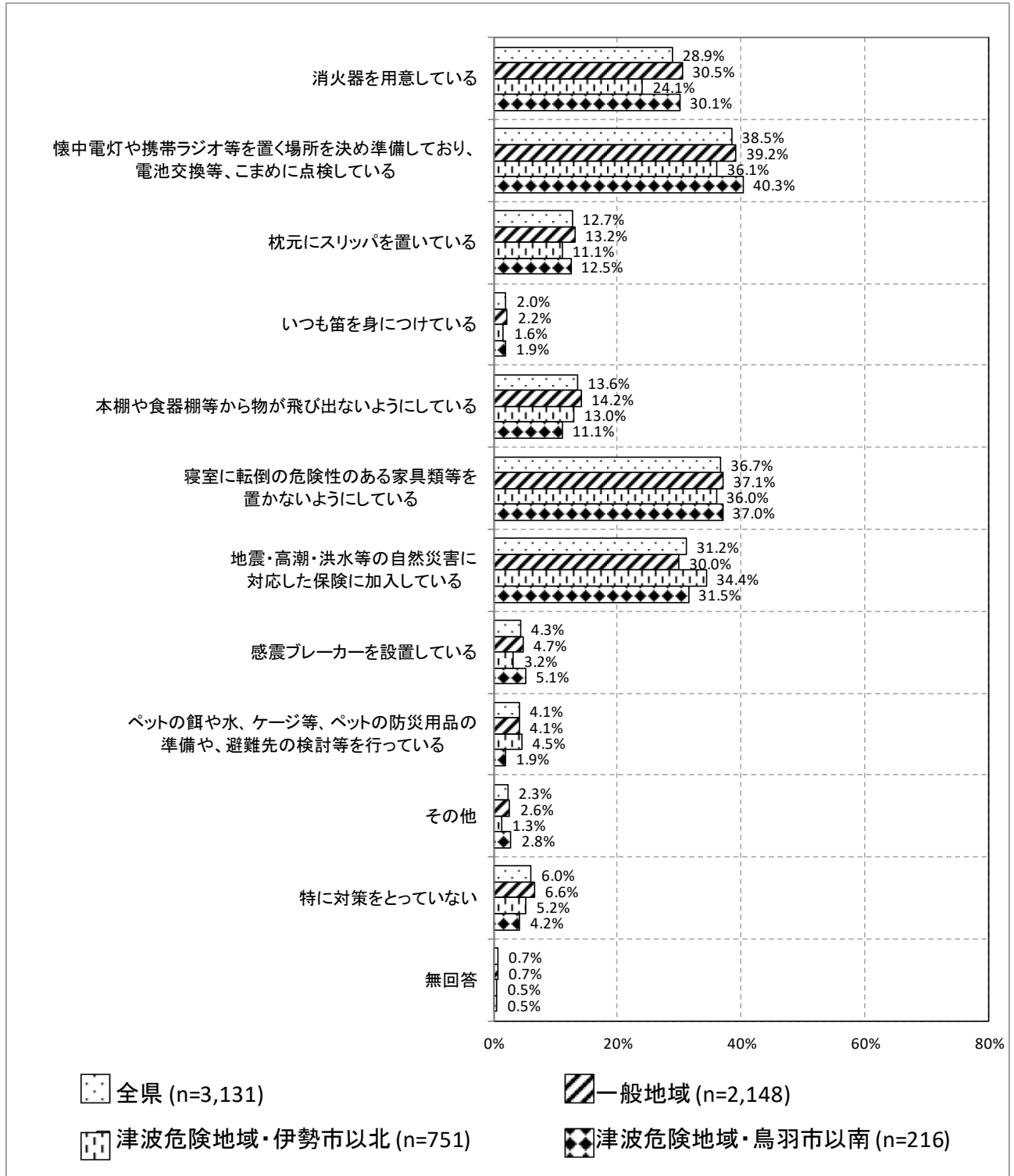


図 3.3.1 (1) ② 家庭での防災対策の状況 -全県及び地域別- (複数回答)



- 津波危険地域（鳥羽市以南）を除く地域で「マスクや消毒液等、感染症対策に必要な物品を確保している」と答えた方の割合が最も多くなっており、一般地域で 59.4%と 6 割弱の方が準備しています。
- 津波危険地域（鳥羽市以南）では、「懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している」が 57.4%と他の地域よりも高くなっています。それ以外にも「災害が起きたとき避難する場所を決めている」が 45.4%など、他の地域を上回っています。
- 「その他」の防災対策について、「自家発電機」「テント、寝袋、車中泊できるように車の中にも準備」「水害を想定し、家族分のライフジャケットを準備している」「日常的にローリングストックを行っている。キャンプ用品等を充実させ年に数回キャンプを行い、家族で避難訓練を行っている。孫達と住んでいる地域を散策し、危険箇所の把握に努めている」などの回答がありました。

図 3.3.1 (2) ① 家庭での防災対策の状況 -全県経年変化(多い順) - (複数回答)

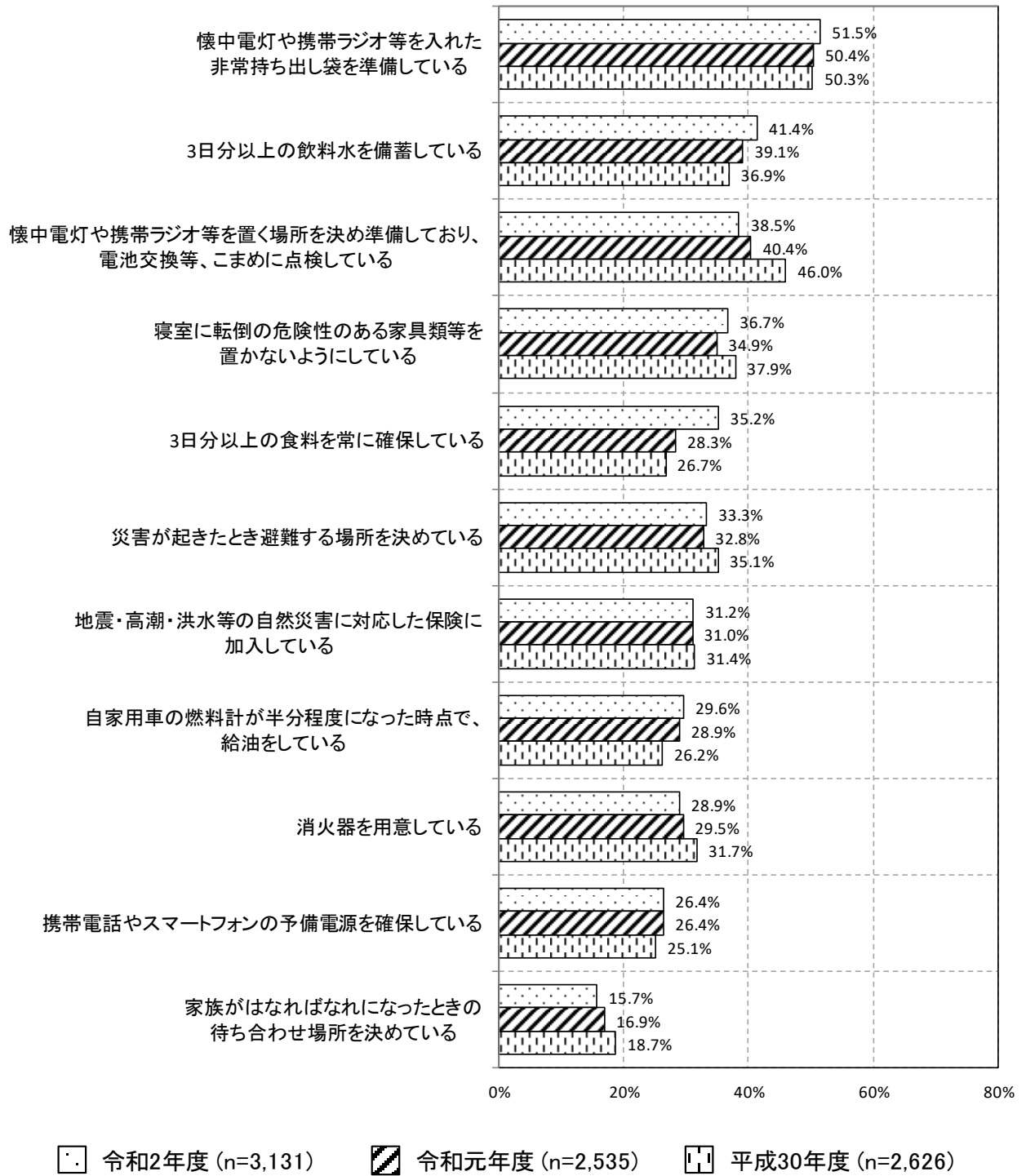
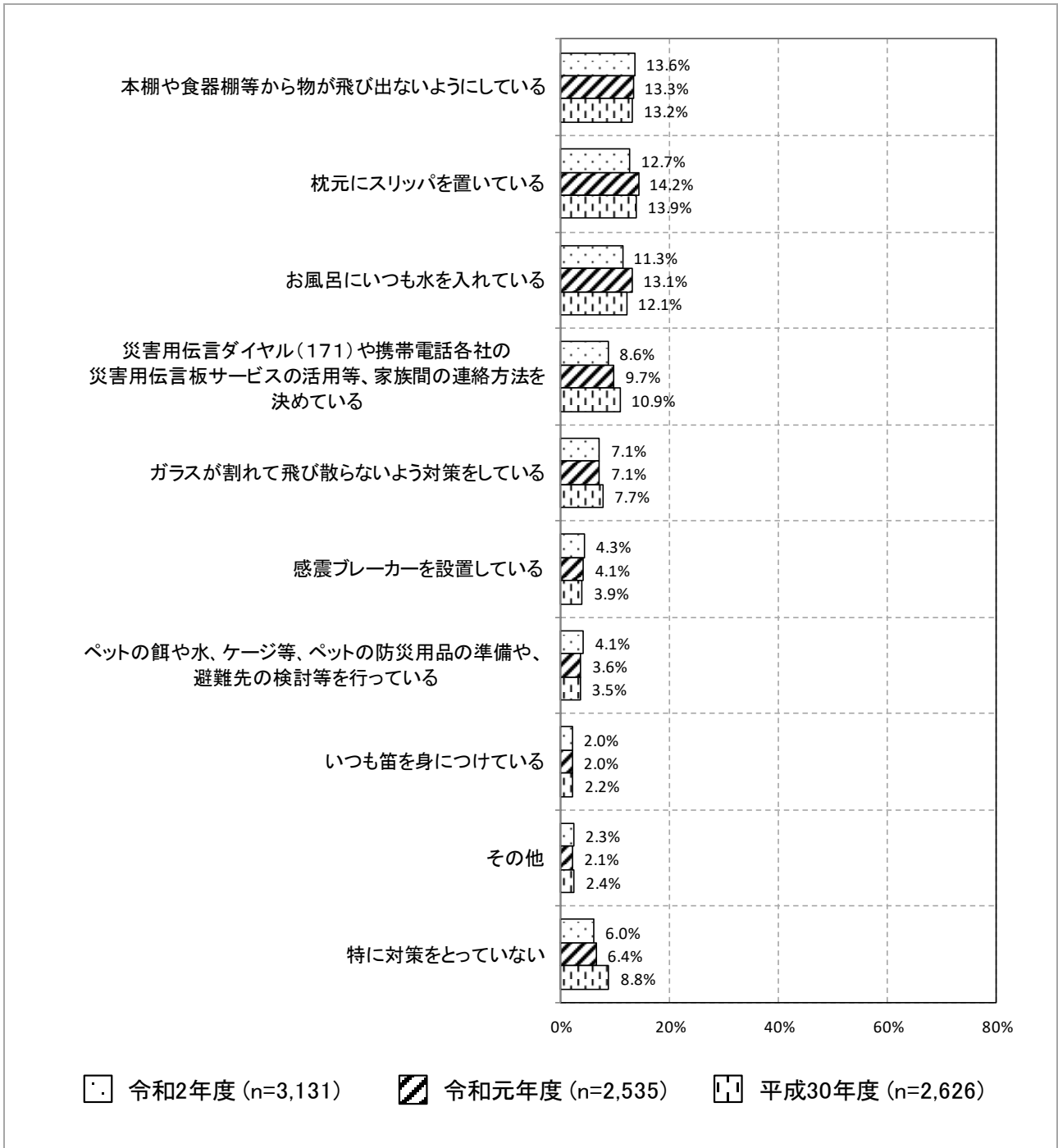


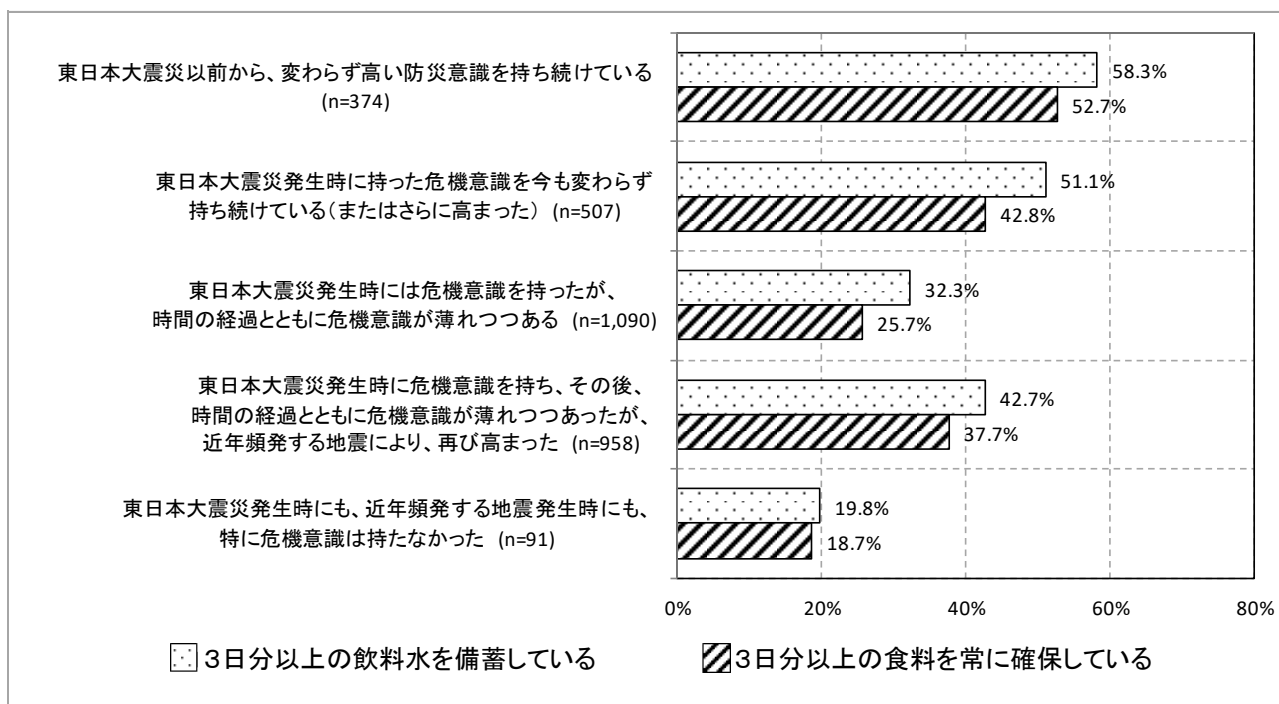
図 3.3.1 (2) ② 家庭での防災対策の状況 - 全県経年変化 (多い順) - (複数回答)



・ 経年変化をみると、3日以上の食料・水・燃料の備蓄率は年々増加傾向にあります。
 「懐中電灯や携帯ラジオ等を置く場所を決め準備しており、電池交換等、こまめに点検している」
 「家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている」
 「消火器を用意している」は年々減少しています。
 ※今年度新設された選択肢「マスクや消毒液等、感染症対策に必要な物品を確保している」は、経年データがないことから、上記グラフには反映していません。

図 3.3.1 (3) 家庭での防災対策の状況

-問 1 (東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり) とのクロス集計-



- 問 1 (東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり) とのクロス集計をみると、防災意識が高いほど、「3日以上の飲料水を備蓄している」「3日以上の食料を常に確保している」方が多くなる傾向がうかがえます。

図 3.3.1 (4) ① 家庭での防災対策の状況

-問 6 (紀伊半島大水害発生後の防災意識の移り変わり) とのクロス集計-

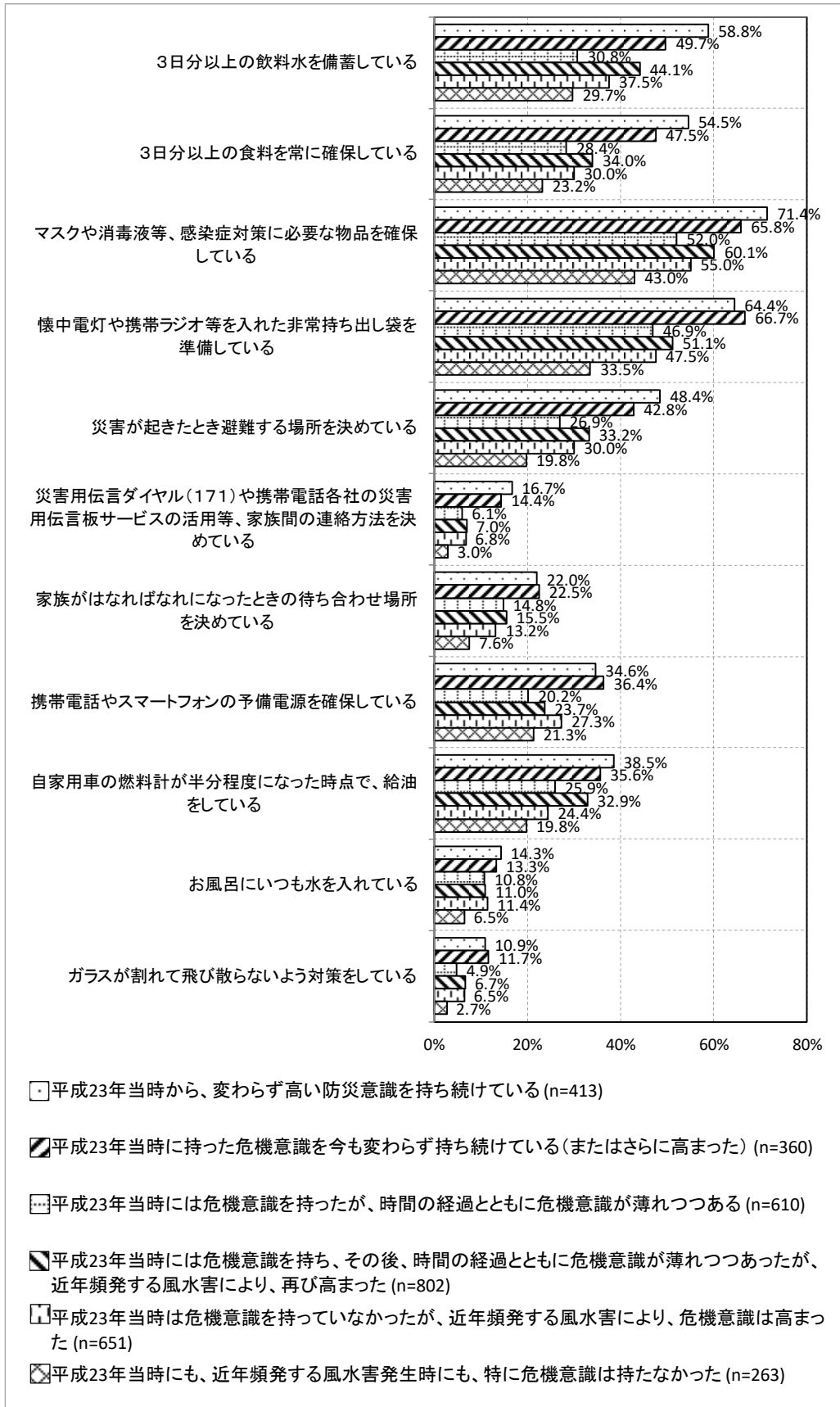
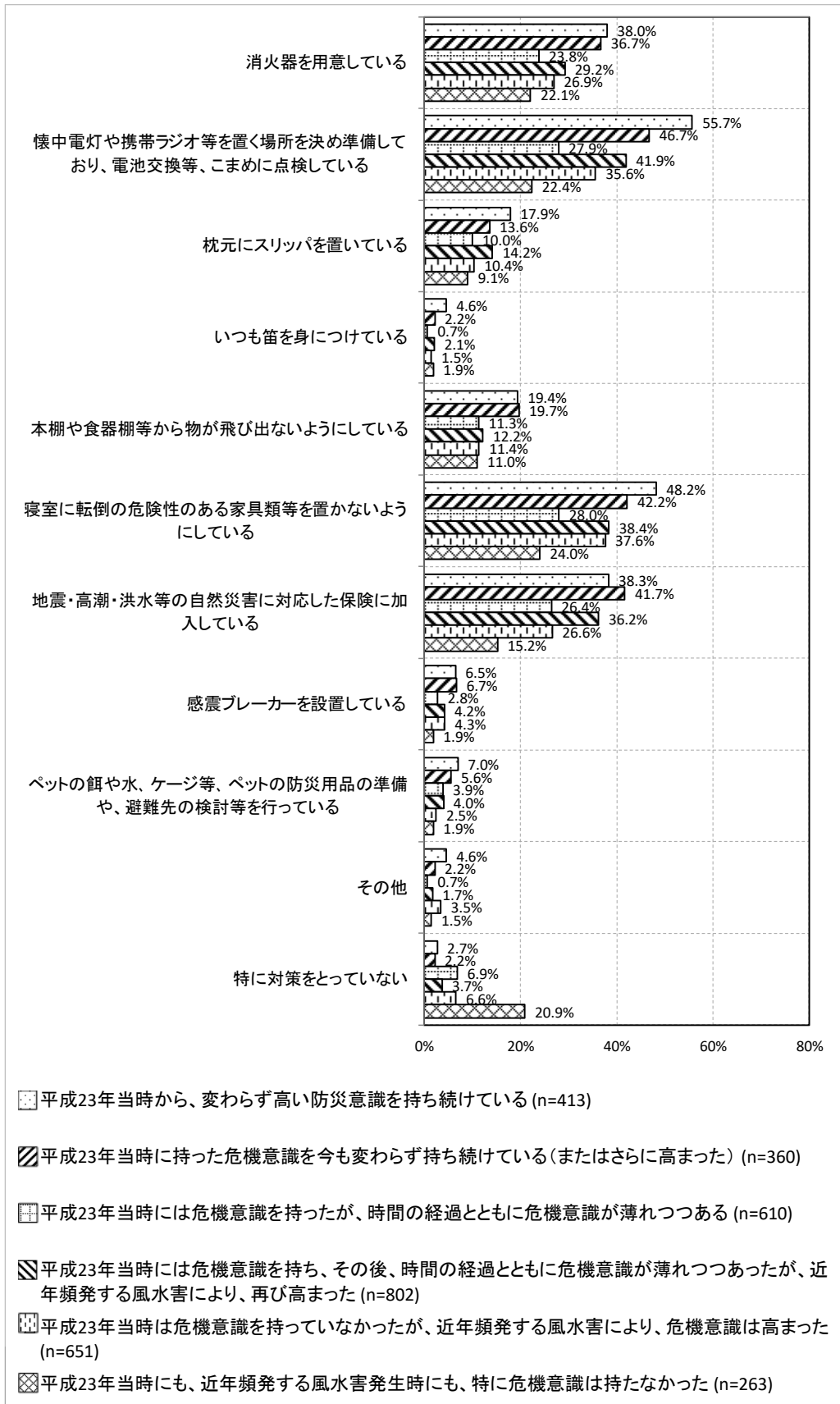


図 3.3.1 (4) ② 家庭での防災対策の状況

-問 6 (紀伊半島大水害発生後の防災意識の移り変わり) とのクロス集計-



- 「平成 23 年当時から、変わらず高い防災意識を持ち続けている」と回答された方が、多くの項目で最も家庭での防災対策を進めています。

3.3.2 家具固定の不備による危険度

【問 12】 ご自宅では、家具類や冷蔵庫、テレビ等が転倒しないよう固定をしていますか。
(一つだけ〇)

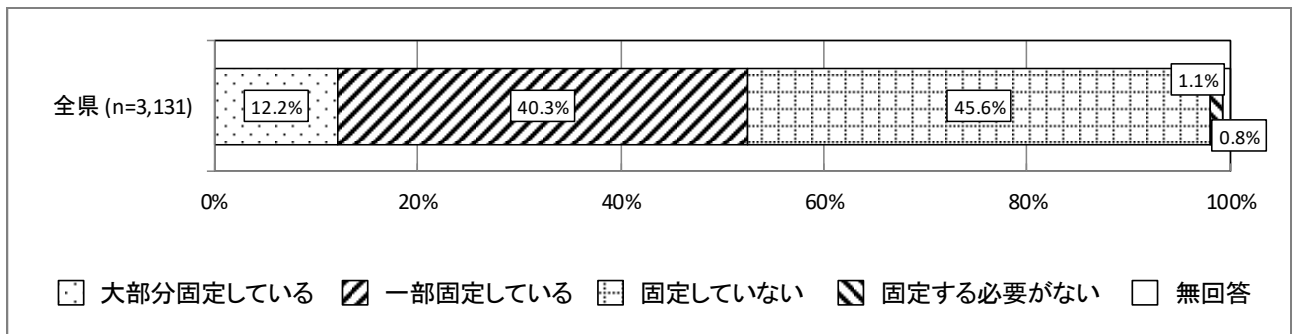
1. 大部分固定している
2. 一部固定している
3. 固定していない
4. 固定する必要がない

→問 13 へ

→問 12-1 へ

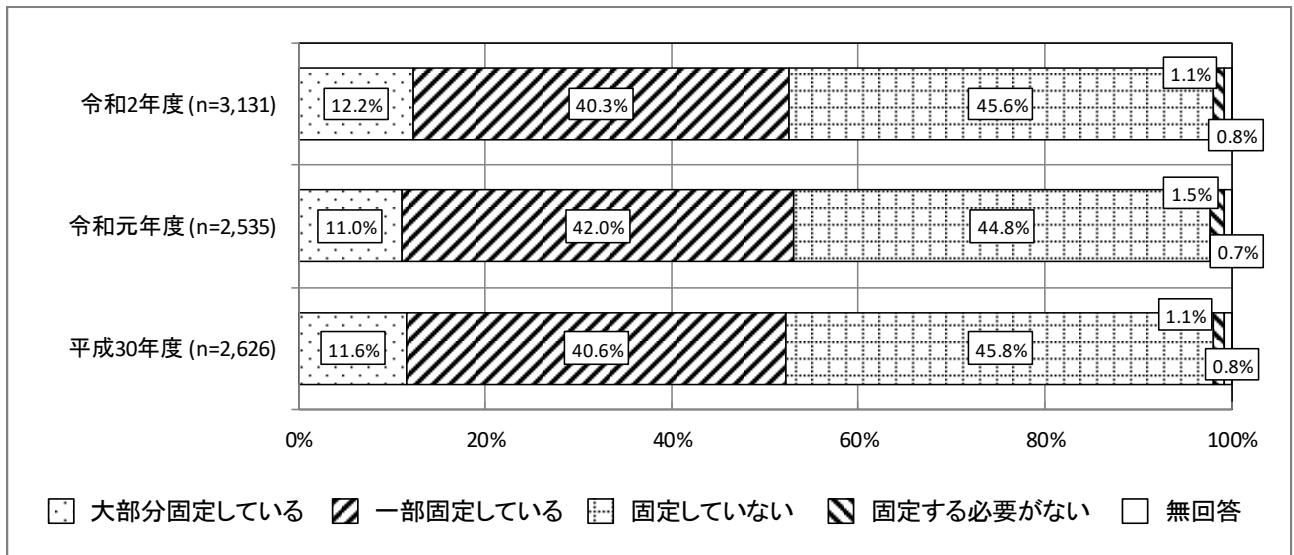
調査結果

図 3.3.2 (1) 家具固定の不備による危険度 -全県-



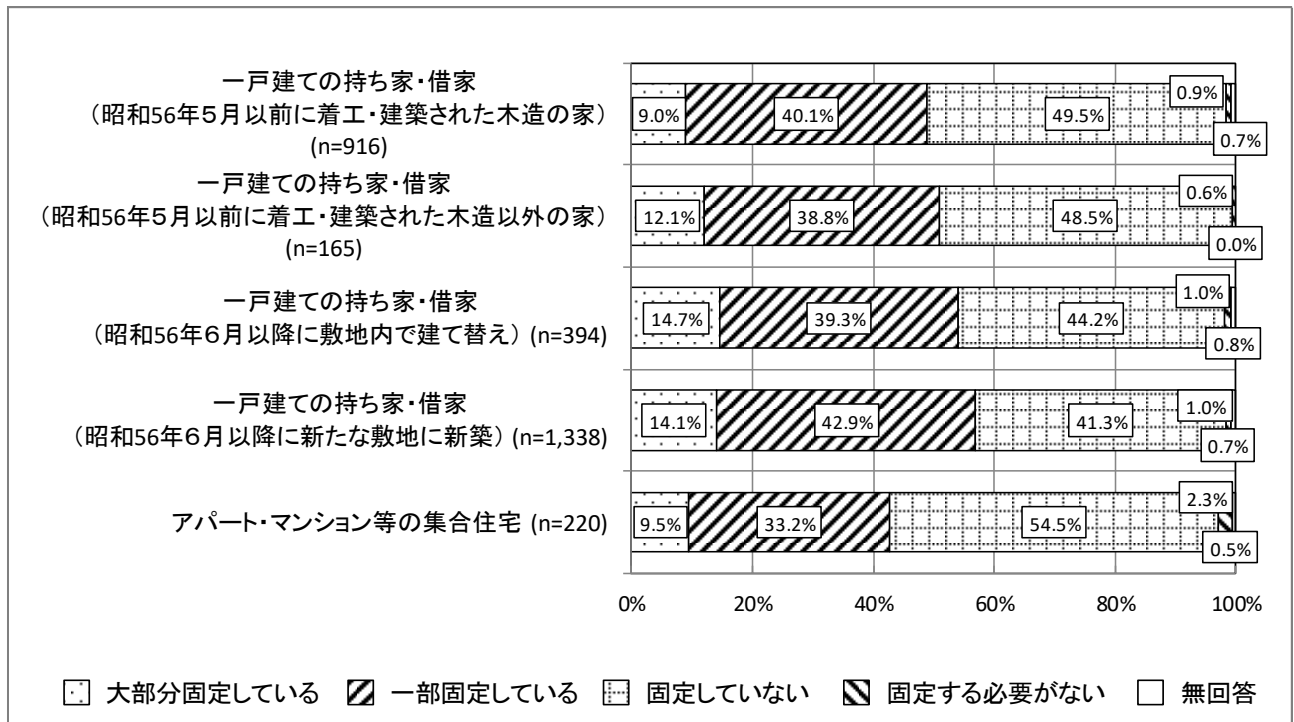
- 「大部分固定している」と答えた方 12.2%と、「一部固定している」と答えた方 40.3%の合計が 52.5%と、約半数を超える方が一部でも「固定している」と答えています。
- 一方、「固定していない」と答えた方の割合は 45.6%となっています。

図 3.3.2 (2) 家具固定の不備による危険度 -全県経年変化-



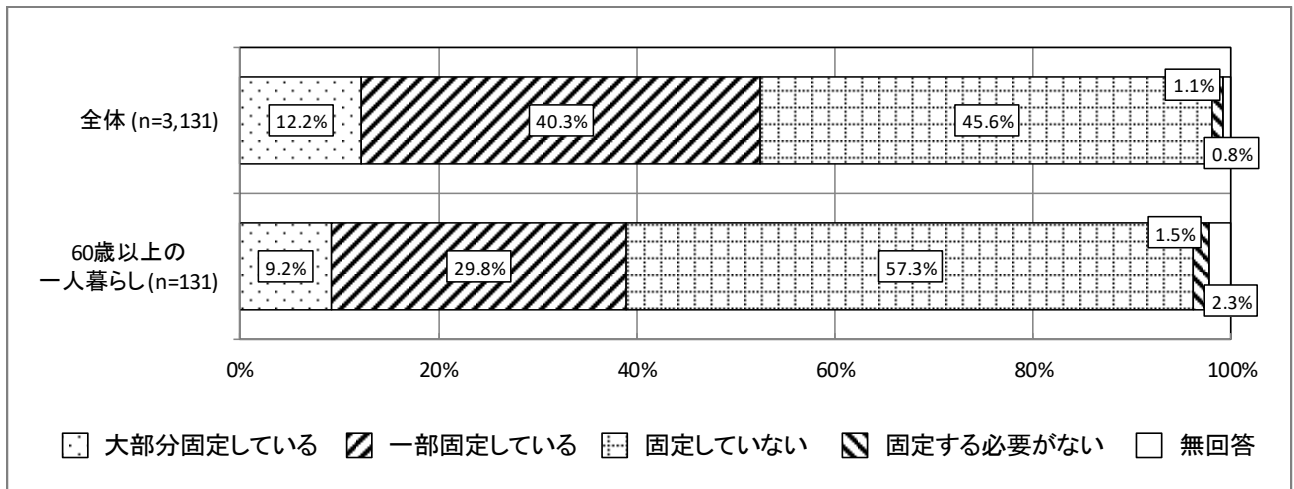
- 経年変化をみると、今年度も「大部分固定している」と「一部固定している」と回答した方の合計が5割を超えていますが、昨年度と大きな違いは見られません。

図 3.3.2 (3) 家具固定の不備による危険度
-問 29 (住まいの状況) とのクロス集計-

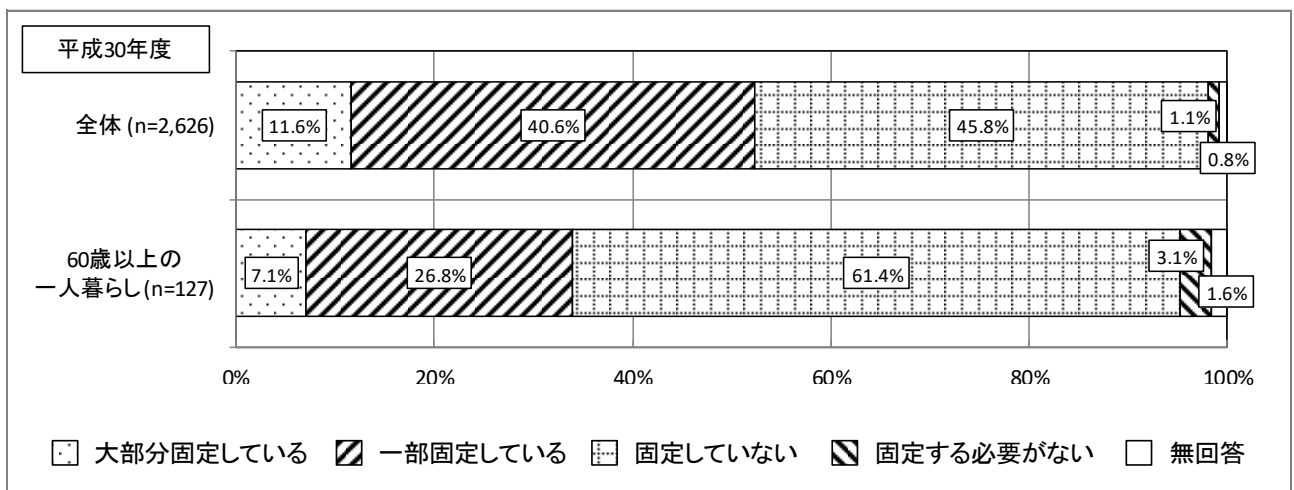
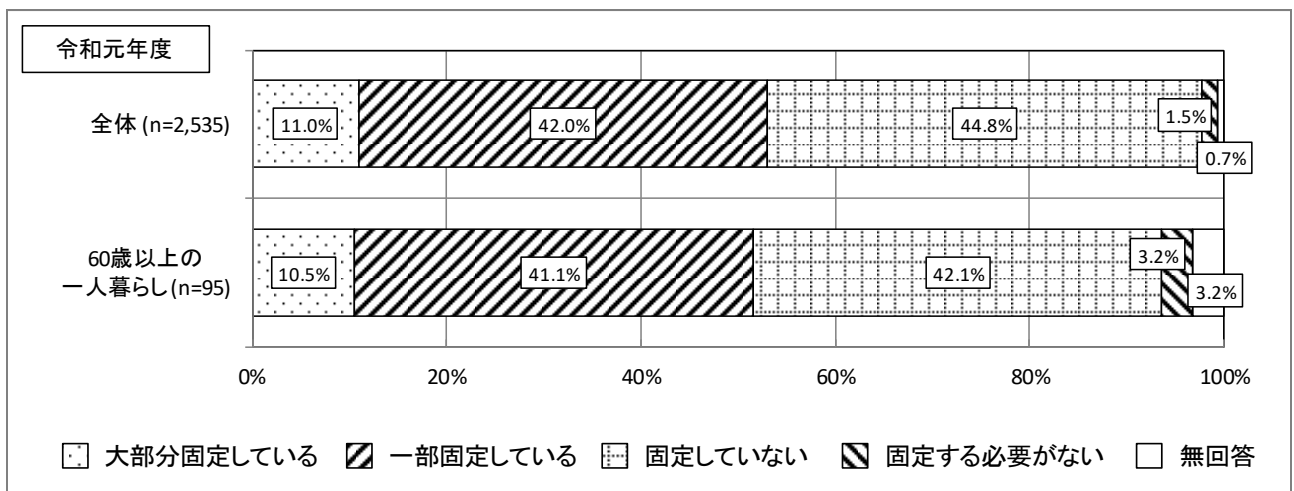


- 家具類の固定状況を問 29 (住まいの状況) とのクロス集計をみると、一戸建てについては建築年度等での大きな違いは見られず、いずれの場合も「大部分固定している」「一部固定している」と答えた方が半数前後となっています。
- 一方、「アパート・マンション等の集合住宅」では「固定していない」と答えた方の割合が5割強になっており、一戸建て住宅と集合住宅の間には5.0~13.2ポイントの差が見られました。

図 3.3.2 (4) 家具固定の不備による危険度
-全体と60歳以上の一人暮らしの方の比較-



(参考) 家具類の固定状況 令和元年度及び平成30年度との経年変化



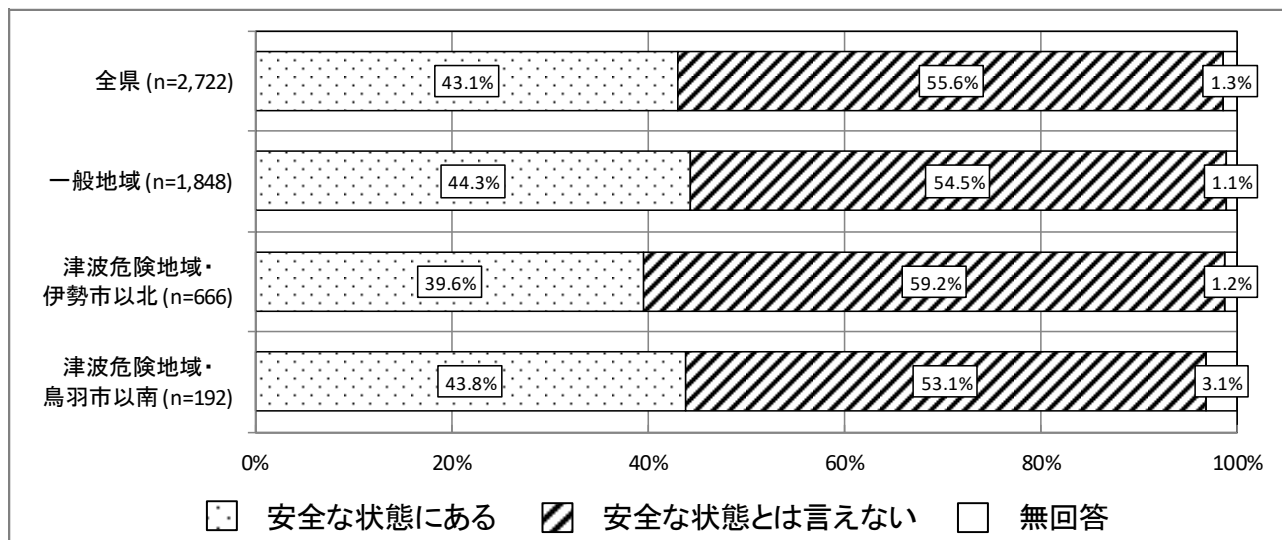
- 全体の経年変化をみると、大きな変化はありませんがわずかに「大部分固定している」が増加しています。
- 60歳以上の一人暮らしの方では、「固定していない」の割合が平成30年度は61.4%、昨年度は42.1%と減少していましたが、今年度は57.3%と大幅に増加しています。

3.3.3 家屋からの脱出

【問 12-1】 問 12 で、「2.一部固定している」、「3.固定していない」、「4.固定する必要がない」と回答された方にお尋ねします。あなたのご自宅は、一部の家具固定や家具固定なしでも、けがをしない、家屋から脱出できなくなることはない等、安全な状態にありますか。（一つだけ○）

1. 安全な状態にある →問 13 へ
 2. 安全な状態とは言えない →問 12-2 へ

図 3.3.3 家屋からの脱出 -全県及び地域別-



- 全県で「安全な状態にある」と答えた方の割合が 43.1%に対し、「安全な状態とは言えない」が 55.6%となっています。
- 地域別にみると、津波危険地域（伊勢市以北）では他の地域にくらべ「安全な状態とは言えない」と答えた方の割合が多く、59.2%となっています。

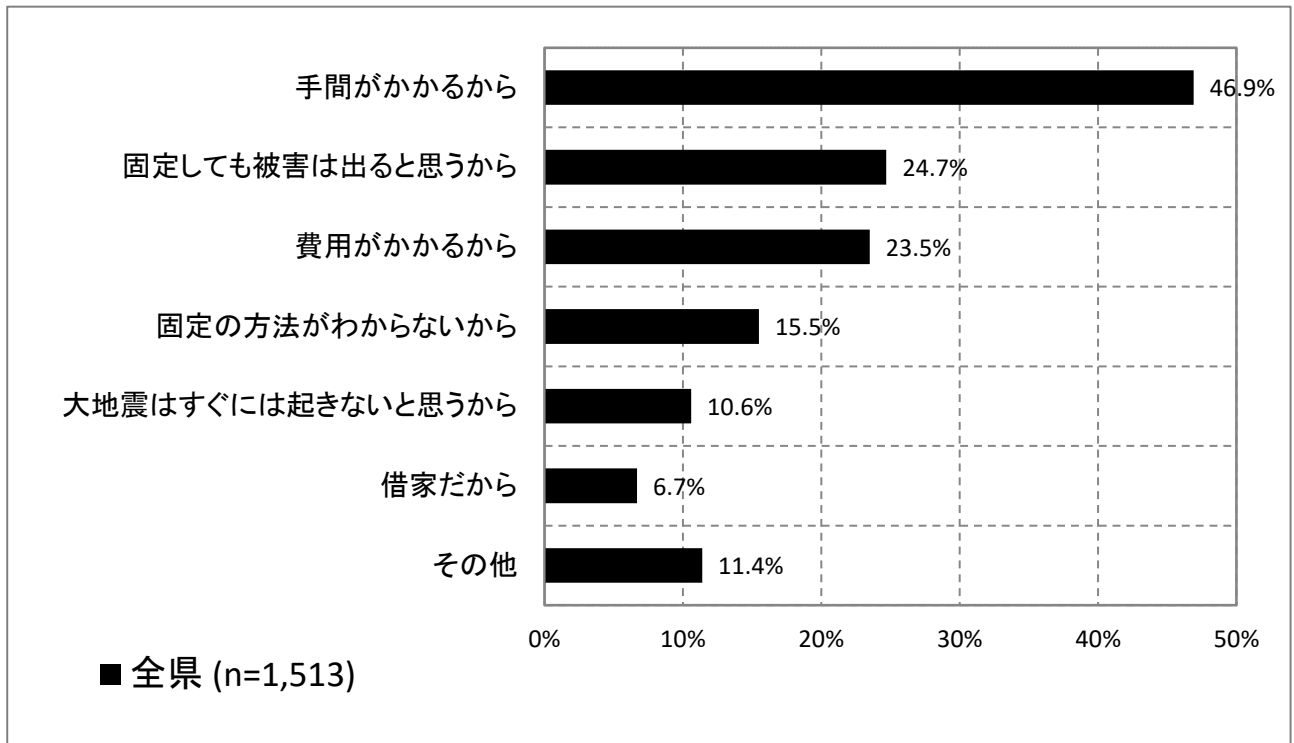
3.3.4 安全ではないのに家具を固定しない理由

【問 12-2】 問 12-1 で「2.安全な状態とは言えない」と回答された方にお尋ねします。家具類の固定をしない理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 大地震はすぐには起きないと思うから
2. 手間がかかるから
3. 費用がかかるから
4. 固定しても被害は出ると思うから
5. 固定の方法がわからないから
6. 借家だから
7. その他 具体的に：

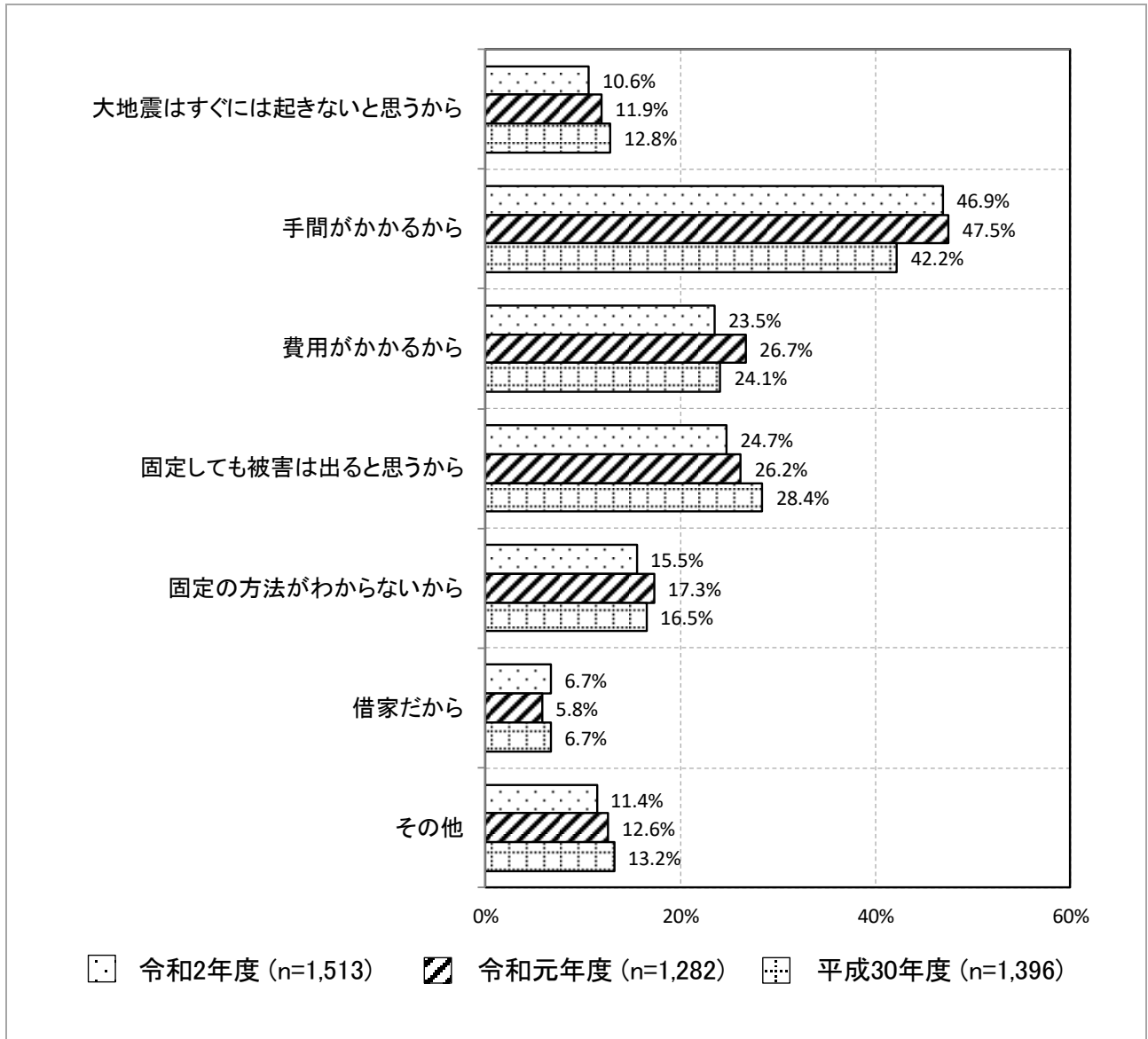
} →問 13 へ

図 3.3.4 (1) 安全ではないのに家具を固定しない理由 -全県(多い順) - (複数回答)



- 「手間がかかるから」と答えた方の割合が半数近い 46.9%で最も多く、次に「固定しても被害は出ると思うから」が 24.7%で、「費用がかかるから」は 23.5%となっています。
- その他の意見として、「家屋そのものが古く家具の固定の仕様がない」「固定してしまうと模様替えの際に不便だから」「1人暮らしでどうしていいかわからない」などの回答がありました。

図 3.3.4 (2) 安全ではないのに家具を固定しない理由 -全県経年変化- (複数回答)



- 経年変化をみると、「大地震はすぐには起きないと思うから」「固定しても被害は出ると思うから」は減少傾向にあります。
- すべての年度で、「手間がかかるから」と答えた方の割合が4割強と最も多くなっています。

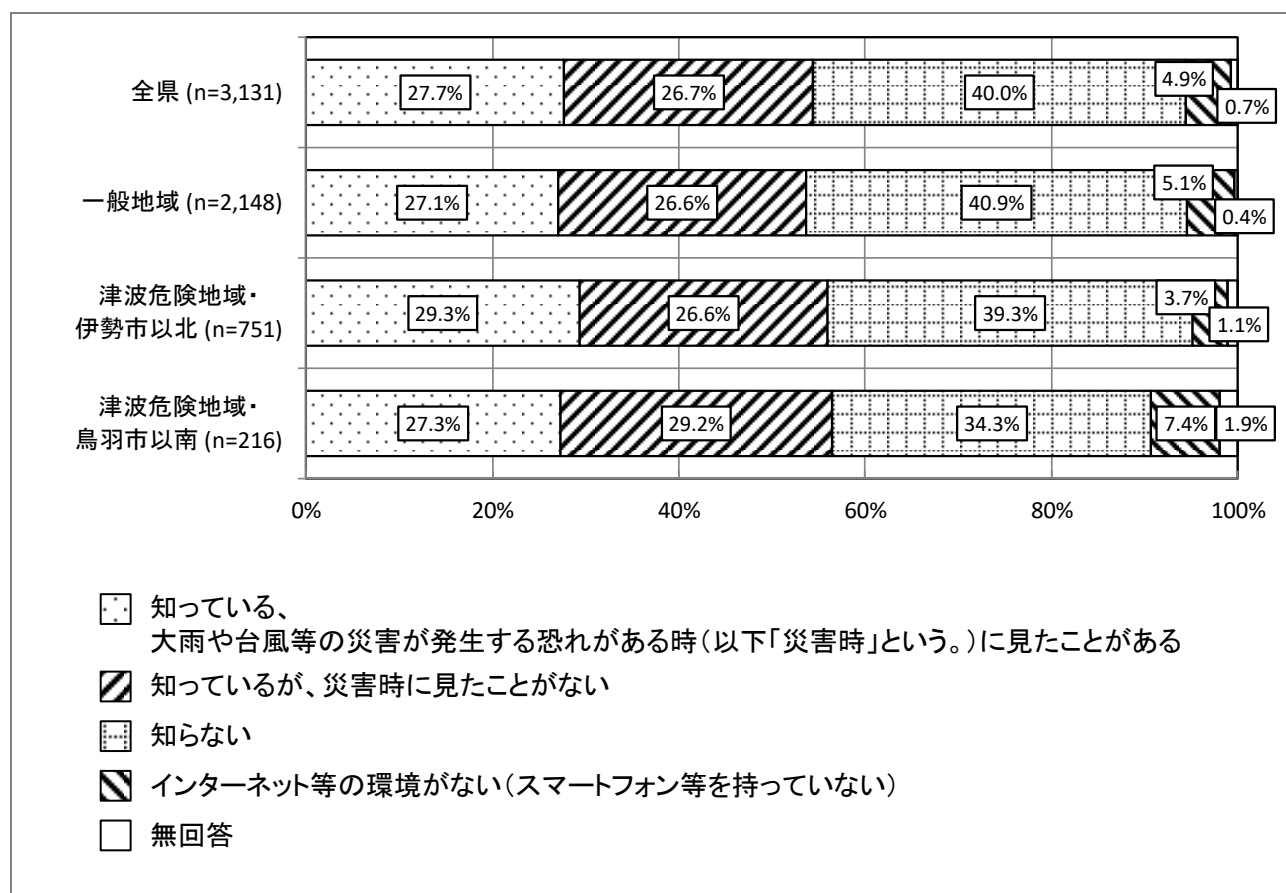
3.3.5 防災みえ.jp の認知度

【問 13】 県では、気象情報や台風・地震に関する情報、災害時の避難情報等をホームページ「防災みえ.jp」で提供しています。「防災みえ.jp」をご存知ですか。（一つだけ○）

1. 知っている、大雨や台風等の災害が発生する恐れがある時（以下「災害時」という。）に見たことがある →問 14 へ
2. 知っているが、災害時に見たことがない →問 14-1 へ
3. 知らない →問 15 へ
4. インターネット等の環境がない（スマートフォン等を持っていない） →問 17 へ

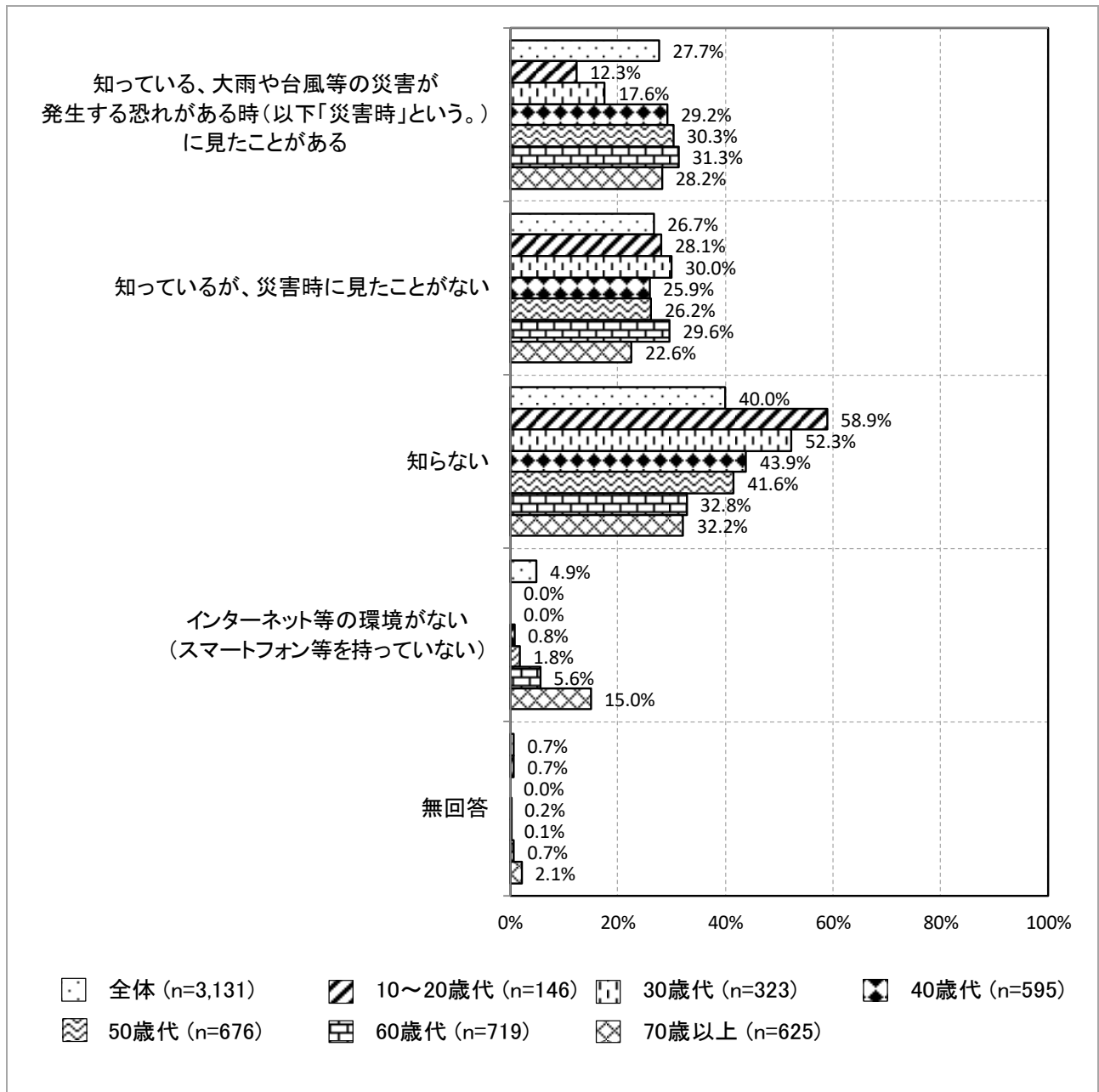
調査結果

図 3.3.5 (1) 防災みえ.jp の認知度 -全県及び地域別-



- 全県では、「知っている、大雨や台風等の災害が発生する恐れがある時に見たことがある」27.7%と「知っているが、災害時に見たことがない」26.7%を合わせた「知っている」方の割合は半数を超えています。一方、「知らない」方の割合は40.0%となっています。
- 地域別にみると、津波危険地域（鳥羽市以南）では、「知らない」の割合が他の地域より少なくなっています。

図 3.3.5 (2) 防災みえ.jp の認知度 -年代別-



- 年代別でみると、すべての年代で「知らない」と答えた方の割合が最も多くなっています。
- 「知らない」は若い年代ほど多い傾向にあり、特に 10~20 歳代では 58.9%と約 6 割に上っています。
- 70 歳以上では「インターネット等の環境がない」と答えた方の割合が 15.0%と他の年代より大幅に多くなっています。
- 「知っている、災害時に見たことがある」については、40 歳代以上で 3 割前後となっている一方、10~20 歳代では 12.3%、30 歳代でも 17.6%と 1 割台にとどまっています。

3.3.6 防災みえ.jp のどのようなコンテンツを見たことがあるか

【問 14】 問 13 で「1. 知っている、災害時に見たことがある」と答えた方にお尋ねします。

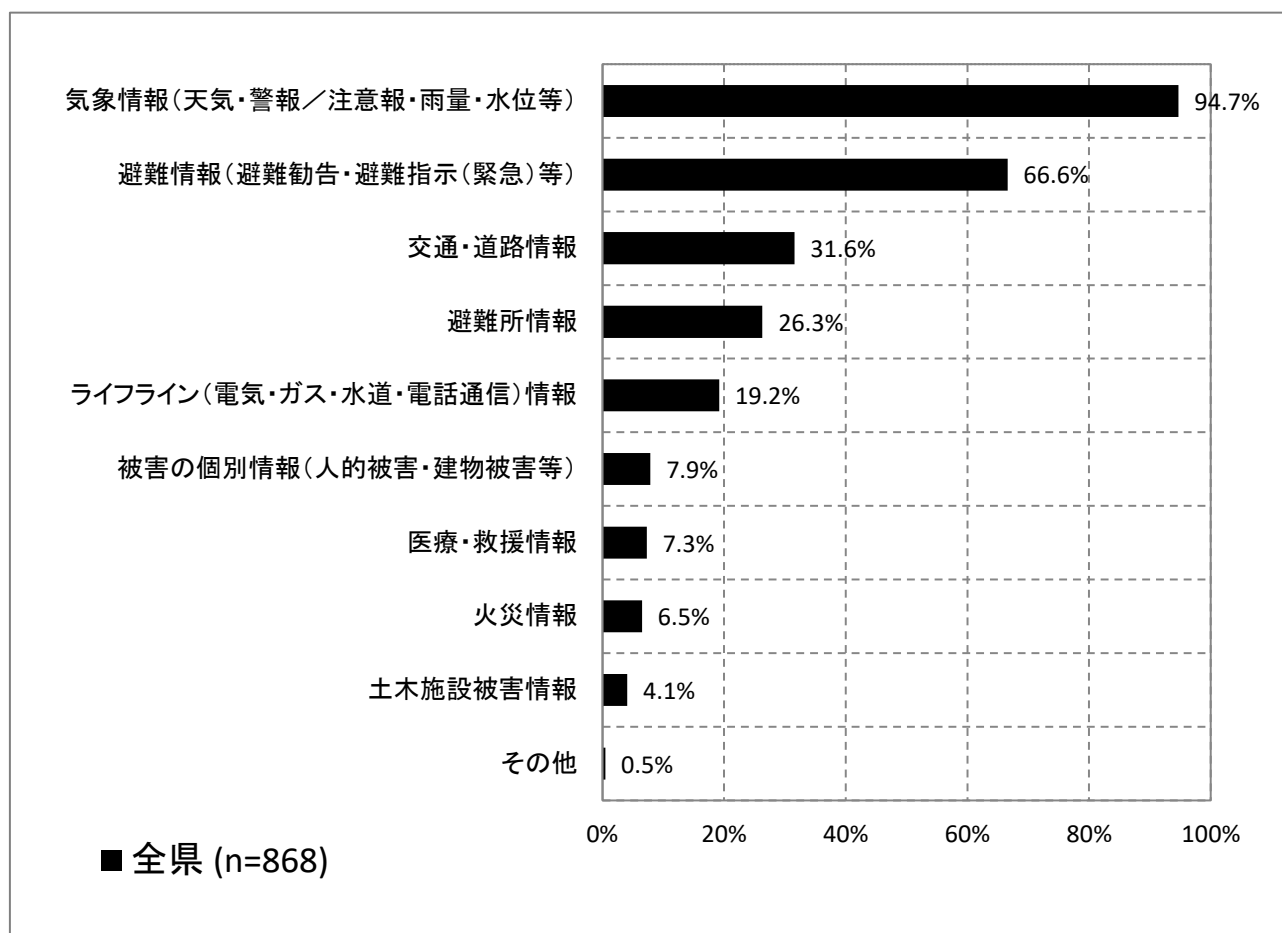
「防災みえ.jp」ホームページのどのような情報を見えていますか。(いくつでも○)

1. 気象情報（天気・警報/注意報・雨量・水位等）
2. 避難情報（避難勧告・避難指示（緊急）等）
3. 避難所情報
4. 医療・救援情報
5. 交通・道路情報
6. ライフライン（電気・ガス・水道・電話通信）情報
7. 被害の個別情報（人的被害・建物被害等）
8. 火災情報
9. 土木施設被害情報
10. その他 具体的に：

→問 15 へ

調査結果

図 3.3.6 防災みえ.jp のどのようなコンテンツを見たことがあるか
-全県（多い順）-（複数回答）



- 「気象情報」と答えた方の割合が最も多く、94.7%とほとんどの方が閲覧しています。
- 続いて、「避難情報」66.6%、「交通・道路情報」31.6%となっています。
- 「その他」としては、「メール通知」「河川水位」などの回答がありました。

3.3.7 防災みえ.jp を活用しない理由

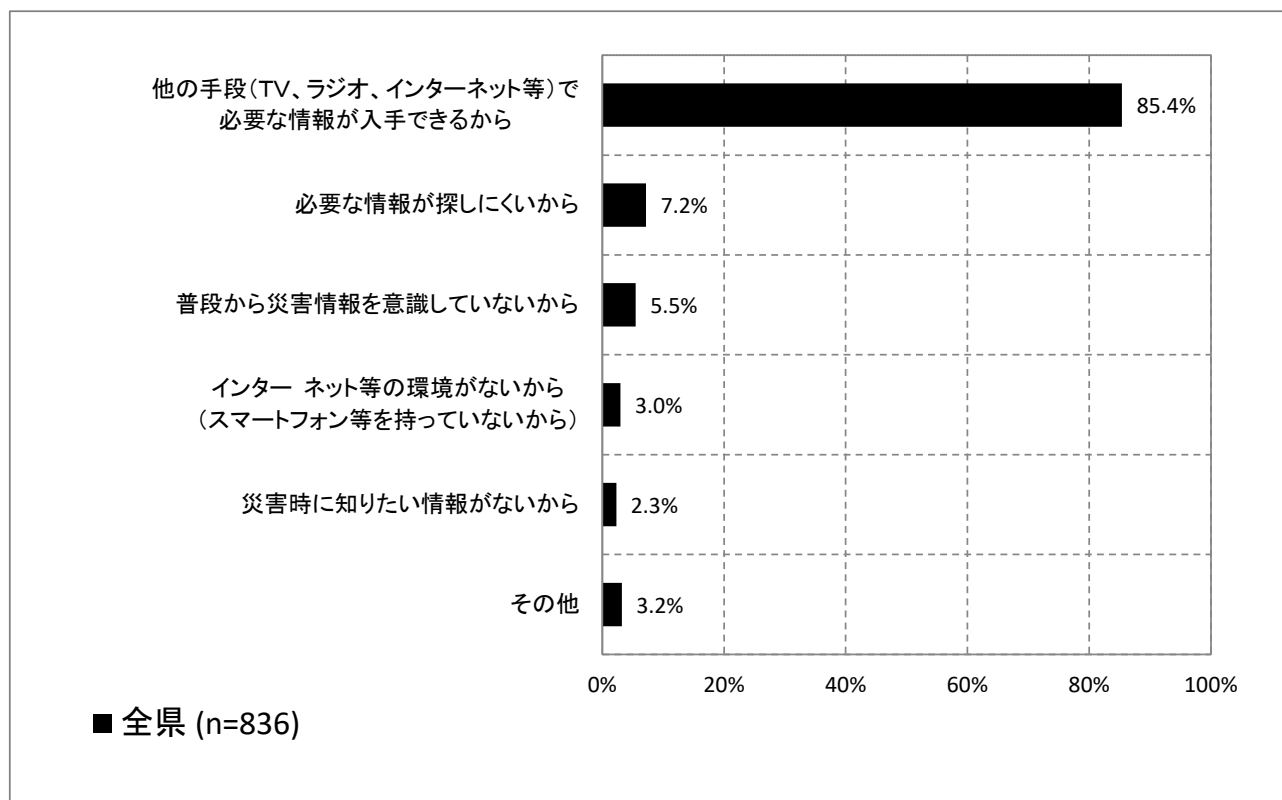
【問 14-1】 問 13 で「2.知っているが、災害時に見たことがない」と答えた方にお尋ねします。
 災害時に「防災みえ.jp」ホームページを活用しない理由をお聞かせください。(いくつでも○)

1. 他の手段（TV、ラジオ、インターネット等）で必要な情報が入手できるから
2. 災害時に知りたい情報がないから
3. 必要な情報が探しにくいから
4. インターネット等の環境がないから（スマートフォン等を持っていないから）
5. 普段から災害情報を意識していないから
6. その他 具体的に：

→問 15 へ

調査結果

図 3.3.7 防災みえ.jp を活用しない理由 -全県（多い順）-（複数回答）



- 「他の手段で必要な情報が入手できるから」と答えた方の割合が85.4%と最も多く、他の理由についてはすべて1割未満となっています。
- 「その他」としては、「ホームページの見方がわからない」「市の防災情報（避難勧告等）が入手できる」などの回答がありました。

3.3.8 災害時にインターネットで知りたい情報

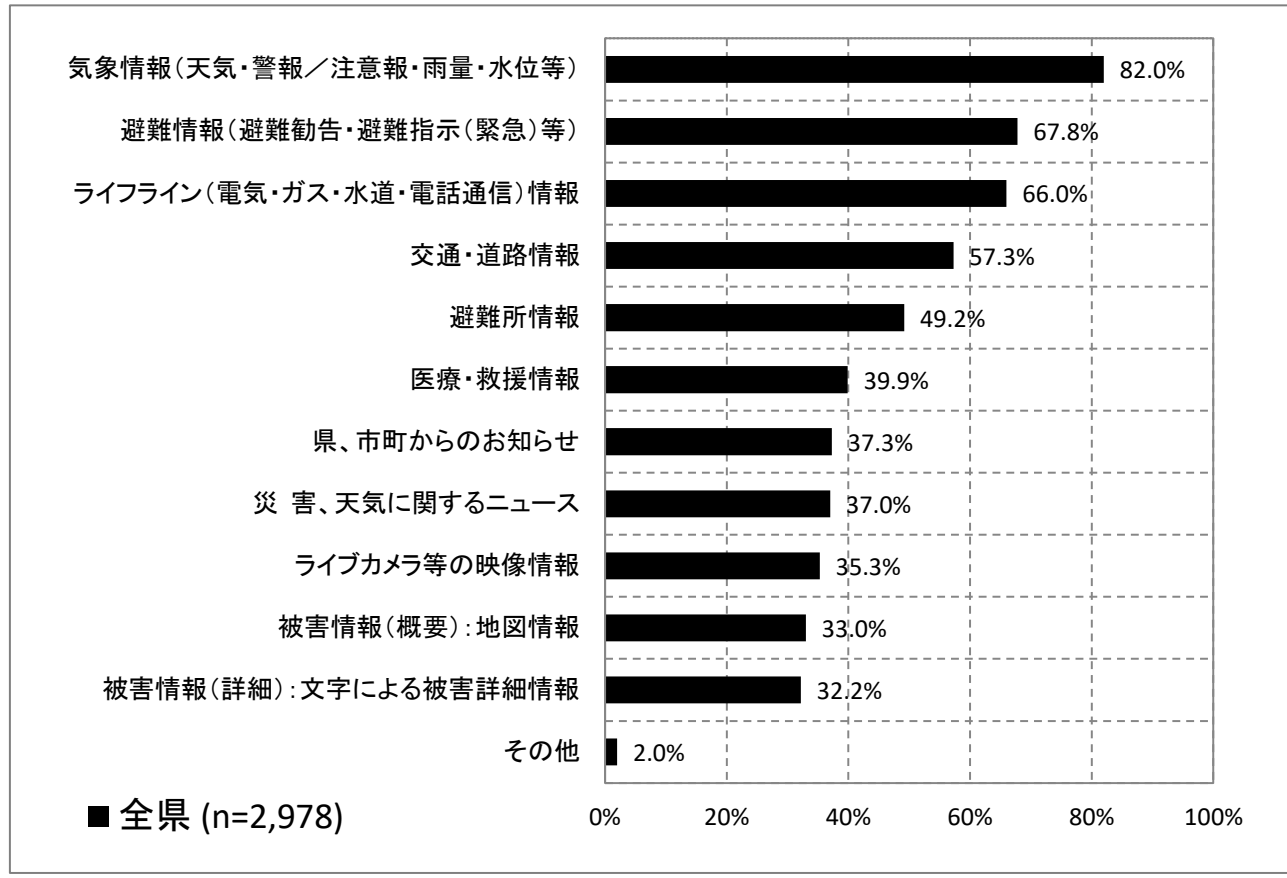
【問 15】 災害時にインターネットで、どのような情報をお知りになりたいかお答えください。
(いくつでも○)

1. 気象情報（天気・警報/注意報・雨量・水位等）
2. 避難情報（避難勧告・避難指示（緊急）等）
3. 避難所情報
4. 医療・救援情報
5. 交通・道路情報
6. ライフライン（電気・ガス・水道・電話通信）情報
7. 被害情報（詳細）：文字による被害詳細情報
8. 被害情報（概要）：地図情報
9. ライブカメラ等の映像情報
10. 災害、天気に関するニュース
11. 県、市町からのお知らせ
12. その他 具体的に

→問 16 へ

調査結果

図 3.3.8 災害時にインターネットで知りたい情報 -全県（多い順）-（複数回答）



- 「気象情報」と答えた方の割合が 82.0%で最も多く、次いで「避難情報」67.8%、「ライフライン情報」66.0%、「交通・道路情報」57.3%となっています。
- 「その他」としては、「ペットと避難できる避難場所」「支援物資の配給情報」「視覚や聴覚の障がいを持つ人、外国籍の人にわかりやすい情報」などの回答がありました。

3.3.9 防災情報メール配信サービスの認知度

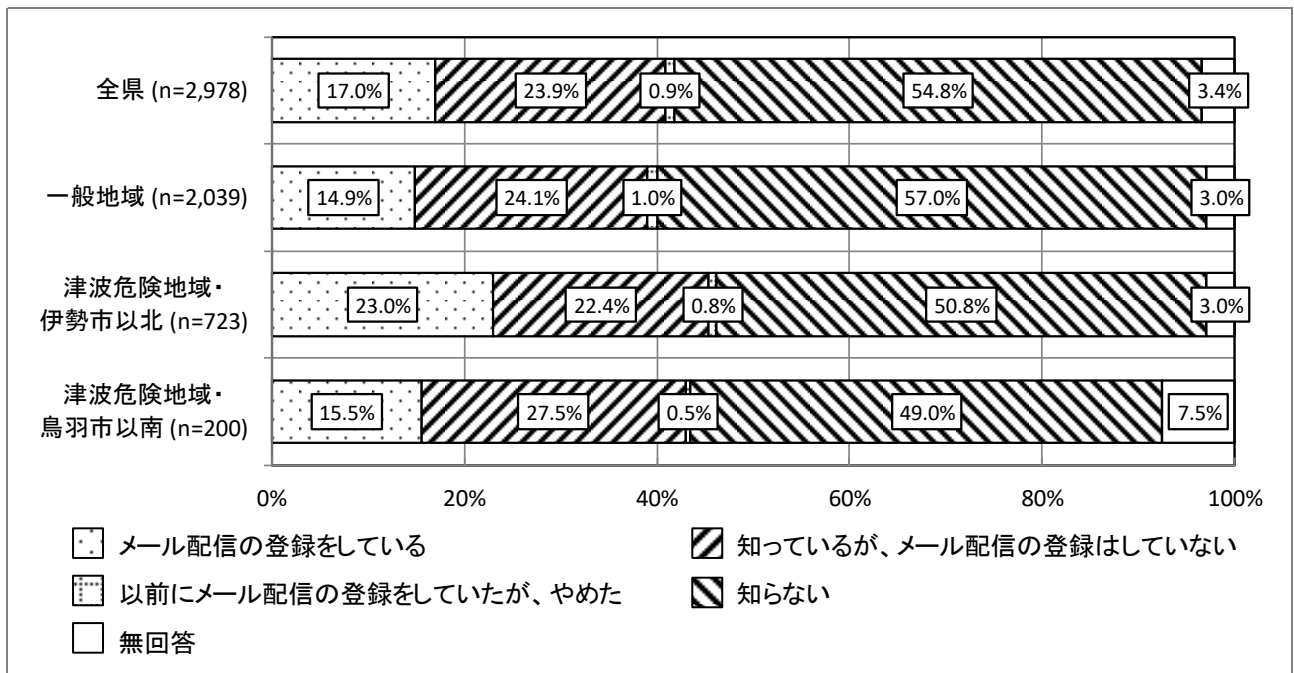
【問 16】 県では、大雨や洪水、高潮に関する注意報や警報発表等の気象情報や台風の接近に伴う避難の呼びかけ、全国の地震情報等の防災情報を、「防災みえ」のメール配信サービスで登録者にお知らせしています。あなたは、このことをご存知ですか。（一つだけ○）

1. メール配信の登録をしている
2. 知っているが、メール配信の登録はしていない
3. 以前にメール配信の登録をしていたが、やめた
4. 知らない

→問 16-1 へ

調査結果

図 3.3.9 防災情報メール配信サービスの認知度 -全県及び地域別-



- 「メール配信の登録をしている」と答えた方の割合は、一般地域では 14.9%となっていますが、津波危険地域（伊勢市以北）では 2 割以上となっています。
- いずれの地域でも「知らない」と答えた方の割合が最も多く、全県では 54.8%となっています。
- 問 13 で防災みえ.jp を「知らない」（40.0%）、「インターネット等の環境がない」（4.9%）と答えた方の割合（44.9%）と、本設問で「防災情報メール配信サービス」を「知らない」と答えた方の割合（54.8%）を比べると、「防災情報メール配信サービス」を「知らない」と答えた方の割合の方が 9.9 ポイント高くなっています。

3.3.10 県が気象や災害の情報を発信している Twitter（ツイッター）やLINE（ライン）の認知度

【問 16-1】 県では、台風の接近に伴う注意喚起等を Twitter（ツイッター）や LINE（ライン）で発信しています。あなたは、このことをご存知ですか。（いくつでも○）

1. ツイッターのフォロワーになっている
2. ツイッターでの発信について知っているが、フォロワーになっていない
3. 以前にツイッターのフォロワーになっていたが、やめた
4. ツイッターでの発信について知らない
5. ラインの友だち登録をしている
6. ラインでの発信について知っているが、友だちの登録をしていない
7. 以前にラインの友だち登録をしていたが、やめた
8. ラインでの発信について知らない

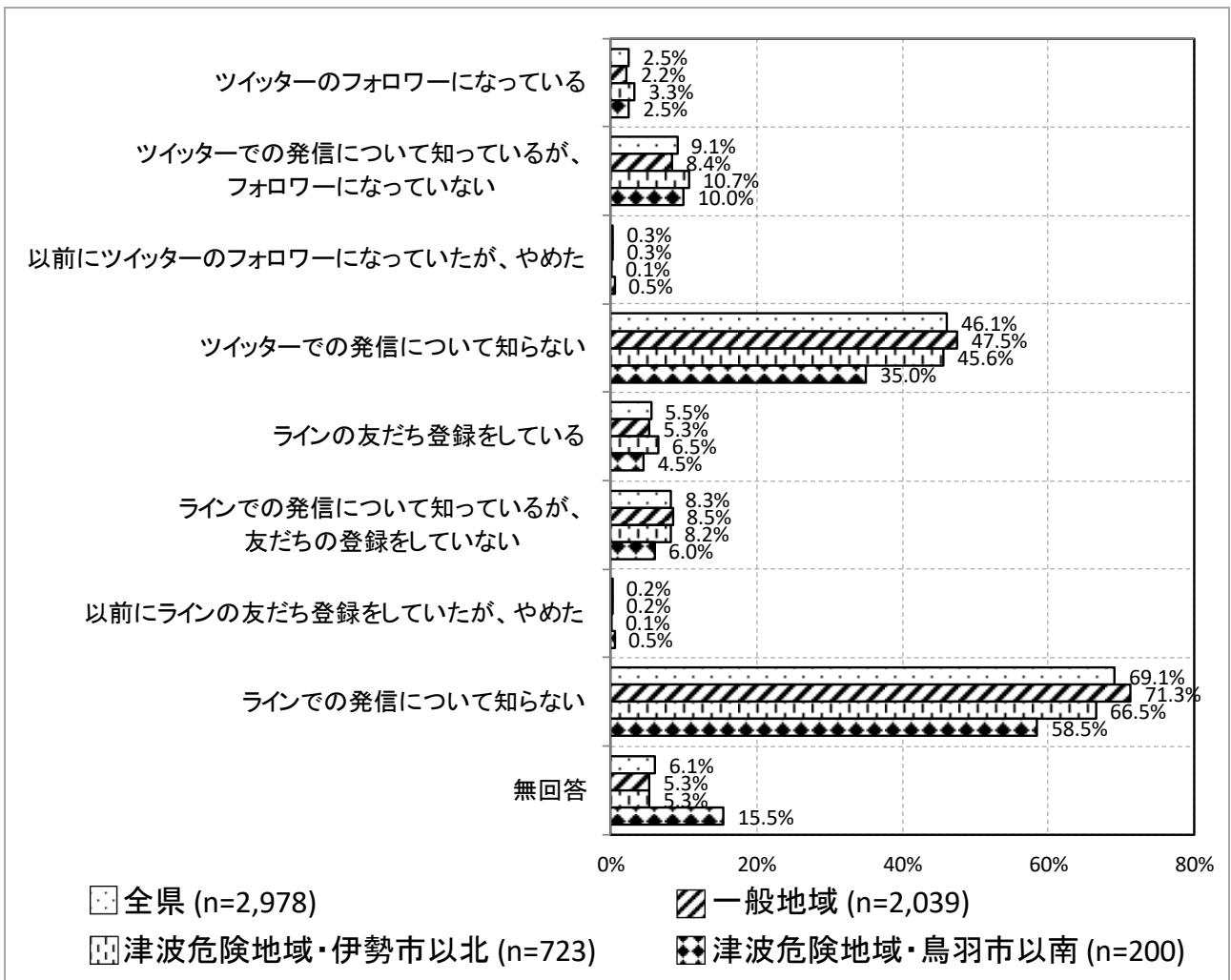
→問 17 へ

※Twitter（ツイッター）：1 回 140 字までの文章を、他の人が読んだり、返信をしたりするインターネット上のサービス。また、特定の利用者の更新状況を手軽に把握できるようにした人がフォロワーとよばれます。

※LINE（ライン）：インターネット上でメッセージの交換や通話をおこなうことができるサービス。ラインで発信する情報を見るには、友だち登録が必要になります。

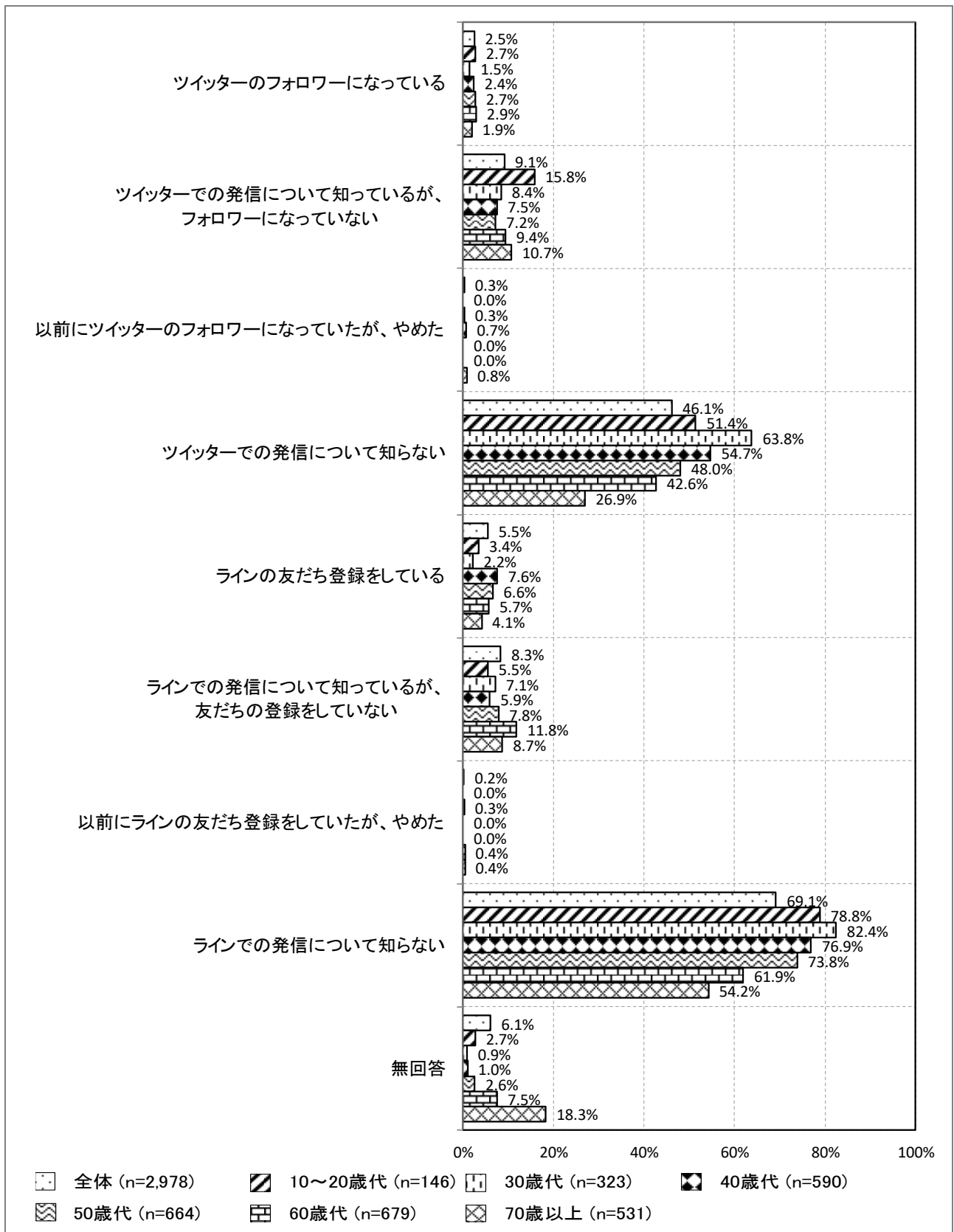
調査結果

図 3.3.10 (1) 県が気象や災害の情報を発信している Twitter（ツイッター）やLINE（ライン）の認知度 -全県及び地域別-



- 「ツイッターのフォロワーになっている」「ラインの友だち登録をしている」と答えた方の割合は、いずれの地域でも10%を下回っており、津波危険地域（伊勢市以北）で「ラインの友だち登録をしている」が6.5%と最も多くなっています。なお、「ツイッターでの発信について知っているが、フォロワーになっていない」「以前にツイッターのフォロワーになっていたが、やめた」を合わせた「ツイッターの発信について知っている」と答えた方、「ラインでの発信について知っているが、友達の登録をしていない」「以前にラインの友だち登録をしていたが、やめた」を合わせた「ラインでの発信について知っている」と答えた方は、それぞれ約1割となっています。
- 津波危険地域（鳥羽市以南）では、「ツイッターでの発信について知らない」「ラインでの発信について知らない」と答えた方の割合が、他の地域にくらべ10ポイント前後低くなっています。

図 3.3.10 (2) 県が気象や災害の情報を発信している
Twitter (ツイッター) やLINE (ライン) の認知度 -全体及び年代別-



- 「ツイッターのフォロワーになっている」と答えた方の割合は、いずれの年代でも5%以下になっています。また、「ラインの友だち登録をしている」と答えた方の割合は、いずれの年代でも10%以下になっています。

3.3.11 気象や災害の情報の入手先

【問 17】 気象や災害についての情報の入手先についてお尋ねします。

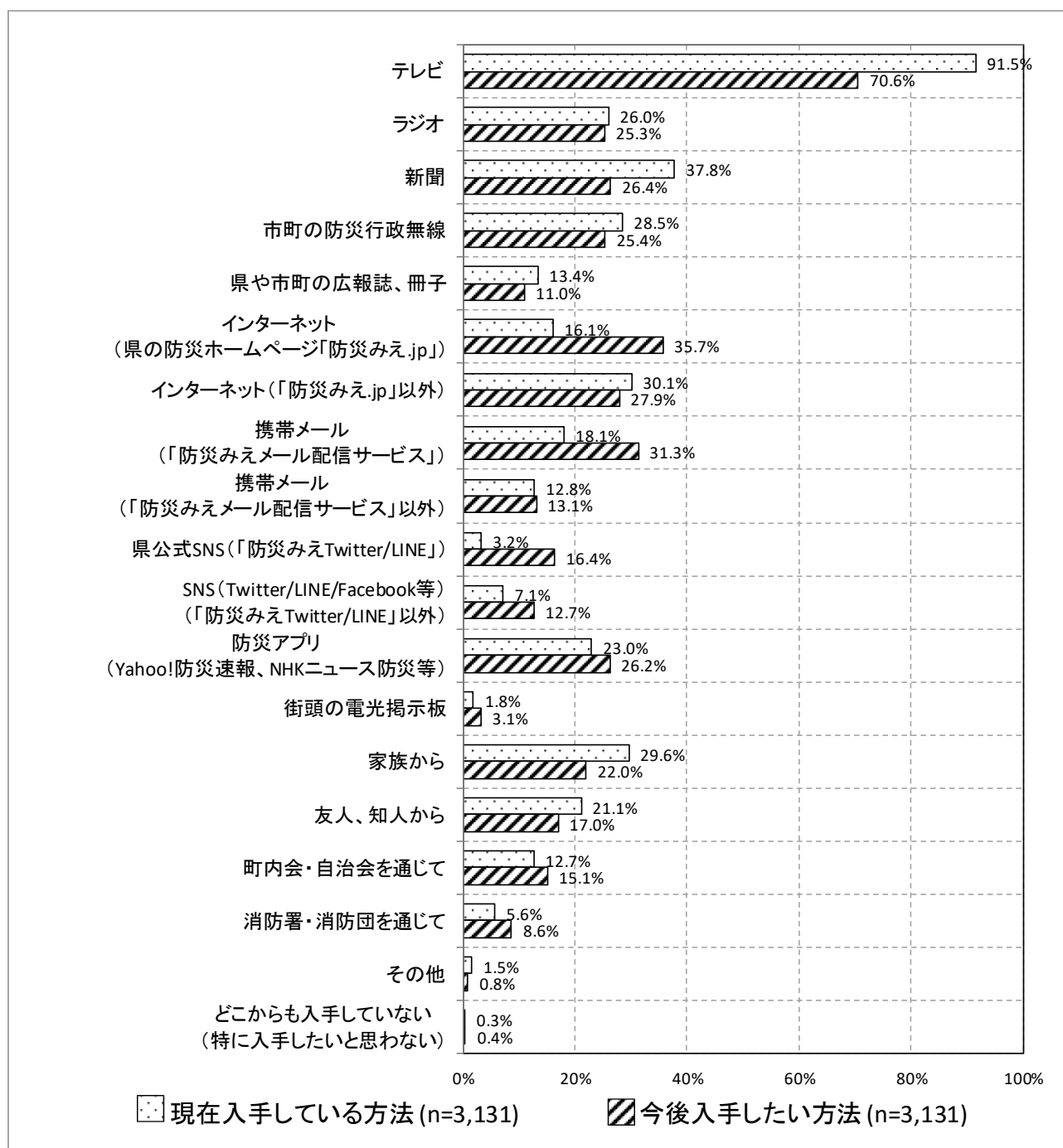
1. テレビ
2. ラジオ
3. 新聞
4. 市町の防災行政無線
5. 県や市町の広報誌、冊子
6. インターネット（県の防災ホームページ「防災みえ.jp」）
7. インターネット（「防災みえ.jp」以外）
8. 携帯メール（「防災みえメール配信サービス」）
9. 携帯メール（「防災みえメール配信サービス」以外）
10. 県公式 SNS（「防災みえ Twitter/LINE」）
11. SNS（Twitter/LINE/Facebook 等）（「防災みえ Twitter/LINE」以外）
12. 防災アプリ（Yahoo!防災速報、NHK ニュース防災等）
13. 街頭の電光掲示板
14. 家族から
15. 友人、知人から
16. 町内会・自治会を通じて
17. 消防署・消防団を通じて
18. その他 具体的に：（現在、入手している方法）（今後、入手したい方法）
19. （現在）どこからも入手していない（今後）特に入手したいと思わない

【問 17-1】 現在どこから入手することが多いかお答えください。

【問 17-2】 今後どこから入手したいかお答えください。

→問 18 へ

図 3.3.11 (1) 気象や災害の情報の入手先 -全県- (複数回答)



- 現在入手している方法では、「テレビ」と答えた方の割合が91.5%と最も多く、次いで「新聞」が37.8%、「インターネット(「防災みえ.jp」以外)」が30.1%となっています。
- 今後入手したい方法では、「テレビ」と答えた方の割合が70.6%と最も多く、次いで「インターネット(県の防災ホームページ「防災みえ.jp」)」が35.7%、「携帯メール(「防災みえメール配信サービス」)」が31.3%となっています。
- 現在にくらべ今後入手したい方法の割合が増加している項目については、「インターネット(県のホームページ「防災みえ.jp」)」が35.7%と現在の16.1%より大幅に多くなっています。
- 「その他」では、現在入手している方法としては「職場」、今後入手したい方法は「もっと地域別、ピンポイントで具体的に細かくわかる、中高年も利用できるツール」などの回答がありました。

図 3.3.11 (2) ① 気象や災害の情報の入手先（現在入手している方法） -年代別-

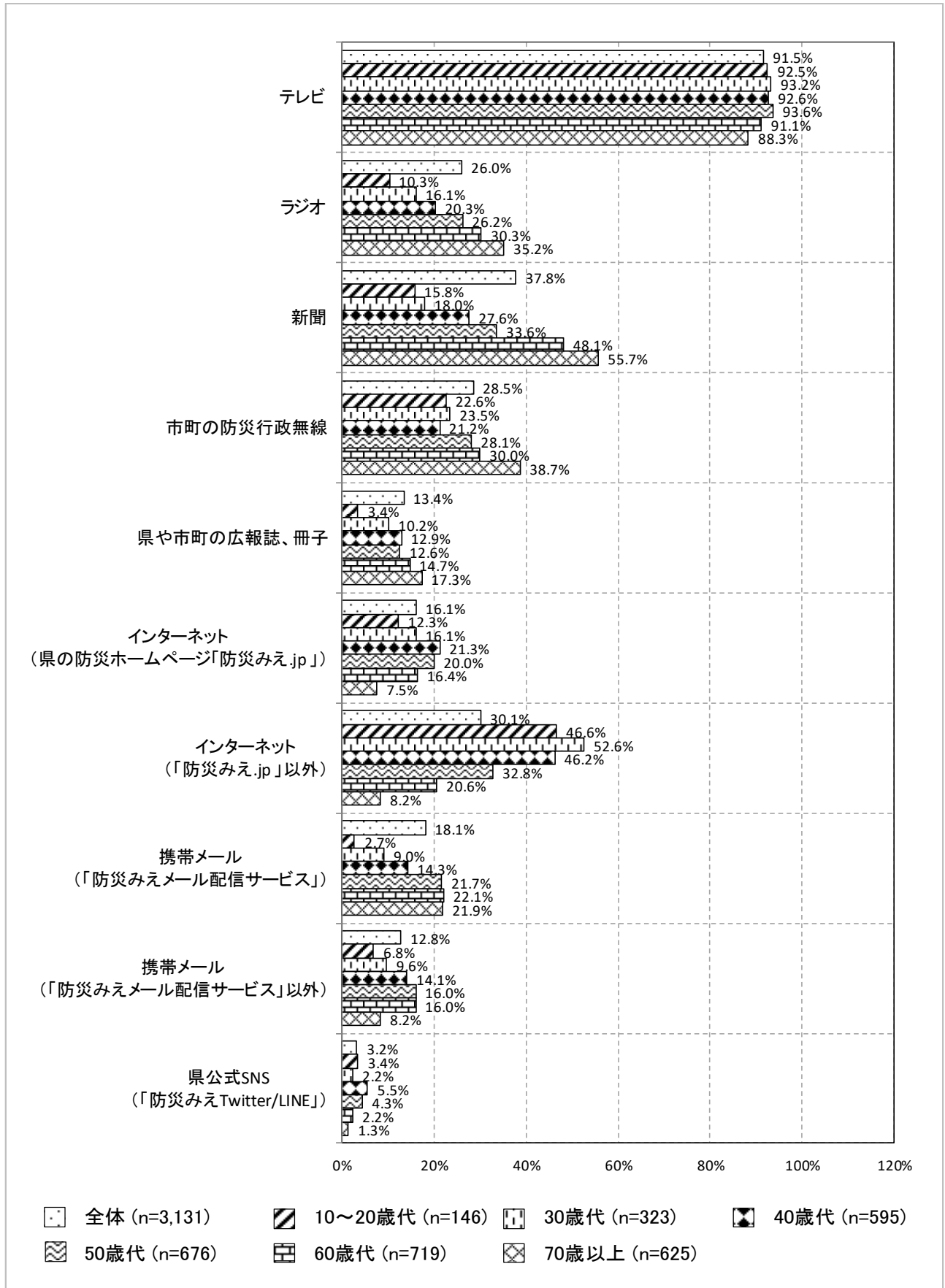
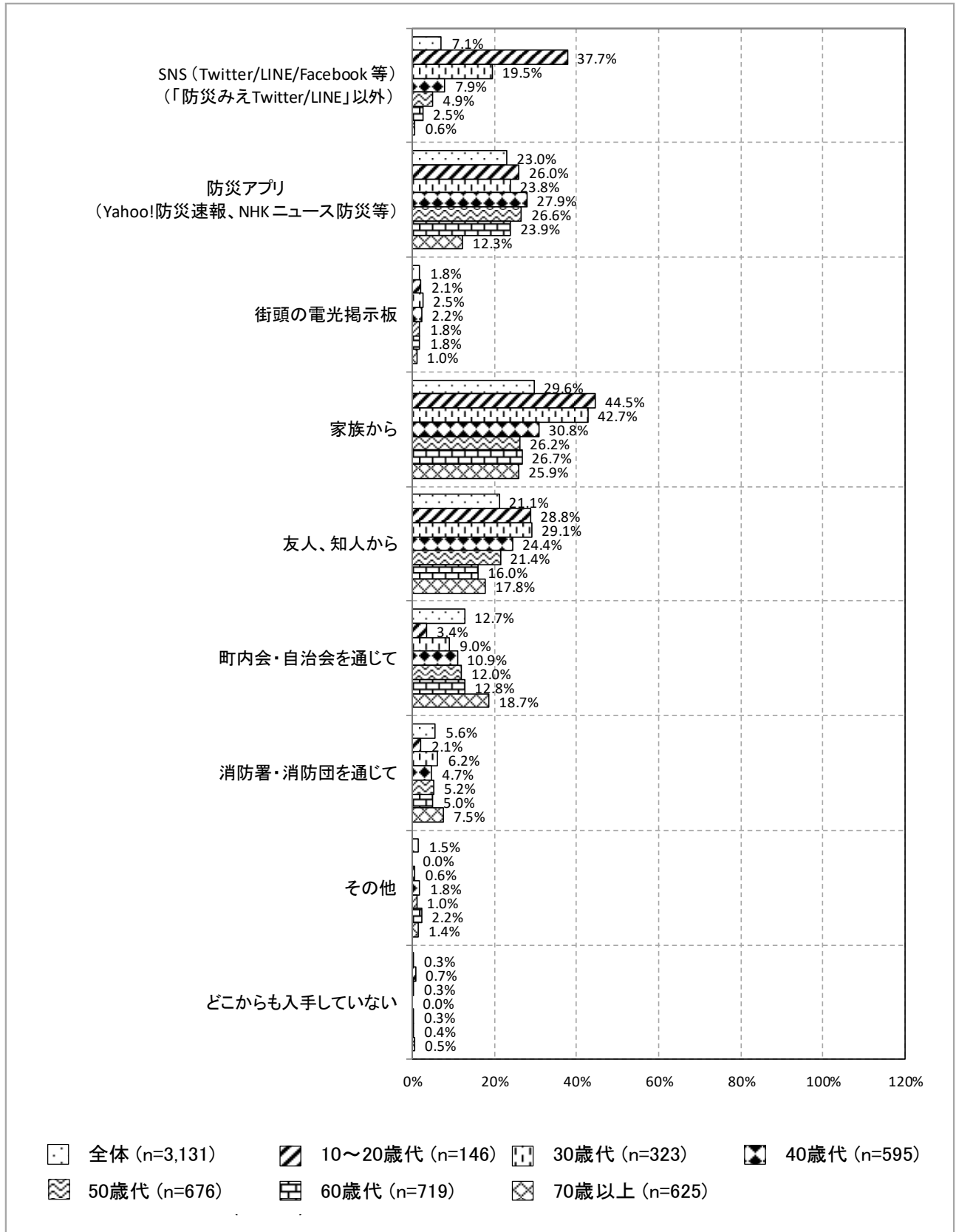


図 3.3.11 (2) ② 気象や災害の情報の入手先（現在入手している方法） -年代別-



- 年代別の特徴としては、全世代で「テレビ」が一番多く、次いで60歳代、70歳以上では「新聞」「ラジオ」「市町の防災行政無線」、40歳代以下の世代では「インターネット（「防災みえ.jp」以外）」が多くなっています。30歳代以下の世代では「家族から」、10~20歳代では「SNS（Twitter/LINE/Facebook等）（「防災みえTwitter/LINE」以外）」が突出して多くなっています。

図 3.3.11 (3) ① 気象や災害の情報の入手先 (今後入手したい方法) -年代別-

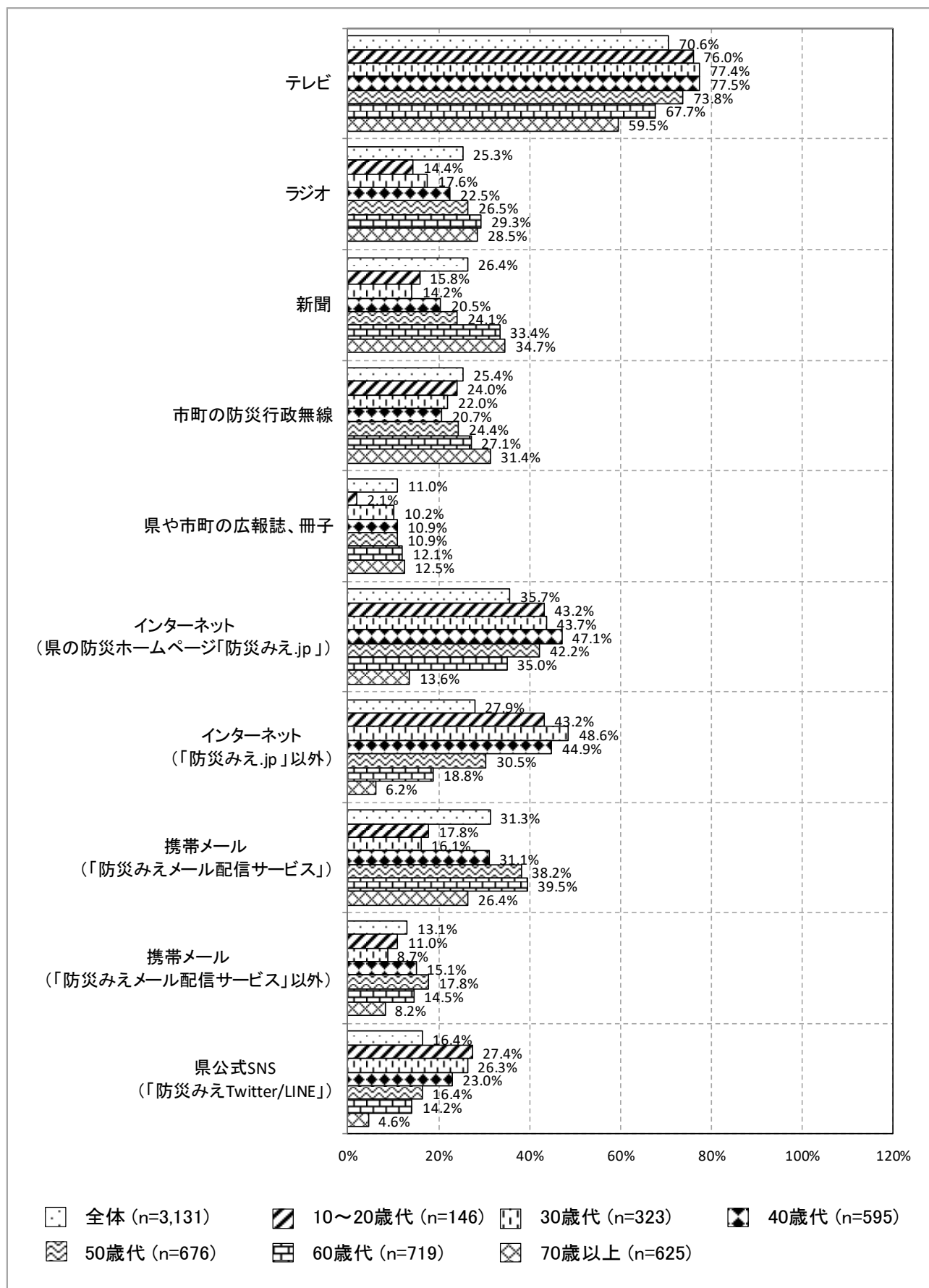
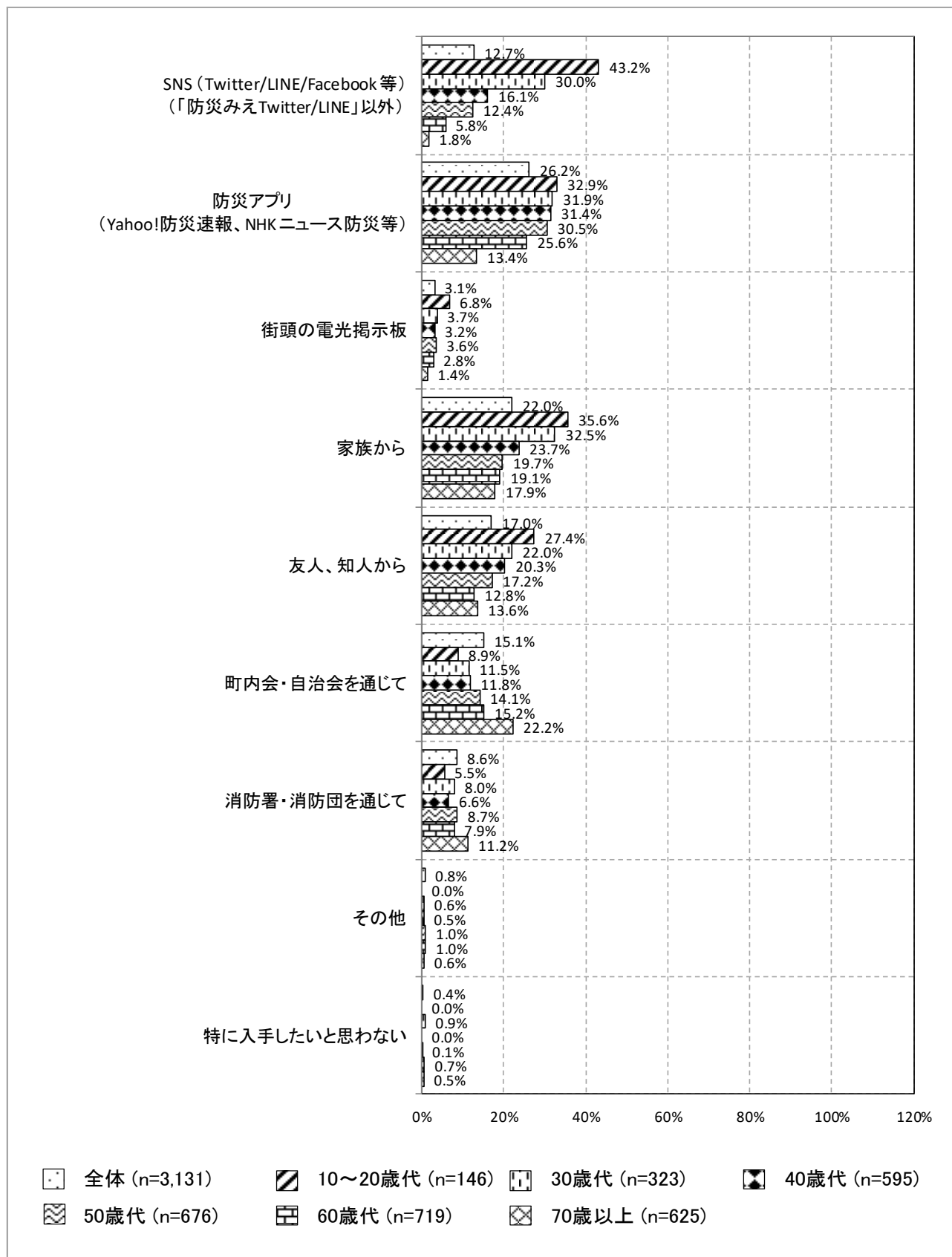


図 3.3.11 (3) ② 気象や災害の情報の入手先 (今後入手したい方法) -年代別-



- 年代別で見ると、すべての年代で「テレビ」と答えた方の割合が最も多くなっています。
- 「テレビ」以外では、10~20歳代では「インターネット(県の防災ホームページ「防災みえ.jp」)」「インターネット(「防災みえ.jp」以外)」が同率で多く、30歳代では「インターネット(「防災みえ.jp」以外)」が最も多くなっています。

え.jp」以外)」、40歳代、50歳代では「インターネット(「防災みえ.jp」)」、60歳代では「携帯メール(「防災みえメール配信サービス」)」「インターネット(「防災みえ.jp」)」「新聞」、70歳以上では「新聞」「市町の防災行政無線」が多くなっています。

- 選択肢ごとの特徴としては、「インターネット(「防災みえ.jp」およびそれ以外)」は40歳代以下が多く、「SNS(Twitter/LINE/Facebook等)」と答えた方は、10~20歳代が特に多い傾向にあります。

また、「町内会・自治会」「消防署・消防団」と答えた方は、70歳以上の方が多いい傾向にあります。

3.3.12 避難場所や避難所の認知度

【問 18】 あなたは、自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるかご存知ですか。

(一つだけ〇)

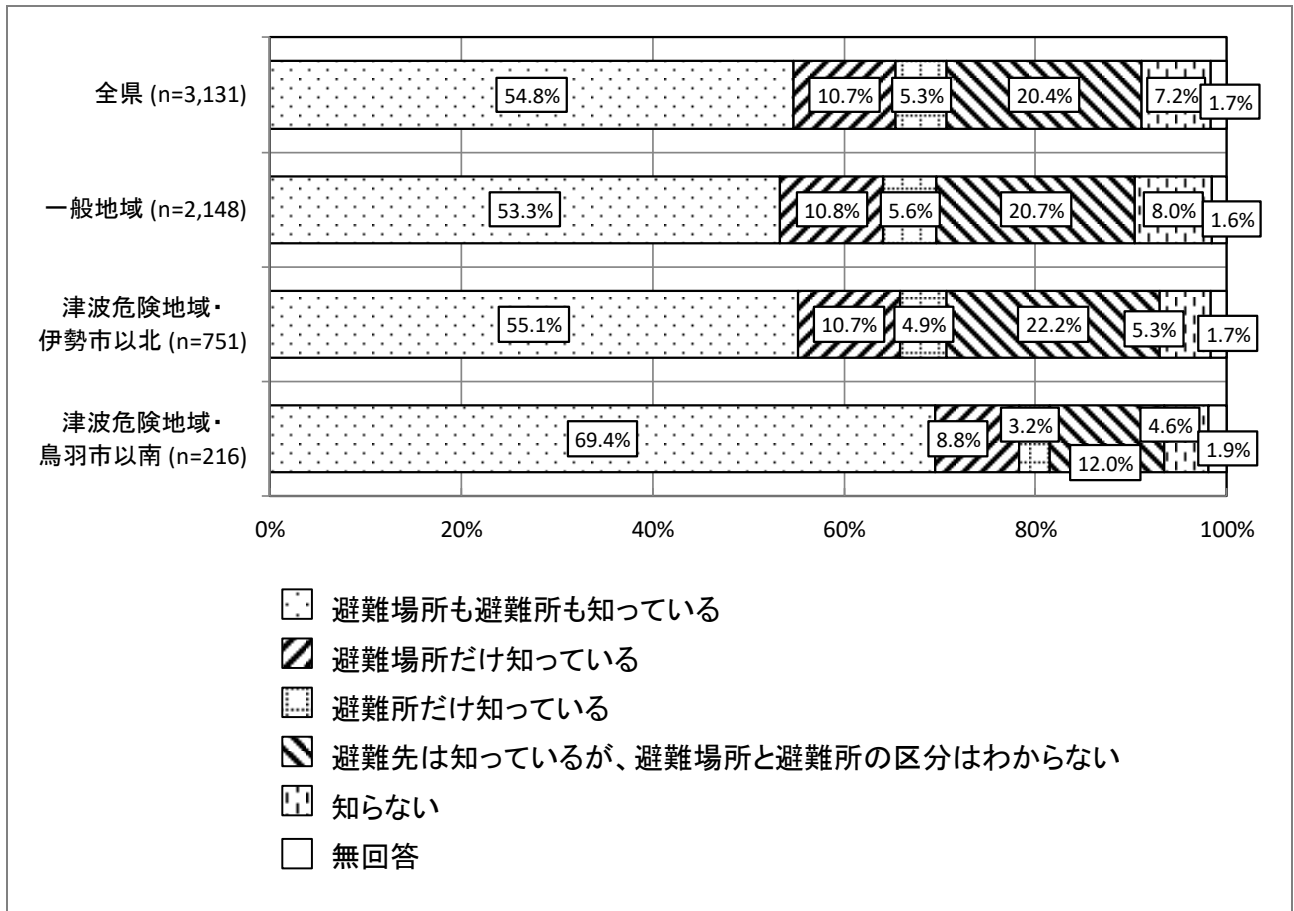
1. 避難場所も避難所も知っている
2. 避難場所だけ知っている
3. 避難所だけ知っている
4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない
5. 知らない

} 問 18-1 へ

} 問 19 へ

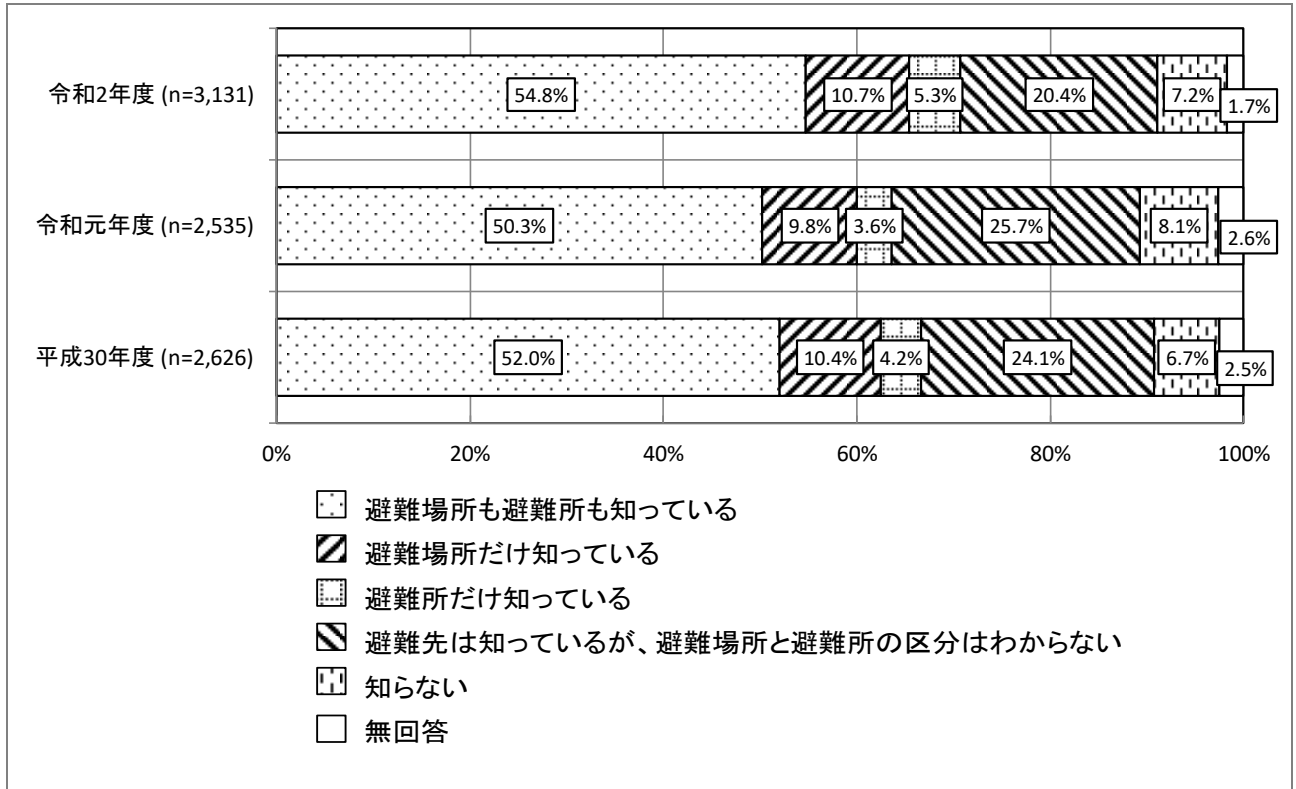
調査結果

図 3.3.12 (1) 避難場所や避難所の認知度 -全県及び地域別-



- 全県では、避難場所か避難所を知っていると答えた方の割合は、その区別がわからない方も含めると約9割と、ほとんどの方が避難場所か避難所のどちらかを知っています。
- 特に、津波危険地域（鳥羽市以南）では、「避難場所も避難所も知っている」と答えた方の割合が69.4%と、他の地域にくらべ大幅に多くなっています。

図 3.3.12 (2) 避難場所や避難所の認知度 -全県経年変化-



- 避難場所か避難所を知っていると答えた方の割合は、その区分がわからない方も含め約 9 割と、経年変化はほとんどありません。

3.3.13 避難場所や避難所までの経路についての認知度

【問 18-1】 問 18 で「1.避難場所も避難所も知っている」、「2.避難場所だけ知っている」、「3.避難所だけ知っている」と回答された方にお尋ねします。

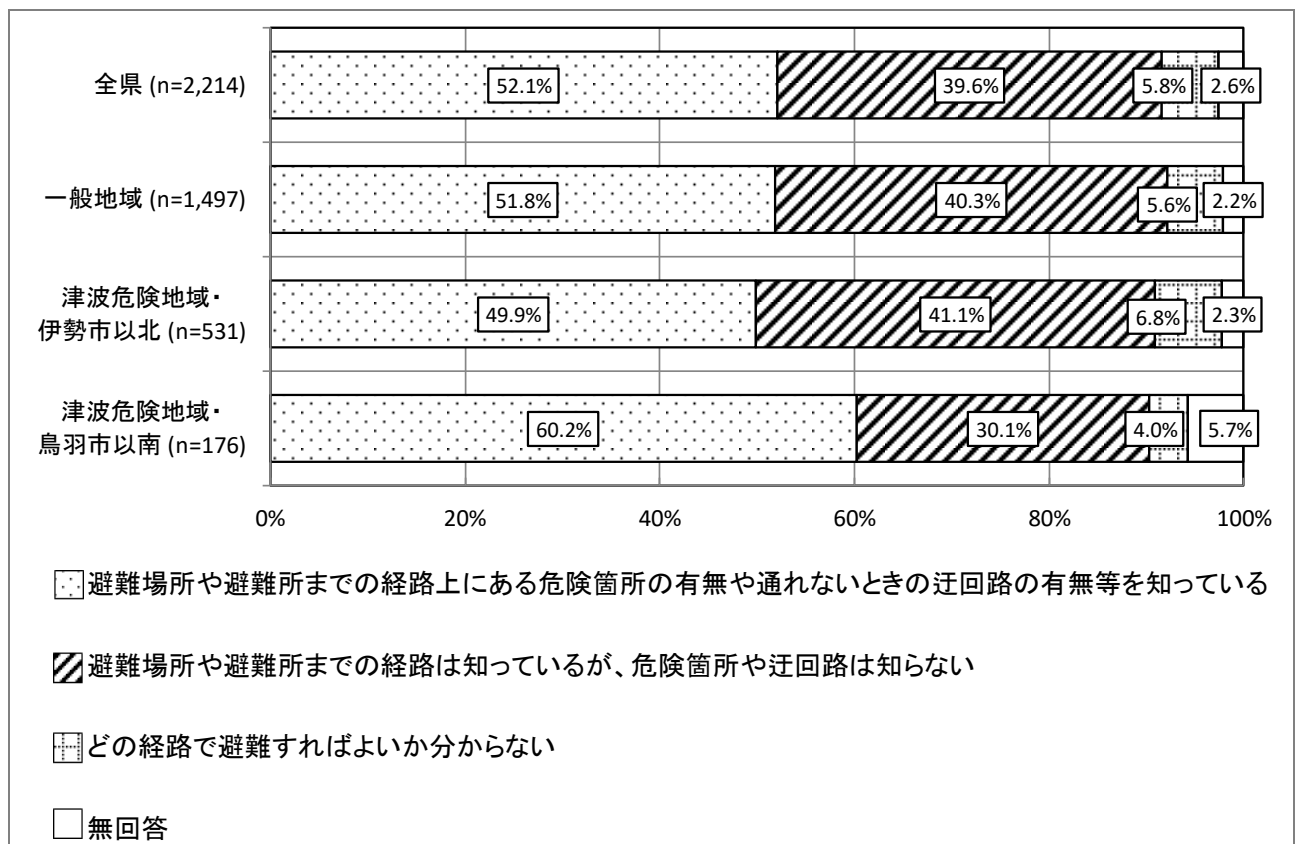
あなたは、避難場所や避難所までの避難経路について、どの程度ご存知ですか。
(一つだけ〇)

1. 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や通れないときの迂回路の有無等を知っている
2. 避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない
3. どの経路で避難すればよいか分からない

→問 19 へ

調査結果

図 3.3.13 避難場所や避難所までの経路についての認知度 -全県及び地域別-



- 全県で「避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や通れないときの迂回路の有無等を知っている」と答えた方の割合が52.1%と半数以上になっています。
- さらに「避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない」の39.6%を加えると「経路を知っている」方は9割以上となっており、すべての地域で同様の傾向となっています。
- 特に、津波危険地域（鳥羽市以南）で、「避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や通れないときの迂回路の有無等を知っている」が60.2%と他の地域にくらべて多くなっています。

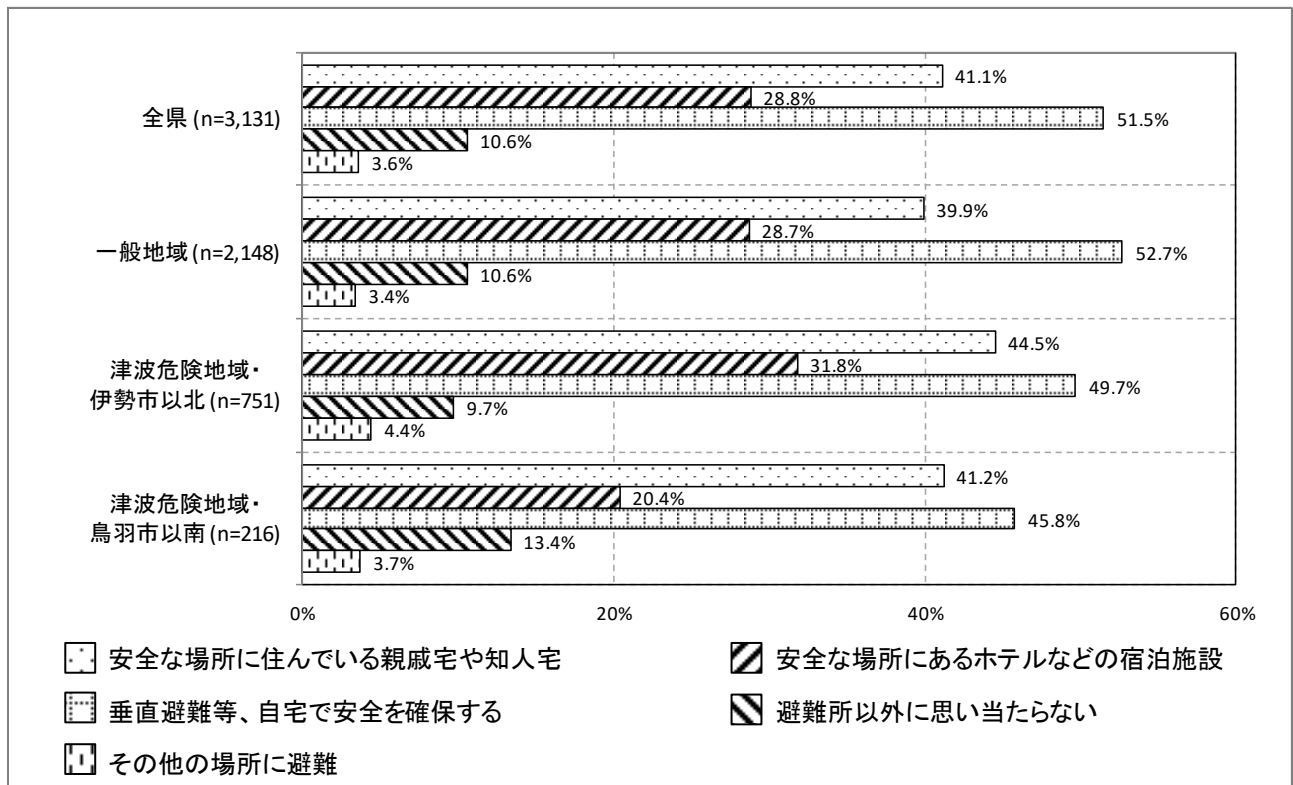
3.3.14 避難所に代わる安全な場所

【問 19】 感染症の感染リスクなどを考慮した場合、避難所以外に避難することも選択肢として考えられます。地震や風水害発生時、避難所に代わる安全な場所（被災する可能性の低い他県・他市町、同じ市町内のハザードマップの浸水想定区域外地域など）に避難する必要がある場合、どのような場所へ避難しますか？（いくつでも○）

1. 安全な場所に住んでいる親戚宅や知人宅
 2. 安全な場所にあるホテルなどの宿泊施設
 3. 垂直避難等、自宅で安全を確保する
 4. 避難所以外に思い当たらない
 5. その他の場所に避難 具体的に：
- 問 20 へ

調査結果

図 3.3.14 避難所に代わる安全な場所 -全県及び地域別-



- 全県では「垂直避難等、自宅で安全を確保する」と答えた方の割合が51.5%と半数以上になっており、次いで「安全な場所に住んでいる親戚宅や知人宅」が41.1%となっています。
- 地域別にみると、「安全な場所にあるホテルなどの宿泊施設」は津波危険地域（鳥羽市以南）では2割ですが、他の地域は3割前後と高くなっています。
- 「その他」の回答として、「消防団、自警団詰め所」「近所の大規模商業施設」「海拔の高い場所」「車中泊（自家用車）又は職場」などの回答がありました。

3.3.15 地域や職場での防災活動への参加状況

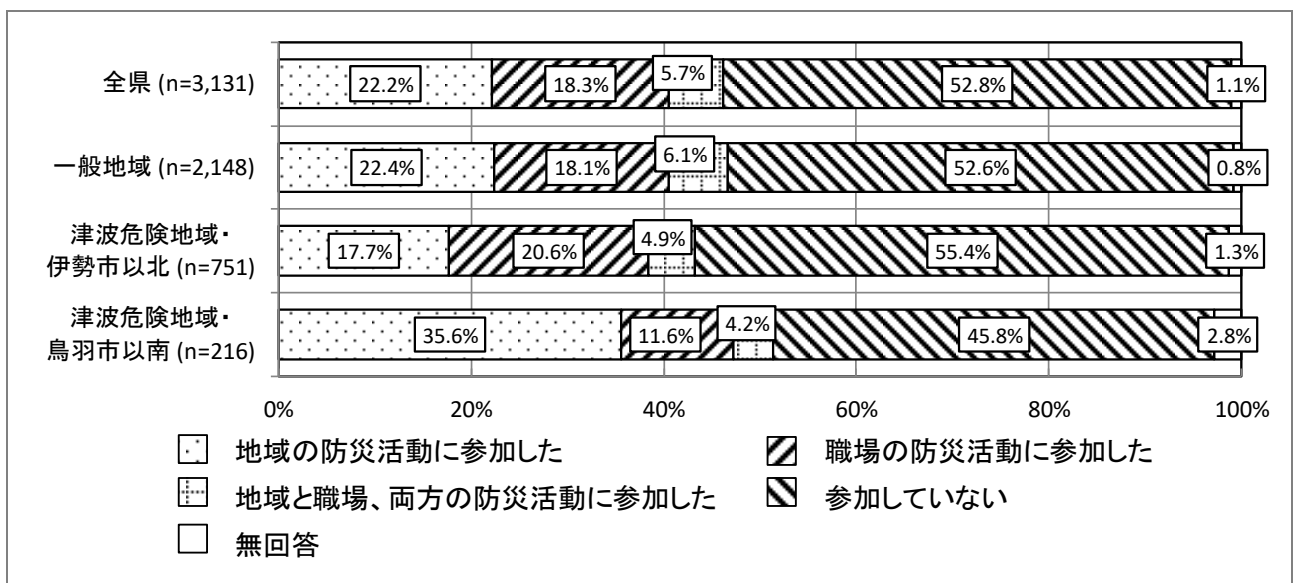
【問 20】 あなたは、過去1年間に、お住まいの地域や職場での防災活動（問 21 の選択肢参照）に参加したことがありますか。（一つだけ○）

※ 直近で開催される地域や職場の研修会や防災訓練等へ参加する予定がある場合は1～3に○をつけてください。

- 1. 地域の防災活動に参加した
 - 2. 職場の防災活動に参加した
 - 3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した
 - 4. 参加していない
- 問 21 へ
- 問 22 へ

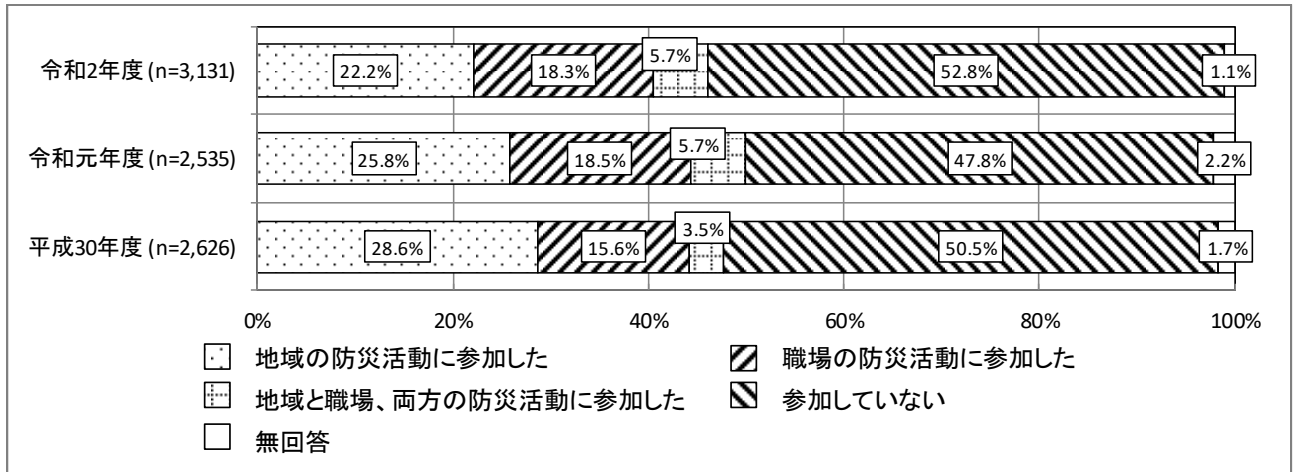
調査結果

図 3.3.15 (1) 地域や職場での防災活動への参加状況 -全県及び地域別-



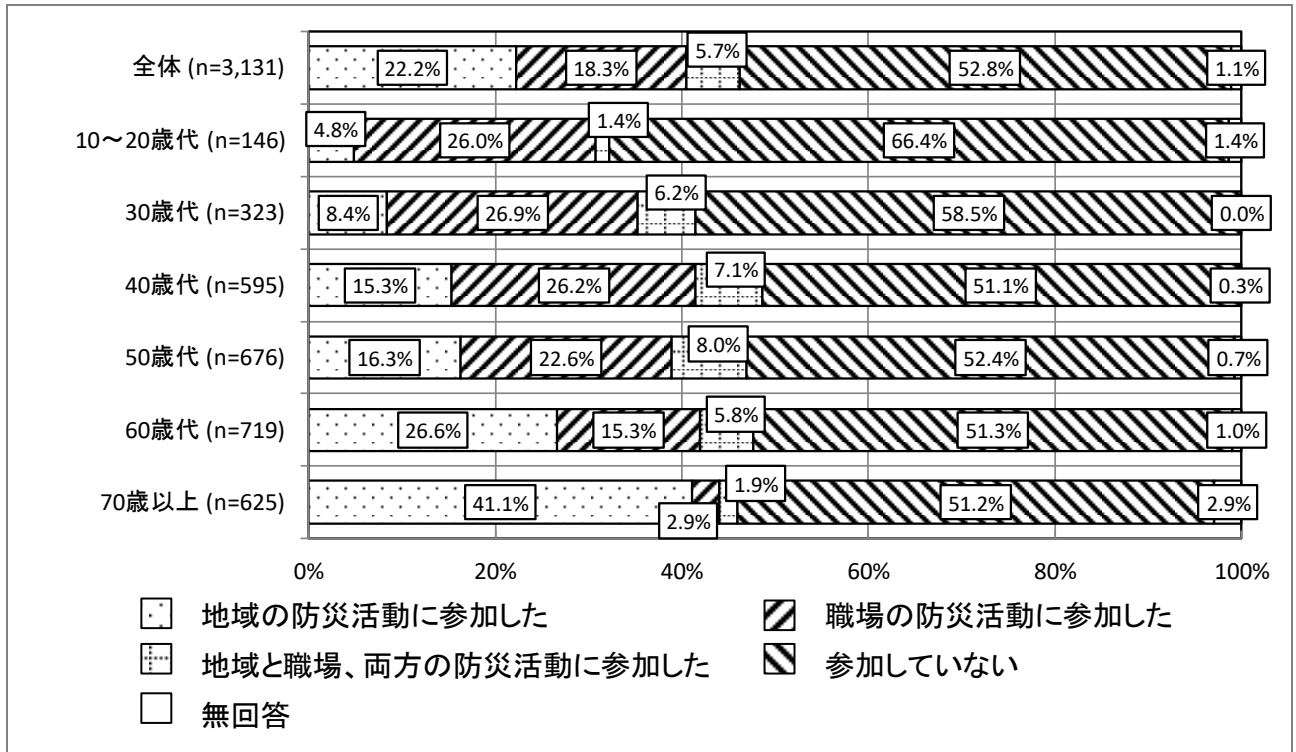
- 全県では、何らかの防災活動に「参加した」と答えた方の割合の合計が46.2%（内訳：地域22.2%、職場18.3%、地域・職場5.7%）となっています。
- 津波危険地域（鳥羽市以南）では、いずれかの防災活動に「参加した」と答えた方の割合が51.4%と半数を超えています。

図 3.3.15 (2) 地域や職場での防災活動への参加状況 -全県経年変化-



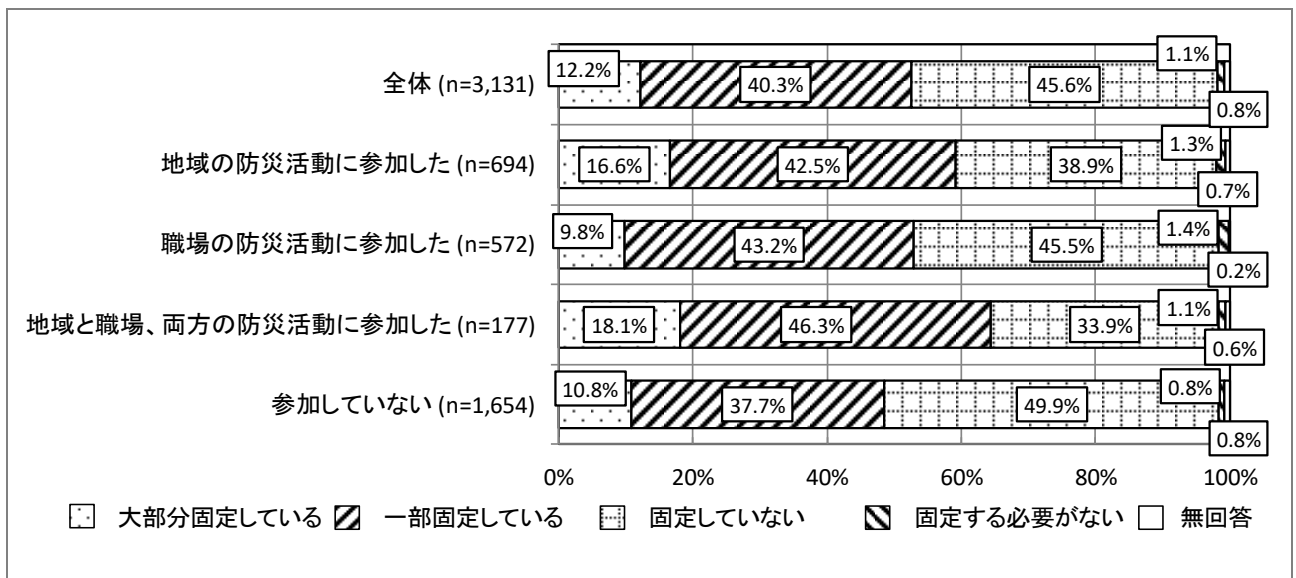
- 経年変化をみると、「地域の防災活動に参加した」と答えた方の割合は減少しており、「職場の防災活動に参加した」「地域と職場、両方の防災活動に参加した」は年々増加しています。

図 3.3.15 (3) 地域や職場での防災活動への参加状況 -全体及び年代別-



- 年代別でみると、何らかの防災活動に「参加した」と答えた方の割合の合計は、40歳代の48.6%が最も多く、次いで60歳代の47.7%、50歳代の46.9%となっており、半数を下回っています。

図 3.3.15 (4) 地域や職場での防災活動への参加状況
-問 12 (家具固定の不備による危険度) のクロス集計-



- 問 12 (家具固定の不備による危険度) とのクロス集計で、大部分または一部家具を「固定している」方の割合の合計を比較すると、何らかの防災活動に「参加した」と答えた方では、最も少ない場合の「職場での防災活動に参加した」場合でも合計 53.0% (大部分 9.8%、一部 43.2%) と、防災活動に「参加していない」と答えた方の 48.5% (大部分 10.8%、一部 37.7%) を 4.5 ポイント上回っています。

図 3.3.15 (5) ① 地域や職場での防災活動への参加状況

-問 11 (家庭での防災対策の状況) のクロス集計-

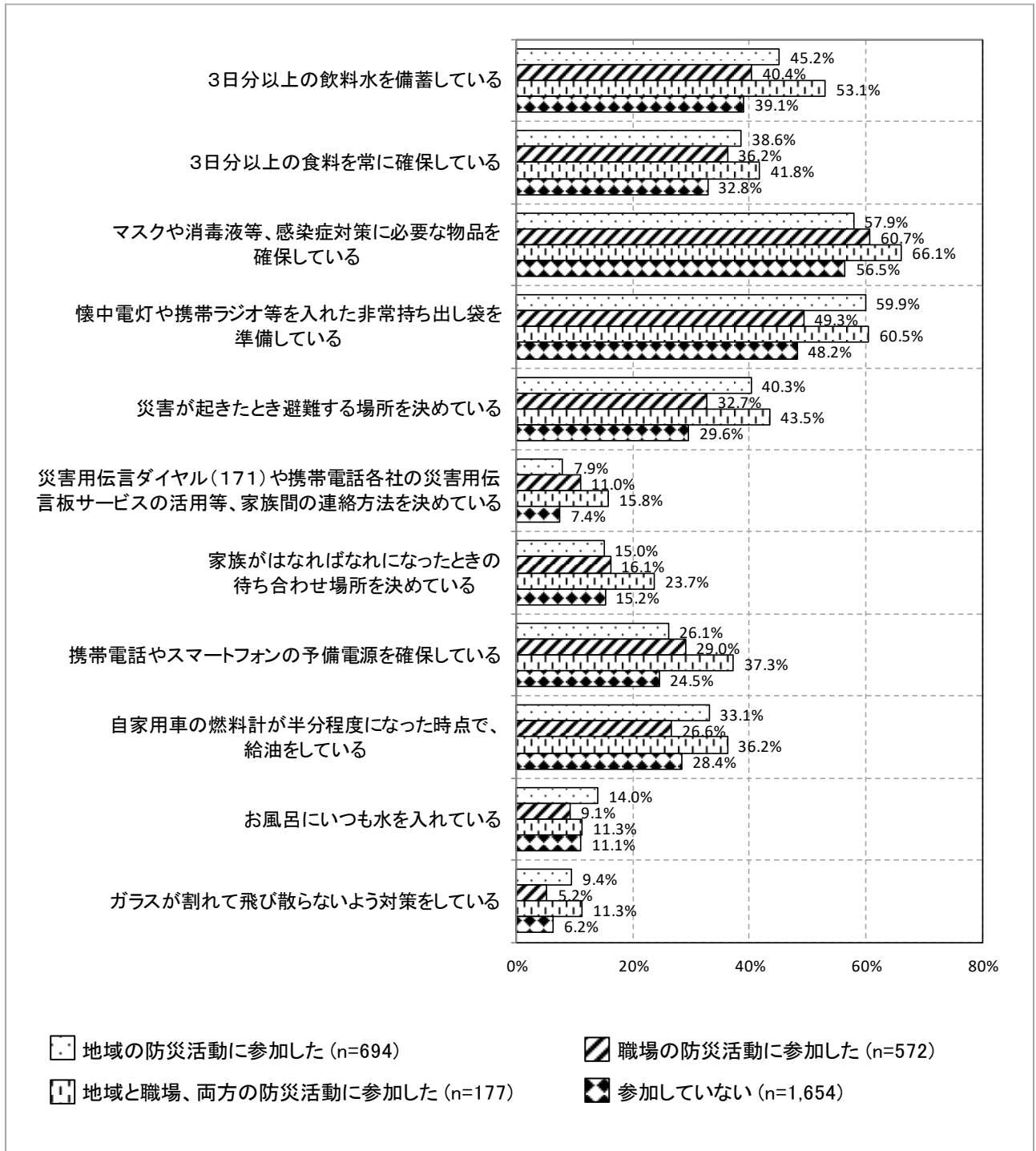
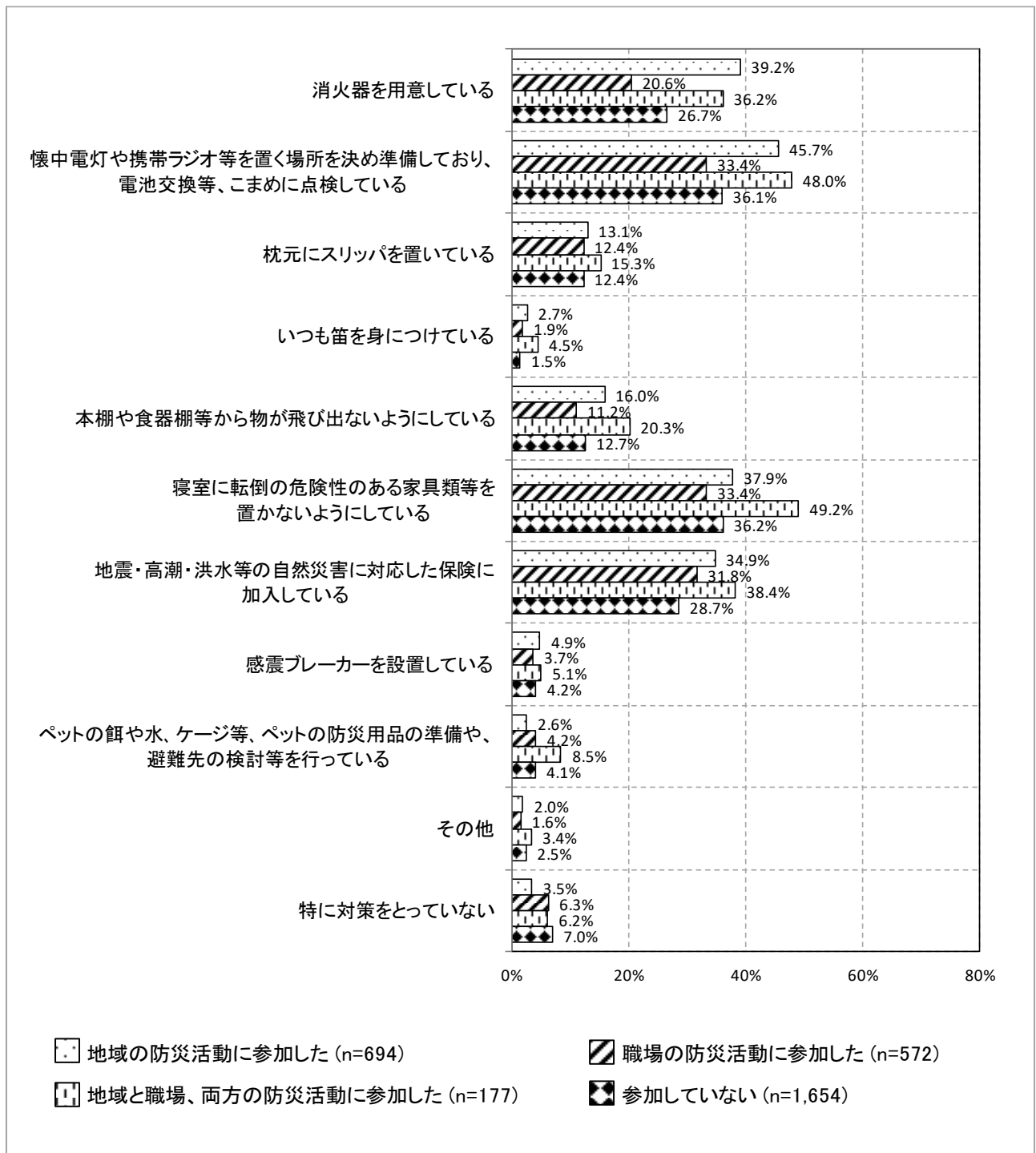


図 3.3.15 (5) ② 地域や職場での防災活動への参加状況
 -問 11 (家庭での防災対策の状況) のクロス集計-



問 11 (家庭での防災対策の状況) とのクロス集計をみると、何らかの防災活動に参加している方の「災害時の備え」への取組状況が、参加していない方の取組状況を全般的に上回っている傾向にあります。

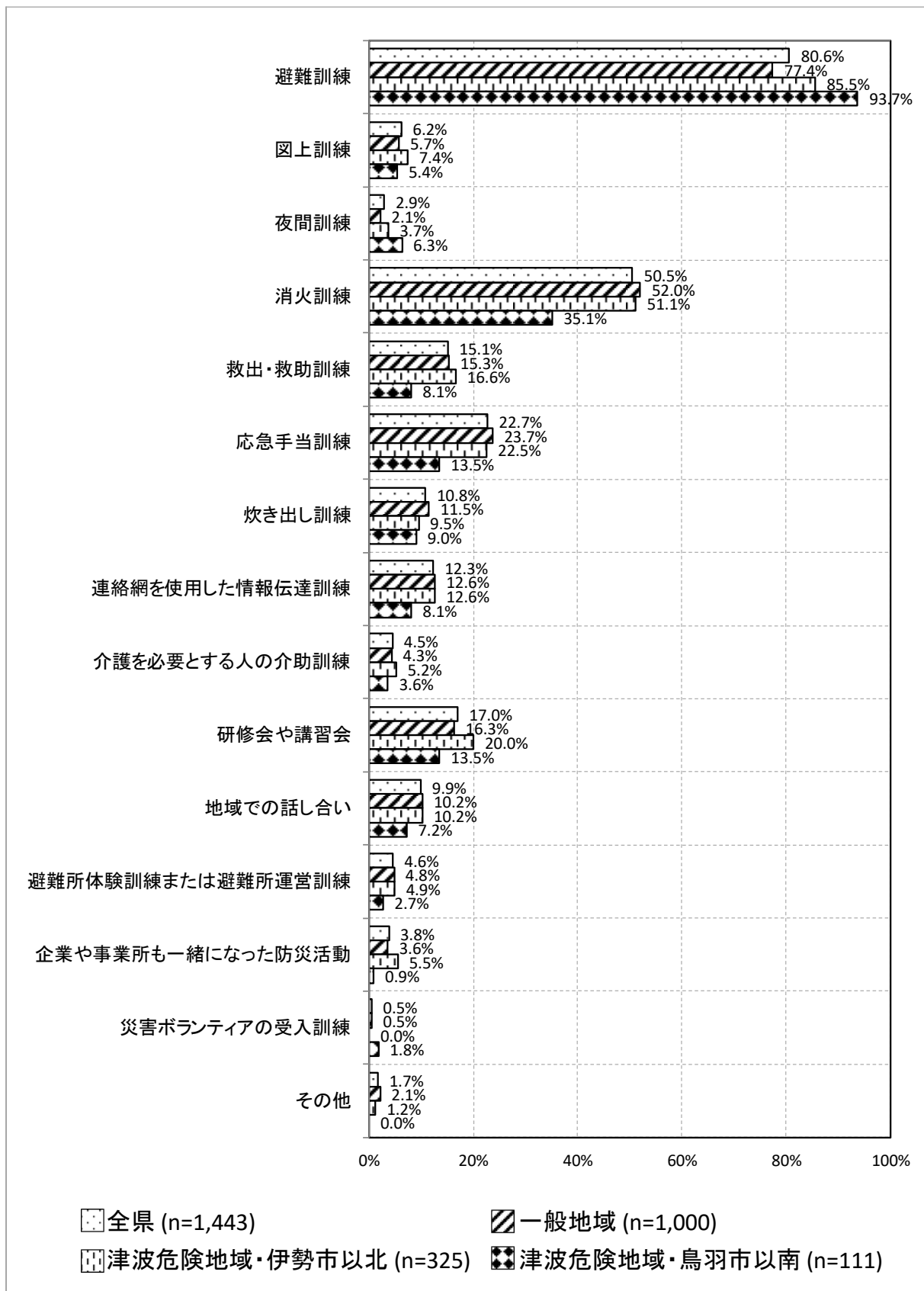
3.3.16 地域の防災活動に参加した内容

【問 21】 問 20 で「1.地域の防災活動に参加した」、「2.職場の防災活動に参加した」、「3.地域と職場、両方の防災活動に参加した」と答えた方にお尋ねします。あなたが参加した防災活動は、どのようなものでしたか。(いくつでも○)

1. 避難訓練
2. 図上訓練
3. 夜間訓練
4. 消火訓練
5. 救出・救助訓練
6. 応急手当訓練
7. 炊き出し訓練
8. 連絡網を使用した情報伝達訓練
9. 介護を必要とする人の介助訓練
10. 研修会や講習会
11. 地域での話し合い
12. 避難所体験訓練または避難所運営訓練
13. 企業や事業所も一緒になった防災活動
14. 災害ボランティアの受入訓練
15. その他 具体的に：

→問 21-1 へ

図 3.3.16 地域の防災活動に参加した内容 -全県及び地域別- (複数回答)



- すべての地域でほぼ同じ傾向で、「避難訓練」が最も多く、次いで「消火訓練」「応急手当訓練」と実動する防災活動が多い傾向にあります。
- 津波危険地域（鳥羽市以南）では、「夜間訓練」が6.3%と他の地域より多くなっています。
- 「その他」の回答として、一般地域では「自治会での安否確認訓練」「171への防災安否確認」「土のう造り及び積み上げ訓練」、津波危険地域では「地域の危険箇所把握の活動」などの回答がありました。

3.3.17 地域や職場の防災活動に参加したことが役立ったか

【問 21-1】 あなたが参加した地域や職場の防災活動は、防災意識の向上に役立ちましたか。

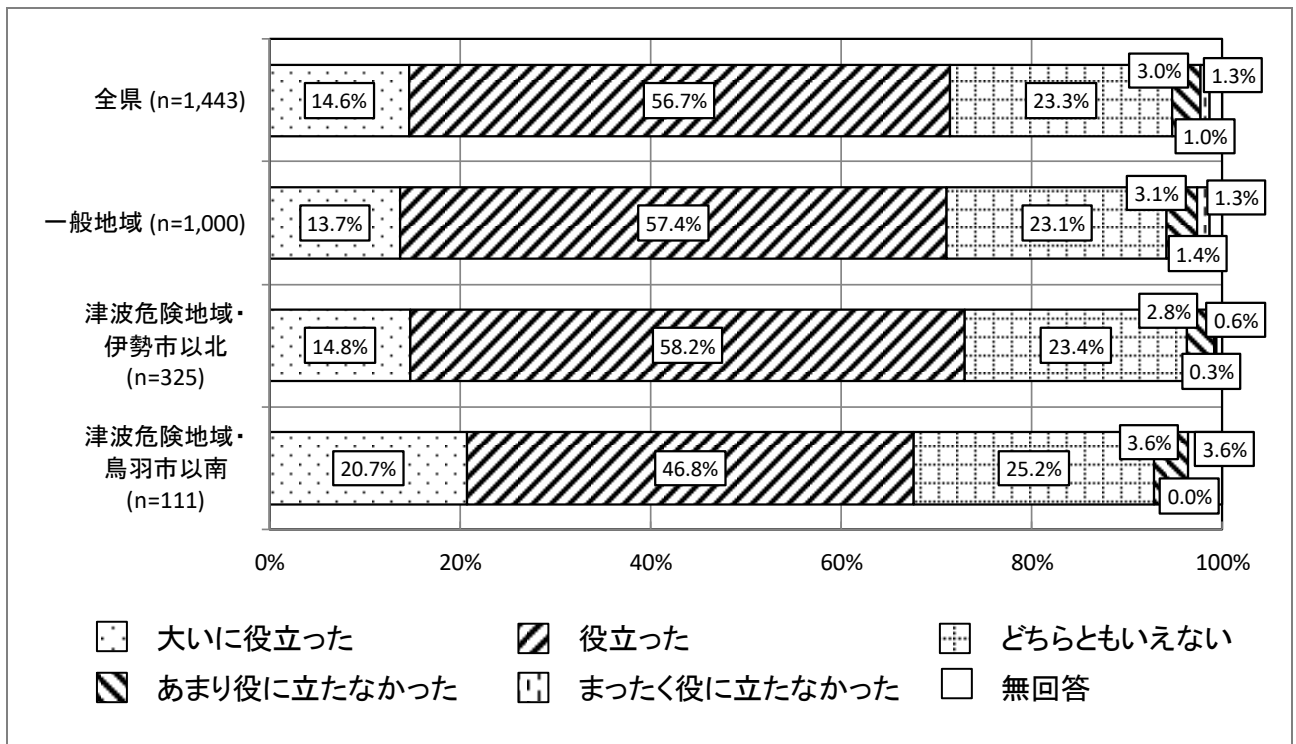
(一つだけ○)

1. 大いに役立った
2. 役立った
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

→問23へ

調査結果

図 3.3.17 地域や職場の防災活動に参加したことが役立ったか -全県及び地域別-



- 「大いに役立った」「役立った」と答えた方の割合の合計は、すべての地域で7割前後となっています。

3.3.18 防災活動に参加しなかった理由

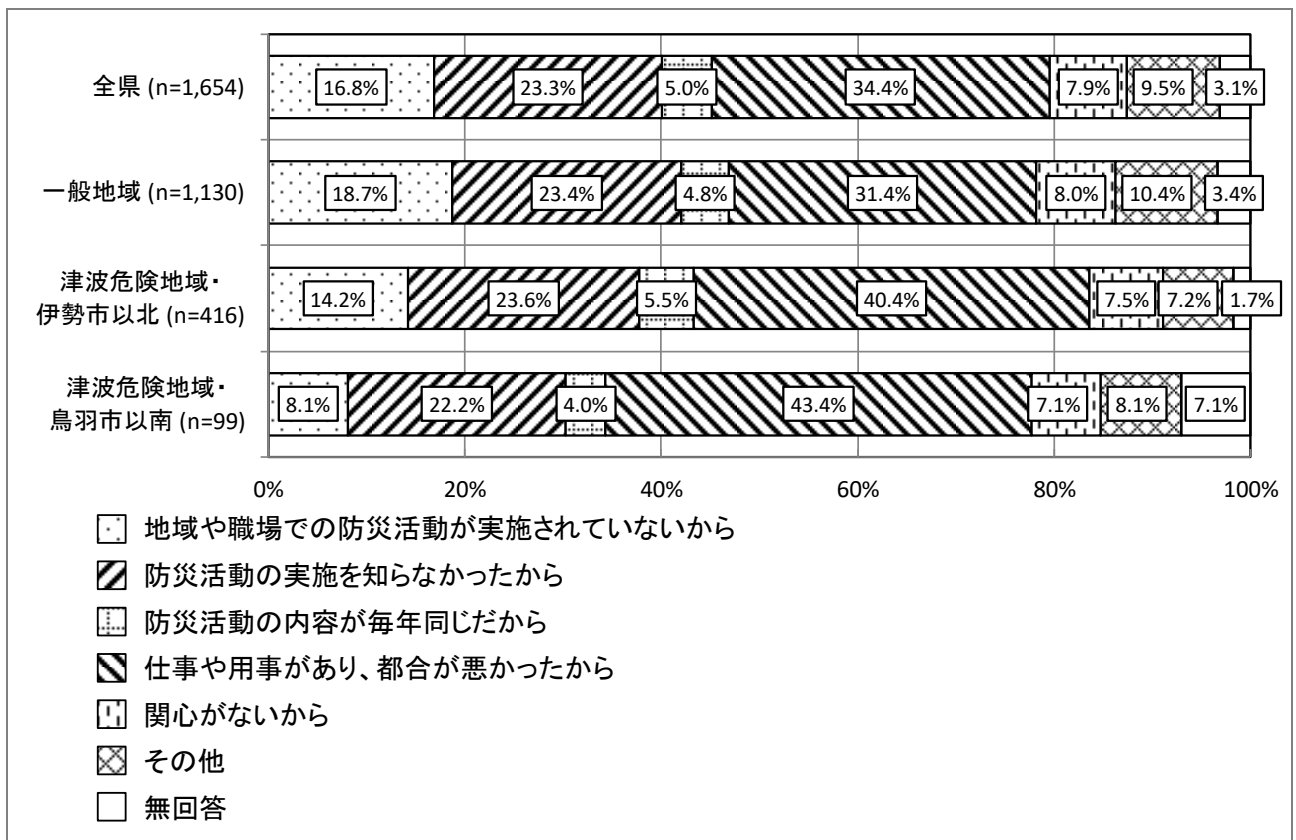
【問 22】 問 20 で、「4.参加していない」と回答された方にお尋ねします。あなたが防災活動に参加しなかった理由は何ですか。(一つだけ〇)

1. 地域や職場での防災活動が実施されていないから
2. 防災活動の実施を知らなかったから
3. 防災活動の内容が毎年同じだから
4. 仕事や用事があり、都合が悪かったから
5. 関心がないから
6. その他 具体的に：

→問 23 へ

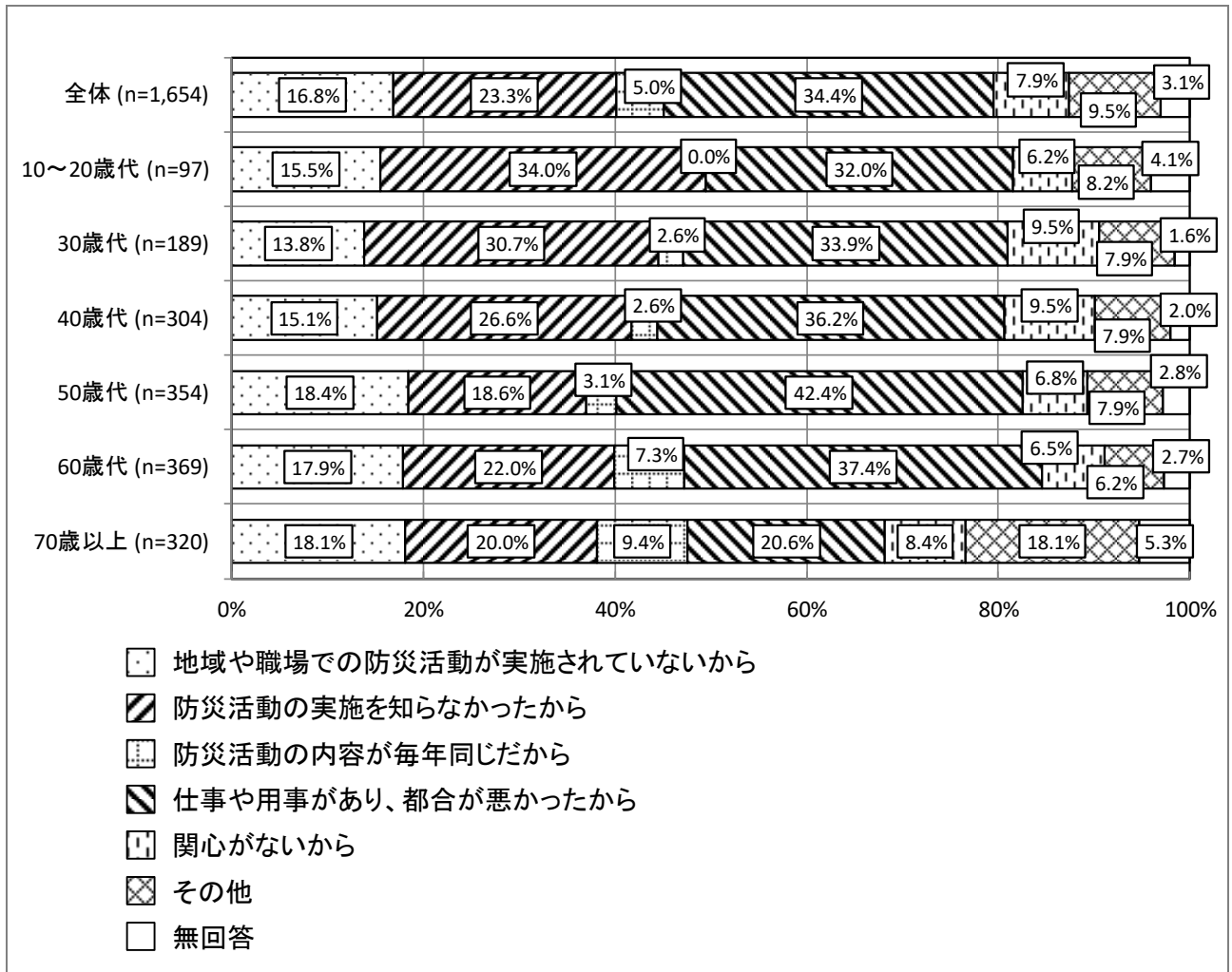
調査結果

図 3.3.18 (1) 防災活動に参加しなかった理由 -全県及び地域別-



- すべての地域で「仕事や用事があり、都合が悪かったから」と答えた方の割合が最も多くなっています。
- 「その他」として、「高齢のため」「体が不自由だから」「活動の実施や内容を知らない。出産したばかりで子育てのため家から出られない」「自治会の組長のときは積極的に参加するが、そうでない年は参加しないことが多い」「参加者が少ないから行きづらい」などの回答がありました。

図 3.3.18 (2) 防災活動に参加しなかった理由 -全体及び年代別-



- 10~20歳代では「防災活動の実施を知らなかったから」と答えた方の割合が、他の年代より多くなっています。
- 50歳代では「仕事や用事があり、都合が悪かったから」と答えた方の割合が、他の年代より多くなっています。
- 70歳以上の「その他」の回答では、「歩いて防災場所に行くのがむずかしい」「若い頃は参加していたが、内容は毎年同じように聞いている。避難については自分で考えている」などの回答がありました。

3.3.19 地域・職場で必要と思う防災活動

【問 23】 あなたは、こういった防災活動が地域や職場で実施されることが必要だと思いますか。(いくつでも〇)

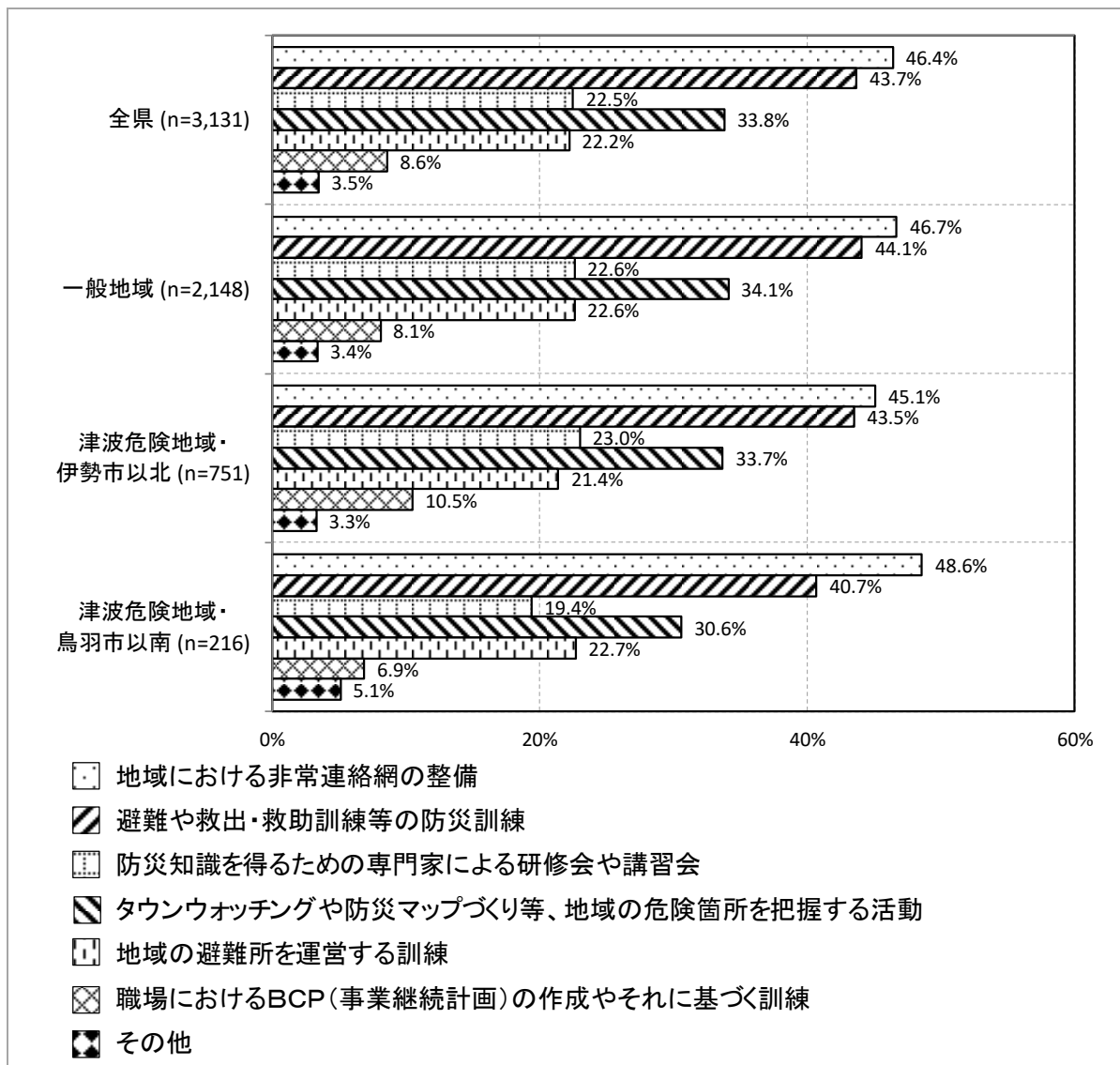
1. 地域における非常連絡網の整備
 2. 避難や救出・救助訓練等の防災訓練
 3. 防災知識を得るための専門家による研修会や講習会
 4. タウンウォッチングや防災マップづくり等、地域の危険箇所を把握する活動
 5. 地域の避難所を運営する訓練
 6. 職場におけるBCP（事業継続計画）の作成やそれに基づく訓練
 7. その他 具体的に：
- 問 24 へ

※BCP（事業継続計画）：

企業等が自然災害などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時や緊急時に事業を継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のことです。

調査結果

図 3.3.19 地域・職場で必要と思う防災活動 -全県及び地域別-（複数回答）



- すべての地域で「地域における非常連絡網の整備」が最も多くなっています。
- 「その他」の回答では、「ろう者なので手話通訳者の運営する訓練」「働き方が多様化し、参加型の訓練に無理があると思うので、SNS、ネットでの情報の取りやすさを入れてほしい」「一人暮らしの高齢者対策」などの回答がありました。

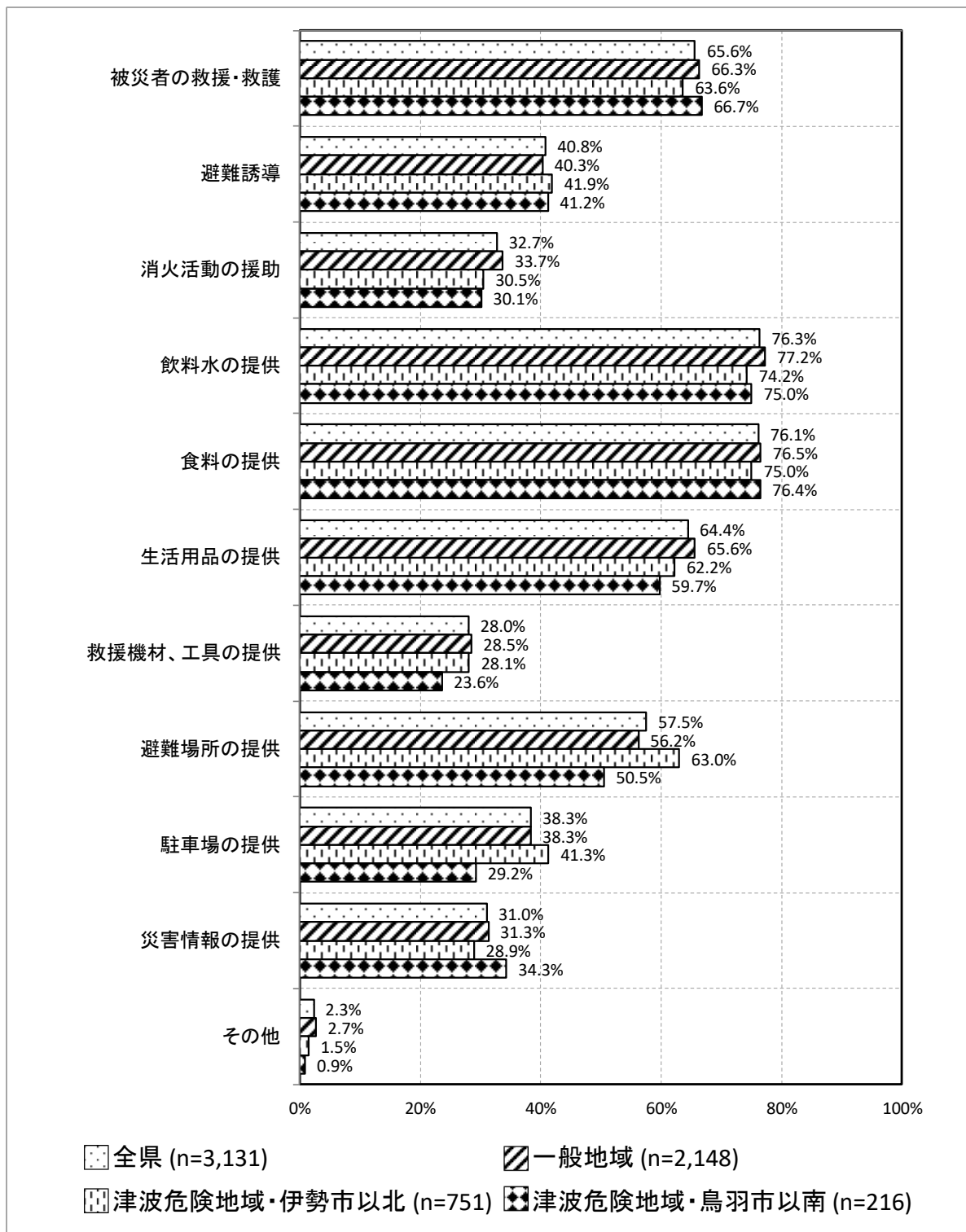
3.3.20 防災活動や防災対策で企業・事業所に期待すること

【問 24】 地域の防災活動や防災対策について、地域の企業・事業所に期待することは何ですか。(いくつでも○)

1. 被災者の救援・救護
2. 避難誘導
3. 消火活動の援助
4. 飲料水の提供
5. 食料の提供
6. 生活用品の提供
7. 救援機材、工具の提供
8. 避難場所の提供
9. 駐車場の提供
10. 災害情報の提供
11. その他 具体的に：

→問 25 へ

図 3.3.20 防災活動や防災対策で企業・事業所に期待すること
- 全県及び地域別（複数回答） -



- すべての地域で「飲料水の提供」「食料の提供」が7割を超え最も多くなっています。次いで「被災者の救援・救護」が6割を超え多くなっています。
- 津波危険地域（伊勢市以北）では「避難場所の提供」が63.0%と他地区より多くなっています。
- 「その他」の回答では、「障がい者のいる家庭への救援」「ペットの保護」「電源の確保」などの回答がありました。

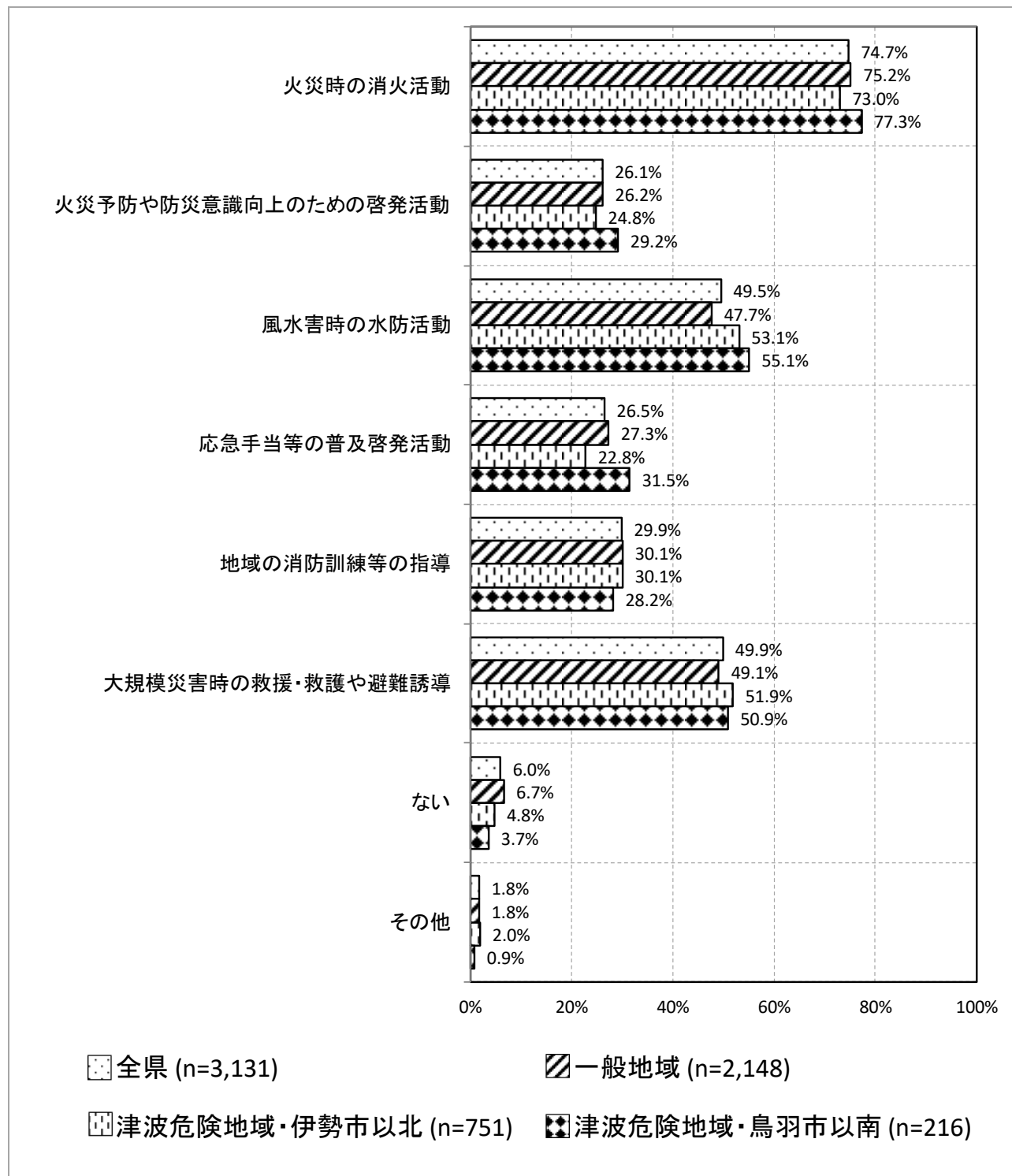
3.3.21 地域の消防団に期待する活動内容

【問 25】 あなたがお住まいの地域の消防団に期待する活動はどのようなものがありますか。
(いくつでも○)

1. 火災時の消火活動
2. 火災予防や防災意識向上のための啓発活動
3. 風水害時の水防活動
4. 応急手当等の普及啓発活動
5. 地域の消防訓練等の指導
6. 大規模災害時の救援・救護や避難誘導
7. ない
8. その他 具体的に：

→問 26 へ

図 3.3.21 地域の消防団に期待する活動内容 -全県及び地域別- <複数回答>



- すべての地域でほぼ同じ傾向となっており、「火災時の消火活動」と答えた方の割合が約7割、次いで「大規模災害時の救援・救護や避難誘導」「風水害時の水防活動」が約4割から5割となっています。
- 「その他」の回答では、「低い所に居住しているため、風水害時、近くにいてくれる（来てくれる）と大変ありがたい」「団員が不足しており余り活動していない」などの回答がありました。

3.3.22 自主防災組織の有無と活動状況

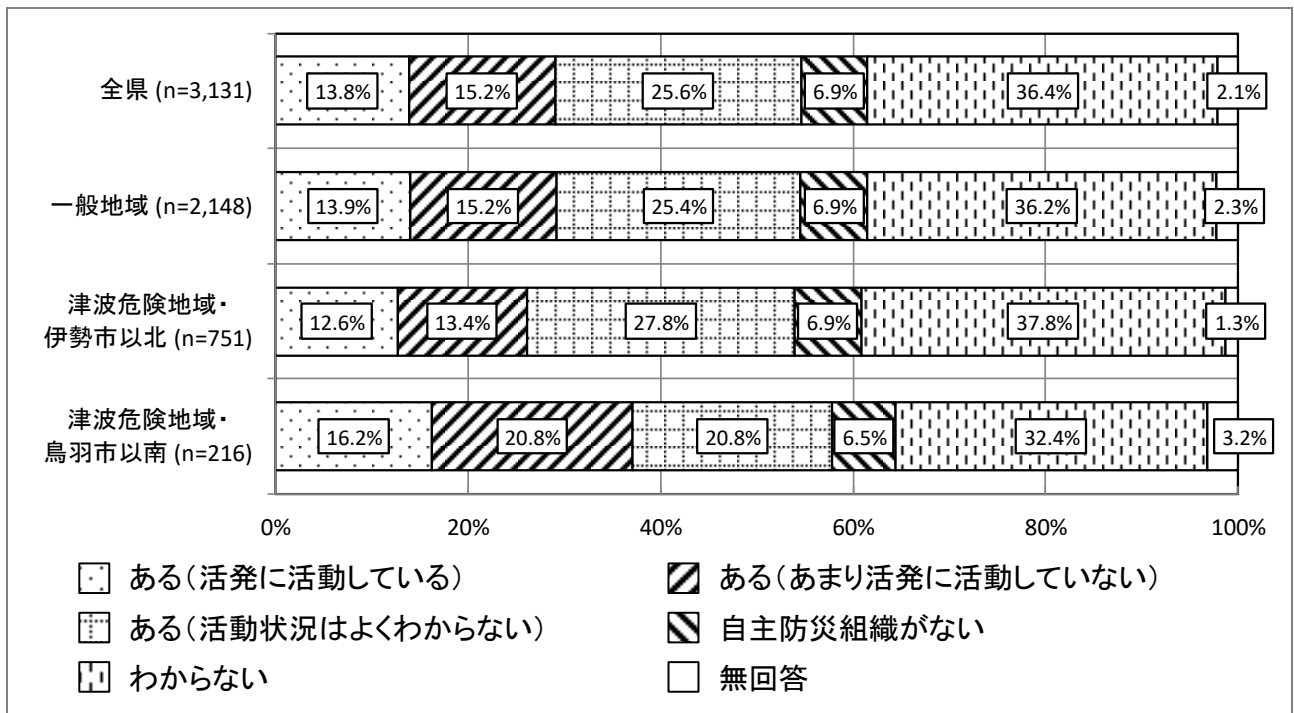
【問 26】 あなたのお住まいの地域は、自主防災組織（町内会・自治会等を母体とした地域の住民が防災活動をする組織）がありますか。また、活動状況はどうか。（一つだけ〇）

1. ある（活発に活動している）
2. ある（あまり活発に活動していない）
3. ある（活動状況はよくわからない）
4. 自主防災組織がない
5. わからない

→問 27 へ

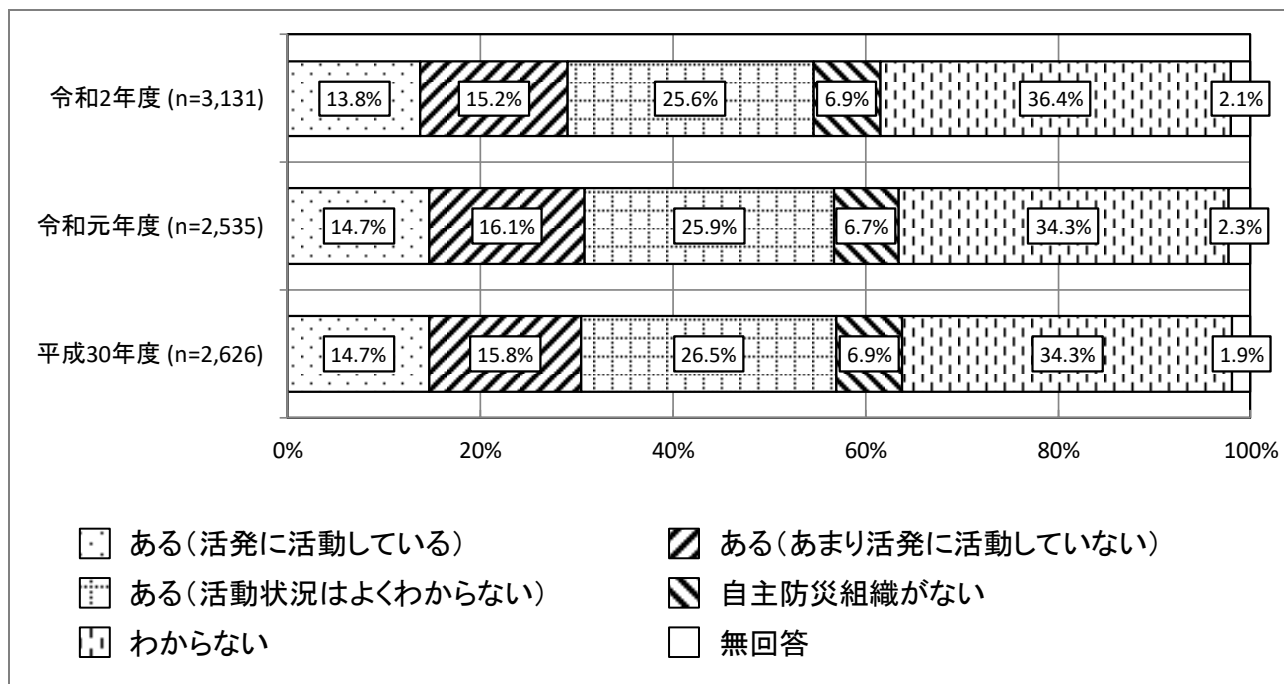
調査結果

図 3.3.22 (1) 自主防災組織の有無と活動状況 -全県及び地域別-



- 全県では、自主防災組織が「ある」と答えた方の割合の合計が 54.6%、「ない」が 6.9%、「わからない」が 36.4%となっており、津波危険地域（鳥羽市以南）を除く地域でほぼ同じ割合となっています。
- 津波危険地域（鳥羽市以南）では、自主防災組織が「ある」と答えた方の割合の合計が 57.8%、「ない」が 6.5%、「わからない」が 32.4%となっており、自主防災組織についての認識度が、他の地域とくらべ、わずかながら高くなっています。

図 3.3.22 (2) 自主防災組織の有無と活動状況 -全県経年変化-



- 自主防災組織が「ある」と答えた方の割合は5割を占め、経年変化はほとんどありません。

3.3.23 就学している児童生徒の有無

【問 27】 あなたのお住まいには、就学している児童生徒がいますか。(いくつでも○)

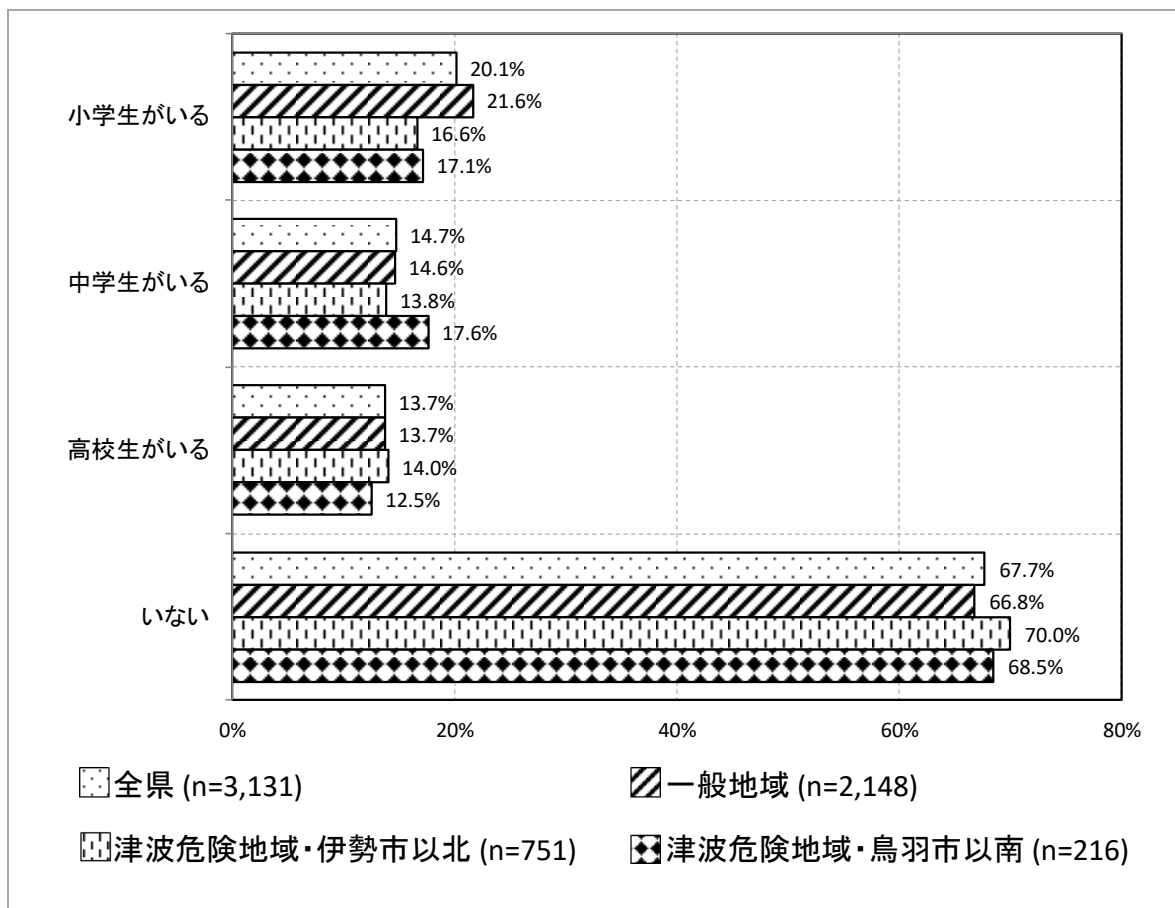
1. 小学生がいる
2. 中学生がいる
3. 高校生がいる
4. いない

} 問 27-1 へ

→問 27-2 へ

調査結果

図 3.3.23 就学している児童生徒の有無 -全県及び地域別- <複数回答>



【問 27-1】 以下の学校の防災教育にかかる設問のための基礎データとして収集しました。

3.3.24 学校の防災教育の家庭での認知度

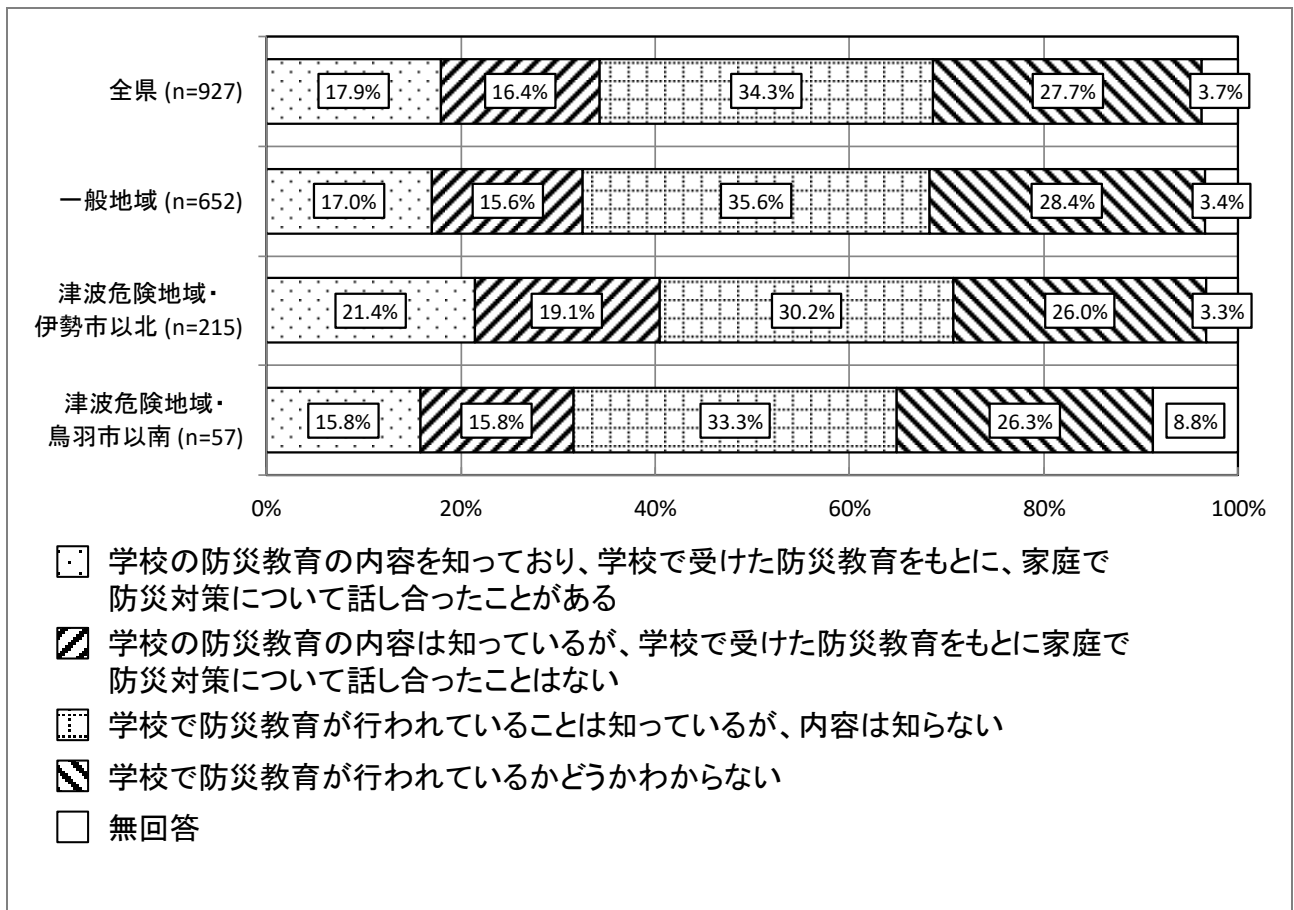
【問 27-1】 三重県では、「防災ノート」等防災教育用の教材を作成・配布し、これらの教材を学校で活用するよう要請する等、学校での防災教育の充実に取り組んでいます。あなたのお住まいの児童生徒が通っている学校の防災教育について、あなたはどの程度ご存知ですか。（一つだけ○）

※ 複数の児童生徒がいる場合は、一番年下の児童生徒が通っている学校についてお答えください。

1. 学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある
 2. 学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない
 3. 学校で防災教育が行われていることは知っているが、内容は知らない
 4. 学校で防災教育が行われているかどうか分からない
- 問 27-2 へ

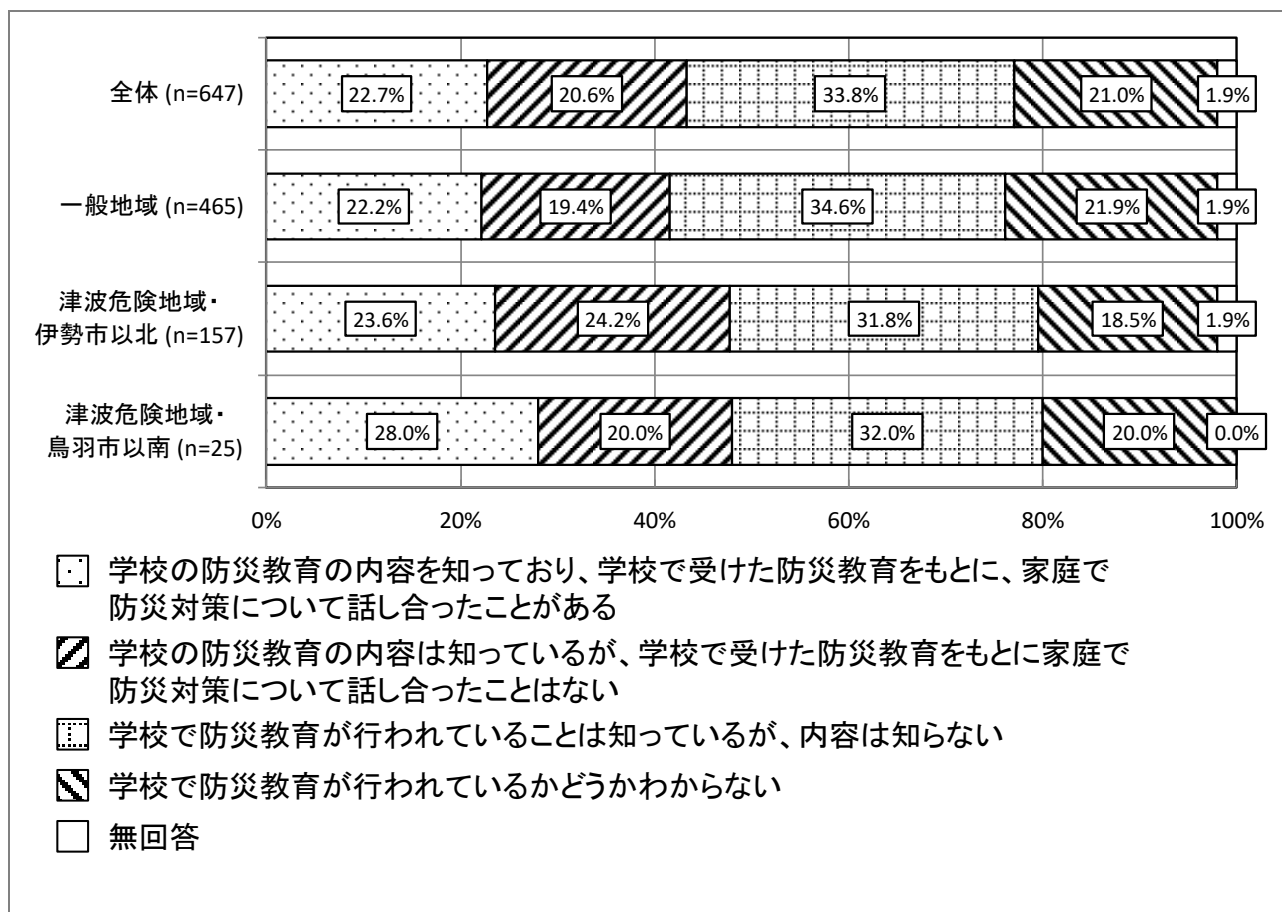
調査結果

図 3.3.24 (1) 学校の防災教育の家庭での認知度 -全県及び地域別-



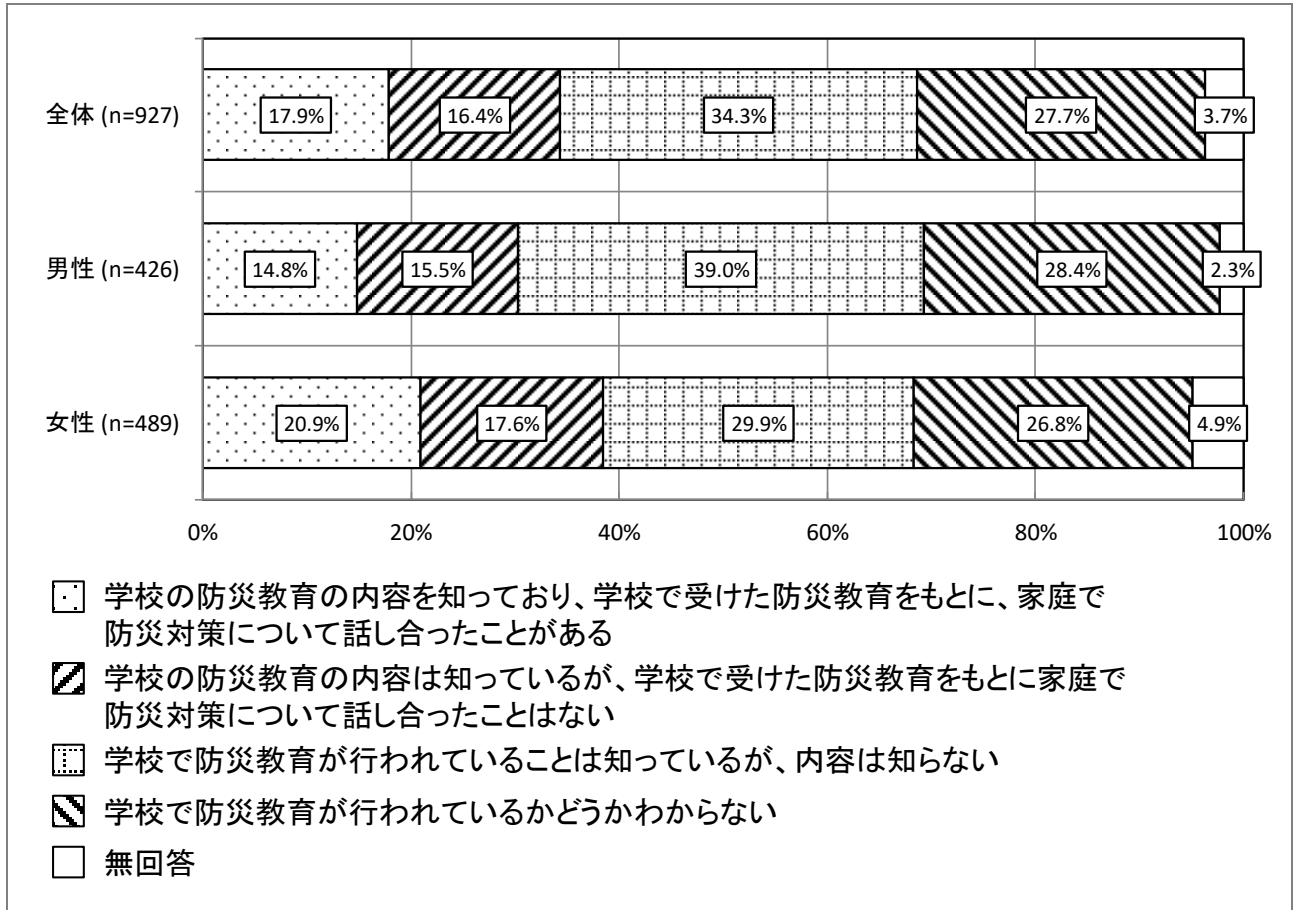
- すべての地域において、小学生から高校生までの児童生徒がいる家庭の約6割以上の方が「学校で防災教育を行っている」ことを認知しています。
- 特に津波危険地域（伊勢市以北）では、「学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある」と答えた方の割合が21.4%と他の地域とくらべて多くなっています。

図 3.3.24 (2) 学校の防災教育の家庭での認知度 - 全県及び地域別 (60 歳未満の方) -



- 保護者である可能性が高い 60 歳未満の方のデータを見ると、すべての地域で全年代以上の割合の方が「学校で防災教育が行われている」ことを認知しています。
- 「学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある」は、いずれの地域でも 60 歳未満の割合が全年代を上回っており、特に津波危険地域（鳥羽市以南）では 60 歳未満は 28.0%、全年代は 15.8%と、60 歳未満が 12.2 ポイント高くなっています。
また、60 歳未満で「学校で防災教育が行われているかどうか分からない」と答えた方の割合は、すべての地域で全年代とくらべて少なくなっています。

図 3.3.24 (3) 学校の防災教育の家庭での認知度 -全県及び性別-



- 性別でみると、「学校の防災教育の内容を知っている」と答えた方の割合の合計は、男性が 30.3%、女性が 38.5%となっており、「学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある」では、男性が 14.8%、女性が 20.9%と、いずれも女性が多くなっています。

3.3.25 防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいもの

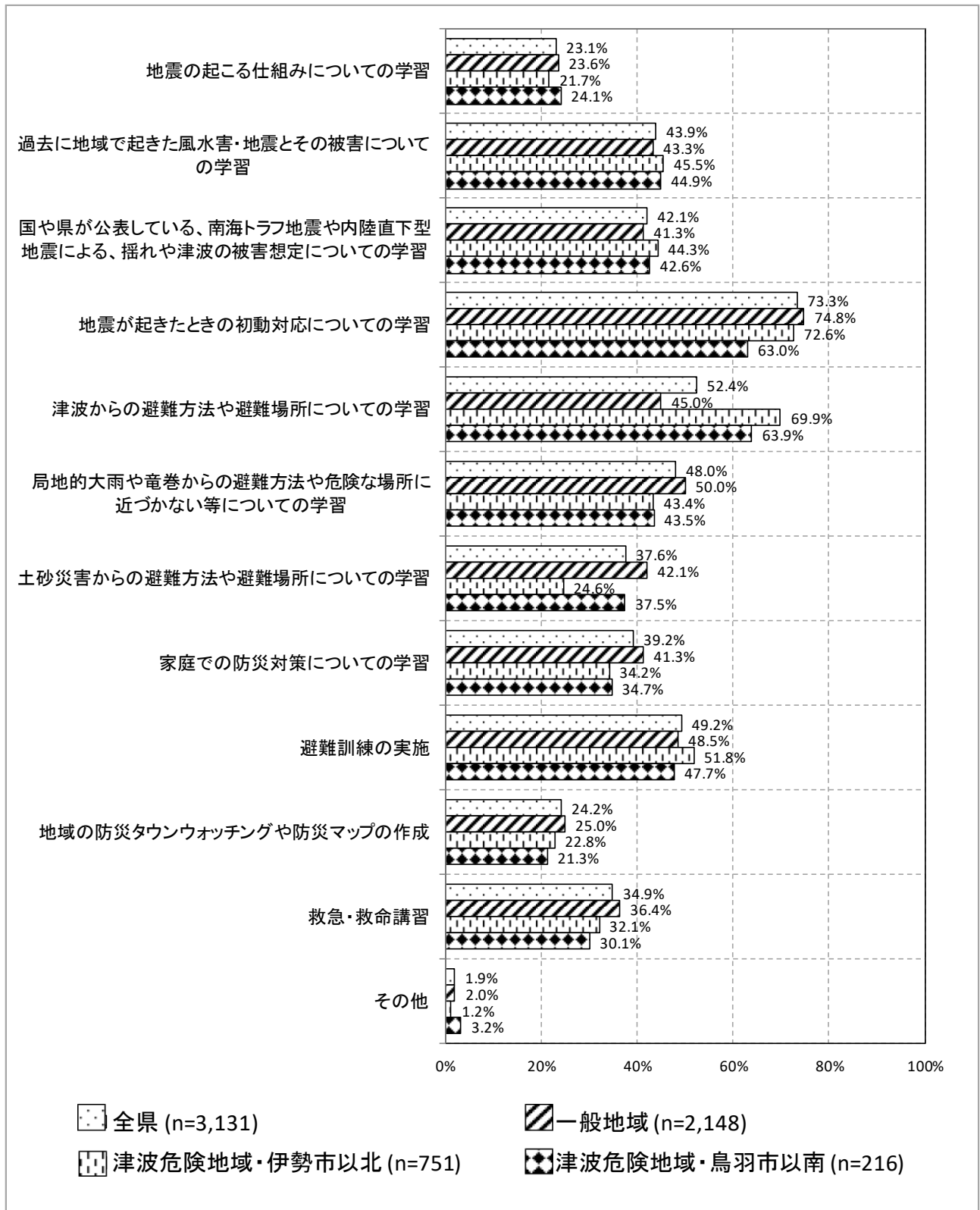
【問 27-2】 防災教育で、学校に特に力を入れて取り組んでほしいものは何ですか。

(いくつでも○)

1. 地震の起こる仕組みについての学習
2. 過去に地域で起きた風水害・地震とその被害についての学習
3. 国や県が公表している、南海トラフ地震や内陸直下型地震による、揺れや津波の被害想定についての学習
4. 地震が起きたときの初動対応についての学習
5. 津波からの避難方法や避難場所についての学習
6. 局地的大雨や竜巻からの避難方法や危険な場所に近づかない等についての学習
7. 土砂災害からの避難方法や避難場所についての学習
8. 家庭での防災対策についての学習
9. 避難訓練の実施
10. 地域の防災タウンウォッチングや防災マップの作成
11. 救急・救命講習
12. その他 具体的に：

問28へ

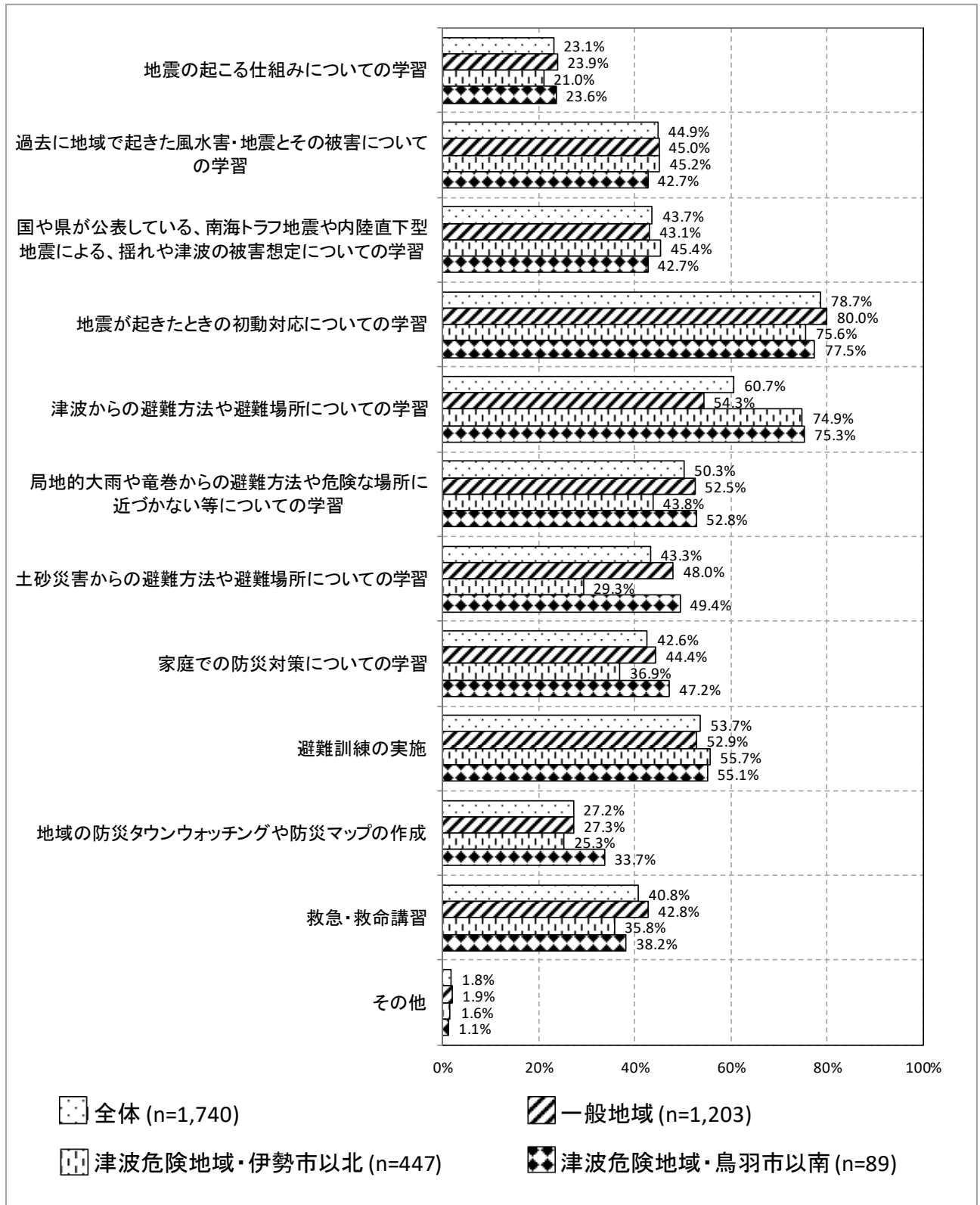
図 3.3.25 (1) 防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいもの
-全県及び地域別- (複数回答)



- 津波危険地域（鳥羽市以南）を除いて「地震が起きたときの初動対応についての学習」が7割強と多くなっています。
- 津波危険地域（鳥羽市以南）では「津波からの避難方法や避難場所についての学習」が63.9%と最も多くなっています。

- 「その他」の回答では、「社会的弱者に対する援助、自己抑制、忍耐、規律の遵守」「危機感を持つため過去の映像、写真で学習」「教師の防災教育（1～11すべて）」「自分で考え判断する力の育成」「旅先など、地元でない（土地勘のない）場所で被災した場合の行動についての学習」「雷の被害についての学習」などがありました。

図 3.3.25 (2) 防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいもの
-全県及び地域別 (60 歳未満の方) -



- 60 歳未満の方に絞ったデータでも、すべての地域で全年代と同じ傾向となっていますが、数値をみると、例えば「地域の防災タウンウォッチングや防災マップの作成」が津波危険地域（鳥羽市以南）で 12.4 ポイント高くなっています。

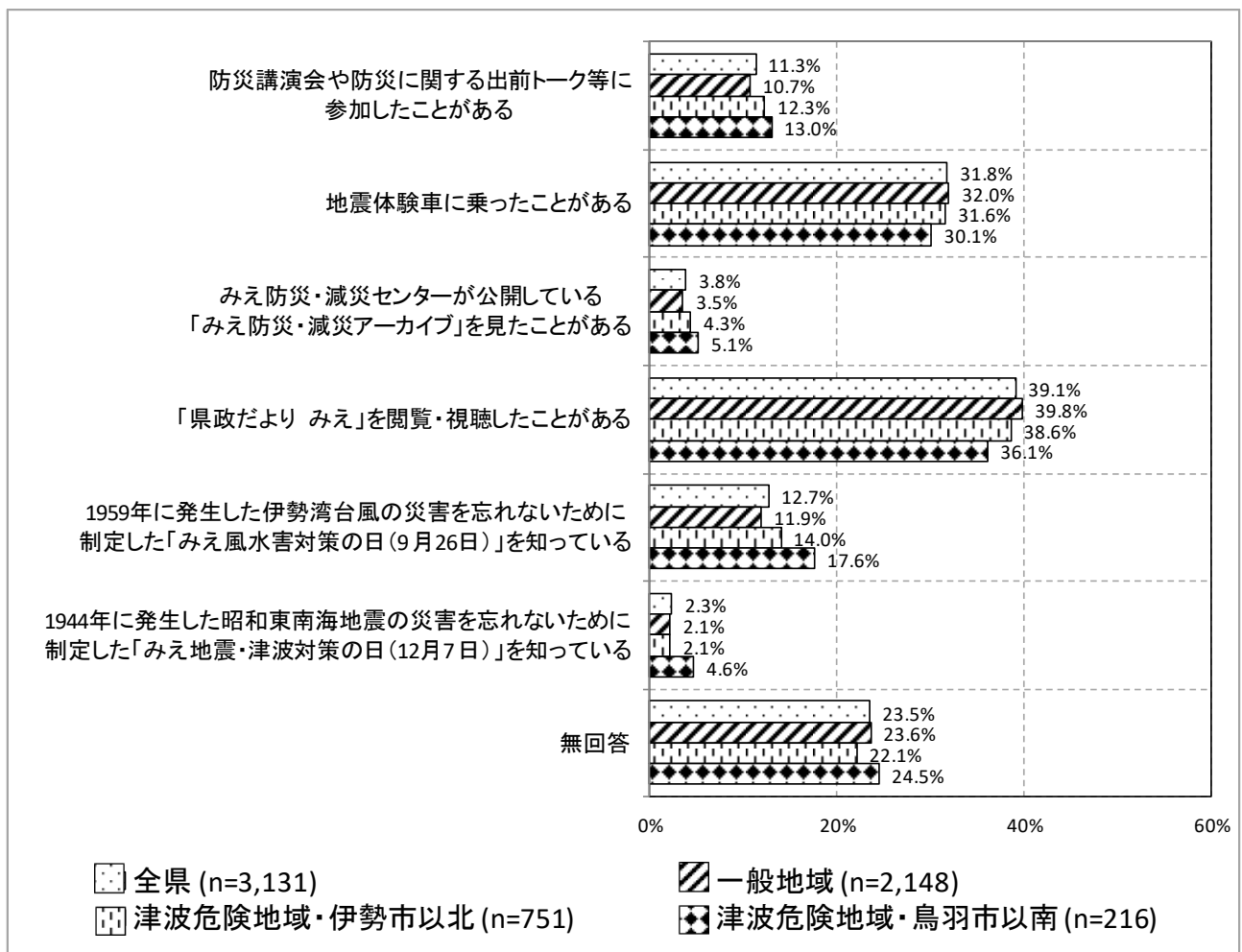
3.3.26 防災に関する啓発活動等の認知度

【問 28】 三重県や市町が取り組んでいる防災に関する啓発活動等についてどの程度ご存知ですか。(いくつでも○)

- | | |
|---|-------------|
| 1. 防災講演会や防災に関する出前トーク等に参加したことがある | } →問 28-1 へ |
| 2. 地震体験車に乗ったことがある | |
| 3. みえ防災・減災センターが公開している「みえ防災・減災アーカイブ」を見たことがある | } →問 29 へ |
| 4. 「県政だより みえ」を閲覧・視聴したことがある | |
| 5. 1959年に発生した伊勢湾台風の災害を忘れないために制定した「みえ風水害対策の日(9月26日)」を知っている | |
| 6. 1944年に発生した昭和東南海地震の災害を忘れないために制定した「みえ地震・津波対策の日(12月7日)」を知っている | |

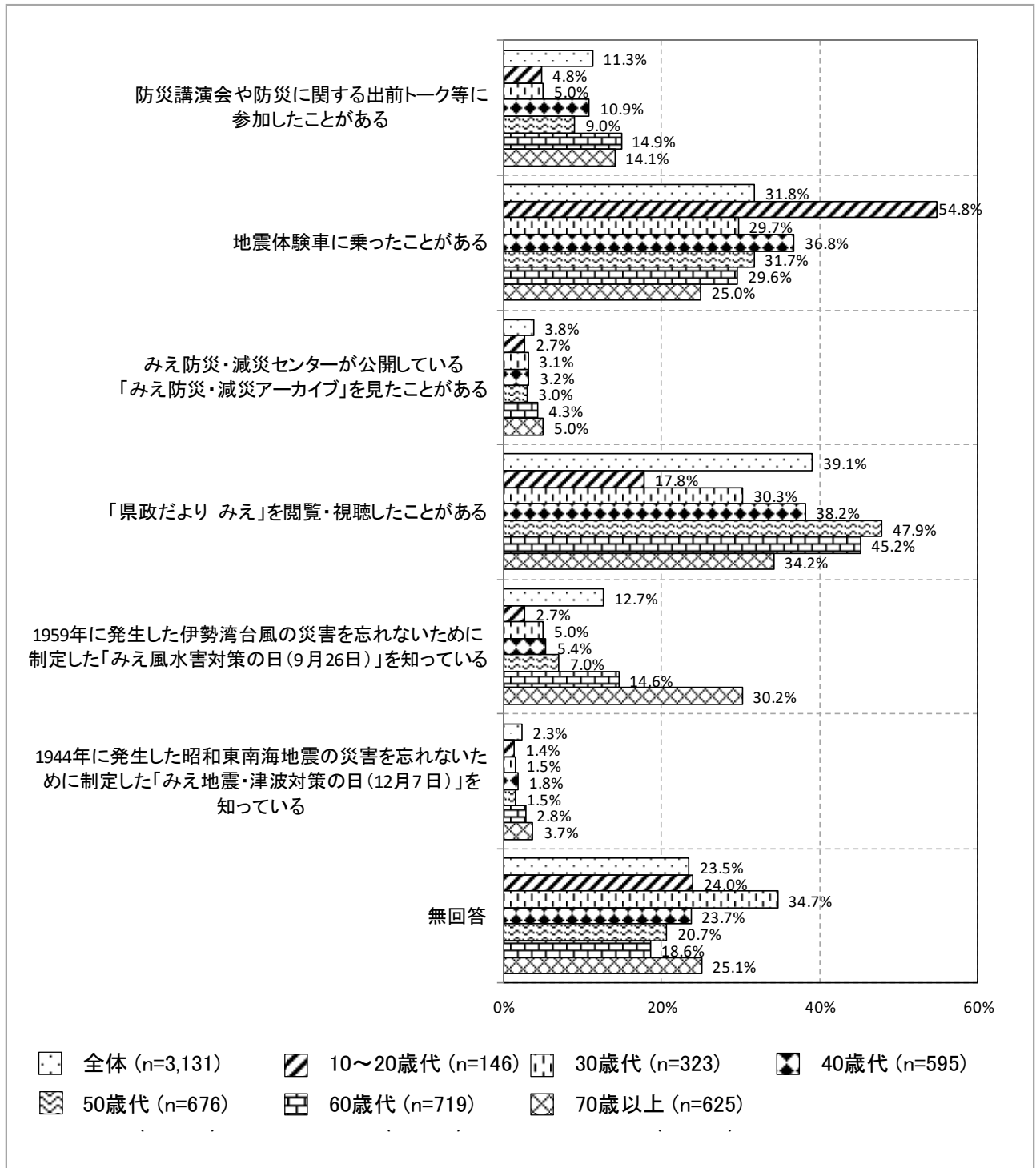
調査結果

図 3.3.26 (1) 防災に関する啓発活動等の認知度 -全県及び地域別- (複数回答)



- すべての地域で「『県政だより みえ』を閲覧・視聴したことがある」が最も多く、次いで「地震体験車に乗ったことがある」が多くなっています。

図 3.3.26 (2) 防災に関する啓発活動等の認知度 -全体及び年代別-



- 年代別でそれぞれ最も割合が高い項目は、10~20歳代では「地震体験車」、その他の年代では「県政だより みえ」となっています。
- 「みえ風水害対策の日(9月26日)を知っている」は70歳以上で3割を超え、認知度が比較的高くなっていますが、「みえ地震・津波対策の日(12月7日)を知っている」は70歳以上でも3.7%にとどまっています。

3.3.27 啓発活動は防災意識の向上に役立ったか

【問 28-1】 問 28 で 1~2 に○を一つ以上付けられた方にお尋ねします。これら防災に関する啓発活動は、あなたの防災意識の向上に役立ちましたか。

啓発活動（一つだけ○）

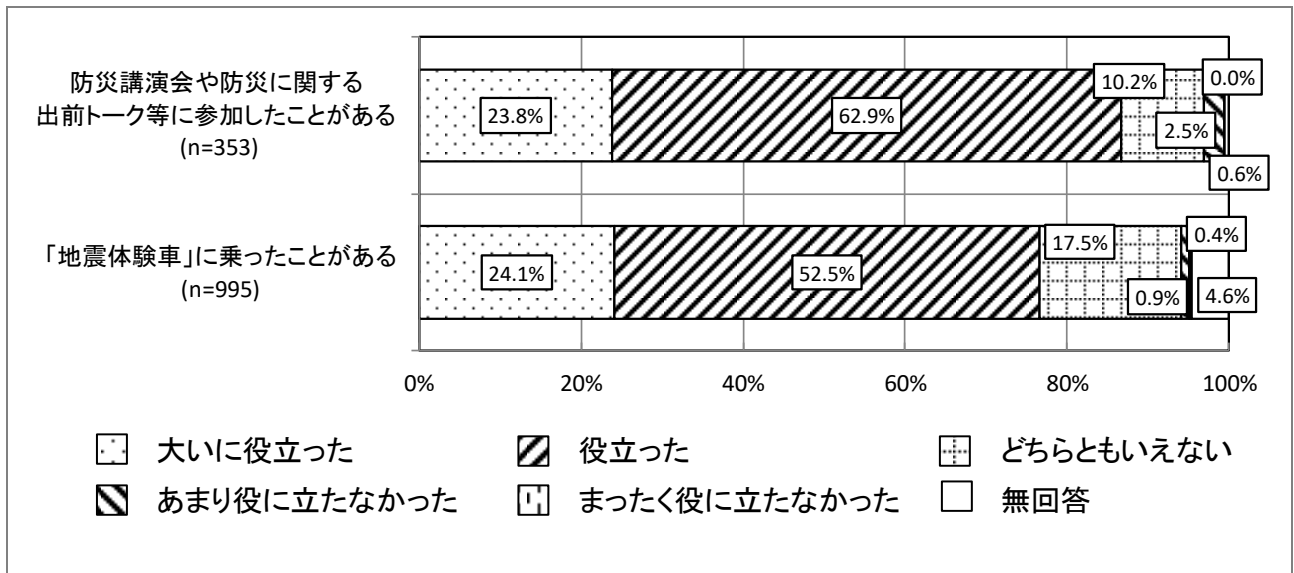
- * 防災講演会や防災に関する出前トーク等に参加したことがある方
- * 「地震体験車」に乗ったことがある方

1. 大いに役立った
2. 役立った
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

} →問 29 へ

調査結果

図 3.3.27 啓発活動は防災意識の向上に役立ったか -全県-



- 「大いに役立った」「役立った」と答えた方の割合の合計は、「防災講演会や防災に関する出前トーク等に参加したことがある」方で 86.7%、「地震体験車に乗ったことがある」方で 76.6%となっています。

3.4 あなたのお住まいの耐震化について

3.4.1 住まいの状況

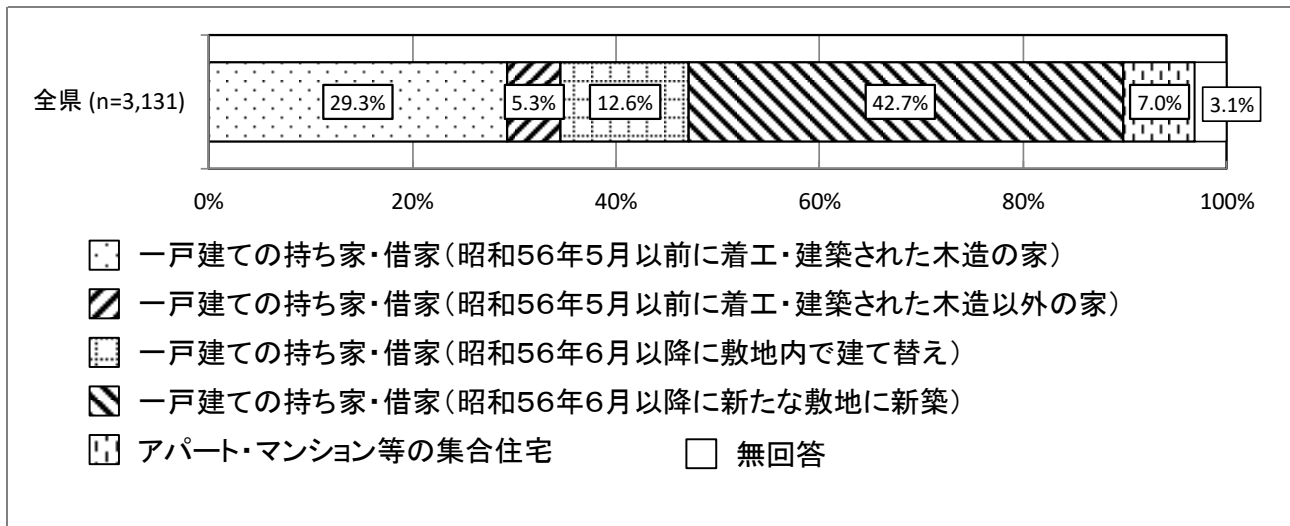
【問 29】 あなたのお住まいは次のうちのどれにあたりますか。(一つだけ○)

※ 増築等がある場合は、一番古い建物でお答えください。

1. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家)	}	→問 30 へ
2. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造以外の家)		
3. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 6 月以降に敷地内で建て替え)	}	→問 31 へ
4. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 6 月以降に新たな敷地に新築)		
5. アパート・マンション等の集合住宅		→質問終了

調査結果

図 3.4.1 住まいの状況 -全県-



【問 30】 以下の設問のための基礎データとして収集しました。

3.4.2 耐震化に向けた補助制度の認知度

【問 30】 県及び市町では、昭和 56 年 5 月 31 日以前に建築された（着工を含む）木造住宅の耐震化に向けた補助等を行っています。あなたは次の制度をご存知ですか。

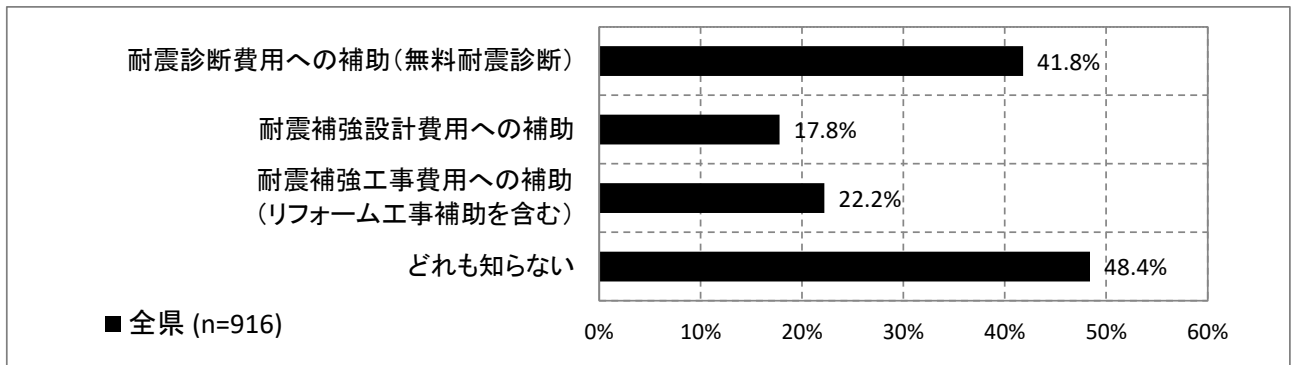
（いくつでも○）

1. 耐震診断費用への補助（無料耐震診断）
2. 耐震補強設計費用への補
3. 耐震補強工事費用への補助（リフォーム工事補助を含む）
4. どれも知らない

} →問 31 へ

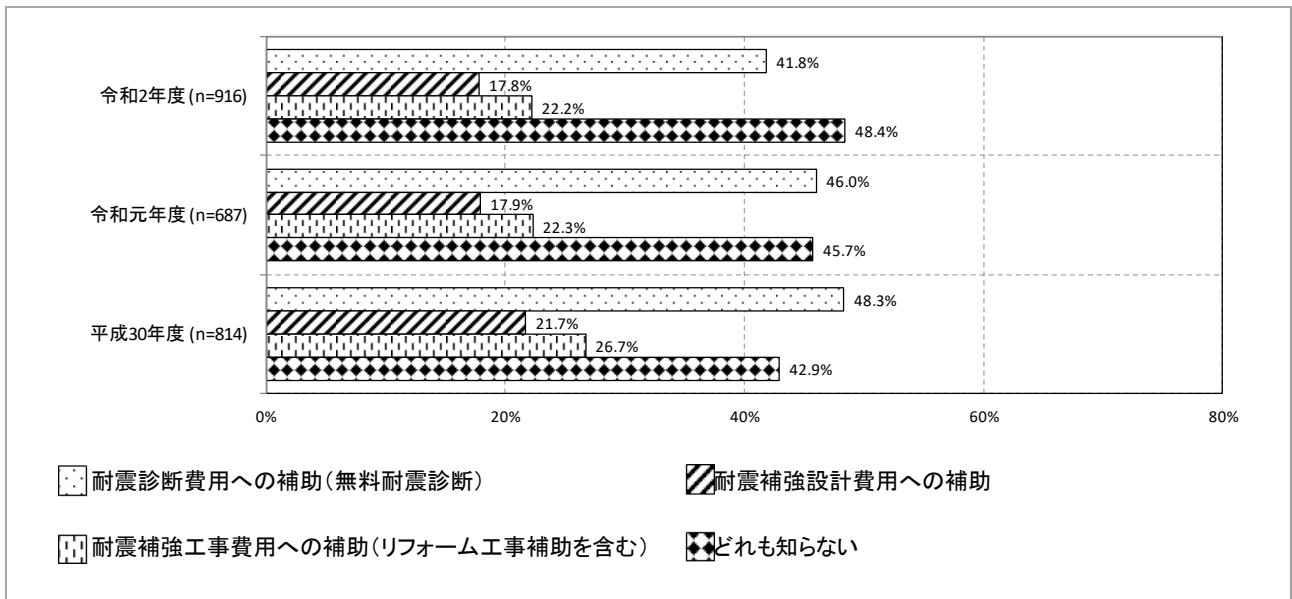
調査結果

図 3.4.2 (1) 耐震化に向けた補助制度の認知度 -全県-〈複数回答〉



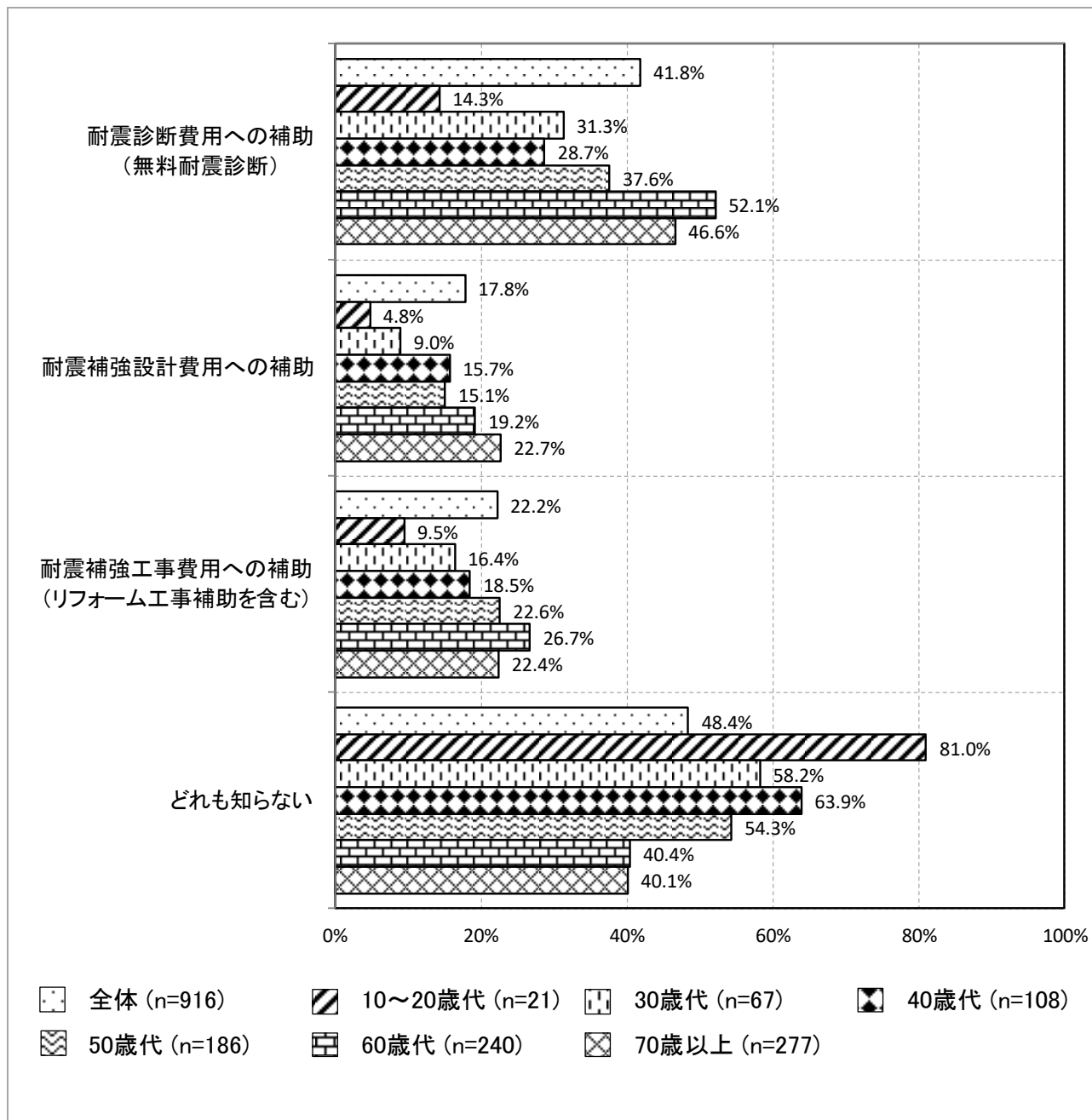
- ・ 「耐震診断費用への補助（無料耐震診断）」と答えた方の割合が最も多く 41.8%と 4 割強の方に認知されています。
- ・ 一方、「どれも知らない」と答えた方は 48.4%と 5 割弱でした。

図 3.4.2 (2) 耐震化に向けた補助制度の認知度
木造住宅耐震診断費用補助制度の認知度 -全県経年変化-



- ・ 経年変化をみると、「耐震診断費用への補助（無料耐震診断）」はやや減少傾向にある一方、「どれも知らない」は増加傾向にあります。

図 3.4.2 (3) 耐震化に向けた補助制度の認知度 -全体及び年代別- <複数回答>



- 「耐震診断費用への補助 (無料耐震診断)」については、60歳代で半数を超える方が、70歳以上で4割を超える方が認知しています。
- 10~20歳代では「どれも知らない」と答えた方の割合が約8割となっています。

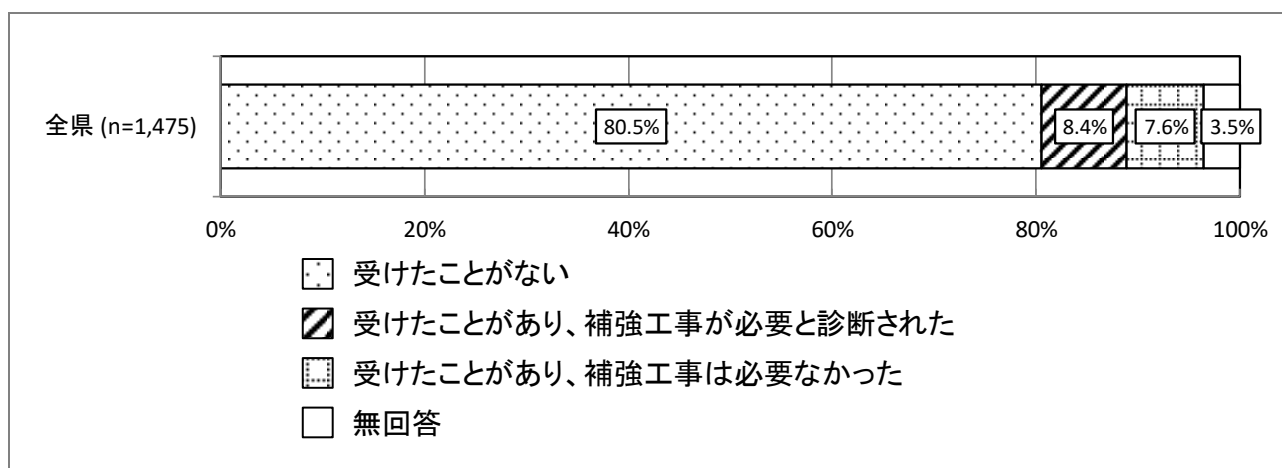
3.4.3 耐震診断の受診の有無と診断結果

【問 31】 あなたのご自宅（同じ敷地内で建替えを行った場合、建替え前の住宅を含む、借家も含む）は、耐震診断を受けたことがありますか。受けたことがある場合は、診断結果はどうでしたか。（一つだけ〇）

- 1. 受けたことがない →問 34 へ
- 2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された →問 31-1 へ
- 3. 受けたことがあり、補強工事は必要なかった →質問終了

調査結果

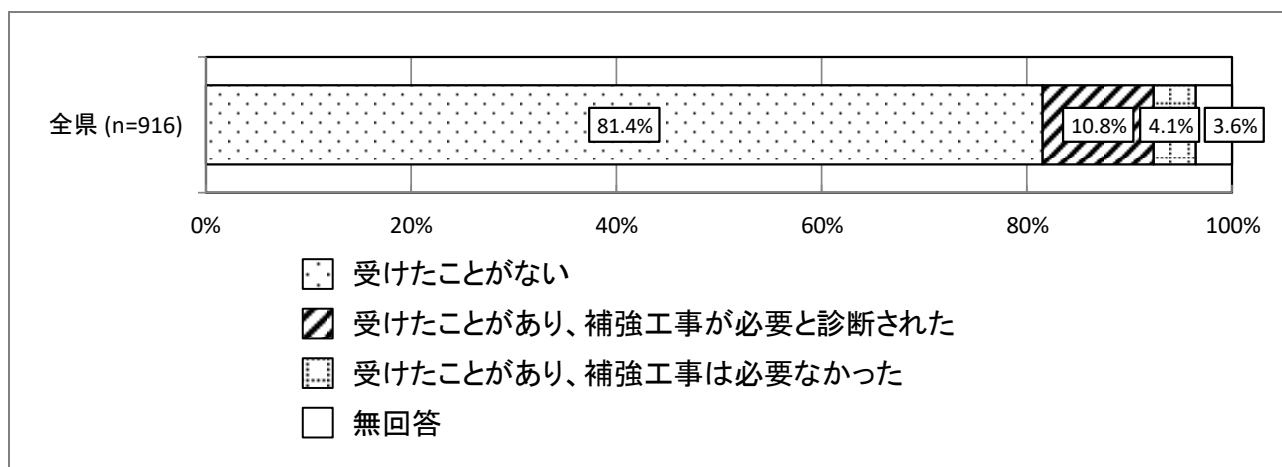
図 3.4.3 (1) 耐震診断の受診の有無と診断結果 -全県-



- 「受けたことがない」と答えた方の割合が約 8 割となっています。
- 一方、「受けたことがある」と答えた方の割合の合計は、16.0%でした。

図 3.4.3 (2) 耐震診断の受診の有無と診断結果

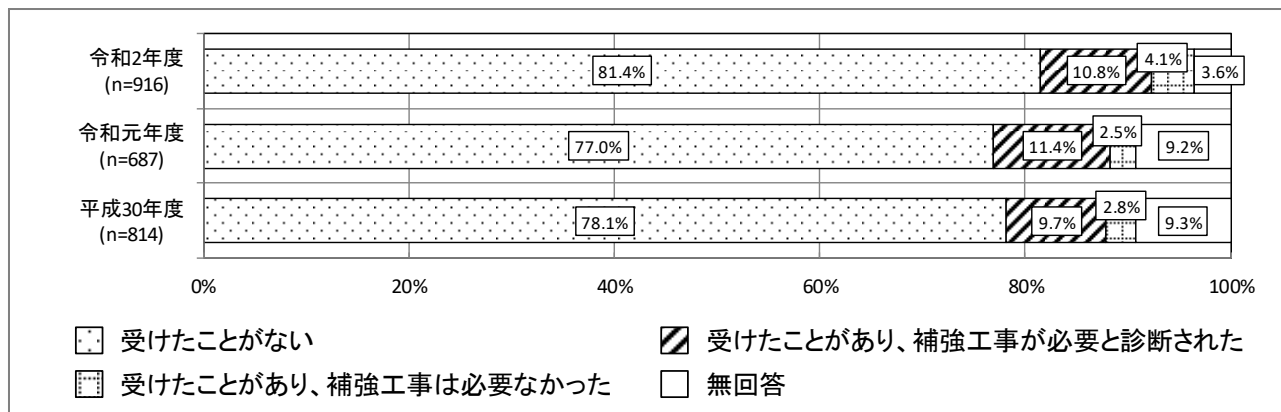
問 29 で「1.一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」と回答された方



- 問 29 で「1.一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」と答えた方に絞ったデータを見ると、「受けたことがない」と答えた方の割合は 81.4%と全体の 80.5%を 0.9 ポイント上回っていますが、全体の数値と大きな違いはありませんでした。

図 3.4.3 (3) 耐震診断の受診の有無と診断結果

問 29 で「1.一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」と回答された方 -経年変化-



- 問 29 で「1.一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」と答えた方の経年変化をみると、「受けたことがない」は 8 割前後、「受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」は 1 割前後で推移し、年度による顕著な変化はありません。

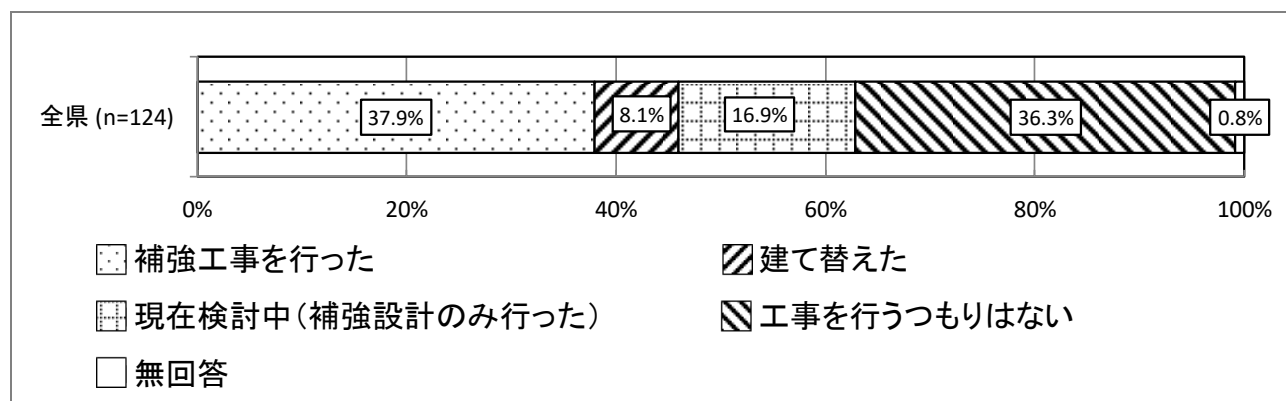
3.4.4 補強工事を行ったか

【問 31-1】 問 31 で「2.受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」と回答された方にお尋ねします。耐震補強が必要と診断された後、補強工事を行いましたか。（一つだけ○）

- 1. 補強工事を行った →問 32 へ
- 2. 建て替えた →質問終了
- 3. 現在検討中（補強設計のみ行った）
- 4. 工事を行うつもりはない } →問 33 へ

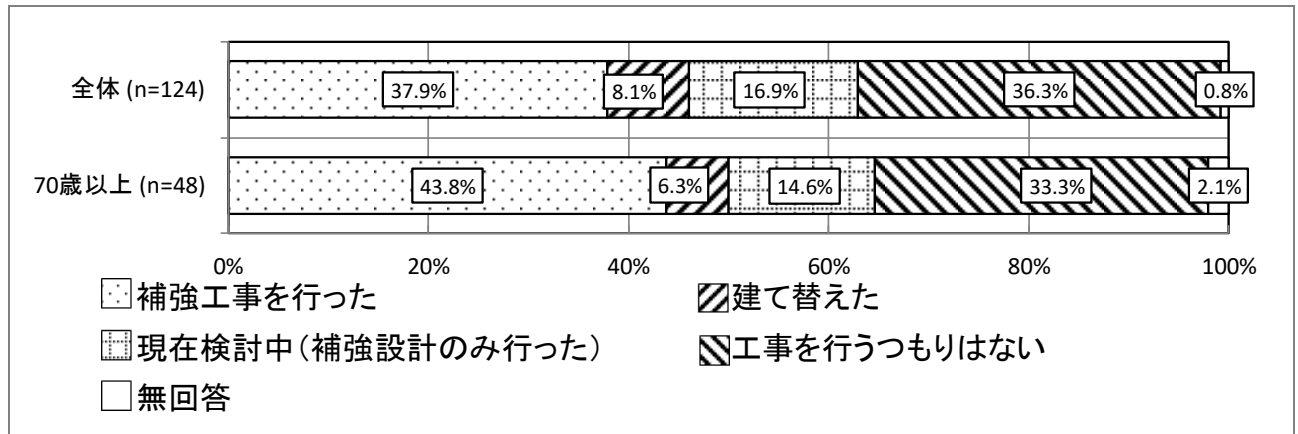
調査結果

図 3.4.4 (1) 補強工事を行ったか -全県-（すべての一戸建て）



- 「補強工事を行ったか」については、「補強工事を行った」が 37.9%、「建て替えた」が 8.1%となっており、耐震補強が必要と診断された方の 4 割以上が住宅の耐震化を行っています。
- 一方、「工事を行うつもりはない」と答えた方の割合は 36.3%でした。

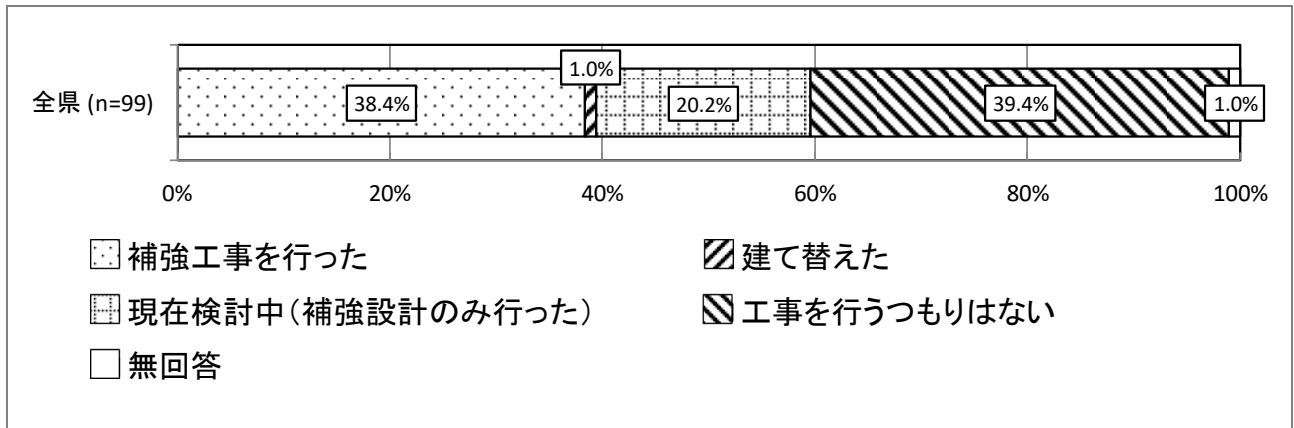
図 3.4.4 (2) 補強工事を行ったか -全体及び70歳以上-



- 「補強工事を行ったか」について全体と70歳以上を比較すると、70歳以上では「補強工事を行った」が43.8%と、全体の37.9%より5.9ポイント高くなっています。

図 3.4.4 (3) 補強工事を行ったか -全県-

問 29 で「1.一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」と回答された方 -全県-



- 問 29 で「1.一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」と回答された方に絞ったデータを見ると、「補強工事を行った」が 38.4%となっています。

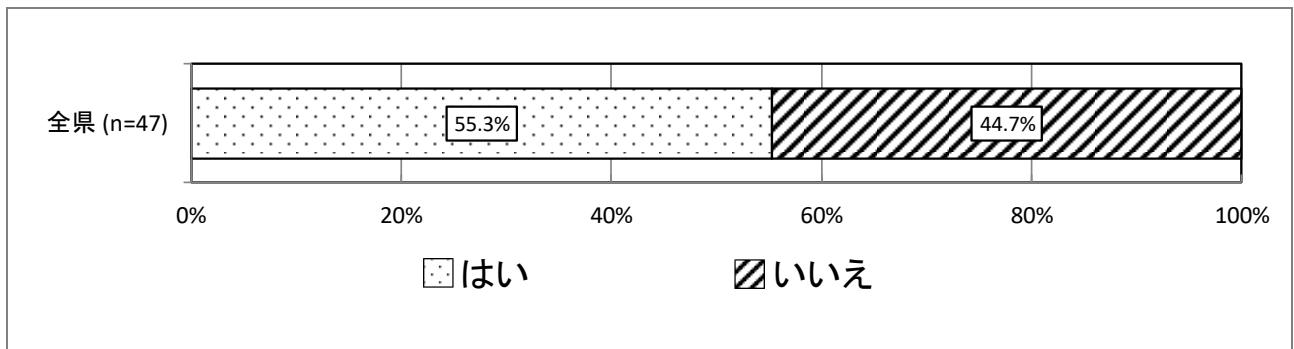
3.4.5 耐震補強工事の補助制度を利用したか

【問 32】 問 31-1 で、「1.補強工事を行った」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事に対する行政の補助制度を利用されましたか。（一つだけ〇）

- はい →質問終了
- いいえ →問 32-1 へ

調査結果

図 3.4.5 耐震補強工事の補助制度を利用したか -全県-



- 補強工事を行った方で耐震補強工事の補助制度を利用した方の割合は 5 割強となっています。

3.4.6 どのような補強工事を行ったか

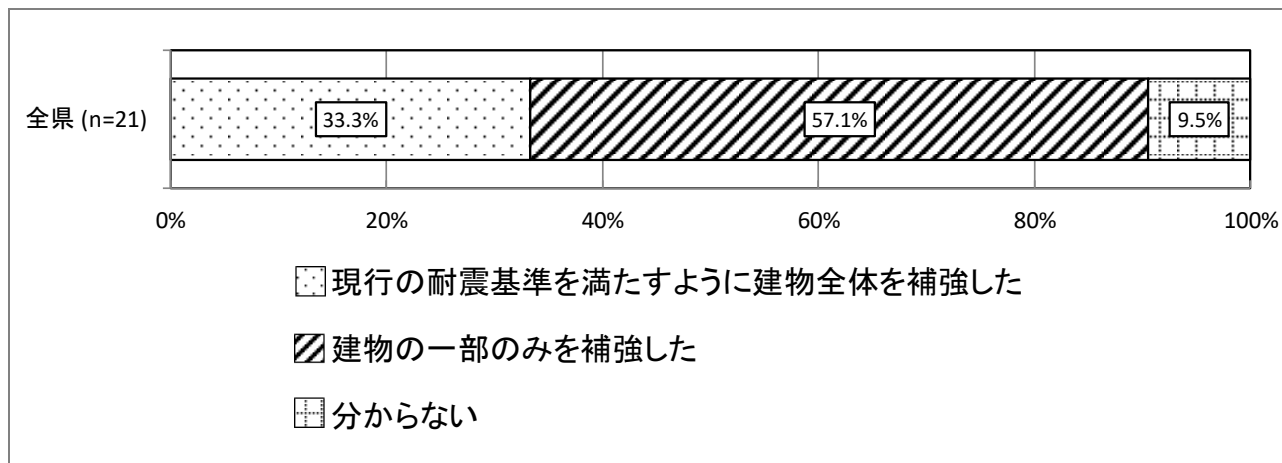
【問 32-1】 問 32 で、「2.いいえ」と回答された方にお尋ねします。どのような耐震補強工事を行いましたか。（一つだけ〇）

1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した
2. 建物の一部のみを補強した
3. 分からない

} →問 32-2 へ
→質問終了

調査結果

図 3.4.6 どのような補強工事を行ったか -全県-



- 問 32 で「2.いいえ」と答えた方がどのような補強工事を行ったかについてみると、「現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」が 33.3%、「建物の一部のみを補強した」が 57.1%となっています。

3.4.7 耐震補強を行った時の工事費

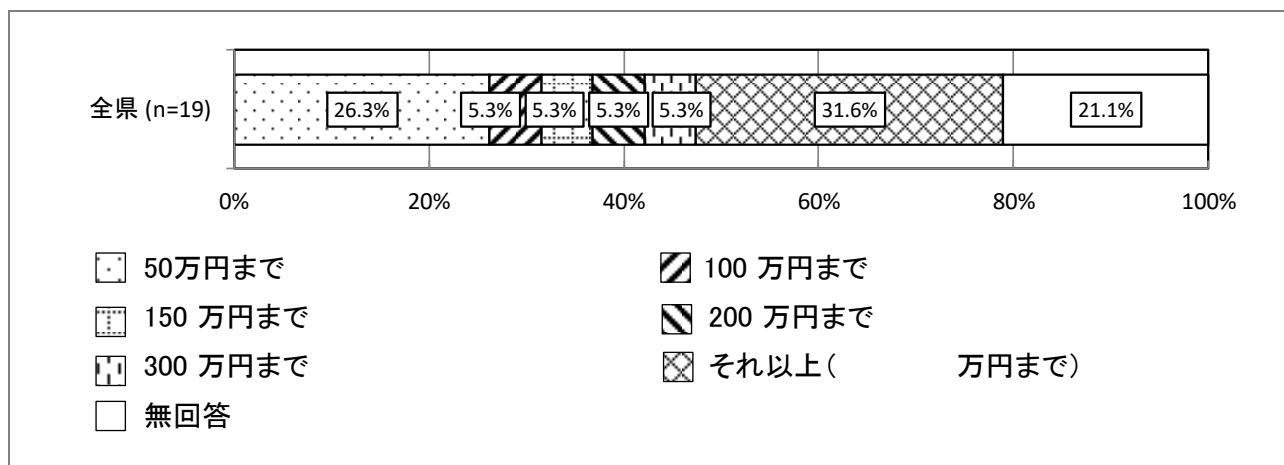
【問 32-2】 問 32-1 で、「1.現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」、「2.建物の一部のみを補強した」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事費はいくら位かかりましたか。(一つだけ○)

1. 50万円まで
2. 100万円まで
3. 150万円まで
4. 200万円まで
5. 300万円まで
6. それ以上()万円位

} →質問終了

調査結果

図 3.4.7 耐震補強を行った時の工事費 -全県-

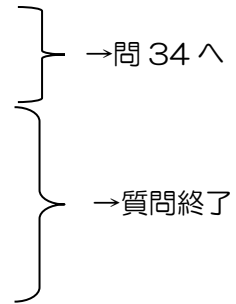


- 問 32-1 で「1.現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」「2.建物の一部のみを補強した」と回答された方の耐震補強工事費については、「50万円まで」が26.3%、「100万円まで」が5.3%となり、「100万円まで（50万円までを含む）」の合計は31.6%となっています。
- 一方、「それ以上」と回答された方も3割を超えており、600万円～2,000万円となっています。

3.4.8 耐震補強をしない理由

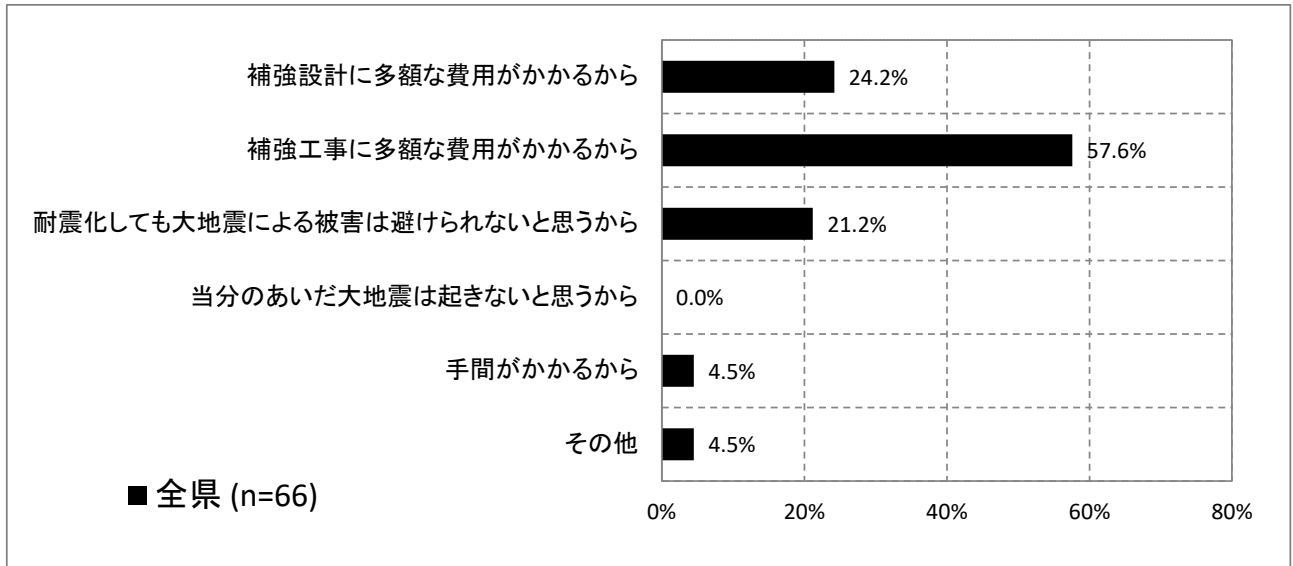
【問 33】 問 31-1 で「3.現在検討中（補強設計のみ行った）」、「4.工事を行うつもりはない」と答えた方にお尋ねします。耐震補強の決心がつかない、耐震補強をしない理由は何ですか。（いくつでも○）

1. 補強設計に多額な費用がかかるから
2. 補強工事に多額な費用がかかるから
3. 耐震化しても大地震による被害は避けられないと思うから
4. 当分のあいだ大地震は起きないと思うから
5. 手間がかかるから
6. その他 具体的に：



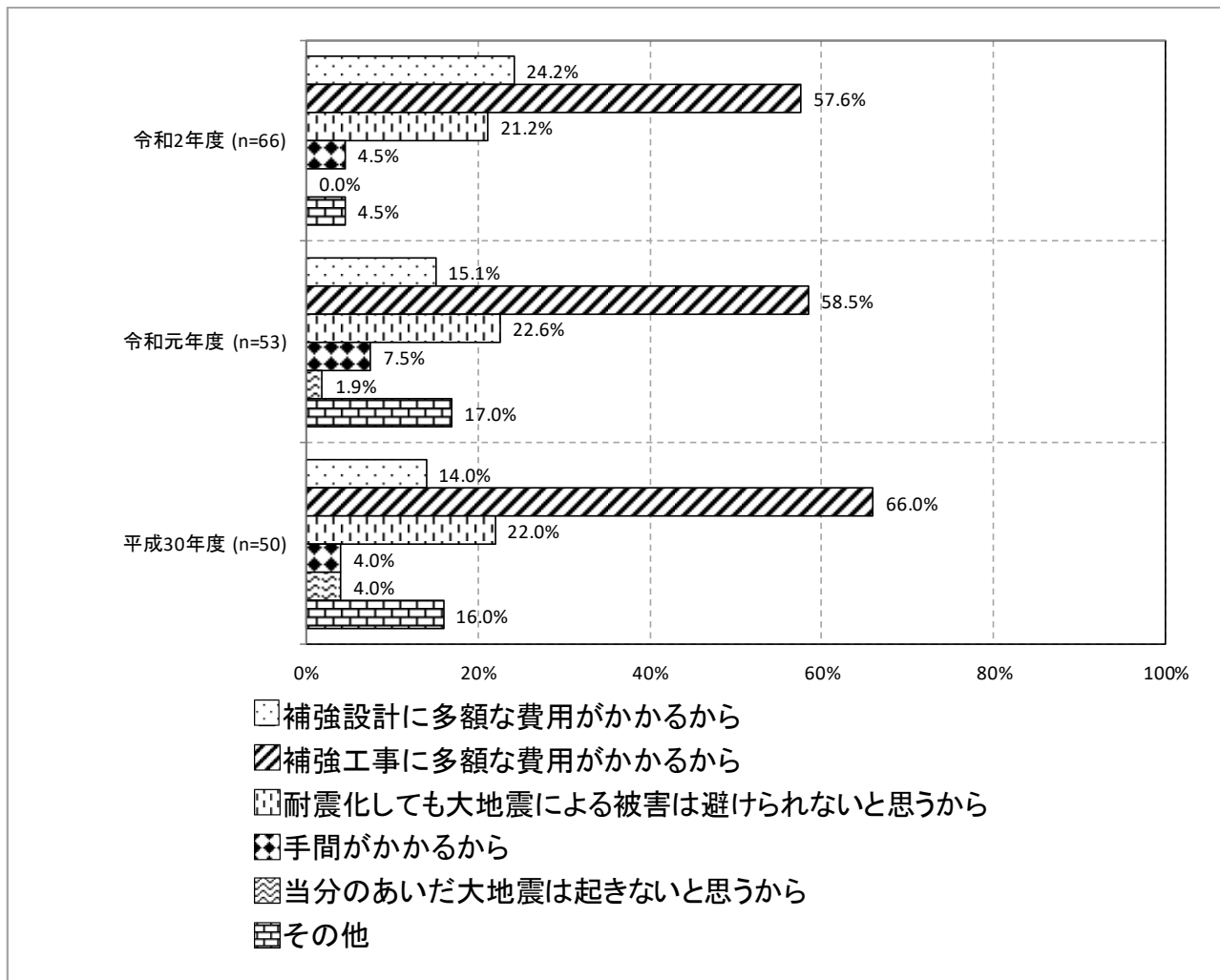
調査結果

図 3.4.8 (1) 耐震補強をしない理由 -全県- (複数回答)



- 問 31-1 で「4.現在検討中」「5.工事を行うつもりはない」と答えた方の「耐震補強をしない理由」については、「補強工事に多額な費用がかかるから」が 57.6%と最も多く、次いで「補強設計に多額な費用がかかるから」が 24.2%でした。
- 「その他」の理由について、「隣接している川が天井川なので建物の下に伏流水があり液状化対策が必要」「後継者がいないため無駄」「多額の費用がかかるが、その効果が限られるため建て替える方が割安であると診断された」などの回答がありました。

図 3.4.8 (2) 耐震補強をしない理由 -全県経年変化- (複数回答)



- 耐震補強をしない理由の経年変化をみると、「補強工事に多額の費用がかかるから」が年々減少、逆に「補強設計に多額の費用がかかるから」が年々増加しています。

3.4.9 耐震補強工事費の許容自己負担額（要補強工事）

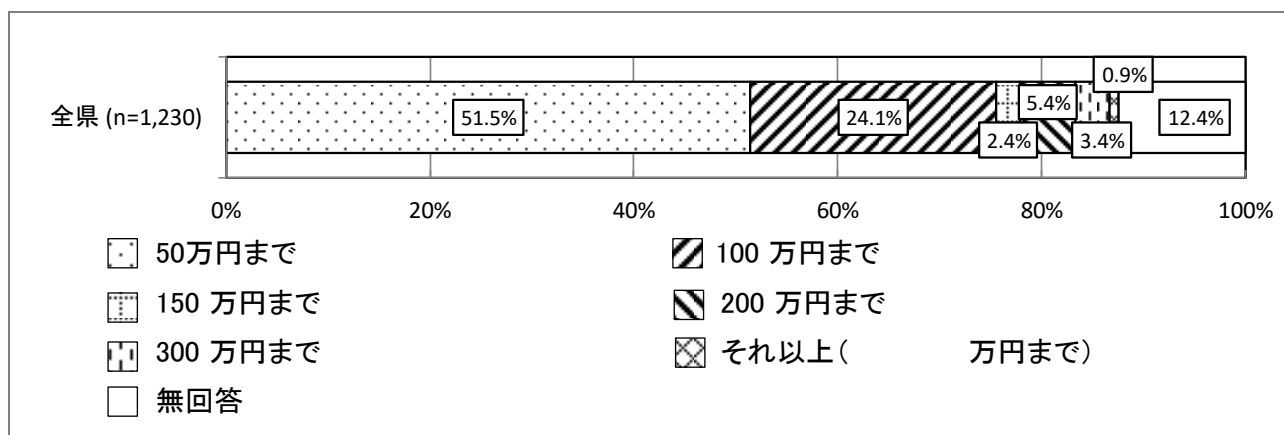
【問 34】 ご自宅の補強工事が必要とされた場合、自己負担がいくら位までなら耐震補強を行いますか。（一つだけ〇）

1. 50万円まで
2. 100万円まで
3. 150万円まで
4. 200万円まで
5. 300万円まで
6. それ以上（ 万円まで）

} →問 35 へ

調査結果

図 3.4.9 耐震補強工事費の許容自己負担額（要補強工事） -全県-



- 耐震補強工事費の許容自己負担額（要補強工事）については、合計で75.6%の方が「100万円まで（50万円までを含む）」であれば耐震補強を行うと答えています。
- 「それ以上」と回答された方では、500万円～1,500万円となっています。

3.4.10 一部分のみの耐震補強工事

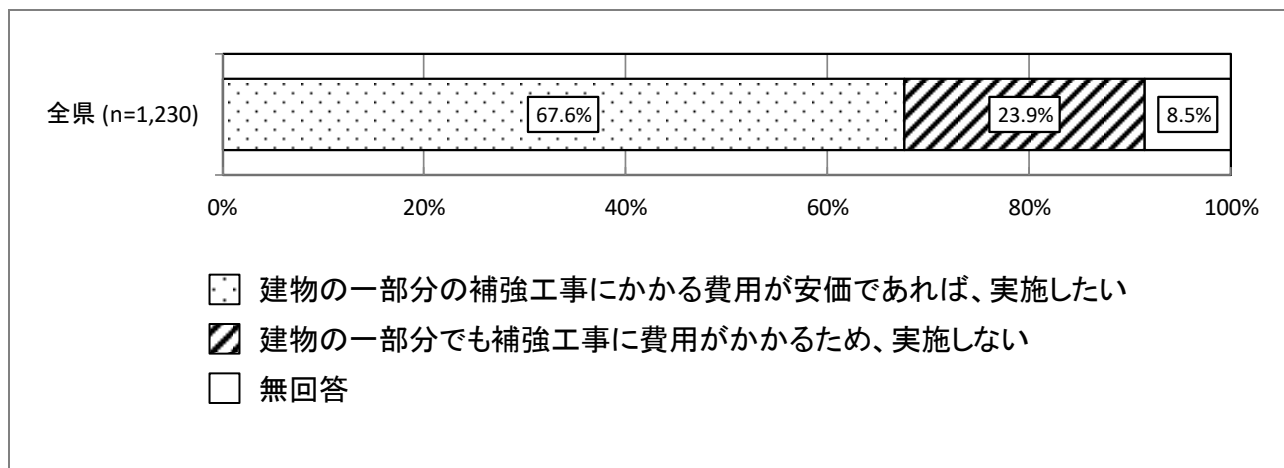
【問 35】 建物全体の安全性は劣るものの、建物の一部分（例えば壁 1 枚のみ）を耐震補強することで少しでも安全性が向上するのであれば、補強したいと思いますか。（一つだけ〇）

1. 建物の一部分の補強工事にかかる費用が安価であれば、実施したい
2. 建物の一部分でも補強工事に費用がかかるため、実施しない

} 質問終了

調査結果

図 3.4.10 一部分のみの耐震補強工事 -全県-



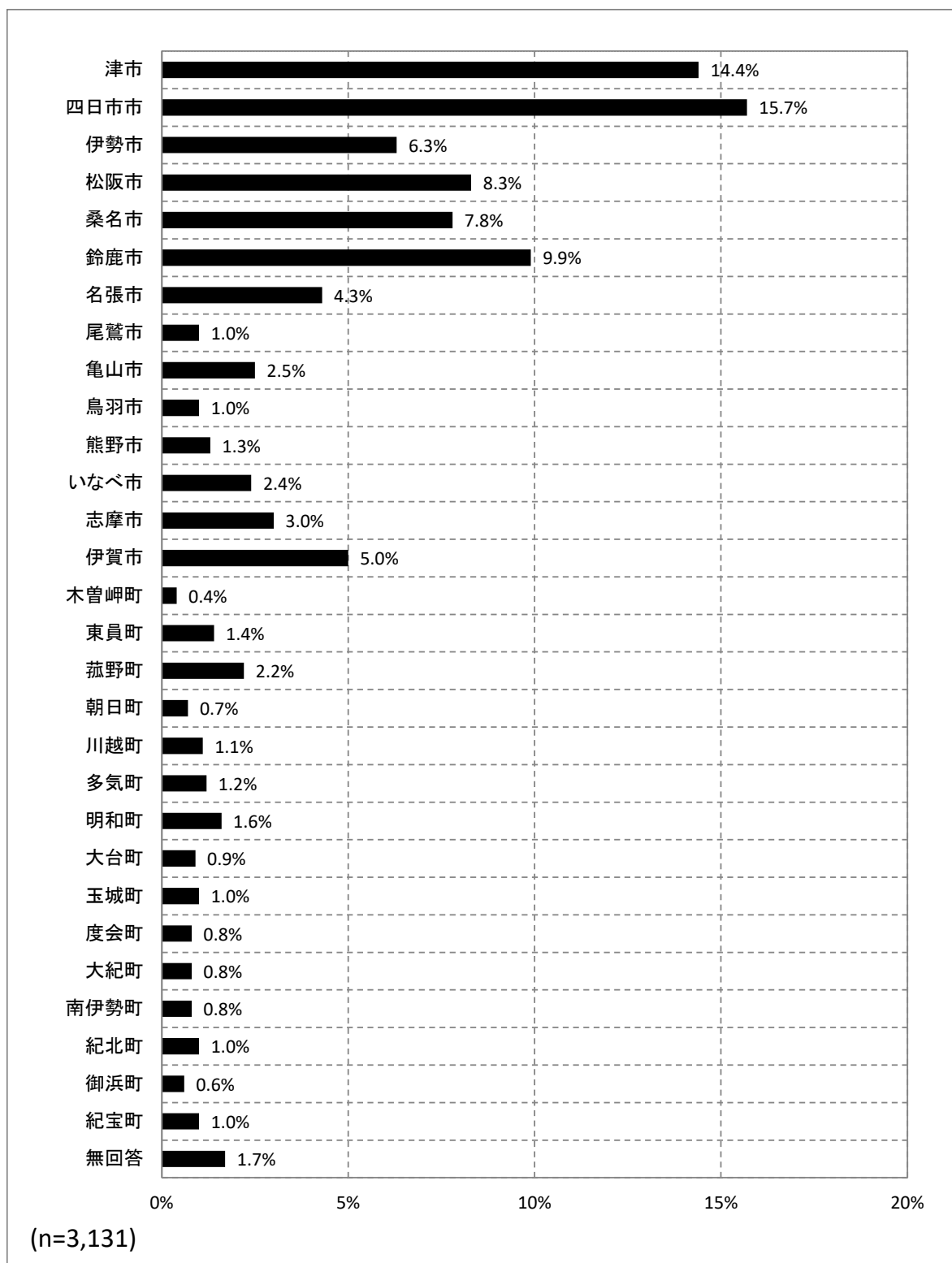
- 問 33 で「1.補強工事に多額な費用がかかるから」と答えた方の建物の部分耐震補強工事の実施に対する考え方については、「安価であれば、実施したい」と考えている方が 67.6%と、全体の 3分の 2 余りを占めています。

3.5 アンケート調査回答者の属性

3.5.1 住所

【F1】 ご自宅のある市町は
市町名（ ）

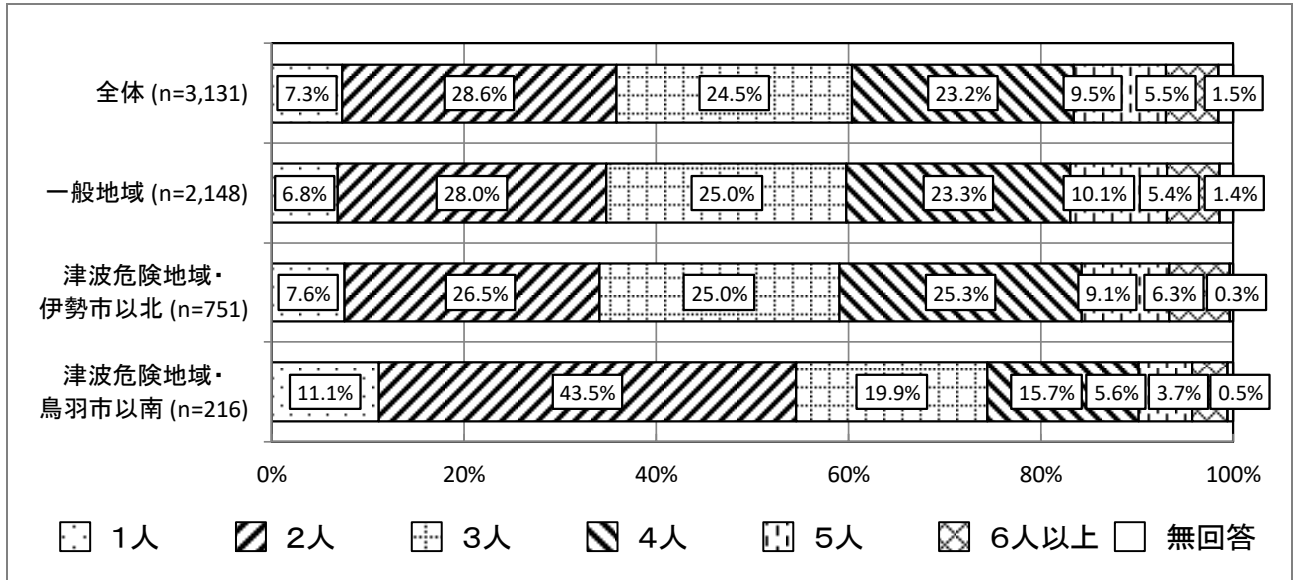
図 3.5.1 住所



3.5.4 家族人員

【F4】 何人家族ですか		
1. 1人	2. 2人	3. 3人
4. 4人	5. 5人	6. 6人以上

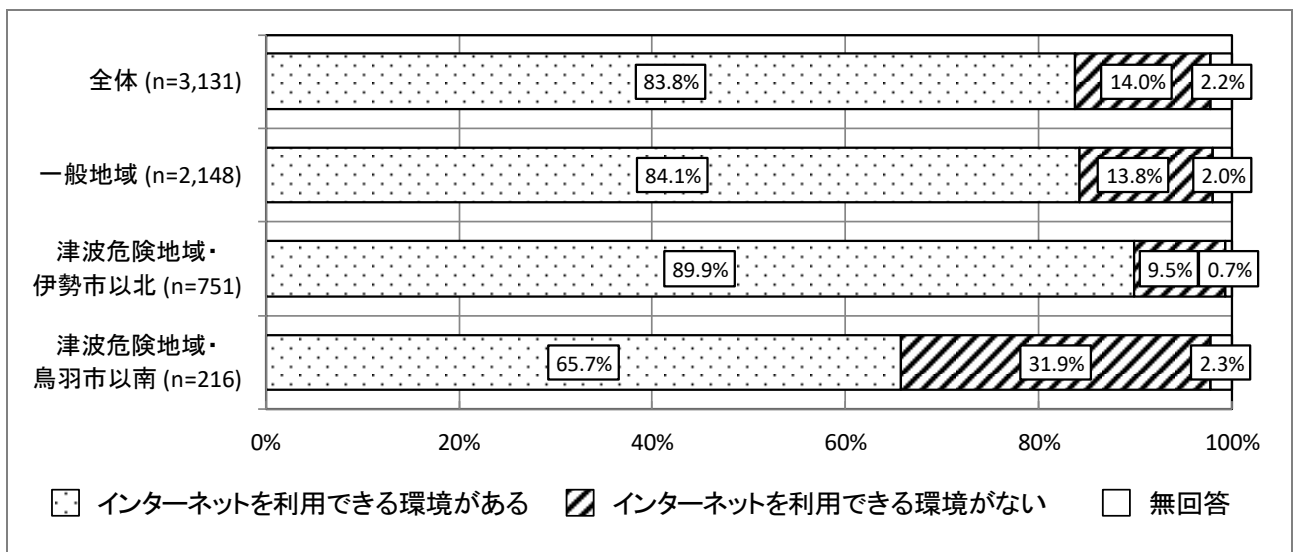
図 3.5.4 家族人員



3.5.5 インターネット接続環境

【F5】 インターネット（スマートフォンや携帯端末等を含む）の接続環境について	
1. インターネットを利用できる環境がある	
2. インターネットを利用できる環境がない	

図 3.5.5 インターネット接続環境



資 料

- 津波危険地域一覧
- 使用した調査票

○津波危険地域一覽

以下の「対象町名」は、三重県が平成24年3月に公表した予測において浸水が想定される町名（部分的な浸水を含む）で、平成24年度の調査の際に各市町確認の上で分類し、「津波危険地域」として統計しました。

市町名	対象町名
津市	白塚町、栗真小川町、栗真中山町、栗真町屋町、一身田中野、一身田豊野、一身田平野、栄町、桜橋、上浜町、江戸橋、島崎町、港町、海岸町、末広町、高洲町、住吉町、藤枝町、津興、藤方、高茶屋小森町、高茶屋小森上野町、雲出本郷町、雲出長常町、雲出伊倉津町、雲出鋼管町、河芸町中別保、河芸町一色、河芸町影重、河芸町上野、河芸町東千里、河芸町中瀬、香良洲町
四日市市	稲葉町、大協町1丁目、大協町2丁目、高砂町、尾上町、千歳町、末広町、東邦町、塩浜町、大字塩浜、石原町、三田町、川合町、天力須賀1丁目、天力須賀2丁目、天力須賀3丁目、天力須賀4丁目、天力須賀5丁目、住吉町、平町、松原町、富洲原町、富田一色町、天力須賀新町、富双1丁目、富双2丁目、東富田町、富田1丁目、富田2丁目、富田3丁目、富田4丁目、南富田町、茂福町、東茂福町、富田浜元町、富田浜町、浜園町、霞1丁目、霞2丁目、大字茂福、羽津町、午起3丁目、三郎町、楠町南五味塚、楠町北五味塚、楠町吉崎、楠町小倉
伊勢市	楠部町、下野町、竹ヶ鼻町、神社港、馬瀬町、大湊町、朝熊町、東豊浜町、榎原町、西豊浜町、磯町、有滝町、村松町、東大淀町、二見町松下、二見町江、二見町茶屋、二見町三津、二見町山田原、二見町溝口、二見町荘、二見町西、二見町今一色、二見町光の街、御園町上條、御園町小林、御園町新開
松阪市	大口町、東久保町、新松ヶ島町、町平尾町、獺師町、松崎浦町、松ヶ島町、六軒町、西黒部町、松名瀬町、高須町、東黒部町、柿木原町、土古路町、出間町、大垣内町、蓮花寺町、神守町、牛草町、垣内田町、乙部町、市場庄町、曾原町、中道町、小津町、喜多村新田町、笠松町、皇合町、五主町
桑名市	吉之丸、三之丸、片町、江戸町、川口町、船馬町、清水町、宝殿町、春日町、風呂町、本町、北魚町、三崎通、相生町、殿町、田町、南魚町、油町、職人町、宮通、京町、吉津屋町、鍛冶町、入江葎町、紺屋町、内堀、伊賀町、柳原、新屋敷、八幡町、外堀、萱町、伝馬町、新町、一色町、矢田碓、西鍋屋町、北鍋屋町、東鍋屋町、南寺町、北寺町、今片町、堤原、今中町、今北町、太一丸、住吉町、大字赤須賀、大字江場、掛樋、大字大福、大字桑名、中央町、中央町一丁目、中央町三丁目、中央町四丁目、中央町五丁目、新築町、常盤町、京橋町、三栄町、八間通、寿町一丁目、寿町二丁目、寿町三丁目、末広町、桑栄町、有楽町、駅元町、参宮通、蓮見町、福島新町、大字東方、大字播磨、大字東汰上、大字蠣塚新田、大字福島、大字上之輪、大字上深谷部、大字今島、大字安永、大字和泉、大字小泉、大字大貝須、大字小貝須、大字福地、大字福江、大字地藏、大字東野、大字萱町、大字立田町、大字太平町、大字福岡町、長島町長島萱町、長島町長島中町、長島町長島下町、長島町又木、長島町源部外面、長島町殿名、長島町東殿名、長島町押付、長島町小島、長島町大倉、長島町出口、長島町間々、長島町高座、長島町中川、長島町平方、長島町西外面、長島町十日外面、長島町大島、長島町駒江、長島町松ヶ島、長島町千倉、長島町下坂手、長島町上坂手、長島町杉江、長島町松之木、長島町新所、長島町西川、長島町鎌ヶ地、長島町葎ヶ須、長島町赤地、長島町福豊、長島町福吉、長島町白鷄、長島町横満蔵、長島町松蔭、長島町浦安、長島町老松
鈴鹿市	寺家町、寺家1丁目、寺家2丁目、寺家3丁目、寺家4丁目、白子1丁目、白子本町、江島本町、東江島町、南長太町、長太新町3丁目、長太新町4丁目、長太旭町6丁目、長太栄町4丁目、長太栄町5丁目、中箕田町、北堀江町、下箕田町、下箕田1丁目、下箕田2丁目、下箕田3丁目、南若松町、北若松町、若松中1丁目、若松東1丁目、若松東2丁目、若松東3丁目、若松北3丁目、磯山町、東磯山1丁目、東磯山2丁目、東磯山3丁目、東磯山4丁目、磯山1丁目、磯山2丁目、磯山3丁目

市町名	対象町名
尾鷲市	林町、中央町、朝日町、港町、中井町、栄町、中村町、野地町、坂場町、宮ノ上町、北浦町、大字天満浦、大字向井、大字大曾根浦、大字行野浦、須賀利町、九鬼町、早田町、三木里町、名柄町、小脇町、三木浦町、古江町、賀田町、曾根町、梶賀町、小川東町、瀬木山町、中川、矢浜1丁目、矢浜3丁目、矢浜4丁目、北浦西町、北浦東町、矢浜大道、国市松泉町
鳥羽市	鳥羽1丁目、鳥羽2丁目、鳥羽3丁目、鳥羽4丁目、鳥羽5丁目、小浜町、堅神町、池上町、安楽島町、大明東町、大明西町、船津町、相差町、国崎町、畔蛸町、千賀町、堅子町、石鏡町、浦村町、桃取町、答志町、菅島町、神島町、坂手町
熊野市	須野町、甫母町、二木島里町、二木島町、遊木町、新鹿町、波田須町、磯崎町、大泊町、木本町、井戸町、有馬町、久生屋町
志摩市	阿児町鶴方、阿児町神明、阿児町立神、阿児町志島、阿児町甲賀、阿児町国府、阿児町安乗、浜島町浜島、浜島町南張、浜島町檜山路、浜島町塩屋、浜島町迫子、大王町波切、大王町船越、大王町畔名、大王町名田、志摩町片田、志摩町布施田、志摩町和具、志摩町越賀、志摩町御座、磯部町下之郷、磯部町飯浜、磯部町穴川、磯部町坂崎、磯部町の矢、磯部町三ヶ所、磯部町渡鹿野
桑名郡木曾岬町	全域
三重郡朝日町	大字縄生、大字小向、大字柿
三重郡川越町	全域
多気郡明和町	大字川尻、大字北藤原、大字浜田、大字八木戸、大字根倉、大字養川、大字中村、大字南藤原、大字内座、大字大堀川新田、大字大淀甲、大字大淀乙、大字山大淀、大字大淀
度会郡大紀町	錦
度会郡南伊勢町	五ヶ所浦、船越、中津浜浦、飯満、内瀬、伊勢路、迫間浦、礪浦、相賀浦、田曾浦、宿浦、泉、神津佐、下津浦、木谷、棚橋竈、新桑竈、古和浦、栃木竈、小方竈、方座浦、神前浦、村山、河内、東宮、奈屋浦、贄浦、慥柄浦、道方、大江、道行竈、阿曾浦、大方竈
北牟婁郡紀北町	三浦、道瀬、海野、長島、東長島、相賀、引本浦、矢口浦、白浦、島勝浦、古里
南牟婁郡御浜町	大字阿田和、大字下市木、大字志原
南牟婁郡紀宝町	井田、鶴殿、北檜杖、成川、鮎田

防災に関する県民意識調査

調査目的

このたび、この調査票をお受け取りいただいたあなたに、令和2年度の「防災に関する県民意識調査」への協力をお願いすることになりました。

この調査は、県内市町の選挙人名簿から18歳以上の県民の皆さん5,000人を無作為に抽出し、皆さんの防災に関する意識を把握して、今後の三重県の防災対策に活用することを目的に行います。

平成23年に東北地方を始めとする多数の県に甚大な被害をもたらした東日本大震災、平成28年の熊本地震、さらに平成30年7月豪雨、令和2年7月豪雨のように、毎年、全国各地に被害をもたらしている地震や風水害などの自然災害は、私たちが生きていくうえで逃れようのないものです。

このような今後も起こりうる自然災害による被害を最小限に抑えるためには、県民の皆さんを始め、自主防災組織、消防団、事業者、行政等がそれぞれ「自助」・「共助」・「公助」の責務と役割を理解し、お互いに連携して“災害に備える”ために「防災の日常化」をめざすことが大切です。

そのため、三重県では防災対策を県政の最重要課題に掲げ、今後30年以内に関風水害への“備え”を重点的に進めているところです。

この調査は、今後、三重県が防災施策を適切に進めるにあたって、重要な基礎データとなるものです。お忙しいところ誠に恐れ入りますが、本調査にご協力くださいますようお願いいたします。

なお、ご回答いただいた内容は、防災に関する県民意識の調査のみを目的に、個人を特定しない統計情報として利用するものであることをお知らせします。

令和2年10月

三重県防災対策部

調査機関 (お問い合わせ先)	三重県防災対策部 防災企画・地域支援課 防災企画班 電話 059-224-2184 ファクス 059-224-2199 e-mail bosai@pref.mie.lg.jp
-------------------	---



一ご記入にあたってのお願い一

1. この調査は、できるだけあて名にある「ご本人」がお答えください。(※)
 (※) ご本人様による回答が難しい場合は、ご家族やお知り合いの方がご自身の立場でご記入いただけますようご協力をお願いいたします。
2. 回答は、直接、調査票にご記入ください。
3. 選択肢の中から当てはまるものを選び、その番号を○で囲んでください。
 ただし、問17-1、問17-2については、設問の指示に従ってください。
 また、「その他()」に当てはまる場合には、ご面倒ですが詳しくご記入ください。
4. 回答によっては、次の質問を飛ばしていくところがありますので、ご注意ください。
5. 回答いただいた調査票は、10月23日(金)までに同封の返信用封筒に入れ、**切手を貼らずに郵便ポストへ投函**してください。
6. この調査に関するご質問は、下記に記載の調査機関までお問い合わせいただけますようお願いいたします。

「防災みえ」からのお知らせや、過去の調査結果を見ることができます。

<http://www.bosaimie.jp/>

調査機関 (お問い合わせ先)	三重県防災対策部 防災企画・地域支援課 防災企画班 電話 059-224-2184 ファクス 059-224-2199 e-mail bosai@pref.mie.lg.jp
-------------------	---

【調査票】防災に関する県民意識調査

～あなた自身とご家族について～

最初に、あなたご自身とご家族等についてお尋ねします。それぞれにあてはまる番号に○を付けてください（F1については市町名をご記入ください）。
 これらは、回答を統計的に分析するために必要な情報です。無記名式であり、集計した結果のみを使用しますので、個人の情報が特定されることは一切ございません。ご協力をお願いします。

F1 ご自宅のある市町は
 市町名 ()

F2 性別は
 1. 男性 2. 女性 3. ()

F3 お年は
 1. 10～20 歳代 2. 30 歳代 3. 40 歳代
 4. 50 歳代 5. 60 歳代 6. 70 歳以上

F4 何人家族ですか
 1. 1 人 2. 2 人 3. 3 人
 4. 4 人 5. 5 人 6. 6 人以上

F5 インターネット（スマートフォンや携帯端末等を含む）の接続環境について
 1. インターネットを利用できる環境がある
 2. インターネットを利用できない環境がない

～地震・津波対策について～

【問 1】 平成 28 年の東日本大震災の発生から 9 年あまりが経過し、平成 28 年には熊本地震、平成 30 年には大阪府北部を震源とする地震や北海道胆振東部地震が発生しましたが、この一連の地震災害を受け、あなたの防災意識に変化はありますか。
 (一つだけ○)

1. 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識をもち続けている
 2. 東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている
 (またはさらに高まった)
 3. 東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
 4. 東日本大震災発生時に危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった
 5. 東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に危機意識は持たなかった
 →問 2 へ

【問 2】 夜遅くあなたが自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが 1 分以上続き、停電もします。揺れが収まった後、あなたは避難しますか。(一つだけ○)

1. すぐに避難する
 2. しばらく様子を見てから避難する
 3. 避難しない
 →問 2-1 へ
 →問 2-2 へ
 →問 2-3 へ

【問 2-1】 問 2 で「1. すぐに避難する」と答えた方にお尋ねします。あなたが避難する主な理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 津波に襲われる危険があるから
 2. がけ崩れ、山崩れの危険があるから
 3. 余震で家が倒壊する危険があるから
 4. 他所で発生した火災が延焼する危険があるから
 5. その他 (具体的に:)
 →問 3 へ

【問 2-2】 問 2 で「2. しばらく様子を見てから避難する」と答えた方にお尋ねします。あなたが避難を遅らせた主な理由は向ですか。(いくつでも○)

1. テレビ等で地震の規模や津波の危険性等を確認してから避難の必要性を検討するから
2. 市町から津波に対する避難勧告や避難指示(緊急)が出た段階で避難を検討するから
3. 避難場所の安全を確認するから
4. 近所の人たちと相談して避難の必要性を検討するから
5. 電気やガス、水道が止まり、生活できなくなっから避難を検討するから
6. 電気やガス等火災原因となるものの安全確認をするから
7. その他(具体的に:)

→問 3へ

【問 2-3】 問 2 で、「3. 避難しない」と回答された方にお尋ねします。あなたが避難しない理由として最もあてはまるものは次のうちどれですか。(いくつでも○)

1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから
5. 内陸地であるから
6. 自宅が安全だから
7. 介護が必要等、避難が困難な家族がいるから
8. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
9. ペットを残して避難することに抵抗があるから
10. 面倒だから
11. その他(具体的に:)

→問 3へ

このアンケートでは、避難場所と避難所の用語について、次のとおり使い分けられています。
 ※避難場所：津波や大規模火災等から緊急かつ一時的に避難するための場所
 ※避難所：災害により短期間の避難生活を余儀なくされた場合に、一定期間の避難生活を行う建物(避難所が避難場所を兼ねている場合もあります。)

【問 3】 三重県では、「三重県地震被害想定調査結果」として、各地の震度予測や津波浸水予測等を公表しています。あなたは、この調査結果をご存知ですか。(一つだけ○)

1. 県のホームページで確認し、調査結果を知っている
2. 防災訓練や研修会等で教えてもらい、ある程度知っている
3. テレビや新聞等で、概要は知っている
4. 地震被害想定調査をしたことは知っているが、内容は知らない
5. 地震被害想定調査が行われたことを知らなかった

※「三重県地震被害想定調査結果」では、津波浸水予測図のほか、津波からの避難行動がとれなくなる“津波により浸水深30cmに到達するまでの到達予測時間分布図”を公表しています。

→問 4へ

【問 4】 平成 28 年には熊本地震、平成 30 年には大阪府北部を震源とする地震や北海道胆振東部地震が発生しましたが、これらの地震を受け、あなたはお住まいの地域で内陸直下型地震の危険性についてどの程度知っていますか。(一つだけ○)

1. 熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生する以前から、自宅周辺で活断層が近くにあること(または、ないこと)を知っていた
2. 熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生して、内陸直下型地震の危険性を実感したので、情報収集を行い、自宅周辺で活断層が近くにあること(または、ないこと)を知った
3. 熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生してから、内陸直下型地震の危険性を実感したが、自宅周辺に活断層があるかどうか、確認することはしていない
4. 内陸直下型地震の危険性について、あまり知らない、またはあまり考えない

→問 5へ

※内陸直下型地震：内陸部にある活断層で発生する、震源の浅い地震
 ※なお、現在活断層が確認されていない場所であっても、後の調査・研究で新たに活断層が発見されることもあります。

【問 5】 「南海トラフ地震臨時情報」について、あなたはどの程度ご存知ですか。(一つだけ○)

1. どのような情報かインターネットやパンフレット等で確認し、よく知っている
2. テレビ番組の解説等で、どのような情報が聞いたことがある
3. 耳にしたことはあるが、具体的にどのような情報か知らない
4. 知らない

→問 6へ

※「南海トラフ地震臨時情報」：南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするもので、この情報の発表条件は以下のとおりです。
 「南海トラフ地震臨時情報」
 ・南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
 ・観測された異常な現象の調査結果を発表する場合
 南海トラフ地震臨時情報について <http://www.pref.mie.lg.jp/STAISAKU/IP/m009500047.htm>

～風水害対策について～

【問 6】 平成 23 年の紀伊半島大水害から 9 年あまりが経過し、近年では平成 30 年 7 月豪雨、令和元年東日本台風（台風第 19 号）、令和 2 年 7 月豪雨といった大規模な風水害が発生しましたが、この一連の風水害を受け、あなたの防災意識に変化はありますか。（一つだけ○）

1. 平成 23 年当時から、変わらず高い防災意識を持ち続けている（またはさらに高まった）
2. 平成 23 年当時持った危機意識を今も変わらず持ち続けている（またはさらに高まった）
3. 平成 23 年当時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
4. 平成 23 年当時には危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
5. 平成 23 年当時は危機意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、危機意識は高まった。
6. 平成 23 年当時にも、近年頻発する風水害発生時にも、特に危機意識は持たなかった

→問 7 へ

【問 7】 令和元年度から、災害に関係する情報には、5 段階の「警戒レベル情報」が付与されることになりました。この「警戒レベル情報」について、あなたはどの程度ご存じですか。（一つだけ○）

1. どのような情報かインターネットやタブレット等で確認し、よく知っている
2. テレビ番組の解説等で、どのような情報が聞いたことがある
3. 耳にしたことはあるが、具体的にどのような情報が知らない
4. 知らない

→問 8 へ

※警戒レベル情報：
災害発生のおそれの高まりに応じて、住民がとるべき行動を 5 段階に分けたもので、避難準備・高齢者等避難開始を「警戒レベル 3」、避難勧告と避難指示（緊急）を「警戒レベル 4」とする、など警戒レベル情報（緊急）について <http://www.pref.mie.lg.jp/STAIISAKU/HP/m0095600046.htm>

【問 8】 あなたがお住まいの地域の風水害（高潮や川のはん濫、土石流、がけ崩れ、地すべり等）の危険性について、どの程度ご存知ですか。（いくつでも○）

1. 高潮による浸水の危険性を知っている
2. 川のはん濫による浸水の危険性を知っている
3. 内水はん濫による浸水の危険性を知っている
4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあることを知っている
5. 自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けることがない、安全な場所にあることを知っている
6. 地域の風水害の危険性について、あまり知らないまたはあまり考えたくない

→問 8-1 へ

→問 9 へ

※内水はん濫：
局地的大雨等で下水道施設や小河川の水位が増加し、堤防から水が溢れなくても河川へ排水する川や下水道の排水能力の不足などが原因で、降った雨を処理できずに建物や土地、道路等が浸水する風水害

【問 8-1】 問 8 で、「1. 高潮による浸水の危険性があることを知っている」、「2. 川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている」、「3. 内水はん濫による浸水の危険性があることを知っている」、「4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあることを知っている」と回答された方にお尋ねします。あなたの住まいの地域に危険があることを何でお知りになりましたか。（いくつでも○）

1. 過去に災害を経験しており、危険性を知っている
2. 行政機関が作成したハザードマップ等で危険箇所を知っている
3. 地域の住民から危険箇所であることを教えてもらい、知っている
4. その他（具体的に：_____）

→問 9 へ

【問 9】 あなたのお住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降り出し、降り続いたとします。あなたは、このような状況において、どのような避難行動を取りますか。（一つだけ○）

1. 気象情報や周辺の様子を確認して、避難する
2. 市町から「警戒レベル 3（避難準備・高齢者等避難開始）」、「警戒レベル 4（避難勧告、避難指示（緊急））」等が出されてから避難する
※ 親戚・知人宅への避難や、垂直避難を含む
3. 避難行動をとることができない（理由：_____）
※ 避難行動に家族等の支援を必要とする等
4. 避難の必要がない（理由：_____）
※ 行政機関が作成した防災マップの危険区域外に居住している等
5. 避難を考えない（理由：_____）
※ 避難するのが面倒だ、避難について考えたことがない等

→問 10 へ

【問 10】 あなたは、台風や大雨等による避難勧告等がお住まいの地域に発表される等、身の回りに危険が近づいている状態で、自宅から離れた安全な場所に避難した経験がありますか。（一つだけ○）

1. 避難したことがある
2. 避難したことがない
3. そのような状況を経験したことがない

→問 11 へ

→問 10-1 へ

→問 11 へ

【問 10-1】 問 10 で、「2. 避難したことがない」と回答された方にお尋ねします。あなたが台風時等に避難しない理由として最もあてはまるものは次のうちどれですか。(一つだけ○)

1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから
5. 自宅が安全だから (または、自宅の2階以上が安全であり、そこに移動するから)
6. 介護が必要等、避難が困難な家族がいるから
7. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
8. ベッドを残して避難することに抵抗があるから
9. 面倒だから
10. その他 (具体的に:)

→問 11へ

～防災全般について～

★日頃の防災対策についてお尋ねします。

【問 11】 あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。

(いくつでも○)

1. 3日分以上の飲料水を備蓄している (ご家族ひとり一日あたり3リットルとして計算してください)
2. 3日分以上の食料を常に確保している
3. マスクや消毒液等、感染症対策に必要な物品を確保している
4. 懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している
5. 災害が起きたとき避難する場所を決めている
6. 災害用伝言ダイヤル(171)や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用等、家族間の連絡方法を決めている
7. 家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている
8. 携帯電話やスマートフォンでの予備電源を確保している
9. 家用車の燃料計が半分程度になった時点で、給油をしている
10. お風呂にいつも水を入れている
11. ガラスが割れて飛び散らないよう対策をしている
12. 消火器を用意している
13. 懐中電灯や携帯ラジオ等を置く場所を決め準備しており、電池交換等、こまめに点検している
14. 枕元にスリッパを置いている
15. いつも缶を身につけている
16. 本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
17. 寝室に転倒の危険性のある家具類等を置かないようにしている
18. 地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している
19. 感震ブレーカーを設置している
20. ベットの餌や水、ケージ等、ペットの防災用品の準備や、避難先の検討等を行っている
21. その他 (具体的に:)

22. 特に対策をとっていない

※感震ブレーカー：地震を感じると自動的にブレーカーを落として電気を遮断する器具

→問 12へ

【問 12】 ご自宅では、家具類や冷蔵庫、テレビ等が転倒しないよう固定をしていますか。(一つだけ○)

1. 大部分固定している
2. 一部固定している
3. 固定していない
4. 固定する必要がない

→問 13へ

→問 12-1へ

【問 12-1】 問 12 で、「2. 一部固定している」、「3. 固定していない」、「4. 固定する必要がある」と回答された方にお尋ねします。あなたのご自宅は、一部の家具固定や家具固定なしでも、けがをしない、家屋から脱出できなくなることがない等、安全な状態にありますか。(一つだけ○)

1. 安全な状態にある
2. 安全な状態とは言えない

→問 13 へ

→問 12-2 へ

【問 12-2】 問 12-1 で「2. 安全な状態とは言えない」と回答された方にお尋ねします。家具類の固定をしない理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 大地震はすぐには起きないと思うから
2. 手間がかかるから
3. 費用がかかるから
4. 固定しても被害は出ると思うから
5. 固定の方法がわからないから
6. 借家だから
7. その他〔具体的に： 〕

→問 13 へ

★防災情報の発信についてお尋ねします。

【問 13】 県では、気象情報や台風・地震に関する情報、災害時の避難情報等をホームページ「防災みえ.jp」で提供しています。「防災みえ.jp」をご存知ですか。(一つだけ○)

1. 知っている、大雨や台風等の災害が発生する恐れがある時(以下「災害時」という。)に見たことがある
2. 知っているが、災害時に見たことがない
3. 知らない
4. インターネット等の環境がない(スマートフォン等を持っていない)

→問 14 へ

→問 14-1 へ

→問 15 へ

→問 17 へ

【問 14】 問 13 で「1. 知っている、災害時に見たことがある」と答えた方にお尋ねします。「防災みえ.jp」ホームページのどのような情報を見えていますか。(いくつでも○)

1. 気象情報(天気・警報/注意報・雨量・水位等)
2. 避難情報(避難勧告・避難指示(緊急)等)
3. 避難所情報
4. 医療・救援情報
5. 交通・道路情報
6. ライフライン(電気・ガス・水道・電話通信)情報
7. 被害の個別情報(人的被害・建物被害等)
8. 火災情報
9. 土木施設被害情報
10. その他〔具体的に： 〕

→問 15 へ

【問 14-1】 問 13 で「2. 知っているが、災害時に見たことがない」と答えた方にお尋ねします。災害時に「防災みえ.jp」ホームページを活用しない理由をお聞かせください。(いくつでも○)

1. 他の手段(TV、ラジオ、インターネット等)で必要な情報が入手できるから
2. 災害時に知りたい情報がないから
3. 必要な情報が探しにくいから
4. インターネット等の環境がないから(スマートフォン等を持っていないから)
5. 普段から災害情報を意識していないから
6. その他〔具体的に： 〕

→問 15 へ

【問 15】 災害時にインターネットで、どのような情報をお知りになりたいかお答えください。(いくつでも○)

1. 気象情報(天気・警報/注意報・雨量・水位等)
2. 避難情報(避難勧告・避難指示(緊急)等)
3. 避難所情報
4. 医療・救援情報
5. 交通・道路情報
6. ライフライン(電気・ガス・水道・電話通信)情報
7. 被害情報(詳細)：文字による被害詳細情報
8. 被害情報(概要)：地図情報
9. ライブカメラ等の映像情報
10. 災害、天気に関するニュース
11. 県、市町村からのお知らせ
12. その他〔具体的に： 〕

→問 16 へ

【問 16】 県では、大雨や洪水、高潮に関する注意報や警報発表等の気象情報や台風の接近に伴う避難の呼びかけ、全国の地震情報等の防災情報を、「防災みえ」のメール配信サービスで登録者にお知らせしています。あなたは、このことをご存知ですか。(一つだけ○)

1. メール配信の登録をしている
2. 知っているが、メール配信の登録はしていない
3. 以前にメール配信の登録をしていたが、やめた
4. 知らない

→問 16-1 へ

【問 16-1】 県では、台風の接近に伴う注意喚起等を Twitter (ツイッター) やLINE (ライン) で発信しています。あなたは、このことをご存知ですか。(いくつでも○)

1. ツイッターのフォローになっている
2. ツイッターでの発信について知っているが、フォローになっていない
3. 以前にツイッターのフォローになっていたが、やめた
4. ツイッターでの発信について知らない
5. ラインの友だち登録をしている
6. ラインでの発信について知っているが、友だちの登録をしていない
7. 以前にラインの友だち登録をしていたが、やめた
8. ラインでの発信について知らない

→問 17へ

※Twitter (ツイッター) : 1回140字までの文章を、他の人が読んだり、返信をしたりするインターネット上のサービス。また、特定の利用者の更新状況を手帳に把握できるようにした人がフォローとよばれます。

※LINE (ライン) : インターネット上でメッセージの交換や通話をおこなうことができるサービス。ラインで発信する情報を見るには、友だち登録が必要です。

【PR】県が提供する防災情報をご活用ください!

ホームページ「防災みえ.jp」

気象情報や台風・地震に関する情報、災害時の避難情報等を提供しています。ぜひご利用ください。

URL <http://www.bosaimie.jp/>

メール配信サービス

気象情報や台風・地震に関する情報をお手持ちの携帯電話やスマホ、パソコンに配信するサービスです。
a@bosaimie.jp へ空メールを送信して登録してください。

Twitter (ツイッター) 「防災みえ」

気象情報や台風・地震に関する情報、台風の接近に伴う避難の呼びかけや防災情報を配信しています。

お手持ちのスマホやパソコンで閲覧できます。

URL <https://twitter.com/bosaimie/>

アカウント : 防災みえ (@bosaimie)

LINE (ライン) 「防災みえ」

台風の接近に伴う避難の呼びかけや防災情報を配信しています。お手持ちのスマホで利用できるLINEアプリで閲覧できます。

友だち登録用ID : @bosaimie

みえ防災・減災アーカイブ

災害体験談や証言映像、津波の碑の情報などを収集しインターネットを通じて公開しています。

URL <http://midori.midmic.jp/>



【問 17】 気象や災害についての情報の入手先についてお尋ねします。

【問 17-1】 現在どこから入手することが多いかお答えください。
(「現在」欄に、該当するものを、いくつでも○)

【問 17-2】 今後どこから入手したいかお答えください。
(「今後」欄に、該当するものを、いくつでも○)

現在	今後
	選択肢
	1. テレビ
	2. ラジオ
	3. 新聞
	4. 市町の防災行政無線
	5. 県や市町の広報紙、冊子
	6. インターネット (県の防災ホームページ「防災みえ.jp」)
	7. インターネット (「防災みえ.jp」以外)
	8. 携帯メール (「防災みえメール配信サービス」)
	9. 携帯メール (「防災みえメール配信サービス」以外)
	10. 風公式 SNS (「防災みえ Twitter/LINE」)
	11. SNS (Twitter/LINE/Facebook 等) (「防災みえ Twitter/LINE」以外)
	12. 防災アプリ (Yahoo!防災速報、NHK ニュース防災 等)
	13. 街頭の電光掲示板
	14. 家族から
	15. 友人、知人から
	16. 町内会・自治会を通じて
	17. 消防署・消防団を通じて
	18. その他 (現在、入手している方法) 〔 具体的に : 〕 (今後、入手したい方法) 〔 具体的に : 〕
	19. (現在) どこからも入手していない (今後) 特に入手したいと思わない

→問 18へ

★避難場所・避難所についてお尋ねします。

【問 18】 あなたは、自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるかご存知ですか。

1. 避難場所も避難所も知っている	→問 18-1へ
2. 避難場所だけ知っている	
3. 避難所だけ知っている	
4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない	→問 19へ
5. 知らない	

【問 18-1】 問 18で「1. 避難場所も避難所も知っている」、「2. 避難場所だけ知っている」、「3. 避難所だけ知っている」と回答された方にお尋ねします。
あなたは、避難場所や避難所までの避難経路について、どの程度ご存知ですか。

1. 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や通れないと きの迂回路の有無等を知っている	→問 19へ
2. 避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は 知らない	
3. どの経路で避難すればよいか分からない	

【問 19】 感染症の感染リスクなどを考慮した場合、避難所以外に避難することも選択
肢として考えられます。
地震や風水害発生時、避難所に代わる安全な場所（被災する可能性の低い他
県・他市町、同じ市町内のハザードマップの浸水想定区域外地域など）に避難
する必要がある場合、どのような場所へ避難しますか？

1. 安全な場所に住んでいる親戚宅や知人宅	→問 20へ
2. 安全な場所にあるホテルなどの宿泊施設	
3. 垂直避難等、自宅で安全を確保する	
4. 避難所以外に思い当たらない	
5. その他の場所に避難 （具体的に）	

★地域・職場での防災活動についてお尋ねします。

【問 20】 あなたは、過去1年間に、お住まいの地域や職場での防災活動（問 21 の選択
肢参照）に参加したことがありますか。（一つだけ○）

※ 直近で開催される地域や職場の研修会や防災訓練等へ参加する予定がある場合は、1～3に
○をつけてください。

1. 地域の防災活動に参加した	→問 21へ
2. 職場の防災活動に参加した	
3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した	
4. 参加していない	→問 22へ

【問 21】 問 20で「1. 地域の防災活動に参加した」、「2. 職場の防災活動に参加した」、
「3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した」と答えた方にお尋ねします。
あなたが参加した防災活動は、どのようなものでしたか。（いくつでも○）

1. 避難訓練	→問 21-1へ
2. 図上訓練	
3. 夜間訓練	
4. 消火訓練	
5. 救出・救助訓練	
6. 心急速訓練	
7. 炊き出し訓練	
8. 連絡網を使用した情報伝達訓練	
9. 介護を必要とする人の介助訓練	
10. 研修会や講習会	
11. 地域での話し合い	
12. 避難所体験訓練または避難所運営訓練	
13. 企業や事業所も一緒になった防災活動	
14. 災害ボランティアの受入訓練	
15. その他（具体的に）	

【問 21-1】 あなたが参加した地域や職場の防災活動は、防災意識の向上に役立ちました
か。（一つだけ○）

1. 大いに役立った	→問 23へ
2. 役立った	
3. どちらともいえない	
4. あまり役に立たなかった	
5. まったく役に立たなかった	

【問 22】 問 20 で、「4. 参加していない」と回答された方にお尋ねします。あなたが防災活動に参加しなかった理由は何ですか。(一つだけ○)

1. 地域や職場での防災活動が実施されていないから
2. 防災活動の実施を知らなかったから
3. 防災活動の内容が毎年同じだから
4. 仕事や用事があり、都合が悪かったから
5. 関心がないから
6. その他 (具体的に：)

→問 23 へ

【問 23】 あなたは、どういった防災活動が地域や職場で実施されることが必要だと思いますか。(いくつでも○)

1. 地域における非常連絡網の整備
2. 避難や救出・救助訓練等の防災訓練
3. 防災知識を得るための専門家による研修会や講習会
4. タウンウォッチングや防災マップづくり等、地域の危険箇所を把握する活動
5. 地域の避難所を運営する訓練
6. 職場におけるBCP (事業継続計画) の作成やそれに基づく訓練
7. その他 (具体的に：)

→問 24 へ

※BCP (事業継続計画) : 企業等が自然災害などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時や緊急時に事業を継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のことです。

【問 24】 地域の防災活動や防災対策について、地域の企業・事業所に期待することは何ですか。(いくつでも○)

1. 被災者の救援・救護
2. 避難誘導
3. 消火活動の援助
4. 飲料水の提供
5. 食料の提供
6. 生活用品の提供
7. 救援機材、工具の提供
8. 避難場所の提供
9. 駐車場の提供
10. 災害情報の提供
11. その他 (具体的に：)

→問 25 へ

【問 25】 あなたがお住まいの地域の消防団に期待する活動はどのようなものがありますか。(いくつでも○)

1. 火災時の消火活動
2. 火災予防や防災意識向上のための啓発活動
3. 風水害時の水防活動
4. 応急手当等の普及啓発活動
5. 地域の防災訓練等の指導
6. 大規模災害時の救援・救護や避難誘導
7. ない
8. その他 (具体的に：)

→問 26 へ

【問 26】 あなたのお住まいの地域は、自主防災組織 (町内会・自治会等を母体とした地域の住民が防災活動をする組織) がありますか。また、活動状況はどうですか。(一つだけ○)

1. ある (活発に活動している)
2. ある (あまり活発に活動していない)
3. ある (活動状況はよくわからない)
4. 自主防災組織がない
5. わからない

→問 27 へ

★学校の防災教育についてお尋ねします。

【問 27】 あなたのお住まいには、就学している児童生徒がいますか。(いくつでも○)

1. 小学生がいる
2. 中学生がいる
3. 高校生がいる
4. いない

→問 27-1 へ

→問 27-2 へ

【問 27-1】 三重県では、「防災ノート」等防災教育用の教材を作成・配布し、これらの教材を学校で活用するよう要請する等、学校での防災教育の充実に取り組みしています。あなたのお住まいの児童生徒が通っている学校の防災教育について、あなたはどの程度ご存知ですか。(一つだけ○)

※ 複数の児童生徒がいる場合は、一番年下の児童生徒が通っている学校についてお答えください。

1. 学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある
2. 学校の防災教育の内容は知っていますが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない
3. 学校で防災教育が行われていることは知っているが、内容は知らない
4. 学校で防災教育が行われているかどうかわからない

→問 27-2 へ

【問 27-2】 防災教育で、学校に特に力を入れて取り組んでほしいものは何ですか。
(いくつでも○)

- | | |
|--|---------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 地震の起こる仕組みについての学習 2. 過去に地域で起きた風水害・地震とその被害についての学習 3. 国や県が公表している、南海トラフ地震や内陸直下型地震による、揺れや津波の被害想定についての学習 4. 地震が起きたときの初動対応についての学習 5. 津波からの避難方法や避難場所についての学習 6. 局地的大雨や竜巻からの避難方法や危険な場所に近づかない等についての学習 7. 土砂災害からの避難方法や避難場所についての学習 8. 家庭での防災対策についての学習 9. 避難訓練の実施 10. 地域の防災タウンウォッチングや防災マップの作成 11. 救急・救命講習 12. その他 (具体的に：) | <p>→問 28へ</p> |
|--|---------------|

★防災啓発についてお尋ねします。

【問 28】 三重県や市町が取り組んでいる防災に関する啓発活動等についてどの程度ご存知ですか。(いくつでも○)

- | | |
|--|-------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 防災講演会や防災に関する出前トーク等に参加したことがある 2. 地震体験車に乗ったことがある 3. みえ防災・減災センターが公開している「みえ防災・減災アークアイブ」を見たことがある 4. 「県政だより みえ」を閲覧・視聴したことがある 5. 1959年に発生した伊勢湾台風の災害を忘れないために制定した「みえ風水害対策の日(9月26日)」を知っている 6. 1944年に発生した昭和東南海地震の災害を忘れないために制定した「みえ地震・津波対策の日(12月7日)」を知っている | <p>→問 28-1へ</p> <p>→問 29へ</p> |
|--|-------------------------------|

【問 28-1】 問 28で1～2に○を一つ以上付けられた方にお尋ねします。これら防災に関する啓発活動は、あなたの防災意識の向上に役立ちましたか。

防災講演会や防災に関する出前トーク等に参加したことがある方 (一つだけ○)

- | | |
|--|---------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに役立った 2. 役立った 3. どちらともいえない 4. あまり役に立たなかった 5. まったく役に立たなかった | <p>→問 29へ</p> |
|--|---------------|

「地震体験車」に乗ったことがある方 (一つだけ○)

- | | |
|--|---------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに役立った 2. 役立った 3. どちらともいえない 4. あまり役に立たなかった 5. まったく役に立たなかった | <p>→問 29へ</p> |
|--|---------------|

～あなたのお住まいの耐震化について～

【問 29】 あなたのお住まいは次のうちのどれにあたりますか。(一つだけ○)

※ 増築等がある場合は、一番古い建物でお答えください。

1. 一戸建ての持ち家・借家(昭和56年5月以前に着工・建築された木造の家)	→問 30へ
2. 一戸建ての持ち家・借家(昭和56年5月以前に着工・建築された木造以外の家)	→問 31へ
3. 一戸建ての持ち家・借家(昭和56年6月以降に敷地内で建て替え)	→質問終了です。
4. 一戸建ての持ち家・借家(昭和56年6月以降に新たな敷地に新築)	→質問終了です。
5. アパート・マンション等の集合住宅	

【問 30】 県及び市町では、昭和56年5月31日以前に建築された(着工を含む)木造住宅の耐震化に向けた補助等を行っています。あなたは次の制度をご存知ですか。(いくつでも○)

1. 耐震診断費用への補助(無料耐震診断)	→問 31へ
2. 耐震補強設計費用への補助	
3. 耐震補強工事費用への補助(リフォーム工事補助を含む)	
4. どれも知らない	

【問 31】 あなたのご自宅(同じ敷地内で建替えを行った場合、建替え前の住宅を含む、借家も含む)は、耐震診断を受けたことがありますか。受けたことがある場合は、診断結果はどうでしたか。(一つだけ○)

1. 受けたことがない	→問 34へ
2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された	→問 31-1へ
3. 受けたことがあり、補強工事は必要なかった	→質問終了です。

【問 31-1】 問 31で「2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」と回答された方にお尋ねします。耐震補強が必要と診断された後、補強工事を行いましたか。(一つだけ○)

1. 補強工事を行った	→問 32へ
2. 建て替えた	→質問終了です。
3. 現在検討中(補強設計のみ行った)	
4. 工事を行うつもりはない	→問 33へ

【問 32】 問 31-1で、「1. 補強工事を行った」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事に対する行政の補助制度を利用されましたか。(一つだけ○)

1. はい	→質問終了です。
2. いいえ	→問 32-1へ

【問 32-1】 問 32で、「2. いいえ」と回答された方にお尋ねします。どのような耐震補強工事を行いましたか。(一つだけ○)

1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した	→問 32-2へ
2. 建物の一部のみを補強した	
3. 分からない	→質問終了です。

【問 32-2】 問 32-1で、「1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」、「2. 建物の一部のみを補強した」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事はいくらかかりましたか。(一つだけ○)

1. 50万円まで	
2. 100万円まで	
3. 150万円まで	
4. 200万円まで	
5. 300万円まで	
6. それ以上()万円位	

→質問終了です。

【問 33】 問 31-1で「3. 現在検討中(補強設計のみ行った)」、「4. 工事を行うつもりはない」と答えた方にお尋ねします。耐震補強の決心がつかない、耐震補強をしない理由は何か。(いくつでも○)

1. 補強設計に多額な費用がかかるから	
2. 補強工事に多額な費用がかかるから	
3. 耐震化しても大地震は避けられないと思うから	
4. 当分のあいだ大地震は起きないと思うから	
5. 手間がかかるから	
6. その他(具体的に:)	

→質問終了です。

【問 34】 ご自宅の補強工事が必要とされた場合、自己負担がいくら位までなら耐震補強を行いますか。(一つだけ○)

1. 50万円まで	
2. 100万円まで	
3. 150万円まで	
4. 200万円まで	
5. 300万円まで	
6. それ以上()万円まで	

→問 35へ

【問 35】 建物全体の安全性は劣るものの、建物の一部分(例えば壁1枚のみ)を耐震補強することで少しでも安全性が向上するのであれば、補強したいと思いませんか。(一つだけ○)

1. 建物の一部分の補強工事にかかる費用が安価であれば、実施したい	
2. 建物の一部分でも補強工事に費用がかかるため、実施しない	

→質問終了です。

○以下の項目に関してご意見、ご要望等がございましたらご自由にお書きください。

■地震・津波対策について
■風水害対策について
■避難について
■防災に関する啓発活動について
■その他 (例：地域や企業の防災活動、避難行動要支援者対策、災害時の廃棄物処理等)

★ご協力ありがとうございました。
10月23日（金）までに、同封の返信用封筒（**切手不要**）に入れてご投函ください。

報告書名 令和2年度 防災に関する県民意識調査報告書

発行年月 令和3年3月

発行者 三重県防災対策部 防災企画・地域支援課

〒514-8570 津市広明町13番地

TEL 059-224-2184

FAX 059-224-2199

e-mail bosai@pref.mie.lg.jp